

JILPT 調査シリーズ

No.138

2015年5月

大学等中退者の 就労と意識に関する研究

The Japan Institute
for
Labour Policy and Training

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



大学等中退者の就労と意識に関する研究

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

ま え が き

本調査シリーズは、厚生労働省職業安定局若年者雇用対策室の課題研究および職業能力開発局キャリア形成支援室の緊急調査へ対応した研究をとりまとめたものである。

本調査シリーズは、学校から職業へ移行が困難であることを知られていながら、対象者へのアクセスが難しいためこれまであまり着目されてこなかった、大学・短大・高専・専門学校の中退者を取りあげた調査研究を行っている。本研究で行った分析は、大学等中退者の実態のほんの一端を明らかにしたに過ぎず、より深く広範囲な研究が今後必要となるだろう。

本調査シリーズが、関係者の皆様のお役に立てば幸いである。

2015年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆章
堀 有喜衣	労働政策研究・研修機構 主任研究員	序章 第3章 補論 自由回答分類 ケース記録
小杉 礼子	労働政策研究・研修機構 特任フェロー	第1章
喜始 照宣	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	第2章 第4章 補論 自由回答分類 ケース記録

目 次

序章 問題意識と調査の概要	1
第1節 先行研究の状況と問題意識	1
第2節 調査研究の概要	6
第3節 主たる知見	7
第1章 中途退学後の職業キャリア：「21世紀成年者縦断調査」の2次集計より	13
第1節 はじめに	13
第2節 中途退学の頻度と変化	14
第3節 就業への移行、正社員就業への移行	17
第4節 初職と職業キャリア	23
第5節 現在の就業状況	27
1. 有業・無業状況、失業率、非正規比率	27
2. 従業職種・勤務先規模	34
3. 所得、労働時間、時間当たり収入	36
第6節 家族と健康	39
第7節 中退の長期的な影響	42
第8節 求職活動経験とハローワーク等の利用	50
第9節 まとめ	51
付表	54
第2章 ハローワークに来所した中途退学者の実態①	
：学校時代と中退後の生活を中心に	61
第1節 はじめに	61
第2節 中退した学校での生活と中退理由	62
1. 分析対象者の基本情報、および中退した学校・専攻・学年	62
2. 学校時代での取り組みへの熱心度	66
3. 中退を決めるまでの期間	68
4. 中退を決めるまでの相談相手	69
5. 中退理由	72
6. 大学等入学以前の進路意識	77
第3節 中退後の生活状況と意識	80
1. 現在の居住状況、結婚の有無、生計維持	80
2. 生活諸面に関わる意識	82

3. 中退時に抱いた悩みや困難	84
第4節 まとめ	87
第3章 ハローワークに来所した中途退学者の実態②：中退後の就職活動	89
第1節 ハローワークを通じた就職活動の開始	89
第2節 中退直後の希望と実際	95
第3節 就職活動の状況	99
第4節 中退後の就職活動での困難さや不利益の経験	103
第5節 支援の利用状況	106
第6節 まとめ	110
第4章 サポステに来所した中途退学者の実態：支援者への量的調査から	112
第1節 はじめに	112
第2節 サポステ利用者の基礎情報	112
1. 新規登録時の年齢	112
2. 利用の経緯	113
3. 進路決定状況	114
4. 直近の状況	115
第3節 新規登録時の本人の状況と新規登録時のレベルの診断	116
1. 新規登録時の本人の状況	117
2. 新規登録時のレベル	118
第4節 新規登録時の諸状況	119
1. 過去の就労経験	119
2. 直近（新規登録以前）の無業期間	120
3. 学校、職場、家族・家庭での経験、疾病・障害の有無	120
第5節 まとめ	123
補論 サポステ利用者の実像：支援者への調査から	126
第1節 はじめに	126
第2節 新規登録時のレベルと利用の経緯	126
第3節 対象者の概要－個人の特徴	128
第4節 対象者の概要－背景的な要因	132
第5節 進路決定状況	137
第6節 まとめ	138

付属資料

ケース記録	143
基礎集計表	162
自由回答分類	172
調査票	191

序章 問題意識と調査の概要

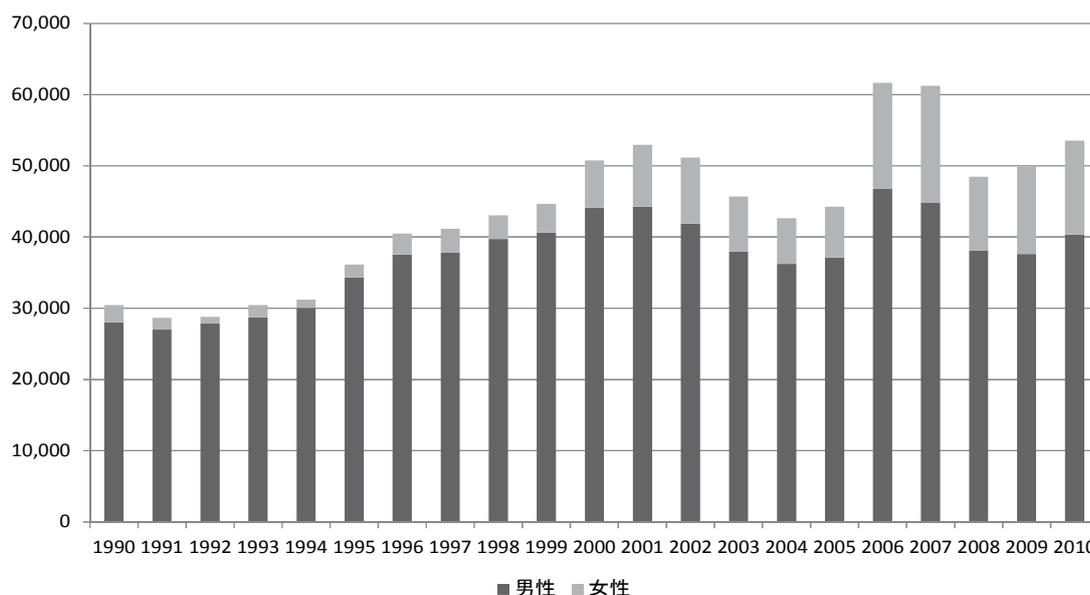
第1節 先行研究の状況と問題意識

本研究の目的は、年間8万人を超えているにもかかわらず十分に把握されていない日本の大学等中退者について、既存統計の二次分析とハローワーク・地域若者サポートステーションで実施した調査に基づき、その実態の一端を明らかにすることである。

90年代半ばより、日本の大学等（大学・短大・専門学校・高専の専門課程）への進学率は上昇している。量的に見ても、大学への入学者は1990年には50万人に届いていなかったが、2010年にはほぼ62万人に達した。18歳人口が減少する中で大学が増え進学率が上昇した背後には、高校教育政策の転換と高卒労働市場の狭隘化が存在している。80年代までの日本社会においては、高卒者の卒業後の進路の4割は就職であったが、90年代半ば以降は大学・専門学校等をはじめとした高等教育への進学が主流となり、多様な学生が大学等に進学するようになったのである。Trow（1976）は、大学進学率の変化は大学に質的な変化を及ぼすと述べるが、これまで日本では学力面の多様化が大学に及ぼす影響が早くから認識され、初年時教育やリメディアル教育の充実が進んできている。

他方であまり着目されてこなかったのが大学等の中退者である。これまでの大学等中退者の実態についての先行研究の特徴は、大学等に対する調査が中心であり、当事者である大学等中退者を対象とした調査がほとんど存在しない点にあるが、まずは大学を通じた調査から検討しよう。

図表序－1 大学中退者数の推移（推計）



資料出所：『学校基本調査』より、入学年度の入学者数から4年後の卒業年度の卒業生数を減じた数の推移。なお、2006－2007年に急増しているように見えるのは薬学部が6年制になったことも影響していると推察される。

大学等への進学率が上昇し多様な学生が進学する中で、大学等中退者も一定数を占めるようになってきている。図表序－1は、『学校基本調査』から入学年度の入学者数から4年後の卒業年度の卒業生数を減じた数を示した図表である。入学者と卒業生に4年を超える課程の学生が含まれており、かつ留年者も存在するため、この数がすべて中退者というわけではない。だが90年代前半まで3万人程度だった大学中退者と見なせる数値は2000年には5万人を超え、その後増減を繰り返してはいるものの、少ない年でも4万人を超えるようになってきている。

より詳しく修業年限を4年に限った『学校基本調査』からの推計によれば、2003年度入学の四年制大学の中退率は、「4年以内中退率」が男子全体で10.8%、女子は6.1%、「8年以内中退率」が男子全体で13.7%、女子で6.9%にのぼる（朴澤2012）¹。

図表序－2 四年制大学の中退率（2003年度入学者）

	男子				女子			
	全体	国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立
4年以内中退率	10.8	4.1	6.5	12.4	6.1	2.0	3.8	7.0
8年以内中退率	13.7	7.5	8.9	15.2	6.9	2.7	4.7	7.8

資料出所：朴澤（2012,p.65）より引用

大学等中退者についてもっとも包括的な文科省調査（対象：大学・短大・高専1163校 回収率97.6% 2014年2-3月実施）によれば、中退者数が6万3千人（07年度）から7万9千人（12年度）に増加していること、また大学が回答する中退理由として、「経済的理由」が07年度より増加していること（6.4%増）が指摘されている（詳しい図表は第2章の参考図表を参照）。

心理学的な観点からの研究として、1979年より実施されている「大学における休・退学、留年学生に関する調査」が存在する（内田2013等）。すべての大学ではないものの、休学・退学する事由を大学に尋ねており、①身体疾患群、②精神障害群、③消極的理由群（大学教育路線から離れるような理由 勉学意欲の不足や就職等）、④積極的理由群（大学教育路線上にあり、更に積極的な理由 例えば海外留学や資格取得準備等）、⑤環境要因群、⑥不詳、に分類している。2010年調査においては、消極的理由が49.78%と半数を占め、続いて積極的理由が19.15%となっている。

東京大学政策ビジョン研究センターが実施した「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」（2014）によれば、専門学校の各年度の中退率は2010年6.8%、2011年7.2%、2012年6.7%となっている。また中退理由は第2章に詳しく示しているが、学業不振、進路変更（その他）と進路変更（就職）が上位に位置している。

それではどんな大学等において中退者が多いのだろうか。最も社会的関心が高くかつデー

¹ 「4年以内中退率」＝（入学者数－4年後卒業生数－最低在学年限1年超過学生数）÷入学者数×100、「8年以内中退率」＝（入学者数－累積卒業生数）÷入学者数×100、で算出されている。

タが整っているため、先行研究のほとんどは大学に関するものである。読売新聞社『大学の實力』の掲載データを用いた清水（2013）による社会科学系学部（約400学部）についての分析に拠れば、おおむね偏差値によって退学率が変化することが観察された。退学率の回帰分析を、偏差値、一般入試比率（センター含む）、充足率（在籍者数÷大学全体の定員）、国公立ダミーを変数として行ったところ、偏差値と一般入試比率の影響が大きいことが見出された。

図表序－3 偏差値別退学率

偏差値	私立	国公立	合計
39	17.2		17.2
40-44	16.9		16.9
45-49	11.6	6.7	11.5
50-54	8.0	3.8	6.8
55-59	6.0	3.6	5.0
60-64	3.4	1.6	2.9
65-69	3.2	2.4	3.0
70以上	3.0	1.5	2.2
平均	11.0	2.9	9.4

資料出所：清水（2013）より引用 偏差値はベネッセによる。
退学率は2008年度入学から卒業（2012年）までの期間

また同じ読売新聞社「大学の實力調査」、および朝日新聞社『日本の大学ランキング』からパネルデータを作成し、大学の学習環境と退学率を探った姉川（2014）がある。大学での学習支援、生活支援（大学独自の奨学金の給付・貸与、学費減免を受けている学生数／全学生数）が中退を抑制するかどうかについて検討したところ、入学前学力＋大学での学習支援（図書貸出数、教員学生比率）が中退の抑制に効果があることが観察されている。

以上の知見はいずれも大学に対する調査から偏差値と退学率に相関があることを示しているが、大学中退者に対する調査研究によれば、偏差値は重要な変数ではあるものの、他にも考慮すべき変数があることを限られたいくつかの研究は示唆している。

新設私大（社会科学系学部）の2003～2005年度入学生332人に対する調査（鍛冶2010）においては、社会関係資本（保護者の性別、自宅かどうか、サークル加入、19歳以上で入学）が退学や卒業に影響を及ぼすのではないかという検討がなされている。1大学の事例調査であるが、サークル活動に参加し、初年次に単位を多くとることが、退学・留年防止に効果があるとの知見が得られている。

また実際の中退ではないが入学時の退学・転部意向を探った調査がある（山下2014）。ベネッセ『大学生基礎力調査』（2013年1～3年のパネルデータ約2万人）を用いて、合格偏差値帯、学部系統、入試方法について着目している。同じ合格偏差値帯でも、学部系統によって入学時の退学意向は異なっているが、もっとも合格偏差値帯の影響を受けやすいのが社会科学系の学部であり、合格偏差値帯によって退学意向が変動する。また大学や学部の志望

度の影響も大きく、大学も学部も第一希望だった場合には、合格偏差値 60 以上でも合格偏差値 50-60 でも退学意向はほとんど変わらない。しかし偏差値が高くとも第二希望の大学だと退学意向がやや高くなる。さらに推薦や AO 入試による入学者では合格偏差値帯に関わらず退学意向が低い、一般入試やセンター入試による入学者は偏差値の影響を受けやすく、特にセンター入試では退学意向がいずれの偏差値帯でも最も高くなる。実際の中退データではないものの、偏差値だけでなく、学部や入試方法、あるいは第一希望かどうかという主観的な側面が中退意向に影響を及ぼす可能性が示されている。

さらに大学中退者の事例は 7 人と少ないものの、河野（1997）は大学中退者に関するインタビューデータを収集し、中退の背後には、家庭の経済的背景、職業モデル、大学外で得られる充足感、大学の知的満足感の欠如に加えて、成績を重視する選抜制度や高校の進路指導があることを見出している。

また社会移動・社会階層研究から、どんな学生が中退しやすいかを探った研究がある。村澤（2008）は、大学入学以前の学力、出身高校の学科（専門学科であることは中退確率を高める）、相談相手の存在、出身階層が大学中退に影響を与えており、また中退者には管理・専門職層への障壁がある可能性を示唆している。三輪・下瀬川（2014）においても、高等教育中退に対して出身階層の影響があることが述べられている。

以上から、どんな学生が中退しやすいかという観点からは、大学ランク（偏差値）に規定されつつも、入学者選抜や高校の進路指導や進路選択、大学生活、家庭背景についても考慮する必要があることを先行研究は教えている。

ところで学校から職業への移行が諸外国に比べると悪化したとは言っても、国際比較においては移行がスムーズな日本の文脈から言えば増加する中退者は問題化されうるが、日本の大学中退率は、OECD 諸国の中でもっとも低い部類に入る。濱名（2013）はアメリカの大学との比較から、アメリカでも入学難易度が高い大学であると中退率は低い傾向にあるが、大学中退防止の有効な策として、「第一世代」（家族に高等教育を受けた人のいない学生）問題への対応と、専攻の選択の遅延化が重要だと考えられているという。他方で日本では高大接続において、高校卒業時の質保証の欠如、学位の多様化、生活面から学力面まで準備不足の学生の増加、入学者選抜が正解主義で大学が求める学習能力を測れるようになっていない、などの課題が内包されている。大学の対応方法としては、編入学の自由化、高校教育の質保証の充実、個別大学の IR（Institutional Research）による教育活動の改善、が中心になるが、大学教育の質を担保しながら中退増加を同時に解決できるかどうかは疑問であり、様々な困難が予想されることが述べられている。

以上の先行研究は中退までを追跡したものであるが、中退後の行動についてはこれまで教育研究でも労働研究でも十分に検討の対象になってこなかった。労働研究においては、様々な労働統計において学歴を尋ねる際に中退という選択肢は設けられていないことが多く、中退については十分に把握されていない。中退の場合、学歴上は下の段階の学歴になってしまう

うため、大学等の中退者であれば学歴は高卒ということになるからである。

数少ない例外が労働政策研究・研修機構が実施している「若者のワークスタイル調査」である。図表序-4は、2011年に東京都の若者に対して実施された「第3回 若者のワークスタイル調査」に基づき、離学時の正社員比率を示している。新規学卒者は離学時の景気の影響を受けやすいので、景気の状態によって時期を分類して示している。

サンプルサイズが小さいため高等教育中退者は一つのカテゴリーとしているが、学校を離れた時（中退者の場合は中退時）の正社員比率は卒業者に比べてとても低く、高卒者よりも低くなっている。

図表序-4 離学時期別・離学時の正社員比率（学歴別）

	離学時期								合計	
	2004年以前		2005～2009年		2010年以降		無回答・不明			
	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N
男性 高卒	45.0%	100	52.0%	98	-	3	27.8%	18	46.6%	219
専門・短大・高専卒	60.9%	69	68.3%	126	64.0%	25	76.9%	13	66.1%	233
大学・大学院卒	79.4%	34	80.2%	303	68.8%	77	80.0%	15	78.1%	429
中卒・高校中退	7.7%	39	16.7%	12	-	0	-	5	10.7%	56
高等教育中退	5.9%	17	11.9%	42	9.1%	11	-	4	9.5%	74
その他不明	-	1	-	4	-	1	23.1%	13	31.6%	19
男性計	45.4%	260	66.5%	585	61.5%	117	45.6%	68	59.2%	1,030
女性 高卒	49.2%	65	39.8%	83	-	0	35.7%	14	43.2%	162
専門・短大・高専卒	59.8%	92	60.5%	195	54.2%	48	45.5%	22	58.5%	357
大学・大学院卒	64.5%	31	79.8%	277	64.8%	91	55.6%	18	74.3%	417
中卒・高校中退	0.0%	15	6.7%	15	-	0	-	4	2.9%	34
高等教育中退	0.0%	13	9.1%	22	-	8	-	3	4.3%	46
その他不明	-	1	-	3	-	0	-	8	41.7%	12
女性計	49.3%	217	63.5%	595	57.8%	147	39.1%	69	58.1%	1,028

注：10人以下のセルは正社員比率を計算していない。

調査対象が20-29歳であることから、大卒の2004年以前卒業者は少なく、高卒の2010年以降卒業者はほとんどいない。

資料出所：労働政策研究・研修機構（2012,p.21）

さらに労働市場に出て経験を重ねても、正社員への移行は困難である。図表序-5は、同じ「ワークスタイル調査」から、学歴別の現職業キャリアを類型化したものである。高等教育中退者は、中卒・高校中退と並んで「現在無業」や「非典型一貫」の割合が高くなっている。

これらは正社員経験という観点から大学等中退者のキャリアを検討したものだが、大学等の卒業者はもちろん、高卒者よりも困難な状況に置かれていることは明らかである。

図表序－５ 学歴別現職業キャリアの分布

単位：％

	正社員 定着	正社員 転職	正社員 から非 典型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在無 業	その 他・不 明	合計	
高卒	26.5	5.5	6.8	4.1	22.4	23.3	5.5	4.6	1.4	100.0	219
専門・短大・高専卒	35.6	13.3	9.0	3.4	13.3	15.0	4.7	4.7	0.9	100.0	233
男 大学・大学院卒	<u>60.6</u>	7.0	5.6	2.6	8.6	7.7	3.0	4.2	0.7	100.0	429
性 中卒・高校中退	<i>5.4</i>	3.6	1.8	0.0	<i>21.4</i>	33.9	16.1	<u>16.1</u>	1.8	100.0	56
高等教育中退	1.4	1.4	2.7	1.4	<i>36.5</i>	33.8	6.8	12.2	4.1	100.0	74
男性計	<u>39.8</u>	7.5	6.1	2.8	<i>15.7</i>	15.8	4.9	5.5	1.8	100.0	1,030
高卒	14.2	2.5	19.1	4.3	40.1	6.2	4.3	8.0	1.2	100.0	162
専門・短大・高専卒	34.5	6.7	11.5	3.9	26.9	10.1	2.5	3.4	0.6	100.0	357
女 大学・大学院卒	<u>58.8</u>	6.2	5.8	1.7	<i>14.9</i>	6.5	2.2	3.6	0.5	100.0	417
性 中卒・高校中退	2.9	0.0	0.0	0.0	<i>76.5</i>	11.8	2.9	5.9	0.0	100.0	34
高等教育中退	2.2	0.0	2.2	0.0	<i>65.2</i>	8.7	4.3	17.4	0.0	100.0	46
女性計	<u>38.6</u>	5.3	9.5	2.7	<i>27.4</i>	8.0	2.7	5.0	0.8	100.0	1,028
高卒	21.3	4.2	12.1	4.2	29.9	16.0	5.0	6.0	1.3	100.0	381
専門・短大・高専卒	34.9	9.3	10.5	3.7	21.5	12.0	3.4	3.9	0.7	100.0	590
男女 大学・大学院卒	<u>59.7</u>	6.6	5.7	2.1	11.7	7.1	2.6	3.9	0.6	100.0	846
計 中卒・高校中退	4.4	2.2	1.1	0.0	42.2	25.6	11.1	12.2	1.1	100.0	90
高等教育中退	1.7	0.8	2.5	0.8	47.5	24.2	5.8	14.2	2.5	100.0	120
男女計	<u>39.2</u>	6.4	7.8	2.8	<i>21.6</i>	11.9	3.8	5.2	1.3	100.0	2,058

注：計には学歴不明を含む。下線は、2006年調査結果と比べて、7%ポイント以上の増加、斜体は7%以上の減少を示す。

資料出所：労働政策研究・研修機構（2012,p.28）

大学等中退問題については、濱名（2013）が主張するような教育政策での対応も重要である。しかし無視できない量の中退者が不安定な状態で労働市場に参入し、かつその不安定な状態が引き続くとすれば、労働政策における支援も不可欠ということになる。そこで労働政策研究・研修機構では、厚生労働省職業安定局若年者雇用対策室の課題研究を受け止め、大学等中退者に関する研究を行うこととした。

第2節 調査研究の概要

研究を効率的に進めるために本研究では3つのアプローチを採用した。

第一に、既存調査の二次分析であり、2つのデータを用いた。

一つ目は、上述したように、労働調査では「中退」という調査項目が設けられることは少なく利用できるデータはきわめて限られるが、厚生労働省「21世紀成年者縦断調査」には「中退」の項目があったため、個票データを用いた二次分析を実施した。調査の詳細については第1章を参照して頂きたいが、厚生労働省が「国民生活基礎調査」の調査地区から無作為抽出した地区の20-34歳の男女（及びその配偶者）に対して実施したパネル調査であり、「14年調査」「24年調査」の2つのパネルから成っている。「14年調査」は男女33,689人（第1回調査時点）、「24年調査」は男女39,892人（第1回調査時点）が対象となっている。

二つ目として、厚生労働省職業能力開発局キャリア形成支援室からの緊急調査として実施した地域若者サポートステーション（以下、サポステと呼ぶ）の支援者に対する調査について、中退者に着目した二次分析を実施した。調査は、若者自立支援中央センターが2014年2

月～3月に実施したものである。当機構は調査票の作成および分析を担当している。調査対象は、全国の全てのサポステにおいて、登録時が2012年10月から12月であったすべての利用者について、サポステの支援者に回答してもらっている。分析においては、中学在学中・高校在学中を除外した、5,625名の回答を用いている。なお緊急調査への対応として行った補論も収録している。

第二に、ハローワークを通じて、「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」を実施した。調査の実施時期は、2014年8月20日から10月末である。

調査方法は、ハローワークの窓口において、求職者票から中退であることが把握できた40歳未満の対象者に対して調査を依頼することとした。調査票は、各ハローワークに配置されている相談員（全国で598名）一人あたり対象者2名に回答してもらうことを想定して、配布目安を5,980票とした。回収目標数は1,196票とし、回収数が1,107通とほぼ目標に達した10月末で配布・回収を終了した。したがって厳密には正確な回収率を計算することは出来ないが、5,980票を分母とすると回収率は18.5%である。なお無効票等があったため、集計には1,095名の調査票を用いている。

第三に、中退者支援を行っている大学等へのインタビュー調査を2014年夏に実施した。ケース記録は資料として収録している。

さらに調査に先立ち、東京労働局のご協力により、ハローワークの相談員3名、中退者2名に対するプレインタビューを実施した。また、濱名篤関西国際大学学長、読売新聞社の松本美奈記者、NPO法人ニューベリーの山本繁理事長からのプレヒアリングを行った。

第3節 主たる知見

章ごとに知見を整理する。

第1章の知見は以下のように要約される。

「24年調査」によると、大学等中退者は卒業者に比べて離学してから就業するまでの期間が長く、近年さらに長くなる傾向が見られる。正社員までの期間はさらに長く、20代では中退者の6割前後が一度も正社員経験がない。さらに20代では無業や失業のリスクが高く、就業している場合も非正規雇用比率は同じ教育段階の者の2倍となっていた。

30代から40代前半に達している「14年調査」からみると、30代後半から40代にかけて、失業率はかなり改善されるが、非正規雇用比率の差異は男性では残り続けていた。

また過去1年間に何らかの求職活動をした人は全体の26.8%のうち、ハローワーク等の利用経験のある者は、専門・短大・高専中退者では7割近い。大学・大学院中退では男性は6割近くがハローワーク等を利用しているが、女性は5割にとどまる。したがってカテゴリー間の差はあるものの、求職活動の一環としてハローワークを利用する中退者は求職者の5割から7割に達しているため、ハローワークを通じた調査で就業支援を要する中退者の実態を把握することには一定の妥当性が見出せる。

続く第2章、第3章は、ハローワークを通じた調査に基づく知見を整理している。

第2章では、大学在学時から中退までを整理している。

中退時の学年については、専門・短大・高専では1年生が5割以上、大学では2年生と4年生がともに3割前後と高い。全体の4割以上が中退を考え始めてから、3ヶ月未満で実際に中退するに至っており、1年以上の期間を要した者は15%程度であった。また、大学中退者で、中退決定までの期間が長くなる傾向があり、中退を決めるまで半年以上が約4割となっている。

また中退を決めるまでの相談相手(M.A.)としては、親・保護者が79.3%と最も高く、学校の教職員・カウンセラーや学校内外の友人が2割台でそれに続いている。また、誰にも相談しなかった者は全体の12.5%で、大学中退者でその割合は高い。

次に中退理由(M.A.)を見ると、「勉強に興味・関心が持てなかったから」が49.5%と最も高く、「経済的に苦しかったから」は3割弱となっている。また、最も重要な中退理由としては、「学業不振・無関心」を挙げる者が4割以上と高く、「家庭・経済的理由(妊娠・出産含む)」と「進路変更」が15%前後でそれに続いている。「家庭・経済的理由」は、大学中退者の女性で4分の1程度と高い。

さらに大学等入学以前の進路意識を見ると、「大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した」者は54.5%、「大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った」者は73.8%、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者は61.3%であった。特に大学中退者の男性でとりあえず進学した者の割合が約7割と高い。また、進路意識と中退理由には関係が見られ、「学業不振・無関心」で大学を中退した者の7割以上が目的を持たずに進学した層であることが確認された。

生活諸面に関わる意識について見ると、「努力次第で将来は切り開ける」、「仕事以外に生きがいがある」に肯定的な回答をした者は6割を超える一方、「自分の生活は周囲の人から上手くいっていると思われている」、「将来の見通しは明るい」、「経済的に自立している」、「現在の生活に満足している」に関しては、3割を下回っていた。また、JILPTによるワークスタイル調査の高等教育卒業者と比較して、この結果は、前2者を除き、かなり低い値であった。

第3章は主に就職活動について分析した。

ハローワーク利用の経緯は、「親」「友人」で6割近くを占め、特に「親」という回答が多かった。中退後に就職活動を始める期間は中退後3ヶ月未満で半数を占めるが、大学中退者は専門学校・短大・高専中退者に比べて遅い傾向がある。また中退理由によって活動開始時期にはばらつきがあり、「進路変更」は活動開始が早く、「病気・ケガ・休養」、「人間関係・大学生活不適応」がやや遅かった。就職活動開始時期とハローワーク利用開始時期はほぼ重なっており、ハローワーク利用者については就職活動の手段としてハローワークが最初の選

択肢として認識されている。

さらに中退時には、「正社員として就職したい」と半数近くの中退者が考えているが、実際に正社員として就職するための準備をした者は3割にとどまり、アルバイトを探したり、在学中から行っていたアルバイトを継続するなどの行動が多く見られた。

また調査時点では「非典型一貫」キャリアが6割あまりを占め、年齢が上がると就業経験のある割合は高くなる。

第4章は、地域若者サポートステーション（以下、サポステ）の支援者に対する調査である。

サポステの利用者における卒業者と中退者を支援者の観点から比較すると、大学等中退者は卒業者に比べて、就職や進路決定に達するまでに長い時間がかかると見なされるタイプが多く含まれており、学校時代に困難な経験をした者が少なくないが、貧困についてはあまりあてはまらないという特徴が見られた。また専門学校・短大・高専中退者では職場での孤立や退職につながる失敗体験、大学中退者では就職活動での失敗体験やメンタルでの課題が見出される。

利用の経緯は、「家族や知人の紹介」、「サポステのチラシやHPで」、「ハローワーク以外の機関の紹介（医療福祉含む）」、「ハローワークからの紹介」が上位に位置しており、卒業者に比べると「学校」という割合は少ない。さらに中退者のみで比較してみると、大学中退者はサポステへの来所が遅い傾向がある。なお利用中断を除く進路決定率（就職／職業訓練／進学）をみると、特に専門学校・短大・高専卒で中退者と卒業者間での進路決定率の差が大きかった。

以上から第一に、大学等の中退は年齢を重ねてもなお職業生活に影響を及ぼしており、労働政策における重要な支援対象とする必要がある。

第二に、大学等と連携した中退時の支援を確立していくことは重要である。

大学等中退者のハローワークの利用経路は「親」が圧倒的に多く、サポステは家族や知人の紹介、ハローワークやハローワーク以外の支援機関の紹介が多くを占めている。いずれも大学等中退者は「学校」を経由して公的支援機関に来所していない。今回の調査対象であるハローワーク利用者の中退支援への要望として中退時に利用できる支援の内容を周知して欲しいことが挙げられていること、またサポステ調査においては、「高等教育在学中」の利用者の29.7%が「学校からの紹介」と回答しているため、学校と公的支援機関の連携が成り立っていないわけではないことから、中退時における学校と公的支援機関の連携は当事者のニーズも高かつ現実的な選択肢としてまず検討されるだろう。

また中退者に対する公的支援の浸透については、専門学校・短大・高専中退者に比べると大学中退者のハローワーク利用率は低く、また大学中退者のハローワークやサポステの利用

開始も相対的に遅い傾向にある。特に大学に対する公的支援の充実が求められる。

第三に、公的支援機関の役割分担として、大学等中退者はハローワーク利用者とサポステ利用者に違いがあることが推察された。ハローワークの大学等中退者は他の支援機関を経ずに来所しているが、サポステの大学等中退者は生活・コミュニケーション・自己イメージの領域で卒業生よりもかなり大きな課題を抱えており、利用の経緯もハローワークやハローワーク以外の支援機関の紹介という割合がハローワークよりも高い。様々な中退者が存在することから、現在のようにハローワークとサポステの双方が中退者を受け止めていくことが包括的な中退者支援にとって効果的であろう。

第四に、労働政策の範囲を超えるが、高等教育への進学率が7割を超え、かつ現在のように入学時点で専攻を決定したり編入学が難しいような高等教育制度の下で、「とりあえず進学」という高校進路指導は、かつてと比べると中退によって破綻しやすくなっている。ハローワーク調査において、最も重要な中退理由と複数回答との関連を見ると（図表序—6）、「病気・ケガ・休養」、「その他」を除くといずれも挙げられやすいのが「勉強に興味・関心が持てなかったから」となっており、中退理由の根底には学業に対する興味関心の欠如が存在するものと考えられる。

図表序—6 中退の最大理由と複数回答との関連

	勉強に興味・関心が持てなかったから	遅刻や欠席が多かったから	単位が不足したから	教員とうまく関われなかったから	友達とうまく関われなかったから	自分の生活リズムが学校と合わなかったから	通学するのが大変だったから	仕事をしたいと思ったから	ほかにやりたいことがあったから	病気やケガがあったから	経済的に苦しかったから	しばらく休みたかったから	妊娠・出産をしたから	特に何もなかった	その他	N
学業不振・無関心	72.9	26.9	63.0	12.8	17.7	9.7	11.1	16.7	13.3	3.1	15.0	4.4	0.0	0.0	12.3	422
人間関係・大学生活不適應	35.1	21.1	33.3	44.7	56.1	27.2	24.6	10.5	7.9	12.3	10.5	8.8	0.0	0.0	17.5	114
進路変更	52.4	18.2	27.3	9.1	11.2	15.4	8.4	58.7	66.4	2.1	19.6	2.1	0.0	0.0	4.9	139
病気・ケガ・休養	25.2	15.7	17.4	13.9	26.1	9.6	9.6	5.2	7.0	67.8	13.9	26.1	0.0	0.0	20.0	115
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	18.1	8.8	23.4	4.1	6.4	3.5	7.0	11.1	7.6	4.1	83.6	3.5	9.4	0.0	18.1	171
特に何も無い・その他	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9	23.5	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0	17.6	82.4	12

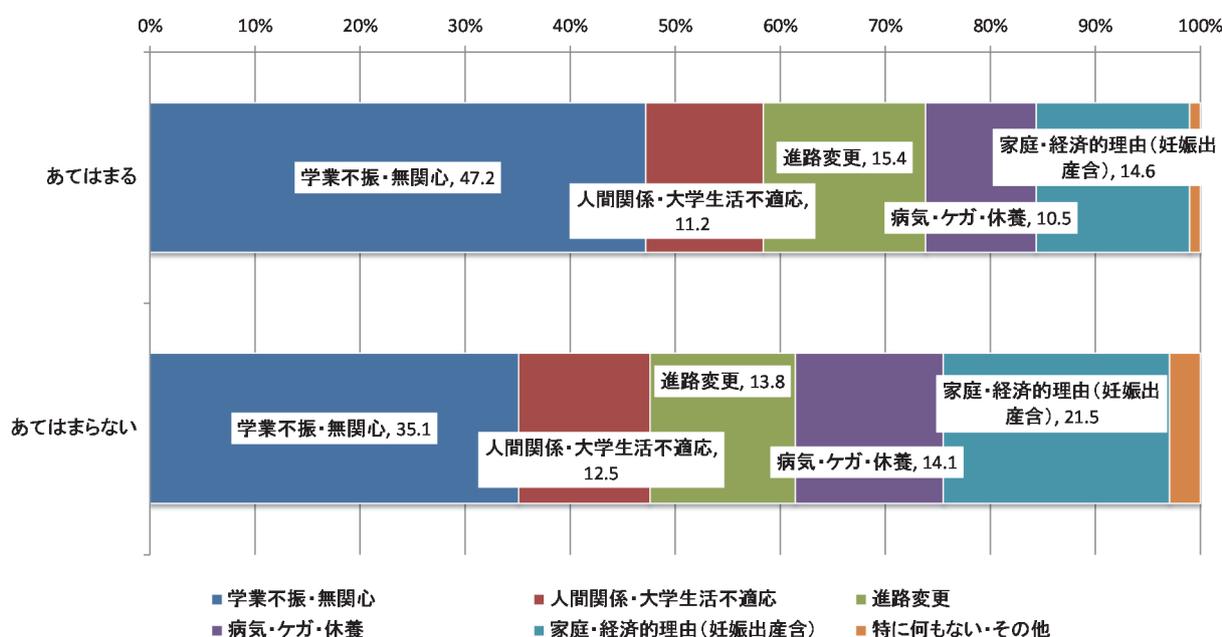
注：上位3位にハイライトした

図表序—7は、進学する学校を選択する際に、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学しようと思った」かどうかによって、大学等中退理由の分布がどのように異なるかを

示したものである。「あてはまる」では、「学業不振・無関心」が47.2%を占めるが、「あてはまらない」では「学業不振・無関心」は35.1%であり、「家庭・経済的理由」が21.5%を占める。本調査は中退者かつハローワーク利用者の分析であるものの、「とりあえず進学」は「学業不振・無関心」による中退に結びつきやすい傾向が見られる。

ただし高校進路指導においては、かつてと比べると、大学ランクだけではなく興味関心を重視する方向に転換しており、興味関心による大学選択が出来るようになれば中退が減少するという単純な因果関係は想定しにくい。むしろ大学における学業の興味関心を支えるような基礎学力や、これを補う様々な教育的働きかけが、学業に対する興味関心を高め、学業の継続を可能にすると推測される。

図表序ー7 「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」と最も重要な中退理由との関連



注：「大学」は専門学校や短大・高専を含む

さらに従来から指摘されているような専攻決定の遅延や編入学制度の整備など、多様な学生が学業継続できるような制度に取り組まざるを得ない時期が到来しているように見受けられる。資料編のケース記録から見られる傾向としては、大学においては中退に対する局所的な対応というよりは、全学的な教育改革への取り組みが意図されていたが、こうした取り組みが高等教育界全体に広がる結果として中退を減少させ、中退者の学校から職業への安定した移行に寄与するものと推測される。

なお本研究は、大学等中退者の実態についてほんの一部を明らかにしたに過ぎない。今後は中退者の実態をより深く明らかにするようなインタビュー調査や、卒業者と比較可能な大

規模調査の実施、大学等を通じた毎年度の中退者の量的把握等が必要となろう。

参考文献

- 姉川恭子, 2014, 「大学の学習・生活環境と退学率の要因分析」九州大学『経済論究』第149号, pp.1-16.
- 濱名篤, 2013, 「大学中退のとらえ方——マクロな視点から」『大学教育学会誌』第35巻第1号, pp.12-16.
- 朴澤泰男, 2012, 「学校基本調査に見る中退と留年」『IDE』2012年12月号, pp.64-67.
- 鍛冶致, 2010, 「新設大学における退学・休学・留年」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』(62), pp.392-393.
- 河野銀子, 1997, 「大学におけるスループットの検討——退学者のインタビューを中心として」『山形大学教育実践研究』山形大学教育学部附属教育実践研究指導センター, pp.71-82.
- 小林信一, 1999, 「留年とドロップアウト」『IDE』, pp.43-46.
- 丸山文裕, 1984, 「大学退学に対する大学環境要因の影響力の分析」『教育社会学研究』第39集, pp.140-153.
- 三輪哲・下瀬川陽, 2014, 「戦後日本における高等教育中退に対する出身階層の影響」第87回日本社会学会大会発表資料.
- 村澤昌崇, 2008, 「大学中途退学の計量的分析」『比治山高等教育研究』(1), pp.153-165.
- 労働政策研究・研修機構, 2012, 『大都市の若者の就業行動と意識の展開』労働政策研究報告書No.148.
- Robbins, S. B., K. Lauver, H. Le, D. Davis, R. Langley & A. Carlstrom, 2004, “Do Psychosocial and Study Skill Factors Predict College Outcomes?: A Meta-Analysis” *Psychological Bulletin*, Vol.130, No.2, pp.261-288.
- 清水一, 2013, 「大学の偏差値と退学率・就職率に関する予備的分析」『大阪経大論集』第64巻第1号, pp.57-70.
- Trow, Martin A., 1976, *Social Impact of the Expansion of Higher Education* (=天野郁夫・喜多村和之訳, 1983, 『高学歴社会の大学』東京大学出版会).
- 東京大学政策ビジョン研究センター, 2014, 『「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」調査研究報告書』.
- 内田千代子, 2013, 『大学における休・退学, 留年学生に関する調査 第33報』.
- 山本繁, 2012, 「学生の中退防止」『IDE』2012年12月号, pp.30-36.
- 山下仁司, 2014, 「大学生の中退防止に向けて——入学時退学意向の要因は何か」
<http://berd.benesse.jp/koutou/topics/index2.php?id=4131>

第1章 中途退学後の職業キャリア：「21世紀成年者縦断調査」の2次集計より

第1節 はじめに

本章においては、大学等を中途退学した後の職業キャリアの特徴について、厚生労働省が継続的に実施している「21世紀成年者縦断調査」の個票データを用いた分析を行う。

この調査は、中途退学者のキャリアを明らかにする目的で行われているものではなく、少子化対策等の施策立案のための基礎資料として、若い男女の結婚、出産、就業等の実態及び意識の経年変化を明らかにするために行われているものである。その設問の中に、学校を中退したか卒業したかを問うもの、および、ある程度の範囲で職業経歴を問うものがあることから、この個票データを分析することで、大学等を中退後の職業キャリアの一端を明らかにすることができると思われる。

「21世紀成年者縦断調査」は、同一の対象者に長期にわたり設問に答えてもらうパネル調査である。平成14年に20～34歳であった全国の男女33,689人（第1回調査時点）を対象とする「14年調査」と、平成24年に20～29歳であった全国の男女39,892人（第1回調査時点）を対象とする「24年調査」の2つのパネルが設定されている。「14年調査」はすでに第11回目までの調査結果が公表されており、「24年調査」は第1回目の結果のみが公表されている。いずれも調査対象となったのは、「国民生活基礎調査」の調査地区から無作為抽出した地区の当該年齢の男女（及びその配偶者）である。

学校経歴（卒業・中退・在学中の別、及び卒業・中退の時期）については、この2つのパネルの各回調査の本人票において把握されているが、卒業・中退から調査時点までの職業経歴については、「14年調査」の第2回目（本人票：「2003年調査」と呼ぶ）、および「24年調査」の第1回目（本人票：「2012年調査」と呼ぶ）においてのみ把握されている。この2つの個票データを用いれば、中途退学後の職業キャリアが検討できる。また、「14年調査」については1回目から11回目までの調査を接続した「履歴データ」（11回目調査時の対象者の年齢は30～44歳）が作成されている。このデータを用いれば、中途退学の長期的な影響が検討できる可能性が高い¹。

そこで、JILPTでは、厚生労働省統計情報部に申請して許可をいただき、この3つの個票データを用いて、独自の集計を行うこととした。

なお、今回の集計は中途退学後のキャリアがテーマであることから、分析する個票については、①中途退学したか卒業したかがわかり（すなわち、在学中の者や中退か卒業かに答えていない者は除く）、同時に②現在の就業の有無が把握できる者であって、かつ、③調査時点における就業者であっても「通学が主」の場合は除外することとした。この結果、分析対象となった個票数は、「2003年調査」については19,805票（男性9,297票、女性10,508票）、「2012

¹ ただし、「履歴データ」には各回すべての情報が含まれているわけではない。特に、第2回目調査の職業経歴データは接続されていないため、経歴にかかわる分析は限定される。

年調査」については23,178票（男性11,094票、女性12,084票）、「履歴データ」については10,092票（男性4,566票、女性5,526票）となった（いずれも本人票）。

以下、分析の手順は、1) 最新の調査である「2012年調査」をもとに、中途退学者の数・比率、性別等の特徴について明らかにする。同時に「2003年調査」との比較からその近年の変化についても明らかにする。2) 「2012年調査」をもとに、中途退学以降の最初の就業、最初の正社員就業までの期間を明らかにし、また、「2003年調査」との比較からその期間がどのように変化したか検討する。3) 「2012年調査」をもとに、最初の就業から現職までの就業形態に注目した職業キャリア類型を作成し、中途退学をした場合のキャリアの特徴を明らかにする。4) 「2012年調査」調査時点における就業にかかわる諸状況を明らかにし、中途退学がこれらにどのように影響しているかを検討する。併せて「2003年調査」との比較から就業状況に対する中途退学の影響の度合いが変化しているかどうか検討する、5) 「2012年調査」調査時点における家族形成及び健康の状況を明らかにし、中途退学との関係を検討する。6) 「履歴データ」から、30～44歳時点における就業状況や家族形成等に対して、過去の学校中退が与える長期的な影響について検討する。さらに、7) 「2012年調査」では、前年1年間のハローワーク等の公的機関での求職活動の経験の有無が把握できることから、ハローワークを利用する中途退学者の特徴を検討し、別途行なった「ハローワークに来所する中途退学者調査」を分析する際に参考となる情報を提供する。8) 最後にこの章での検討結果をまとめる。

第2節 中途退学の頻度と変化

「2012年調査」においては、全体（男女計）に占める大学中退者の割合は2.9%、専門学校中退者は2.5%、短大・高専中退者は0.5%、大学院中退者は0.1%となっている（図表1-1）。これらの合計である高等教育中退者の割合は全体の6.0%、これに高校中退者（4.4%）等も加えた全中退者は10.6%となる。すなわち、在学中の者を除く20歳代の若者の10人に1人は中途退学者であるということである。これを性別にみると、短大・高専中退を除くすべての学校段階において男性の方が中途退学者の割合は大きく、男性に限れば8人に1人は中途退学者である。

文部科学省では学校を通じた調査によって、高校からの中途退学者数を毎年公表しているが²、この数字は当該学校を退学した数であり、退学直後に、通信制などの他の高校に転学した場合や、高等学校卒業程度認定試験を受けて大学に進学している場合もこの中退者数には含まれる。本分析においては、すでに学校を離れた人のみを対象にしていることから、ここ

² 文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば、2012年度の高校中退者数は51,781人（高校在籍者数の1.5%、ただし2010年度入学者の2012年度末までの中退率を各学年での中退数から推計すると中退率はおよそ5%）となっている。また、大学・短大・高専からの中途退学者数については定期的に公表されている調査はなく、2012年度末79,311人、2008年度末49,394人、2007年度末63,421人という数が公表されている（文部科学省2010、2014a）。専門学校からの中退についても定期的に公表はされていないが、2012年度末30,322人、2011年度末29,761人、2010年度末28,374人という数が公表されている（文部科学省2014b）。

で把握された数には、その後に再入学等する可能性はあるものの、直後に転学したような人は含まれず、ほぼ確定した中退者数だとみることができる。そこでの10人に1人という比率は、やはり大きな数値である。

図表1-1 対象者の学歴構成

単位：%、太字は実数

	2012年調査 (20~29歳)						2003年調査 (21~35歳)	
	男性		女性		男女計		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	271	2.4	164	1.4	435	1.9	385	1.9
高校卒	4,209	37.9	3,732	30.9	7,941	34.3	7,163	36.2
卒業 専門学校卒	1,820	16.4	2,511	20.8	4,331	18.7	3,593	18.1
業 短大・高専卒	330	3.0	1,821	15.1	2,151	9.3	2,732	13.8
者 大学卒	2,679	24.1	2,638	21.8	5,317	22.9	4,077	20.6
大学院卒	254	2.3	100	0.8	354	1.5	265	1.3
他・不明の学校卒	112	1.0	90	0.7	202	0.9	119	0.6
中退者 高校中退	562	5.1	457	3.8	1,019	4.4	691	3.5
専門学校中退	284	2.6	300	2.5	584	2.5	362	1.8
短大・高専中退	45	0.4	80	0.7	125	0.5	84	0.4
大学中退	488	4.4	174	1.4	662	2.9	302	1.5
大学院中退	22	0.2	8	0.1	30	0.1	24	0.1
他・不明の学校中退	18	0.2	9	0.1	27	0.1	8	0.0
中退者計(再掲)	1,419	12.8	1,028	8.5	2,447	10.6	1,471	7.4
合計	11,094	100.0	12,084	100.0	23,178	100.0	19,805	100.0

* 2003年調査の男女別については、章末の付表1に示した。

では、中退者は増えているのか。「2003年調査」で全体に占める中退者の割合をみると、大学中退者で1.5%、全中退者で7.4%と、「2012年調査」より明らかに低い。すなわち、全体に占める中退者の割合は高まっており、なかでも大学中退者の増加は著しい。

ここで留意すべきなのは、本調査対象は20~29歳であり、「2003年調査」の調査対象である年齢幅(21-35歳)と異なること、かつ、ここでの分析においては、大学や大学院在学中の者をあらかじめ分析対象から除いていることである。そのため、20歳代前半では、大学・大学院中退者の割合は高めにでることになる。そこで、対象を20歳代前半と後半に2分し、大学・大学院中退者の割合などを検討する際には、20歳代後半に注目することにした。図表1-2は、年齢段階を2つに分けたときの学歴構成である。

25~29歳層に注目すると、中退者の割合は大学中退が2.8%、専門学校中退が2.3%、短大・高専中退が0.6%、大学院中退が0.2%となった。「2003年調査」結果もこれに合わせて25~29歳層のみを取り出して示す(表の右側)。こちらの大学中退は1.7%、専門学校中退が2.0%などであり、10年ほど前に比べて中退者の割合は明らかに増加している。高校中退者の割合もこの間3.0%から4.5%へと高まっており、20歳代後半層全体に対する中途退学者の割合は2003年の7.5%から2012年の10.5%へと高まった。なお、ここからこの間の増加率を推計すると、大学中退者が1.6倍と最も高い。

図表 1-2 年齢段階別対象者の学歴構成

単位：％、太字は実数

	2012年調査						2003年調査			2003-2012年 間の増加率 (男女計)
	20～24歳			25～29歳			25～29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
中学卒	2.4	1.5	1.9	2.4	1.3	1.8	2.4	0.9	1.6	
高校卒	46.8	35.2	40.6	32.2	27.9	30.0	35.6	30.0	32.7	
専門学校卒	15.5	20.2	18.0	17.0	21.2	19.2	18.4	18.5	18.5	
短大・高専卒	3.0	17.0	10.4	2.9	13.7	8.5	3.5	24.1	14.2	
大学卒	17.4	16.6	16.9	28.6	25.5	27.0	27.2	20.0	23.5	
大学院卒	0.5	0.1	0.3	3.4	1.3	2.3	2.4	0.7	1.5	
他・不明の学校卒	1.3	0.9	1.1	0.8	0.6	0.7	0.5	0.4	0.4	
高校中退	5.1	3.7	4.3	5.1	3.9	4.5	4.1	2.1	3.0	1.5
専門学校中退	3.1	2.5	2.8	2.2	2.5	2.3	2.3	1.7	2.0	1.2
短大・高専中退	0.4	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6	0.4	0.8	0.6	0.9
大学中退	4.4	1.6	2.9	4.4	1.3	2.8	2.8	0.7	1.7	1.6
大学院中退	0.1	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3	0.0	0.1	1.3
他・不明の学校中退	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	-
中退者計(再掲)	13.1	8.5	10.7	12.6	8.5	10.5	10.0	5.3	7.5	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(N)	4,368	4,982	9,350	6,723	7,101	13,824	3,160	3,437	6,597	

さて、以降の分析においては、学歴段階ごとの特徴を見ていくことになるが、数の少ない学歴区分については分析することが難しくなる。そこで、以下では、大学院中退は大学中退とあわせて、短大・高専中退は専門学校中退とあわせて取り扱うことにする。卒業生についても比較のために同じ区分を用いる。また煩雑さを避けるため、「他、不明の学校」については、卒業生も中退者も表中に掲載することを省く。

分析に先立って、地域によって中退者の比率が異なるか否かを確認しておく。「2012年調査」では、居住地は「政令指定都市、東京都特別区」、「左記以外の市」、「左記以外の郡部」に区別できる³。図表1-3に示す通り、大学・大学院中退者の割合が大きいのは「政令指定都市、東京都特別区」である。大都市部は大学・大学院卒業生の割合もひとときわ高い。大学そのものが大都市に集中しており、中途退学後も大都市に居住し続ける場合が多いと考えられる。

³ 「2003年調査」では地域に関する変数はない。

図表 1-3 地域別対象者の学歴構成 (2012年調査)

単位：％、太字は実数

	男性			女性			男女計		
	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部
中学卒	2.4	2.4	2.7	1.3	1.4	1.3	1.8	1.9	2.0
高校卒	26.5	39.7	44.6	22.3	32.4	35.6	24.3	35.9	39.9
専門・短大・高専卒	20.0	19.0	20.4	36.0	35.5	37.3	28.5	27.6	29.1
大学・大学院卒	35.7	25.5	18.5	31.8	21.2	16.8	33.6	23.3	17.6
高校中退	5.5	5.0	4.9	2.8	4.0	4.1	4.1	4.5	4.5
専門・短大・高専中退	3.0	2.9	3.0	2.7	3.2	3.5	2.9	3.1	3.2
大学・大学院中退	6.0	4.3	4.4	2.2	1.4	1.1	4.0	2.8	2.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	2,036	7,569	1,489	2,297	8,194	1,593	4,333	15,763	3,082

* 大学院中退は大学中退に、短大・専門学校中退は専門学校中退と合わせて表示した。卒業の場合もこれに合わせてくくった。また、「他・不明の学校卒」「他・不明の学校中退」については掲載を省く。この学歴の扱いは以下の図表すべてに共通する。

第3節 就業への移行、正社員就業への移行

この節では、中途退学した後の就業への移行について検討する。

卒業や中退で学校を離れて（以降、離学という）から、何らかの職に就くまでの期間を見たのが図表 1-4 である。男女計に注目すると、「離学～3ヶ月以内」に就業した者は、高校中退では2割に、大学・大学院中退、専門・短大・高専中退では3割に満たない。それ以降「3年以内」に就業した場合のほうが多い。「3年以上」かかった者と現在も「未就業・不明⁴」の者を合わせると、高校中退で3割、高等教育中退で2割前後を占める。また、在学中からのアルバイトなどを継続していると思われる「離学前」⁵が1～2割に達している。同じ教育段階の卒業者の場合、6～7割が「離学～3ヶ月以内」に就業しているのとは対照的である。この傾向に男女別の違いはほとんど見られない。

⁴ ここでの不明は、現在は無業であって、就業経験の有無が不明である者ということである。

⁵ 中退者で初職入職時点が「離学前」である者の場合、初職の就業形態がアルバイト、パート等の非正規か家業手伝いである者が「2012年調査」では91%、「2003年調査」では74%を占めている。なお、調査では離学後の就業について問うているが、離学直後の就業状況を記載するために、離学前の入職時期が記入されていると解釈した。

図表 1-4 学歴別 離学から就業までの期間

単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	期間不明 *1	未就業、 不明*2	合計		
2012年調査	男性	中学卒	1.5	20.3	12.2	25.1	27.3	13.7	100.0	271
		高校卒	2.1	61.1	11.8	6.6	14.9	3.5	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	4.3	62.1	12.9	4.2	14.0	2.6	100.0	2,150
		大学・大学院卒	4.1	65.2	13.0	2.0	11.2	4.5	100.0	2,933
		高校中退	6.8	19.2	23.1	15.5	24.7	10.7	100.0	562
		専門・短大・高専中退	10.9	29.5	29.2	8.5	11.9	10.0	100.0	329
		大学・大学院中退	19.4	24.7	25.3	4.7	11.8	14.1	100.0	510
	合計	4.4	56.5	14.0	5.8	14.4	5.0	100.0	11,094	
	女性	中学卒	1.2	17.1	20.1	16.5	14.0	31.1	100.0	164
		高校卒	3.3	59.7	11.4	6.9	13.2	5.5	100.0	3,732
		専門・短大・高専卒	6.2	65.3	10.0	4.4	12.2	1.8	100.0	4,332
		大学・大学院卒	2.9	73.9	10.1	2.1	9.1	2.0	100.0	2,738
		高校中退	10.5	12.7	21.4	17.7	20.6	17.1	100.0	457
		専門・短大・高専中退	13.9	26.6	27.9	8.2	13.2	10.3	100.0	380
大学・大学院中退		19.8	21.4	27.5	5.5	12.6	13.2	100.0	182	
合計	5.1	60.9	11.9	5.5	12.1	4.6	100.0	12,084		
男女計	中学卒	1.4	19.1	15.2	21.8	22.3	20.2	100.0	435	
	高校卒	2.7	60.4	11.6	6.7	14.1	4.5	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	5.6	64.2	11.0	4.4	12.8	2.1	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	3.5	69.4	11.6	2.1	10.2	3.3	100.0	5,671	
	高校中退	8.4	16.3	22.4	16.5	22.9	13.5	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	12.6	27.9	28.5	8.3	12.6	10.2	100.0	709	
	大学・大学院中退	19.5	23.8	25.9	4.9	12.0	13.9	100.0	692	
合計	4.8	58.8	12.9	5.6	13.2	4.8	100.0	23,178		
2003年調査	男女計	中学卒	3.1	30.1	10.1	9.9	41.3	5.5	100.0	385
		高校卒	7.4	63.9	6.6	2.1	18.4	1.6	100.0	7,163
		専門・短大・高専卒	9.0	68.2	7.5	2.1	12.0	1.1	100.0	6,325
		大学・大学院卒	7.3	69.5	8.6	1.4	10.8	2.4	100.0	4,342
		高校中退	12.0	21.4	23.7	5.1	33.6	4.2	100.0	691
		専門・短大・高専中退	19.1	25.1	24.0	2.9	26.5	2.5	100.0	446
		大学・大学院中退	20.6	28.5	24.2	2.1	15.0	9.5	100.0	326
合計	8.6	62.8	8.7	2.2	15.7	2.0	100.0	19,805		

*1 期間不明は、就業経験があることは確認されたが、最初の就業時期が不明な者。

*2 ここでの不明は、現在無業であり、就業経験の有無が不明な者。

* 2003年調査の男女別については、章末の付表2①に示した。

また、「2003年調査」(下段)の中退者と比べてみると、全般的に2012年の方が「離学～3か月以内」と「離学前」が少なく、「3年超」や「未就業・不明」が多い傾向が読み取れる⁶。この傾向は卒業生にも共通しているが変化の幅は小さい。すなわち、就業への移行は全般的にやや時間がかかる方向に変化したが、中退者の変化の方がより顕著だといえる。

さて、「2003年調査」はより高い年齢層まで含んでいるので観察期間が長いこと、また、20歳代前半層においては前述のとおり在学中の者を除いていることから、このまま大学等卒業生と比較するのは適切ではない。そこで、図表1-5には、25～29歳層に絞った場合の結果を示した。図表1-5①はすべての学歴について示しており、②、③は大学・大学院卒、

⁶ 2003年調査と2012年調査では就業経験についての設問の構成が変わっており、離学から最初の就業(あるいは最初の正社員就業)までの期間の測定は同じ手順では行っていない。両者の比較の際は、この点に留意する必要がある。

同中退に絞って図にしている。

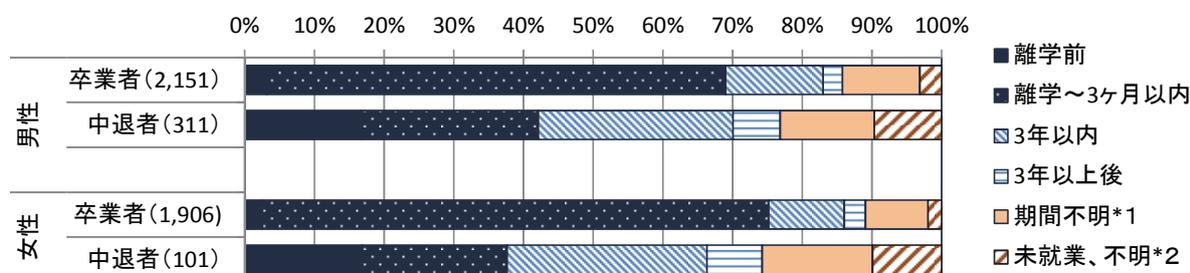
図表 1-5 就業までの期間 (25~29 歳)

①全体状況

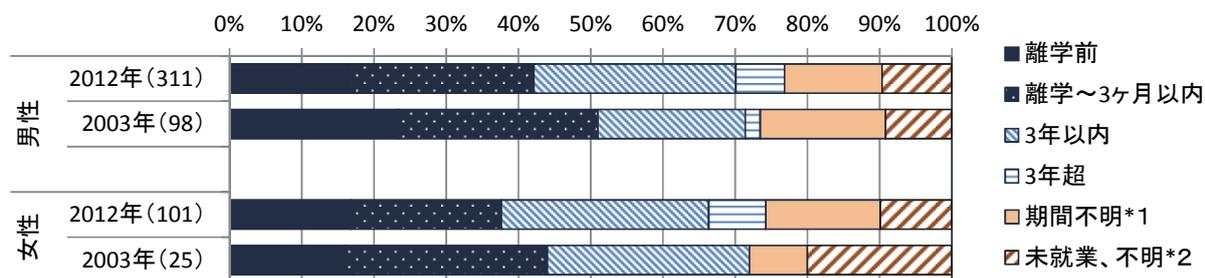
単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	期間不明*1	未就業、不明*2	計(N)		
2012年調査	男性	中学卒	1.8	21.3	10.4	26.8	29.3	10.4	100.0	164
		高校卒	1.9	58.9	10.4	9.4	16.1	3.2	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	4.4	60.9	12.4	5.7	14.8	1.9	100.0	1,342
		大学・大学院卒	3.2	65.8	14.0	2.8	11.1	3.1	100.0	2,151
		高校中退	5.9	19.4	22.6	19.1	25.5	7.6	100.0	341
		専門・短大・高専中	11.7	25.1	30.2	13.4	10.6	8.9	100.0	179
		大学・大学院中退	16.7	25.4	28.0	6.8	13.5	9.6	100.0	311
		合計	4.0	55.9	13.9	7.4	14.8	3.9	100.0	6,723
	女性	中学卒	0.0	16.9	20.2	19.1	14.6	29.2	100.0	89
		高校卒	2.8	56.8	11.5	9.6	13.5	5.8	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	6.2	63.3	9.8	6.6	11.9	2.2	100.0	2,481
		大学・大学院卒	2.5	72.7	10.9	3.0	9.0	1.9	100.0	1,906
高校中退		9.1	13.1	18.2	20.4	22.2	17.1	100.0	275	
専門・短大・高専中		9.9	26.6	29.3	10.8	13.5	9.9	100.0	222	
大学・大学院中退		16.8	20.8	28.7	7.9	15.8	9.9	100.0	101	
合計		4.6	59.6	11.9	7.4	12.1	4.5	100.0	7,101	
男女計	中学卒	1.2	19.8	13.8	24.1	24.1	17.0	100.0	253	
	高校卒	2.4	57.9	10.9	9.5	14.9	4.4	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	5.6	62.5	10.7	6.3	12.9	2.1	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	2.9	69.0	12.5	2.9	10.1	2.6	100.0	4,057	
	高校中退	7.3	16.6	20.6	19.6	24.0	11.9	100.0	616	
	専門・短大・高専中	10.7	25.9	29.7	12.0	12.2	9.5	100.0	401	
	大学・大学院中退	16.7	24.3	28.2	7.0	14.1	9.7	100.0	412	
	合計	4.3	57.8	12.9	7.4	13.4	4.2	100.0	13,824	
2003年調査	男女計	中学卒	4.6	29.6	9.3	10.2	41.7	4.6	100.0	108
		高校卒	8.0	62.1	7.1	1.5	19.6	1.6	100.0	2,157
		専門・短大・高専卒	9.6	67.8	9.2	1.7	10.8	0.9	100.0	2,159
		大学・大学院卒	8.4	67.5	11.0	0.7	10.4	1.9	100.0	1,647
		高校中退	8.0	22.6	28.1	4.0	33.7	3.5	100.0	199
		専門・短大・高専中退	19.1	24.3	23.7	4.6	25.4	2.9	100.0	173
		大学・大学院中退	22.0	27.6	22.0	1.6	15.4	11.4	100.0	123
		合計	9.2	61.9	10.1	1.7	15.3	1.8	100.0	6,597

②大学・大学院卒及び同中退者 (25~29 歳) の就業までの期間



③大学・大学院中退者（25～29歳）の就業までの期間の変化



*1 期間不明は、就業経験があることは確認されたが、最初の就業時期が不明な者。

*2 ここでの不明は、現在無業であり、就業経験の有無が不明な者。

* 2003年調査の男女別については、章末の付表2②に示した。

* 図の（ ）内は対象数。

図表1-5②にみるとおり、大学・大学院中退者は卒業者に比べて、離学直後に就業した者が少なく、就業までに時間かかっていたり、未就業の者が多い。中途退学後の就業への移行は卒業者と比べて円滑ではない。図表1-5③は最近10年程度の変化を見るために行った「2003年調査」との比較である。「2003年調査」においても「2012年調査」と同様に中退者には就業までに時間がかかった者が多いが、近年の方がさらに、卒業直後に就業し始めた者が減り、就業までに時間のかかる者が増えているといえる。

次に、正社員としての就業に焦点を当てよう。正社員と正社員以外の就業形態の間には、平均的には、賃金や能力開発機会、社会保障への包摂などについて、違いがあることが指摘されている。中途退学の有無によって、離学から正社員就業までの期間が異なるのか、あるいは、正社員就業に至っているのかを検討することは重要だろう。

図表1-6にみるとおり、学校中退者では離学直後に正社員⁷として就業している者は大学・大学院中退で10.4%、高校中退なら3.8%と、ごくわずかであり、卒業者の場合のそれが半数前後であるのと対照的である。さらに、中退者には、観察期間中に正社員に一度も就いていない「正社員移行なし」が半数近く、就業経験が全くない「未就業」も1割以上おり、これを合わせると中途退学者の6割程度は正社員経験が全くない。男女別には、明らかに女性の方が正社員経験がない者が多い。

⁷ 調査票では「正規の職員・従業員」

図表 1-6 学歴別 正社員就業までの期間

単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	正社員時期不明	正社員移行なし	就業形態不明	未就業	合計		
2012年調査	男性	中学卒	0.4	9.6	4.1	10.7	13.7	42.4	5.5	13.7	100.0	271
		高校卒	0.9	48.9	6.2	3.7	8.1	20.2	8.5	3.5	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	2.0	47.2	7.0	3.1	7.1	20.9	10.1	2.6	100.0	2,150
		大学・大学院卒	1.0	52.7	6.7	1.4	5.5	19.2	9.0	4.5	100.0	2,933
		高校中退	1.8	6.2	12.1	8.7	16.0	38.6	5.9	10.7	100.0	562
		専門・短大・高専中退	1.5	10.6	14.0	4.0	11.6	42.6	5.8	10.0	100.0	329
		大学・大学院中退	1.2	10.8	12.2	2.7	8.4	42.9	7.6	14.1	100.0	510
	合計	1.2	43.3	7.2	3.4	7.8	23.4	8.6	5.0	100.0	11,094	
	女性	中学卒	0.0	1.2	3.0	2.4	2.4	57.3	2.4	31.1	100.0	164
		高校卒	0.7	41.7	5.4	2.9	5.8	31.3	6.7	5.5	100.0	3,732
		専門・短大・高専卒	3.2	48.2	5.8	2.6	6.3	24.1	8.0	1.8	100.0	4,332
		大学・大学院卒	0.9	58.4	5.2	1.5	4.8	19.1	8.1	2.0	100.0	2,738
		高校中退	0.2	0.9	5.0	4.6	3.9	62.6	5.7	17.1	100.0	457
		専門・短大・高専中退	0.5	6.6	11.8	4.2	8.2	53.4	5.0	10.3	100.0	380
大学・大学院中退		0.0	9.3	11.0	2.7	7.1	53.3	3.3	13.2	100.0	182	
合計	1.6	44.0	5.7	2.5	5.7	28.6	7.3	4.6	100.0	12,084		
男女計	中学卒	0.2	6.4	3.7	7.6	9.4	48.0	4.4	20.2	100.0	435	
	高校卒	0.8	45.5	5.8	3.3	7.0	25.4	7.6	4.5	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	2.8	47.9	6.2	2.7	6.6	23.0	8.7	2.1	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	1.0	55.5	6.0	1.4	5.2	19.1	8.6	3.3	100.0	5,671	
	高校中退	1.1	3.8	8.9	6.9	10.6	49.4	5.8	13.5	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	1.0	8.5	12.8	4.1	9.7	48.4	5.4	10.2	100.0	709	
	大学・大学院中退	0.9	10.4	11.8	2.7	8.1	45.7	6.5	13.9	100.0	692	
合計	1.4	43.6	6.4	2.9	6.7	26.1	7.9	4.8	100.0	23,178		
2003年調査	男女計	中学卒	1.6	17.4	6.0	6.8	17.7	37.1	8.1	5.5	100.0	385
		高校卒	4.9	55.3	4.1	1.4	11.7	15.5	5.5	1.6	100.0	7,163
		専門・短大・高専卒	5.5	57.5	5.8	1.7	8.3	14.7	5.4	1.1	100.0	6,325
		大学・大学院卒	3.8	58.5	5.3	1.0	7.4	15.3	6.2	2.4	100.0	4,342
		高校中退	3.2	9.1	13.3	4.2	19.4	40.1	6.5	4.2	100.0	691
		専門・短大・高専中退	5.4	11.9	15.0	2.9	19.7	36.3	6.3	2.5	100.0	446
		大学・大学院中退	4.6	16.0	16.0	2.5	12.6	34.4	4.6	9.5	100.0	326
合計	4.8	52.5	5.7	1.7	10.2	17.3	5.7	2.0	100.0	19,805		

* 2003年調査の男女別については、章末の付表3①に示した。

「2003年調査」と比べてみると、やはり全般的に「離学～3か月以内」と「離学前」が減り「正社員移行なし」「3年超」「未就業・不明」が増える傾向がみられる。卒業者と中退者とはその変化の度合いが異なり、中退者では「正社員移行なし」や「未就業」はそれぞれ5～10%ポイントほどの増加となっている。さらに中退者では「3年以内」も減少しており、中退者の正社員への移行の困難度は高まっていると推測される。

大学・大学院卒業者との比較については、先に述べたとおり、20歳代後半層に絞って検討したほうがいい。図表1-7②でそれを見ると、やはり明らかに卒業者と中退者では、正社員就業の有無、離学からの期間は異なり、中途退学者では、正社員になっていない者、なったとしても離学から時間がかかった者が多い。

図表1-7③は、大学・大学院中退者の正社員への移行状況を「2003年調査」と比較したものである。「2003年調査」の大学・大学中退女性はケースがごく少ない（25ケース）ので留意が必要だが、離学直後の正社員就業者比率は減少し、時間のかかった者が増えているこ

とは確認できる。

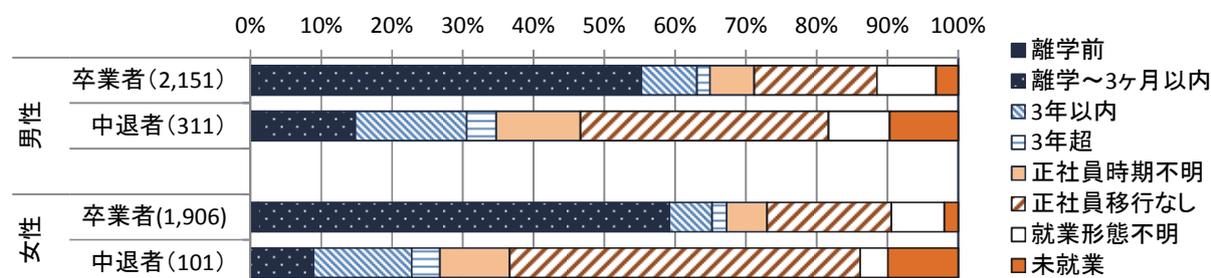
図表 1-7 正社員就業までの期間（25～29歳）

① 全体状況

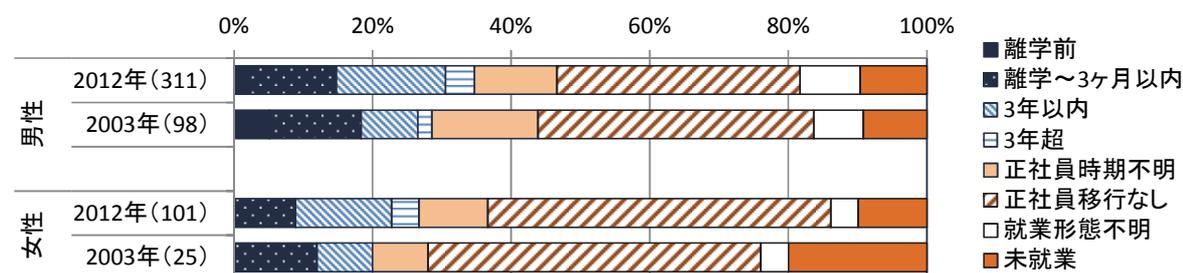
単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	正社員時期不明	正社員移行なし	就業形態不明	未就業	合計		
2012年調査	男性	中学卒	0.6	11.6	3.0	12.8	16.5	40.2	4.9	10.4	100.0	164
		高校卒	0.7	45.7	6.7	5.7	10.6	19.5	7.8	3.2	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	2.4	46.1	7.6	4.5	8.6	19.4	9.4	1.9	100.0	1,342
		大学・大学院卒	1.1	54.2	7.9	1.9	6.2	17.3	8.4	3.1	100.0	2,151
		高校中退	2.1	6.5	13.5	10.6	17.0	36.1	6.7	7.6	100.0	341
		専門・短大・高専中退	2.8	9.5	16.8	6.7	11.7	36.9	6.7	8.9	100.0	179
		大学・大学院中退	1.9	12.9	15.8	4.2	11.9	35.0	8.7	9.6	100.0	311
		合計	1.4	42.9	8.2	4.6	9.4	21.5	8.2	3.9	100.0	6,723
	女性	中学卒	0.0	2.2	2.2	4.5	3.4	56.2	2.2	29.2	100.0	89
		高校卒	0.7	39.0	6.0	4.3	6.7	32.5	5.0	5.8	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	3.5	47.1	6.9	4.0	7.7	22.7	6.1	2.2	100.0	2,481
		大学・大学院卒	1.1	58.1	6.0	2.1	5.7	17.6	7.5	1.9	100.0	1,906
高校中退		0.4	1.1	4.7	6.5	4.7	60.4	5.1	17.1	100.0	275	
専門・短大・高専中退		0.9	8.1	12.2	5.9	8.1	50.9	4.1	9.9	100.0	222	
大学・大学院中退		0.0	8.9	13.9	4.0	9.9	49.5	4.0	9.9	100.0	101	
合計		1.8	43.5	6.5	3.7	6.8	27.3	6.0	4.5	100.0	7,101	
男女計	中学卒	0.4	8.3	2.8	9.9	11.9	45.8	4.0	17.0	100.0	253	
	高校卒	0.7	42.5	6.4	5.1	8.8	25.7	6.5	4.4	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	3.1	46.7	7.1	4.2	8.0	21.5	7.2	2.1	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	1.1	56.0	7.0	2.0	6.0	17.5	8.0	2.6	100.0	4,057	
	高校中退	1.3	4.1	9.6	8.8	11.5	46.9	6.0	11.9	100.0	616	
	専門・短大・高専中退	1.7	8.7	14.2	6.2	9.7	44.6	5.2	9.5	100.0	401	
	大学・大学院中退	1.5	11.9	15.3	4.1	11.4	38.6	7.5	9.7	100.0	412	
	合計	1.6	43.2	7.3	4.1	8.0	24.5	7.0	4.2	100.0	13,824	
2003年調査	男女計	中学卒	2.8	16.7	5.6	6.5	16.7	39.8	7.4	4.6	100.0	108
		高校卒	5.5	53.2	4.4	0.8	12.3	16.6	5.5	1.6	100.0	2,157
		専門・短大・高専卒	5.4	55.7	7.1	1.6	9.0	15.0	5.3	0.9	100.0	2,159
		大学・大学院卒	4.7	54.4	6.0	0.6	8.1	18.0	6.4	1.9	100.0	1,647
		高校中退	3.0	8.5	14.1	4.0	22.1	40.7	4.0	3.5	100.0	199
		専門・短大・高専中退	4.6	11.0	15.0	2.3	25.4	32.4	6.4	2.9	100.0	173
		大学・大学院中退	4.1	13.0	8.1	1.6	13.8	41.5	6.5	11.4	100.0	123
		合計	5.1	50.4	6.4	1.3	10.9	18.5	5.7	1.8	100.0	6,597

② 大学・大学院卒及び同中退者（25～29歳）の正社員就業までの期間



③ 大学・大学院中退者（25～29歳）の正社員就業までの期間の変化



* 2003年調査の男女別については、章末の付表3②に示した。

* 図の（ ）内は対象数。

第4節 初職と職業キャリア

この節では、離学後最初に就いた仕事から調査時点現在までの職業キャリアについて検討する⁸。職業キャリアは多面的に捉えられるが、ここでは就業形態に注目し、離学から現在までに経験した就業形態を連続的に捉えたものとする。

調査では対象者に職歴表の記載を求めている。これは、現職以前に就業経験がある場合、離学後の最初の就業から現在まで、勤め先の企業あるいは就業形態が変わる毎に、段を改めて記載する形になっている。この職歴表と現職情報から、まず離学後の最初の就業状況（＝初職）を整理した（図表1-8）。表にみるとおり、分析対象者全体では、半数強が初職は正社員であったが、アルバイト・パートが18.7%、契約社員・嘱託が5.9%と、非正規雇用から就業を始めた者も多い。

図表1-8 学歴別 初職就業形態（2012年調査） 単位：%、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	N	構成比(%)	N	構成比(%)	N	構成比(%)
未就業	559	5.0	550	4.6	1,109	4.8
就業形態不詳	904	8.1	792	6.6	1,696	7.3
役員・自営業主	439	4.0	265	2.2	704	3.0
自家営業の手伝い	241	2.2	93	0.8	334	1.4
自宅での貸仕事(内職)	10	0.1	15	0.1	25	0.1
正規の職員・従業員	6,291	56.7	6,512	53.9	12,803	55.2
アルバイト・パート	1,761	15.9	2,583	21.4	4,344	18.7
派遣社員	190	1.7	175	1.4	365	1.6
契約社員・嘱託	496	4.5	882	7.3	1,378	5.9
その他	203	1.8	217	1.8	420	1.8
合計	11,094	100.0	12,084	100.0	23,178	100.0

この後の職歴については、最大8段目までの記載があり、現職と合わせると職歴の最大は9段となる。この職歴を整理するにあたり、まず就業形態を、正規（正規の職員・従業員）、非正規（アルバイト、パート、派遣社員、契約・嘱託、その他）、自営他（役員・自営業主、

⁸ 離学後最初に就いた仕事には、離学前から継続していた仕事を含む。

自家営業の手伝い、自宅での賃仕事（内職）、就業形態不詳の4つに集約し、その上で、9段目までをこの4分類の組み合わせで表現した。結果、全部で約270通りのパターンができた。この270パターンを初職状況を起点に整理したものが図表1-9の左側であり、さらにこれをまとめて図表1-9の右側の8類型を作成した。これを以下ではキャリア類型と呼ぶことにする。

8類型の内訳は、初職から正社員で同一勤務先に定着している「正社員定着」、初職から正社員で転職はしているがいずれの職も正社員である「正社員転職」、初職は正社員だが現在は非正規雇用である「正社員から非正規」、初職が非正規で、勤務先が変わってもずっと非正規であった「非正規のみ」、初職が非正規か自営他あるいは形態不明で、現在は正社員である「他形態から正社員」、そのほかの移動がある「その他移動型」、さらに現在自営他、または就業形態不明である「現在自営・その他」、現在無業である「現在無業」をそれぞれ別にくくって類型に加えた。このように類型化すると、20歳代の全対象者のキャリアは、「正社員定着」が34.6%、「非正規のみ」が17.7%などとなった。

図表1-9 キャリアの類型化（2012年調査）

		男性 (N)	女性 (N)	男女計 (N)	構成比 (%)		男女計 (N)	構成比 (%)	
初職正社員	正社員定着	4,187	3,832	8,019	34.6	→	正社員定着	8,019	34.6
	正社員間転職	819	569	1,388	6.0	→	正社員間転職	1,388	6.0
	正社員→非正規・自営他→正社員	240	225	465	2.0				
	正社員→非正規	467	993	1,460	6.3	→	正社員から非正規	1,460	6.3
	正社員→自営・その他	303	229	532	2.3				
	正社員→無業	275	664	939	4.1				
初職非正規	非正規のみ	1,620	2,486	4,106	17.7	→	非正規のみ	4,106	17.7
	非正規→正社員	482	418	900	3.9	→	他形態から正社員	983	4.2
	非正規→正社員・自営他→非正規	86	139	225	1.0				
	非正規→自営・その他	167	151	318	1.4		その他移動型	798	3.4
	非正規→無業	295	663	958	4.1				
初職自営・ 同手伝い、 その他、就 業形態不明	自営・その他(途中移動含む)	1,452	1,043	2,495	10.8	→	現在自営・その他	3,345	14.4
	自営・その他→正規	60	23	83	0.4				
	自営・その他→非正規	48	60	108	0.5				
	自営・その他→無業	34	39	73	0.3		現在無業	3,079	13.3
未就業	559	550	1,109	4.8					
合計	11,094	12,084	23,178	100.0			23,178	100.0	

では、中途退学したかどうかでこのキャリア類型はどう異なるのか。図表1-10にその結果を示した。中退者では、卒業者に比べて明らかに「正社員定着」が少なく、「非正規のみ」や「現在無業」が多い。この傾向は男女とも同じだが、女性のほうがより顕著である。中途退学者は、最初の仕事までに時間がかかりがちだけでなく、長期にわたり非正規や無業状況であることが多いと考えられる。

正社員に移行する「他形態から正社員」は男性の中退者で1割前後見られる。先行研究では、非正規から正規への移行は高学歴者のほうが確率が高いことが指摘されているが、ここではより低い教育段階で中退した人のほうが移行者は多い。この違いは、おそらく離学からの期間が、大学・大学院中退の場合は短いことによるのではないかと考えられる。

そこで、図表1-11の20代後半層に限った集計結果を見ると、男性の「他形態から正社員」はどの学歴段階の中退者でも、年齢計より比率が高まっている。ここから離学からの期間が影響していることが示唆される。

図表1-10 学歴別キャリア類型（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他 移動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計(N)	
男性										
中学卒	19.6	4.1	3.0	22.5	6.3	3.7	18.1	22.9	100.0	271
高校卒	39.0	8.9	5.3	11.9	4.2	4.7	17.7	8.3	100.0	4,209
専門・短大・高専卒	36.5	9.2	5.4	13.6	4.7	3.7	18.9	7.9	100.0	2,150
大学・大学院卒	49.2	6.3	2.9	12.0	3.0	1.3	16.2	9.0	100.0	2,933
高校中退	16.7	3.6	1.8	21.7	12.5	4.4	18.1	21.2	100.0	562
専門・短大・高専中退	18.2	2.1	2.1	31.3	11.2	3.3	13.1	18.5	100.0	329
大学・大学院中退	16.3	3.5	2.2	30.8	8.2	2.0	15.5	21.6	100.0	510
合計	37.7	7.4	4.2	14.6	4.9	3.4	17.3	10.5	100.0	11,094
女性										
中学卒	1.8	0.0	1.2	31.7	4.3	0.6	6.1	54.3	100.0	164
高校卒	23.1	4.7	11.4	21.3	3.2	4.7	11.9	19.7	100.0	3,732
専門・短大・高専卒	36.8	5.5	8.2	18.0	3.8	3.2	13.1	11.5	100.0	4,332
大学・大学院卒	46.8	5.4	6.6	14.5	3.5	2.5	11.6	9.1	100.0	2,738
高校中退	3.5	0.0	1.1	44.2	2.8	2.4	7.0	38.9	100.0	457
専門・短大・高専中退	8.4	1.3	4.5	39.5	6.6	5.3	8.2	26.3	100.0	380
大学・大学院中退	15.9	1.6	1.6	40.7	5.5	4.4	8.2	22.0	100.0	182
合計	31.7	4.7	8.2	20.6	3.6	3.5	11.8	15.9	100.0	12,084
男女計										
中学卒	12.9	2.5	2.3	26.0	5.5	2.5	13.6	34.7	100.0	435
高校卒	31.5	6.9	8.1	16.3	3.8	4.7	14.9	13.7	100.0	7,941
専門・短大・高専卒	36.7	6.7	7.3	16.5	4.1	3.4	15.0	10.3	100.0	6,482
大学・大学院卒	48.1	5.8	4.7	13.2	3.3	1.9	14.0	9.0	100.0	5,671
高校中退	10.8	2.0	1.5	31.8	8.1	3.5	13.2	29.1	100.0	1,019
専門・短大・高専中退	13.0	1.7	3.4	35.7	8.7	4.4	10.4	22.7	100.0	709
大学・大学院中退	16.2	3.0	2.0	33.4	7.5	2.6	13.6	21.7	100.0	692
合計	34.6	6.0	6.3	17.7	4.2	3.4	14.4	13.3	100.0	23,178

図表 1-11 学歴別キャリア類型 (25~29 歳 ; 2012 年調査)

単位 : %、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他 移動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計(N)
男性									
中学卒	22.0	4.3	3.7	18.3	8.5	2.4	18.9	22.0	100.0 164
高校卒	32.6	12.0	6.0	11.2	6.2	6.6	17.8	7.7	100.0 2,164
専門・短大・高専卒	35.0	11.0	5.6	11.7	5.7	4.4	19.5	7.1	100.0 1,342
大学・大学院卒	49.5	7.8	3.5	9.9	3.4	1.6	16.4	7.9	100.0 2,151
高校中退	16.7	3.8	1.8	16.4	15.2	4.1	22.9	19.1	100.0 341
専門・短大・高専中退	20.1	2.2	2.8	24.6	13.4	3.4	15.6	17.9	100.0 179
大学・大学院中退	20.3	5.5	2.9	22.5	10.9	2.9	18.0	17.0	100.0 311
合計	36.3	9.2	4.6	12.3	6.2	4.1	17.9	9.4	100.0 6,723
女性									
中学卒	2.2	0.0	2.2	33.7	4.5	1.1	7.9	48.3	100.0 89
高校卒	16.8	5.2	12.6	21.3	4.2	5.7	10.5	23.6	100.0 1,978
専門・短大・高専卒	32.2	6.4	9.5	16.0	4.7	4.3	12.3	14.6	100.0 2,481
大学・大学院卒	42.9	6.6	8.2	12.6	4.2	3.2	11.4	10.9	100.0 1,906
高校中退	2.5	0.0	1.8	40.0	2.9	3.6	8.0	41.1	100.0 275
専門・短大・高専中退	7.2	1.8	5.9	32.9	5.9	7.7	8.1	30.6	100.0 222
大学・大学院中退	17.8	2.0	2.0	31.7	6.9	6.9	12.9	19.8	100.0 101
合計	28.1	5.5	9.4	18.6	4.5	4.4	11.2	18.3	100.0 7,101
男女計									
中学卒	15.0	2.8	3.2	23.7	7.1	2.0	15.0	31.2	100.0 253
高校卒	25.1	8.7	9.2	16.1	5.3	6.2	14.3	15.3	100.0 4,142
専門・短大・高専卒	33.2	8.0	8.1	14.5	5.0	4.3	14.8	12.0	100.0 3,823
大学・大学院卒	46.4	7.2	5.7	11.2	3.8	2.4	14.1	9.3	100.0 4,057
高校中退	10.4	2.1	1.8	26.9	9.7	3.9	16.2	28.9	100.0 616
専門・短大・高専中退	13.0	2.0	4.5	29.2	9.2	5.7	11.5	24.9	100.0 401
大学・大学院中退	19.7	4.6	2.7	24.8	10.0	3.9	16.7	17.7	100.0 412
合計	32.1	7.3	7.1	15.5	5.3	4.3	14.5	14.0	100.0 13,824

同様に男性の「現在自営・その他」の比率も 20 代後半層に限った集計の方が高い。自営や自家営業の手伝いなどの働き方も離学からの期間が長くなると増えていると思われる。

次の図表 1-12 は、地域によって中途退学後のキャリアが異なるか見たものである。高等教育中退の場合、大都市部で「非正規のみ」の比率が高い。一方、「正社員定着」や「現在自営・その他」は一般市や郡部のほうが比率が高い。大都市と地方では産業・職業構造が異なる。都市部には非正規の雇用機会のほうが多く入職しやすい、あるいは郡部や一般市のほうが地縁・血縁による就業機会が多いという可能性が考えられる。

図表 1-12 中途退学者の居住地域とキャリア類型 (男女計 : 2012 年調査)

単位 : %、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他移 動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計
高校中退									
政令指定都市、東京都特別区	8.0	1.1	0.6	31.3	9.1	5.1	15.3	29.5	100.0 176
上記以外の市	11.1	2.4	1.4	31.3	8.1	3.1	13.2	29.4	100.0 705
上記以外の郡部	13.0	0.7	2.9	34.8	7.2	3.6	10.1	27.5	100.0 138
合計	10.8	2.0	1.5	31.8	8.1	3.5	13.2	29.1	100.0 1,019
専門・短大・高専中退									
政令指定都市、東京都特別区	9.6	2.4	3.2	40.8	9.6	2.4	12.0	20.0	100.0 125
上記以外の市	13.0	1.4	3.9	34.8	8.5	4.9	9.1	24.3	100.0 485
上記以外の郡部	17.2	2.0	1.0	33.3	9.1	4.0	15.2	18.2	100.0 99
合計	13.0	1.7	3.4	35.7	8.7	4.4	10.4	22.7	100.0 709
大学・大学院中退									
政令指定都市、東京都特別区	13.9	2.9	1.7	43.4	5.2	1.7	11.6	19.7	100.0 173
上記以外の市	17.0	2.8	2.3	30.7	8.5	2.8	13.3	22.7	100.0 436
上記以外の郡部	16.9	4.8	1.2	26.5	7.2	3.6	19.3	20.5	100.0 83
合計	16.2	3.0	2.0	33.4	7.5	2.6	13.6	21.7	100.0 692

第5節 現在の就業状況

次に「2012年調査」の調査時点における就業にかかる諸状況について検討する。ここで明らかにできるのは、就業の有無、無業者の就業希望、有業者の就業形態、職業、勤務先企業の規模、また、労働時間、前年の所得などである。

1. 有業・無業状況、失業率、非正規比率

まず、図表1-13で有業・無業の状況をみる。男性の場合、中学卒を除く卒業者では、有業者が9割以上、正社員に限っても5割以上を占める(②の男性・図)。これに対して中退者ではどの教育段階からの中退でも、有業者は8割前後であり、正社員に限れば3割前後と少ない。その分、非正規が多く、高等教育中退者の場合は正社員より非正規の方が多い。また、中退者のうち無業は2割前後だが、その半数は求職活動をしており、残る者も多くが就業を希望している。

女性の場合は、中学卒を除けば卒業者の8～9割が有業で、正社員に限ると3～6割となる(③の女性・図)。一方、中退者では有業者は6～8割、正社員に限れば1～2割にとどまる。いずれも学歴水準が低いほど有業者、正社員は少なく、高校中退の場合の正社員比率は6.3%と著しく低い。中退者に多いのは非正規雇用で、全対象者の半数近くを占める。また、無業で求職活動中の者は1割前後、求職活動はしていない就業希望者も1割前後で、就業を希望していない無業者は少ない。

無業で求職中ないし就業希望を持っている人は、中退者の場合は男女とも2割から2割5分程度おり、卒業者より多い。

図表 1-13 現在の有業・無業の状況

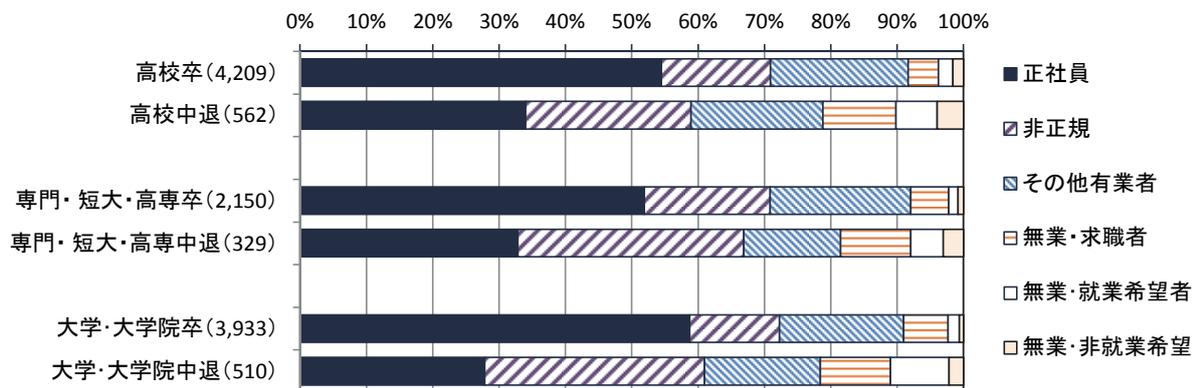
①全体状況

単位：％、太字は実数

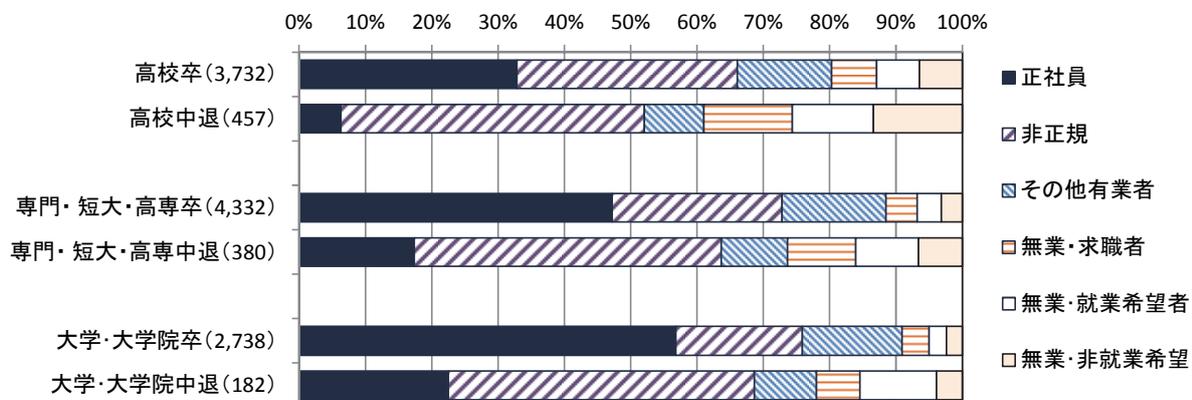
		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	計(N)		
2012年調査	男性	中学卒	30.3	22.1	24.7	9.2	7.4	6.3	100.0	271
		高校卒	54.5	16.5	20.7	4.6	2.2	1.6	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	51.9	18.9	21.3	5.7	1.4	0.8	100.0	2,150
		大学・大学院卒	58.7	13.5	18.7	6.7	1.7	0.6	100.0	2,933
		高校中退	34.0	24.9	19.9	11.0	6.2	3.9	100.0	562
		専門・短大・高専中退	32.8	34.0	14.6	10.6	4.9	3.0	100.0	329
		大学・大学院中退	27.8	33.1	17.5	10.6	8.8	2.2	100.0	510
		計	51.3	18.1	20.1	6.2	2.6	1.6	100.0	11,094
	女性	中学卒	4.6	32.9	7.3	16.5	22.0	15.9	100.0	164
		高校卒	32.9	33.2	14.2	6.8	6.4	6.4	100.0	3,732
専門・短大・高専卒		47.2	25.6	15.7	4.7	3.6	3.2	100.0	4,332	
大学・大学院卒		56.8	19.1	15.0	4.1	2.6	2.4	100.0	2,738	
高校中退		6.3	45.7	9.0	13.3	12.3	13.3	100.0	457	
専門・短大・高専中退		17.4	46.3	10.0	10.3	9.5	6.6	100.0	380	
大学・大学院中退		22.5	46.2	9.3	6.6	11.5	3.8	100.0	182	
計		41.3	28.3	14.5	5.9	5.1	4.8	100.0	12,084	
男女計	中学卒	20.9	26.2	18.2	12.0	12.9	9.9	100.0	435	
	高校卒	44.3	24.3	17.7	5.6	4.2	3.9	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	48.8	23.4	17.6	5.1	2.9	2.4	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	57.8	16.2	16.9	5.4	2.1	1.5	100.0	5,671	
	高校中退	21.6	34.2	15.0	12.1	8.9	8.1	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	24.5	40.6	12.1	10.4	7.3	4.9	100.0	709	
	大学・大学院中退	26.4	36.6	15.3	9.5	9.5	2.6	100.0	692	
	計	46.1	23.4	17.2	6.1	3.9	3.3	100.0	23,178	
2003年調査	男性	中学卒	40.9	10.6	27.6	11.0	3.9	5.9	100.0	254
		高校卒	59.1	9.9	23.3	5.0	1.5	1.3	100.0	3,567
		専門・短大・高専卒	62.6	10.7	19.0	6.3	1.0	0.4	100.0	1,903
		大学・大学院卒	69.1	8.5	15.6	5.2	1.0	0.6	100.0	2,585
		高校中退	41.2	15.7	28.6	9.3	2.4	2.7	100.0	451
		専門・短大・高専中退	44.5	15.6	24.2	11.4	2.8	1.4	100.0	211
		大学・大学院中退	40.3	19.8	19.4	11.1	5.9	3.6	100.0	253
		合計	60.2	10.4	20.5	6.0	1.6	1.2	100.0	9,297
	女性	中学卒	4.6	30.5	16.8	12.2	17.6	18.3	100.0	131
		高校卒	25.3	28.5	10.8	8.9	11.3	15.1	100.0	3,596
専門・短大・高専卒		38.1	23.3	11.7	6.4	8.3	12.2	100.0	4,422	
大学・大学院卒		43.7	19.8	13.3	6.3	6.5	10.5	100.0	1,757	
高校中退		10.4	33.8	10.8	13.3	12.9	18.8	100.0	240	
専門・短大・高専中退		17.4	38.3	14.9	7.2	10.2	11.9	100.0	235	
大学・大学院中退		19.2	38.4	12.3	15.1	9.6	5.5	100.0	73	
合計		33.0	25.3	11.8	7.5	9.3	13.1	100.0	10,508	
男女計	中学卒	28.6	17.4	23.9	11.4	8.6	10.1	100.0	385	
	高校卒	42.1	19.2	17.0	7.0	6.4	8.2	100.0	7,163	
	専門・短大・高専卒	45.5	19.5	13.9	6.4	6.1	8.7	100.0	6,325	
	大学・大学院卒	58.8	13.1	14.7	5.6	3.2	4.6	100.0	4,342	
	高校中退	30.5	22.0	22.4	10.7	6.1	8.2	100.0	691	
	専門・短大・高専中退	30.3	27.6	19.3	9.2	6.7	7.0	100.0	446	
	大学・大学院中退	35.6	23.9	17.8	12.0	6.7	4.0	100.0	326	
	合計	45.8	18.3	15.9	6.8	5.7	7.5	100.0	19,805	

* 注：25～29歳に限った集計は章末の付表4に示した。

②男性・図



③女性・図



* 注：図の（ ）内は対象数

次の図表 1-14 は、求職活動中の無業者を失業者と考えて学歴段階ごとの失業率の算出を試みたものである。中段の数字は中退者と同教育段階の卒業者の失業率を比べたもので、男性についてみると、高校中退者は同卒業者の 2.6 倍、専門・短大・高専中退者は同卒業者の 2 倍、大学・大学院中退者は同卒業者の 1.7 倍の失業率となっている。ここからわかるのは、中退は失業のリスクを高めること、さらに、なかでも低い教育段階での中退は、失業へのリスクをより高めるということである。

女性についても同様に中段を見ていくと、高校中退者は同卒業者の 2.3 倍、専門・短大・高専中退者は同卒業者の 2.4 倍、大学・大学院中退者は同卒業者の 1.8 倍の失業率となっている。男性とほぼ同じ構造である。

図表 1-14 失業率*の中退者と卒業者の比較

① 2012年調査

	全年齢(20~29歳)			25-29歳		
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
失業率*						
中学卒	10.7	26.5	15.5	10.5	19.3	13.0
高校卒	4.7	7.8	6.1	4.1	8.5	6.1
専門・短大・高専卒	5.8	5.1	5.3	5.0	5.4	5.3
大学・大学院卒	6.8	4.3	5.6	5.9	4.5	5.3
高校中退	12.3	17.9	14.6	11.3	17.3	13.6
専門・短大・高専中退	11.6	12.2	11.9	9.3	14.4	12.0
大学・大学院中退	11.9	7.8	10.9	8.5	5.8	7.9
計	6.5	6.6	6.6	5.7	6.8	6.2
中退者/卒業者 : 高校	2.6	2.3	2.4	2.8	2.0	2.2
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	2.0	2.4	2.2	1.9	2.7	2.3
中退者/卒業者 : 大学・大学院	1.7	1.8	1.9	1.4	1.3	1.5
「就業者+無業求職者」(N)						
中学卒	234	102	336	143	57	200
高校卒	4,051	3,252	7,303	2,083	1,652	3,735
専門・短大・高専卒	2,103	4,040	6,143	1,312	2,241	3,553
大学・大学院卒	2,865	2,602	5,467	2,107	1,779	3,886
高校中退	505	340	845	311	196	507
専門・短大・高専中退	303	319	622	162	180	342
大学・大学院中退	454	154	608	282	86	368
計	10,624	10,886	21,510	6,459	6,228	12,687

② 2003年調査

	全年齢(21~35歳)			25-29歳		
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
失業率*						
中学卒	12.2	19.0	14.1	7.1	-	7.4
高校卒	5.2	12.1	8.2	5.7	12.0	8.3
専門・短大・高専卒	6.4	8.0	7.5	7.5	6.0	6.5
大学・大学院卒	5.3	7.5	6.1	6.1	7.9	6.8
高校中退	9.8	19.5	12.5	8.9	23.4	12.9
専門・短大・高専中退	11.9	9.3	10.6	9.5	9.2	9.4
大学・大学院中退	12.2	17.7	13.4	6.9	-	11.9
計	6.2	9.7	7.9	6.5	8.7	7.5
中退者/卒業者 : 高校	1.9	1.6	1.5	1.6	2.0	1.6
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	1.9	1.2	1.4	1.3	1.5	1.4
中退者/卒業者 : 大学・大学院	2.3	2.4	2.2	1.1	-	1.7
「就業者+無業求職者」(N)						
中学卒	229	84	313	70	24	94
高校卒	3,469	2,645	6,114	1,089	786	1,875
専門・短大・高専卒	1,876	3,516	5,392	684	1,210	1,894
大学・大学院卒	2,543	1,459	4,002	920	633	1,553
高校中退	428	164	592	123	47	170
専門・短大・高専中退	202	183	385	84	65	149
大学・大学院中退	229	62	291	87	22	109
計	9,035	8,154	17,189	3,070	2,798	5,868

注：*失業率は (無業求職者) / (就業者+無業求職者) ×100 とした。

表の中段は、対応する教育段階ごとに、中退者の失業率を卒業者の失業率で除して求めた比。

さて、図表 1-13①の表の下段には「2003年調査」での有業・無業の状況を示した。これと「2012年調査」を比較して、この10年ほどの間の変化を考える。まず、全体として無業者の減少、非正規雇用の増加という方向の変化がみられる。その中で、女性では就業希望のない無業者(≒専業主婦)の減少が大きく、非正規雇用ばかりでなく正社員も増えている。

一方男性では正社員比率が低下して非正規雇用比率が上昇している。こうした変化を学歴段階別にみていくと、卒業者に対して中退者の変化の幅の方が大きいようである。

この変化をより端的にとらえるために、先にみた学歴段階別の失業率を取り上げ、さらに、同様に学歴段階別の非正規比率を算出して、2時点間の比較を試みる。その際、「2012年調査」の対象が20～29歳であるのに対して、「2003年調査」の対象は21～35歳とより高い年齢層を含んでいることに留意が必要である。失業率にしろ非正規雇用率にしろ、年齢による違いは小さくないので、単純な比較ではこの年齢幅の違いの影響で、時代の変化がつかめない可能性がある。そこで、対象者の年齢を同一（25～29歳）にそろえた比較も必要である。ただし、「2003年調査」における大学・大学院中退女性のケースは少なく、検討できない部分もでてくると思われる。

まず失業率について「2003年調査」と比較する。図表1-14②に「2003年調査」から算出した学歴段階別の失業率を示した。まず、全年齢のデータを見ると、どの教育段階でも中退者の失業率は卒業者のそれに比べて相当に高く、このことは「2012年調査」とまったく変わらない。異なる点は、中段にある卒業者との比の値が、2003年では高校中退より大学・大学院中退のほうが大きくなっていることである。2012年とは逆の傾向で、かつては高い教育段階での中退の方が失業のリスクへの影響度が大きかったのだろうか。

これを年齢段階を25～29歳にそろえたデータで比較する。女性の大学・大学院中退は特にケースが少ないので除外して考えることにして、男性に注目すると、こちらは高い教育段階の中退者のほうが卒業者との差が小さくなっており、2012年と同じ傾向であった。10年ほど前も、現在と同じように、低い教育段階での中退の方がより大きく失業リスクを高める傾向があるといえよう。男性について、さらに、比の値に注目すれば、現在の方がさらに低い教育段階での中退のマイナスは拡大しているといえる。

次に非正規雇用への影響を見る。図表1-15は、雇用者に占める非正規雇用の比率を学歴段階別に見たものである。男女とも中退者は卒業者より非正規比率が高いことはすでにみたが、ここでは中段に示した、中退者の非正規比率と卒業者のそれとの比の値に注目したい。2012年の全年齢（20～29歳）をみると、1.7倍から2.7倍の幅で、男女とも高い教育段階ほど比の値は大きい。高い教育段階での中退のほうが、より非正規雇用になるリスク（＝卒業していれば得られた正社員の雇用機会を逸してしまうリスク）が高いということである。

図表 1-15 雇用者中に占める非正規雇用者の比率

①2012年調査

	全年齢(20~29歳)			25~29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
雇用者中の非正規比率*	中学卒	47.4	85.9	58.6	38.9	86.8	52.6
	高校卒	24.9	51.0	36.6	25.3	55.8	38.9
	専門・短大・高専卒	27.5	36.4	33.5	25.5	37.1	33.1
	大学・大学院卒	20.5	27.3	23.9	18.3	27.7	22.7
	高校中退	43.0	88.0	61.8	34.0	89.1	56.9
	専門・短大・高専中退	51.4	72.7	62.5	41.9	71.0	57.3
	大学・大学院中退	55.2	67.5	58.7	43.2	61.2	47.7
	計	27.6	41.9	35.1	24.9	42.4	33.8
	中退者/卒業生 : 高校	1.7	1.7	1.7	1.3	1.6	1.5
中退者/卒業生 : 専門・短大・高専	1.9	2.0	1.9	1.6	1.9	1.7	
中退者/卒業生 : 大学・大学院	2.7	2.5	2.5	2.4	2.2	2.1	
雇用者(N)	中学卒	156	64	220	95	38	133
	高校卒	3,052	2,503	5,555	1,576	1,277	2,853
	専門・短大・高専卒	1,540	3,215	4,755	960	1,775	2,735
	大学・大学院卒	2,168	2,140	4,308	1,605	1,455	3,060
	高校中退	335	241	576	194	138	332
	専門・短大・高専中退	222	242	464	117	131	248
	大学・大学院中退	317	126	443	199	67	266
	計	7,868	8,590	16,458	4,788	4,908	9,696

②2003年調査

	全年齢(21~35歳)			25~29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
雇用者中の非正規比率*	中学卒	26.8	87.8	42.4	39.5	-	53.2
	高校卒	15.9	53.5	32.4	16.1	50.6	31.1
	専門・短大・高専卒	15.1	38.9	30.9	17.9	35.1	29.2
	大学・大学院卒	12.2	34.1	20.2	16.2	33.1	23.1
	高校中退	30.6	77.1	44.0	26.7	75.0	39.8
	専門・短大・高専中退	27.7	69.6	49.1	19.3	67.3	42.2
	大学・大学院中退	34.2	66.7	41.1	40.4	-	44.9
	計	16.2	44.6	29.9	18.1	40.9	29.3
	中退者/卒業生 : 高校	1.9	1.4	1.4	1.7	1.5	1.3
中退者/卒業生 : 専門・短大・高専	1.8	1.8	1.6	1.1	1.9	1.4	
中退者/卒業生 : 大学・大学院	2.8	2.0	2.0	2.5	-	1.9	
雇用者(N)	中学卒	142	49	191	43	19	62
	高校卒	2,505	1,960	4,465	796	613	1,409
	専門・短大・高専卒	1,404	2,760	4,164	521	993	1,514
	大学・大学院卒	2,034	1,164	3,198	746	510	1,256
	高校中退	268	109	377	86	32	118
	専門・短大・高専中退	130	135	265	57	52	109
	大学・大学院中退	155	42	197	57	12	69
	計	6,682	6,252	12,934	2,317	2,240	4,557

注：非正規雇用は、アルバイト・パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他。雇用者はこれに正社員を加えたものである。

2003年からの変化の検討は、非正規雇用率は年齢段階でかなり異なるので、25~29歳層と年齢をそろえたデータのほうに注目したほうがいい。この10年ほどの変化として、全体として非正規比率が高まっていることは周知のとおりだが、本データにおいてもその上昇は確

認できる。失業率と同様、中段の比の値に注目すると、2012年調査も2003年調査も、ほぼ同じ傾向で大学・大学院卒の値が高い。高い学歴段階の中退ほど非正規雇用リスクが高いという傾向は変わらないということである。

次に、無業で就業を希望している場合および求職活動をしている場合、どの様な就業形態での仕事を希望しているのかをみる。図表1-16に示す通り、男性では正社員を希望する者が6～7割で非正規希望は1～2割、女性では正社員希望が2～3割で非正規希望が5割強であり、いずれも学歴段階が高いほうが正社員を希望する比率は高くなっている。卒業者と比べると中退者では、男性の場合は全般にやや正社員希望率が低く、女性の場合は明らかに中退者のほうが正社員希望率は低い。大学・大学院卒女性の正社員希望率は女性では特に高く、中退者との差が際立っている。

また、付表5①に示した就業者の就業形態の構成と比べると、希望する形態は全体として男性はより正社員希望に偏り、女性はアルバイト・パートに偏る傾向があるのだが、中退者に限れば、男性の正社員希望者はさらに多く、また女性でも現実以上に正社員希望に偏っていた。中退者の場合、正社員希望があってもなかなか叶えられず、求職を続けているのではないかと推察される。

図表1-16 就業希望の無業者（求職活動中を含む）の希望する就業形態（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	会社などの 役員・自営 業主	自家営業 手伝い、内 職	正規の職 員・従業員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男 性	中学卒	13.3	4.4	31.1	35.6	2.2	11.1	2.2	100.0	45
	高校卒	6.7	1.8	64.1	15.5	1.5	9.1	1.2	100.0	329
	専門・短大・高専卒	7.0	0.0	77.8	10.1	1.3	3.2	0.6	100.0	158
	大学・大学院卒	6.5	0.8	79.2	5.4	1.5	5.8	0.8	100.0	260
	高校中退	4.1	2.1	56.7	20.6	1.0	13.4	2.1	100.0	97
	専門・短大・高専中退	3.8	1.9	71.2	15.4	0.0	5.8	1.9	100.0	52
	大学・大学院中退	4.0	2.0	64.4	17.8	1.0	9.9	1.0	100.0	101
	合計	6.3	1.5	68.2	13.8	1.4	7.7	1.1	100.0	1,052
女 性	中学卒	1.6	14.1	12.5	62.5	3.1	3.1	3.1	100.0	64
	高校卒	1.1	5.0	37.7	50.2	1.7	2.9	1.3	100.0	522
	専門・短大・高専卒	2.5	3.6	47.3	41.8	1.6	2.7	0.5	100.0	366
	大学・大学院卒	1.6	3.7	60.8	25.9	5.3	2.6	0.0	100.0	189
	高校中退	1.7	14.5	23.1	54.7	2.6	1.7	1.7	100.0	117
	専門・短大・高専中退	0.0	8.0	32.0	53.3	2.7	4.0	0.0	100.0	75
	大学・大学院中退	0.0	2.9	32.4	55.9	2.9	2.9	2.9	100.0	34
	合計	1.5	5.8	40.6	45.9	2.4	2.8	1.0	100.0	1,381
男 女 計	中学卒	6.4	10.1	20.2	51.4	2.8	6.4	2.8	100.0	109
	高校卒	3.3	3.8	47.9	36.8	1.6	5.3	1.3	100.0	851
	専門・短大・高専卒	3.8	2.5	56.5	32.3	1.5	2.9	0.6	100.0	524
	大学・大学院卒	4.5	2.0	71.5	14.0	3.1	4.5	0.4	100.0	449
	高校中退	2.8	8.9	38.3	39.3	1.9	7.0	1.9	100.0	214
	専門・短大・高専中退	1.6	5.5	48.0	37.8	1.6	4.7	0.8	100.0	127
	大学・大学院中退	3.0	2.2	56.3	27.4	1.5	8.1	1.5	100.0	135
	合計	3.6	3.9	52.5	32.0	2.0	4.9	1.1	100.0	2,433

2. 従業職種・勤務先規模

次に有業者について、勤務先企業の規模および従業職種をみる。勤務先企業規模は（図表1-17）、中学卒を除いて全般に卒業生のほうが大きい。中退者の中でも、中退した教育段階が高いほうが企業規模は大きい傾向があり、大学・大学院中退では、男女とも1割以上が1,000人以上規模に勤務している。ただし、同規模で働いているといっても就業形態が異なる。図表1-18では、勤務先を企業規模で分けたうえで、そこで正社員である比率を中退者と卒業者に分けて示した。細分したため対象数が小さくなっており、結果の解釈は注意が必要だが、いずれの教育段階・企業規模においても、卒業者に比べて中退者の正社員比率は低く、とりわけ大企業・官公庁の場合の差が大きいことは指摘できよう。大企業でかつ正社員というケースは大変少なくなる。

図表1-17 勤務先企業の従業員規模（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	1～4人	5～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	官公庁	不詳	合計		
男性	中学卒	20.6	34.4	14.4	7.2	4.3	8.6	0.0	100.0	209	
	高校卒	7.4	19.6	16.6	15.4	11.4	14.6	0.9	14.1	3,859	
	専門・短大・高専卒	7.5	22.2	17.3	15.3	10.8	9.5	1.8	15.6	1,980	
	大学・大学院卒	4.0	12.1	14.2	14.1	14.7	21.7	6.1	13.1	2,669	
	高校中退	18.7	39.7	10.4	9.9	5.9	4.3	0.2	10.8	443	
	専門・短大・高専中退	8.2	35.1	17.9	9.7	6.7	9.3	2.6	10.4	268	
	大学・大学院中退	8.0	28.3	17.0	12.3	7.5	11.5	1.8	13.8	400	
	合計	7.4	20.1	15.9	14.3	11.4	14.5	2.5	13.8	100.0	9,931
女性	中学卒	10.7	44.0	13.3	6.7	4.0	13.3	0.0	8.0	75	
	高校卒	5.2	24.1	18.6	16.8	11.0	9.9	0.6	13.8	2,997	
	専門・短大・高専卒	6.5	27.7	16.0	12.7	12.8	9.4	1.8	13.0	3,835	
	大学・大学院卒	2.9	12.3	14.5	13.1	14.8	23.5	6.3	12.6	2,490	
	高校中退	9.7	45.2	11.5	9.3	3.6	9.3	0.4	11.1	279	
	専門・短大・高専中退	7.1	31.1	17.1	13.6	10.7	8.2	0.4	11.8	280	
	大学・大学院中退	7.7	26.1	12.7	17.6	9.2	13.4	2.1	11.3	142	
	合計	5.4	23.6	16.3	14.0	12.3	13.1	2.4	13.0	100.0	10,168
男女計	中学卒	18.0	37.0	14.1	7.0	4.2	9.9	0.0	9.9	100.0	284
	高校卒	6.4	21.6	17.5	16.0	11.2	12.5	0.7	14.0	100.0	6,856
	専門・短大・高専卒	6.9	25.8	16.5	13.6	12.1	9.5	1.8	13.9	100.0	5,815
	大学・大学院卒	3.4	12.2	14.4	13.6	14.8	22.6	6.2	12.9	100.0	5,159
	高校中退	15.2	41.8	10.8	9.7	5.0	6.2	0.3	10.9	100.0	722
	専門・短大・高専中退	7.7	33.0	17.5	11.7	8.8	8.8	1.5	11.1	100.0	548
	大学・大学院中退	7.9	27.7	15.9	13.7	7.9	12.0	1.8	13.1	100.0	542
	合計	6.4	21.9	16.1	14.1	11.9	13.8	2.5	13.4	100.0	20,099

図表 1-18 学歴勤務先規模別 正社員比率 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

教育段階	勤務先規模	男性				女性			
		卒業者		中退者		卒業者		中退者	
		正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)
高校段階	1~29人	52.0	1,044	45.9	259	35.2	877	7.8	153
	30~299人	72.9	1,237	48.9	90	53.7	1,059	24.1	58
	300~999人	76.7	438	50.0	26	53.2	331	10.0	10
	1000人以上,官公庁	75.1	595	65.0	20	48.3	315	3.7	27
	合計	59.4	3,859	43.1	443	40.9	2,997	10.4	279
専門・短大・高専段階	1~29人	52.4	588	42.2	116	56.7	1,315	21.5	107
	30~299人	72.4	645	45.9	74	63.1	1,102	33.7	86
	300~999人	75.6	213	55.6	18	71.4	490	30.0	30
	1000人以上,官公庁	65.3	225	37.5	32	50.1	431	8.3	24
	合計	56.4	1,980	40.3	268	53.3	3,835	23.6	280
大学・大学院段階	1~29人	44.9	428	33.8	145	54.1	377	29.2	48
	30~299人	74.2	756	47.0	117	68.3	688	37.2	43
	300~999人	80.2	393	40.0	30	80.2	369	30.8	13
	1000人以上,官公庁	83.0	742	41.5	53	74.2	743	18.2	22
	合計	64.6	2,669	35.5	400	62.5	2,490	28.9	142

注：規模不詳は掲載を省いた。

職種については(図表1-19)、女性中退者の場合は、その5~6割がサービス職か販売職に就いている。大学・大学院卒では約6割が事務職か専門技術職に就いているが中退者で同職種に就く者はその半分に満たない。男性の場合は、全般により広い分野の職種に就いているため、中退者と卒業者との差異は女性ほど明確ではないが、高等教育段階では、中退者の方がサービス職に、卒業者の方が専門技術職、高校段階では中退者は輸送用機械の運転などに、卒業者は生産工程職などにやや多い。

図表 1-19 従業職種 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

	専門的・技術的な仕事	事務の仕事	販売の仕事	サービスの仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転・建設・採掘	運搬・清掃・包装等	その他の仕事	不詳	合計(N)
中学卒	16.3	0.5	5.7	8.1	15.3	27.8	3.8	12.4	10.0	209
高校卒	18.2	1.6	6.1	12.8	24.9	10.6	3.1	9.7	13.0	3,859
専門・短大・高専卒	30.7	4.4	6.7	18.5	9.5	5.6	2.3	9.0	13.4	1,980
男性 大学・大学院卒	26.4	11.2	13.3	14.6	5.5	2.9	1.3	12.7	12.0	2,669
男性 高校中退	12.2	0.2	7.2	16.7	12.0	24.4	4.3	13.1	9.9	443
男性 専門・短大・高専中退	12.7	4.1	12.3	20.9	12.3	10.8	4.1	13.8	9.0	268
男性 大学・大学院中退	13.3	4.3	17.3	24.8	8.3	5.5	5.3	9.5	12.0	400
男性 合計	22.2	4.8	8.8	15.2	14.7	8.3	2.6	10.8	12.5	9,931
中学卒	6.7	5.3	20.0	40.0	8.0	0.0	6.7	9.3	4.0	75
高校卒	9.7	18.4	15.8	23.4	12.4	0.4	1.4	6.4	12.1	2,997
専門・短大・高専卒	38.1	16.2	8.7	17.0	2.6	0.2	0.4	5.1	11.7	3,835
女性 大学・大学院卒	27.4	31.0	9.5	12.7	1.2	0.4	0.0	7.2	10.6	2,490
女性 高校中退	5.7	4.7	16.5	40.5	9.3	1.4	2.9	8.6	10.4	279
女性 専門・短大・高専中退	11.4	12.5	19.6	30.0	6.4	0.7	1.4	8.6	9.3	280
女性 大学・大学院中退	9.9	16.2	16.9	36.6	4.9	0.0	2.8	5.6	7.0	142
女性 合計	24.7	19.9	11.7	19.3	5.5	0.4	0.8	6.3	11.3	10,168
男女計 中学卒	13.7	1.8	9.5	16.5	13.4	20.4	4.6	11.6	8.5	284
男女計 高校卒	14.5	8.9	10.3	17.4	19.4	6.1	2.3	8.3	12.6	6,856
男女計 専門・短大・高専卒	35.5	12.2	8.0	17.5	5.0	2.0	1.0	6.4	12.3	5,815
男女計 大学・大学院卒	26.9	20.8	11.5	13.7	3.4	1.7	0.7	10.1	11.3	5,159
男女計 高校中退	9.7	1.9	10.8	25.9	10.9	15.5	3.7	11.4	10.1	722
男女計 専門・短大・高専中退	12.0	8.4	16.1	25.5	9.3	5.7	2.7	11.1	9.1	548
男女計 大学・大学院中退	12.4	7.4	17.2	27.9	7.4	4.1	4.6	8.5	10.7	542
男女計 合計	23.5	12.5	10.3	17.3	10.1	4.3	1.7	8.5	11.9	20,099

3. 所得、労働時間、時間当たり収入

所得と労働時間についても調査から情報が得られる。ここではさらに、これを組み合わせ時間当たりの収入についても検討する。所得については、前年の所得がわかるがこれは勤労所得とその他所得の合算値である⁹。また、労働時間は現在のふだんの1週間の労働時間で残業を含む。時間当たり収入をこれから推計するが、所得が勤労所得のみではなく、また、所得と労働時間の計測時期が異なるので、参考値程度のものである。ただし、より正確を期するために、時間当たり収入は、前年から継続して同一の企業・就業形態である者だけについて推計した。

また、全年齢（20～29歳）の対象者についての推計のほか、男性については、2つの年齢段階に分けた推計も行い、「2003年調査」の同一年齢段階の者との比較を行った。卒業者と中退者の間の差が拡大したのか縮小したのかを検討するためである。（女性については、比較対象とする「2003年調査」での大学・大学院中退者数が特に少なかったため、年齢段階をそろえての比較は断念した。）

その結果が図表1-20である。まず男性の全年齢（20～29歳）をみると、前年の平均年収は、高校中退者は同卒業者より約28万円低く、専門・短大・高専中退は同卒業者より約47万、大学中退者は同卒業者より約90万円低い。労働時間は高校卒と中退はほぼ同じ、他はやや中退者の方が短い。これらから時間当たり収入を推計し、卒業者に対する中退者の比を取ったのが最右欄の数字である。大学・大学院中退者の時間当たり収入は同卒業者のその74%にとどまるということで、高い学歴段階で退学するほどその収入への影響は大きいといえる。

次に年齢段階別をみる。年齢段階を分けることで、大学・大学院卒は20歳代前半には少ないというバランスの悪いサンプル構成の影響を軽減できる。最右欄の卒業者に対する中退者の時間当たり収入の比に注目すると、2つに分けてもその比の値はそれほど変わらず、大学・大学院中退の時間当たり収入は卒業者の76～77%となっている。

さらにこれを、最下段の「2003年調査」結果と比べると、当時の大学・大学院卒に対する同中退者の時間当たり収入の比は69であり、また、高卒に対する同中退者の場合は82であった。この間、収入についての格差は少し縮まっている可能性がある。ただし、専門・短大・高専ではやや開いており、全体に差が縮小しているわけではない。

次に女性についてみよう。前年の平均年収は、高校中退者は同卒業者より約40万円低く、専門・短大・高専中退は同卒業者より約62万、大学中退者は同卒業者より約84万円低い。労働時間はどの学歴でも中退者は短い。女性の中退者には非正規雇用が非常に多いことはすでにみたが、非正規の短時間雇用者が多いということであろう。時間当たり収入にしてみると、卒業者に対する比は、93、87、77と男性の場合とあまり変わらない。

⁹ 2003年調査は勤労所得が分離されているので、勤労所得を用いている。

「2003年調査」との比較は、女性については、年齢幅が違う層との比較になってしまうので詳しく見ても意味はないが、ただ、時間当たり収入の卒業者に対する比が、高校レベルでは大きな差（68）、大学レベルでは小さな差（94）と、2012年とは逆になっていることは気にかかる。すなわち、この10年程度の変化ととらえると、大学レベルでは小さかった差が大きくなり、高校レベルでは大きかった差が小さくなった。この間、女性の間で賃金の学歴間格差が拡大したことが指摘されているが、このことがこの変化の理由だと考えると腑に落ちる。つまり、大卒女性の賃金上昇は中退女性との差を広げ、一方、高卒女性の賃金は相対的に低下して高校中退の女性との差が縮まったという解釈である。詳しい分析に耐えるデータではないので、可能性の一つの提示にとどめる。

図表 1-20 所得、労働時間、時間あたり収入

① 男性

a. 2012年（20～29歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間あたり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間あたり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	198.6	135	43.2	198	902	105	
高校卒	244.1	2,988	43.7	3,702	1,170	2,623	
専門・短大・高専卒	234.2	1,485	44.5	1,900	1,129	1,234	
大学・大学院卒	273.9	2,061	44.8	2,594	1,340	1,744	
高校中退	216.1	332	43.6	421	1,051	267	90
専門・短大・高専中退	187.6	203	41.1	259	973	158	86
大学・大学院中退	183.9	302	40.1	389	995	233	74

b. 2003年（21～35歳）

	前年の年収(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間あたり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間あたり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	277.9	130	43.0	178	1,705	104	
高校卒	323.9	2,658	45.5	2,992	1,594	2,243	
専門・短大・高専卒	317.1	1,484	46.6	1,609	1,517	1,250	
大学・大学院卒	379.9	2,136	45.9	2,260	1,911	1,792	
高校中退	284.6	304	48.2	353	1,370	240	86
専門・短大・高専中退	274.2	137	44.1	165	1,504	115	99
大学・大学院中退	262.8	172	43.7	182	1,255	130	66

c. 年齢段階別（2012年、2003年）

		前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入	
		(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)		
2012年	20～24歳	中学卒	177.1	47	42.6	80	821	40	
		高校卒	227.7	1,447	42.5	1,778	1,120	1,253	
		専門・短大・高専卒	198.3	506	43.5	704	999	381	
		大学・大学院卒	189.0	440	43.0	665	1,078	284	
		高校中退	181.4	119	41.2	160	978	87	87
		専門・短大・高専中退	152.3	83	38.7	115	927	56	93
	大学・大学院中退	121.6	94	34.8	141	826	65	77	
	25～29歳	中学卒	209.9	88	43.7	118	977	65	
		高校卒	260.1	1,541	44.8	1,924	1,219	1,370	
		専門・短大・高専卒	253.5	979	45.2	1,196	1,186	853	
		大学・大学院卒	297.6	1,621	45.4	1,929	1,393	1,460	
		高校中退	235.2	213	45.1	261	1,085	180	89
専門・短大・高専中退		212.1	120	43.2	144	1,021	102	86	
大学・大学院中退	212.7	208	43.1	248	1,061	168	76		
2003年	25～29歳	中学卒	223.3	41	41.5	59	1,565	30	
		高校卒	291.8	813	45.6	933	1,353	685	
		専門・短大・高専卒	286.7	545	46.4	588	1,426	457	
		大学・大学院卒	312.7	773	45.3	811	1,597	637	
		高校中退	267.6	86	49.5	102	1,110	67	82
		専門・短大・高専中退	268.3	56	46.1	71	1,268	46	89
大学・大学院中退	237.6	71	44.5	74	1,097	53	69		

②女性

a. 2012年（20～29歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	136.9	57	33.6	67	782	46	
高校卒	166.2	2,453	37.6	2,837	906	2,029	
専門・短大・高専卒	201.7	3,213	41.9	3,683	1,020	2,625	
大学・大学院卒	235.7	2,203	42.3	2,441	1,209	1,776	
高校中退	126.0	220	30.8	263	841	167	93
専門・短大・高専中退	139.5	229	35.3	266	888	163	87
大学・大学院中退	151.8	123	36.6	137	935	88	77

b. 2003年（21～35歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	92.6	44	29.1	55	700	34	
高校卒	171.8	1,844	34.3	2,114	1,134	1,473	
専門・短大・高専卒	213.8	2,691	37.8	2,937	1,268	2,107	
大学・大学院卒	255.9	1,145	39.3	1,236	1,559	853	
高校中退	127.0	91	31.5	116	768	65	68
専門・短大・高専中退	147.7	131	34.1	147	1,084	86	85
大学・大学院中退	136.0	41	32.6	46	-	24	-

注：対象は現在有業の者のみで、上下5%を除く平均値。

* 2012年調査は前年所得は勤労所得（税込）とその他の所得の合計、2003年調査は勤労所得（税込）。前年の年収なしの者を除いて集計した。2003年については、家族と合算のデータしかない場合も除いた。

* 週労働時間はふだんの1週間の就業時間、残業を含む。

* 時間当たり収入は、(前年の所得/週就業時間×50週)。前年所得があり、かつ現職入職時期が前年以前の者のみを集計した。

第6節 家族と健康

この節では、家族形成の状況と健康についてとりあげる。本調査から得られるのは、家族については、現在の同居家族の構成、結婚の有無、子どもの有無、子どもの年齢である。健康に関しては、最近1年間の通院、及び入院経験の有無である。

まず、家族の状況を図表1-21に示す。男女とも3分の2は独身で親と同居している。独身で親元を離れている人が男性では2割、女性では1割強いる。結婚して新たな家族を形成している人は男性で15%、女性で18%と少ない。対象者は20～29歳であり、新たな家族の形成はこれからの人の方が多いということである。既婚の場合は、7割以上の人に子どもがいる。

中退者の特徴として、まず、高校中退者の場合は結婚して子どものいる率が卒業者より多く、とりわけ女性では子どもがいる人が多い。大学の場合も、卒業者よりは子どものいる率が高い。さらに配偶者なしで子どものいるケース（＝シングルマザーなど）については、高校中退女性では14%と特に多いが、どの学歴でも中退者の方がこの比率は高い。

これは、中途退学が家族形成に及ぼす影響というより、むしろ在学中の妊娠や出産が中途退学につながる要因となっているということなのだろうか。そこで、次の図表1-22では、第1子出生年が離学年より前であるか、同じ年である者の比率を見た。対象者全体に対して、男性は0.7%、女性では1.2%とごくわずかだが、中退者に限れば、女性の場合には3～4%と多くなる。在学中の妊娠や出産が中退の背後にある一要因であることは確かであろう。ただし、調査時点で子どもを持つ人のうちの離学年までに第1子を持った人の割合(表の左側)の方に注目すると、有子率が高い高校中退女性においてもこれが高いわけではなく、中退年以降に出産した人が9割近くを占めるということである。むしろ高校中退者女性が同卒業女性より若い年齢で家族形成を行うことが多いと理解したほうがいい。なお、大学・大学院中退者女性の場合、離学年までの出産が3割と比較的多い。高校中退女性より離学年齢が高いことから来る違いではないかと思われる。

図表 1-21 家族の状況 (2012 年調査)

単位：%、太字は実数

		独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計	
男性	中学卒	52.4	19.2	6.6	18.5	3.3	100.0	271
	高校卒	63.4	19.0	5.2	12.0	0.5	100.0	4,209
	専門・短大・高専卒	66.0	19.1	5.3	9.3	0.4	100.0	2,150
	大学・大学院卒	65.3	24.6	4.8	5.2	0.1	100.0	2,933
	高校中退	55.3	19.6	5.2	18.3	1.6	100.0	562
	専門・短大・高専中退	68.4	19.5	2.1	9.1	0.9	100.0	329
	大学・大学院中退	71.8	18.6	2.9	6.1	0.6	100.0	510
	計	64.3	20.5	4.9	9.8	0.5	100.0	11,094
女性	中学卒	49.4	14.6	4.9	22.6	8.5	100.0	164
	高校卒	60.3	12.0	4.4	20.0	3.3	100.0	3,732
	専門・短大・高専卒	69.6	13.9	3.6	11.8	1.1	100.0	4,332
	大学・大学院卒	75.3	14.6	4.1	5.7	0.2	100.0	2,738
	高校中退	40.0	10.5	4.4	30.9	14.2	100.0	457
	専門・短大・高専中退	58.4	12.4	3.4	19.5	6.3	100.0	380
	大学・大学院中退	68.1	14.3	5.5	9.9	2.2	100.0	182
	計	66.3	13.3	4.0	14.1	2.4	100.0	12,084
男女計	中学卒	51.3	17.5	6.0	20.0	5.3	100.0	435
	高校卒	61.9	15.7	4.8	15.8	1.8	100.0	7,941
	専門・短大・高専卒	68.4	15.6	4.1	11.0	0.9	100.0	6,482
	大学・大学院卒	70.1	19.8	4.5	5.5	0.1	100.0	5,671
	高校中退	48.5	15.5	4.8	23.9	7.3	100.0	1,019
	専門・短大・高専中退	63.0	15.7	2.8	14.7	3.8	100.0	709
	大学・大学院中退	70.8	17.5	3.6	7.1	1.0	100.0	692
	計	65.3	16.8	4.4	12.0	1.5	100.0	23,178

図表 1-22 第 1 子出生の時期 (2012 年調査)

単位：%、太字は実数

	離学年及びそれ以前に出生した子のいる割合				子どものいる人に占める同割合			
	男性 (N)		女性 (N)		男性 (N)		女性 (N)	
中学卒	0.7	271	0.6	164	4.8	42	2.8	36
高校卒	0.6	4,209	1.4	3,732	4.9	491	6.4	791
専門・短大・高専卒	0.8	2,150	1.0	4,332	9.6	187	8.2	511
大学・大学院卒	0.8	2,933	0.5	2,738	16.2	148	8.2	158
高校中退	0.5	562	3.9	457	3.6	83	11.3	159
専門・短大・高専中退	0.6	329	3.4	380	6.9	29	14.8	88
大学・大学院中退	1.2	510	3.3	182	18.8	32	27.3	22
合計	0.7	11,094	1.2	12,084	7.8	1,023	8.2	1,779

さて、過去 1 年間の通院・入院と中途退学との間にも、若干の関係性が認められた。次の図表 1-23 にみるとおり、中退者の方が通院経験がある人がやや多い。通院を始めた時期は分からないのだが、中途退学の背景の一つとして、病気やけがなどの健康阻害がある可能性が示唆される。このことは、中退後の就業への移行が円滑に進まない要因のひとつとして留意すべきであろう。

図表 1-23 過去1年間の通院・入院経験（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	通院のみあり	入院のみあり	通院及び入院あり	通院及び入院なし	不詳	合計	
男性	中学卒	5.5	0.7	1.1	85.2	7.4	271
	高校卒	4.6	0.3	0.2	90.9	4.0	4,209
	専門・短大・高専卒	5.9	0.3	0.2	90.2	3.5	2,150
	大学・大学院卒	5.3	0.2	0.1	91.9	2.5	2,933
	高校中退	6.6	0.9	0.2	83.5	8.9	562
	専門・短大・高専中退	8.8	0.0	0.0	86.3	4.9	329
	大学・大学院中退	10.2	0.0	0.2	86.1	3.5	510
合計	5.6	0.3	0.2	90.0	3.9	11,094	
女性	中学卒	7.3	0.0	0.0	79.3	13.4	164
	高校卒	7.7	0.2	0.5	87.9	3.7	3,732
	専門・短大・高専卒	7.2	0.2	0.2	89.4	3.0	4,332
	大学・大学院卒	8.9	0.1	0.1	88.9	2.0	2,738
	高校中退	9.4	0.4	0.0	84.5	5.7	457
	専門・短大・高専中退	12.6	0.3	0.3	82.6	4.2	380
	大学・大学院中退	12.6	0.0	0.0	83.0	4.4	182
合計	8.2	0.2	0.2	88.1	3.3	12,084	
男女計	中学卒	6.2	0.5	0.7	83.0	9.7	435
	高校卒	6.1	0.3	0.3	89.5	3.9	7,941
	専門・短大・高専卒	6.8	0.2	0.2	89.6	3.2	6,482
	大学・大学院卒	7.0	0.2	0.1	90.5	2.3	5,671
	高校中退	7.9	0.7	0.1	83.9	7.5	1,019
	専門・短大・高専中退	10.9	0.1	0.1	84.3	4.5	709
	大学・大学院中退	10.8	0.0	0.1	85.3	3.8	692
合計	7.0	0.2	0.2	89.0	3.6	23,178	

中途退学後の職業キャリアや就業状況についてデータを整理してきたが、そこには中途退学の影響ばかりでなく、他のさまざまなことが影響しているであろう。そのひとつが在学中の妊娠や出産、あるいは病気やけがなどで、中途退学の背後の要因となり、さらにその後の就業やキャリアを規定する要因となっている可能性が十分に考えられる。したがって、これらをコントロールしても、中退の影響があるかを検討することは重要である。しかし、離学年およびそれ以前に第1子がいたことが把握できた人はごくわずかで、この影響を検討することは難しい。

健康については、観察時期が前年1年間で在学中ではないのだが、中退の人の通院がやや多いことを考えると、長期的な疾患などを抱えている可能性もある。そこで、入院・通院の有無で分けたうえで、就業状況を見た。過去1年間に入院・通院の経験のある人は正社員就業者が少なく、無業である人が多い傾向があるのだが、この影響を除いた比較においても、中退者には、正社員が少なく非正規が多く、さらに無業者が多いという先に確認された傾向が見られた（図表1-24）。中退者の就業形態に、長期的な疾患が影響している可能性はあるが、就業状況の差異に関して、それで説明される部分は小さいということであろう。

図表 1-24 入院・通院経験の有無と現在の就業状況（2012年調査） 単位：％、太字は実数

		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望者	合計(N)		
男性	入院・通院有	中学卒	-	-	-	-	-	100.0	20	
		高校卒	38.8	18.2	17.8	11.2	5.1	8.9	100.0	214
		専門・短大・高専卒	44.9	20.6	19.9	9.6	2.9	2.2	100.0	136
		大学・大学院卒	47.0	13.4	18.9	14.6	3.0	3.0	100.0	164
		高校中退	20.9	20.9	20.9	11.6	16.3	9.3	100.0	43
		高等教育中退	22.0	30.5	17.1	13.4	12.2	4.9	100.0	82
		計	37.2	19.6	19.2	11.7	6.1	6.2	100.0	677
	入院・通院なし	中学卒	31.6	20.3	26.4	9.5	6.1	6.1	100.0	231
		高校卒	55.7	16.3	20.9	4.1	1.9	1.1	100.0	3,825
		専門・短大・高専卒	52.5	18.8	21.1	5.5	1.3	0.7	100.0	1,939
		大学・大学院卒	59.4	13.4	18.9	6.2	1.6	0.5	100.0	2,695
		高校中退	35.4	25.2	19.2	11.5	5.3	3.4	100.0	469
		専門・短大・高専中退	33.1	35.6	15.5	9.5	4.2	2.1	100.0	284
		大学・大学院中退	28.7	32.8	17.1	11.2	8.2	2.1	100.0	439
計	52.6	17.8	20.2	5.9	2.3	1.2	100.0	9,986		
女性	入院・通院有	中学卒	-	-	-	-	-	100.0	12	
		高校卒	22.0	33.2	12.5	11.8	8.6	11.8	100.0	313
		専門・短大・高専卒	40.2	28.4	14.9	7.3	7.0	2.1	100.0	328
		大学・大学院卒	48.2	21.7	14.9	6.4	5.6	3.2	100.0	249
		高校中退	4.4	35.6	4.4	15.6	20.0	20.0	100.0	45
		高等教育中退	13.7	37.0	11.0	17.8	11.0	9.6	100.0	73
		計	32.0	28.5	13.5	9.5	8.3	8.2	100.0	1,041
	入院・通院なし	中学卒	6.2	33.8	7.7	17.7	20.8	13.8	100.0	130
		高校卒	34.2	33.1	14.2	6.3	6.2	6.0	100.0	3,280
		専門・短大・高専卒	47.9	25.1	16.0	4.5	3.2	3.3	100.0	3,872
		大学・大学院卒	57.7	18.8	14.9	3.9	2.3	2.3	100.0	2,435
		高校中退	6.0	47.9	9.1	13.2	11.7	12.2	100.0	386
		専門・短大・高専中退	18.5	47.1	9.9	8.9	10.2	5.4	100.0	314
		大学・大学院中退	23.2	47.7	9.9	6.0	9.3	4.0	100.0	151
計	42.5	28.1	14.6	5.6	4.8	4.4	100.0	10,641		

注：入院・通院有の場合の「大学・大学院中退」「専門・短大・高専中退」は数が少ないことから「高等教育中退」にまとめた。

第7節 中退の長期的な影響

この節では、中途退学の長期的な影響を検討するために、「履歴データ」を用いる。「履歴データ」は2002年に20～34歳であった対象者の2012年までの調査結果を接続したものである。2012年の調査時点では30～44歳になっており、中途退学の時期（10代後半から20歳代はじめ）からすると、最長では30年近くの時間が経過している。

この「履歴データ」で本分析の対象とし得るケースは10,092である。うち中退学歴の人は568人（5.6%）であり、その内訳は大学院中退19人、大学中退134人、専門学校中退141人、短大・高専中退26人、高校中退244人である。2003年の第2回調査時点と比べると、調査全体のサンプルサイズは半分程度まで小さくなっており、調査への回答を得られなくなったケース（＝脱落ケース）はかなり多い。中退者の場合はさらに脱落の比率は高く、把握されたケース数は2003年時点の4割程度になっている。なかでも男女の高校中退者、男性の専門学校中退者、女性の短大・高専中退者の脱落は多く、継続しているケースは3割前後と

少ない。データの偏りが起こっているということで、結果の解釈は十分慎重であるべきであろう。

また、この調査では、2003年の第2回調査で学歴を把握した後、毎年の調査で1年間の学歴の変化を尋ねている。そこから現在中退学歴である568人のうち、13人は2003年時点では在学中であったことがわかる。一方2003年時点では中退学歴であった者が、その後何らかの学校に通って卒業したケースもある。これは全部で10ケース（男性6人、女性4人）あったが、履歴データで把握できる2003年時点の中途退学者（563人）の1.8%に過ぎない。中途退学後に学び直して新たな学歴を得ることは、実際にはあまりないということである。

この対象者を年齢段階で分けたものが次の図表1-26である。年齢が高いほど大学・大学院中退も専門・短大・高専中退も少なく、年齢段階を分けた検討は難しい。そこで、年齢段階を分けた議論をする際には、この2つはまとめて高等教育中退とする。

図表1-25 対象者の学歴構成（30～44歳：履歴データ） 単位：％、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	92	2.0	51	0.9	143	1.4
高校卒	1,640	35.9	1,768	32.0	3,408	33.8
卒業 専門学校卒	773	16.9	1,064	19.3	1,837	18.2
短大・高専卒	143	3.1	1,270	23.0	1,413	14.0
大学卒	1,318	28.9	1,025	18.5	2,343	23.2
大学院卒	196	4.3	64	1.2	260	2.6
他・不明の学校卒	57	1.2	63	1.1	120	1.2

高校中退	157	3.4	87	1.6	244	2.4
専門学校中退	61	1.3	80	1.4	141	1.4
中退 短大・高専中退	9	0.2	17	0.3	26	0.3
大学中退	104	2.3	30	0.5	134	1.3
者 大学院中退	15	0.3	4	0.1	19	0.2
他・不明の学校中退	1	0.0	3	0.1	4	0.0
中退者計(再掲)	347	7.6	221	4.0	568	5.6

合計	4,566	100.0	5,526	100.0	10,092	100.0

図表1-26 対象者の年齢段階別学歴構成（履歴データ） 単位：％、太字は実数

	男性			女性			男女計		
	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
中学卒	1.9	1.5	2.5	0.8	0.7	1.1	1.3	1.1	1.8
高校卒	31.2	36.2	38.2	22.5	31.6	38.3	26.2	33.7	38.2
専門・短大・高専卒	20.2	22.3	18.3	42.1	42.7	41.9	32.8	33.4	31.0
大学・大学院卒	36.8	30.9	33.0	28.7	20.0	13.8	32.1	25.0	22.7

高校中退	3.0	3.5	3.6	1.5	1.7	1.6	2.1	2.5	2.5
専門・短大・高専中退	2.0	1.7	1.2	2.4	1.5	1.6	2.2	1.6	1.4
大学・大学院中退	3.2	2.8	2.1	0.7	0.8	0.4	1.8	1.7	1.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1,069	1,510	1,987	1,442	1,786	2,298	2,511	3,296	4,285

注：大学院中退は大学中退に、短大・高専中退は専門学校中退と合わせて表示した。卒業の場合もこれに合わせてくつした。また、「他・不明の学校卒」「他・不明の学校中退」については掲載を省く。この学歴の扱いは特段の断りのない限り、この節の図表すべてに共通する。

まず、中途退学が30～44歳時の就業・無業の状況にどのように影響しているかを見る。図表1-27に全体の状況を示したが、男性の無業ははかなり低い水準となっており、中退者と卒業者との違いも大きくない。女性も無業者のうち就業希望者については中退者の方が多い傾向がみられるが、求職者については違いは大きくはない。雇用形態については、男性では中退者の正社員比率が低い傾向が指摘できる。

図表1-27 現在の就業・無業の状況（履歴データ）

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計	
男性								
中学卒	31.5	13.0	34.8	6.5	6.5	7.6	100.0	92
高校卒	52.7	7.7	33.4	3.5	1.5	1.2	100.0	1,640
専門・短大・高専卒	56.4	6.8	31.2	3.1	1.2	1.3	100.0	916
大学・大学院卒	64.8	7.3	24.1	2.8	0.7	0.3	100.0	1,514
高校中退	47.1	8.3	35.0	5.1	1.9	2.5	100.0	157
専門・短大・高専中退	47.1	21.4	22.9	1.4	5.7	1.4	100.0	70
大学・大学院中退	39.5	15.1	32.8	5.0	3.4	4.2	100.0	119
合計	56.4	7.9	29.7	3.4	1.4	1.2	100.0	4,566
女性								
中学卒	9.8	37.3	23.5	5.9	11.8	11.8	100.0	51
高校卒	18.8	37.2	17.6	6.6	8.0	11.8	100.0	1,768
専門・短大・高専卒	26.4	30.5	17.3	6.2	7.6	12.0	100.0	2,334
大学・大学院卒	32.6	22.5	16.3	4.2	9.4	15.0	100.0	1,089
高校中退	8.0	36.8	18.4	8.0	13.8	14.9	100.0	87
専門・短大・高専中退	18.6	30.9	14.4	7.2	13.4	15.5	100.0	97
大学・大学院中退	32.4	32.4	8.8	5.9	8.8	11.8	100.0	34
合計	24.7	31.1	17.2	6.0	8.3	12.6	100.0	5,526
男女計								
中学卒	23.8	21.7	30.8	6.3	8.4	9.1	100.0	143
高校卒	35.1	23.0	25.2	5.1	4.9	6.7	100.0	3,408
専門・短大・高専卒	34.9	23.8	21.2	5.3	5.8	9.0	100.0	3,250
大学・大学院卒	51.3	13.6	20.9	3.4	4.3	6.5	100.0	2,603
高校中退	33.2	18.4	29.1	6.1	6.1	7.0	100.0	244
専門・短大・高専中退	30.5	26.9	18.0	4.8	10.2	9.6	100.0	167
大学・大学院中退	37.9	19.0	27.5	5.2	4.6	5.9	100.0	153
合計	39.0	20.6	22.9	4.8	5.2	7.5	100.0	10,092

このデータについても、無業の求職者を失業者として、失業率の推計を試みた。図表1-28に見るとおり、男性については3.4%と「2012年調査」や「2003年調査」より低い値となった。女性についても同じ対象者の10年ほど前に当たる「2003年調査」結果からすると低くなっている。中段の卒業者に対しての比を見ると、女性の大学・大学院中退は対象者がごく少ないので除外したが、全体としては2003年調査時より小さい値となっている。中退者に高かった失業のリスクは、時間の経過とともに低下していると思われるのだろうか。

そこで図表1-28②では、対象者の年齢段階を分けた時の結果を示した。女性の中退者は数が少ないので、分けて議論するには無理がある。中段の卒業者に対する比について、まず男女計の数値を見ると、40歳代前半では1倍、1.1倍と中退者と卒業者の間での失業率の差はほとんどないという結果が見える。男性の高校レベルでも年齢段階が高まるとリスクが低下している傾向が読み取れる。高等教育レベルでの数値の変化は方向が定まらないものの、

高校中退者において、特に中退によって失業リスクが高まる傾向が見られてことを考えると、全体としては、年齢の上昇（離学からの期間の経過）とともに失業に陥りやすいというリスクは低下している推測される。

図表 1-28 失業率の卒業者と中退者の比較（履歴データ）

①全年齢（30～44歳）

		全年齢(30～44歳)		
		男性	女性	男女計
失業率*	中学卒	7.6	7.7	7.6
	高校卒	3.6	8.3	5.8
	専門・短大・高専卒	3.1	7.7	6.2
	大学・大学院卒	2.9	5.6	3.8
	高校中退	5.3	11.3	7.1
	専門・短大・高専中退	1.5	10.1	6.0
	大学・大学院中退	5.5	-	5.8
	計	3.4	7.6	5.5
中退者/卒業者：高校		1.5	1.4	1.2
中退者/卒業者：専門・短大・高専		0.5	1.3	1.0
中退者/卒業者：大学・大学院		1.9	-	1.5
「就業者+無業求職者」(N)	中学卒	79	39	118
	高校卒	1,596	1,418	3,014
	専門・短大・高専卒	893	1,877	2,770
	大学・大学院卒	1,499	824	2,323
	高校中退	150	62	212
	専門・短大・高専中退	65	69	134
	大学・大学院中退	110	27	137
	計	4,445	4,368	8,813

②年齢段階別

		男性			女性			男女計		
		30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
失業率*	高校卒	5.0	3.4	3.1	7.4	9.9	7.5	6.1	6.3	5.3
	高等教育卒	4.3	2.5	2.5	5.8	8.7	6.7	5.2	5.7	4.7
	高校中退	12.5	4.1	2.9	-	-	-	8.2	9.2	5.1
	高等教育中退	4.3	4.7	3.1	9.4	11.1	8.1	6.3	6.6	5.0
	計	4.8	3.2	2.9	6.0	9.2	8.1	5.4	6.1	5.1
中退者/卒業者：高校		2.5	1.2	0.9	-	-	-	1.3	1.5	1.0
中退者/卒業者：高等教育		1.0	1.8	1.3	1.6	-	1.2	1.2	1.1	1.1
「就業者+無業求職者」(N)	高校卒	318	534	744	242	445	731	560	979	1,475
	高等教育卒	599	788	1,005	779	867	1,055	1,378	1,655	2,060
	高校中退	32	49	69	17	16	29	49	65	98
	高等教育中退	47	64	64	32	27	37	79	91	101
	計	1,027	1,470	1,948	1,094	1,378	1,896	2,121	2,848	3,844

注：*失業率は（無業求職者）／（就業者+無業求職者）×100 とした。

表の中段は、対応する教育段階ごとに、中退者の失業率を卒業者の失業率で除して求めた比。

次に非正規雇用率についてみる。図表 1-29 に見るとおり、雇用者に占める非正規雇用者の比率は、全体としては、男性では低下し女性では上昇するという、一般的な年齢別の動向を示している。卒業者と中退者との違いを見るための、中段の比の値を見ると、女性は高校レベルも専門・短大・高専レベルも 1.2 倍となっており、男性の高校レベルも同じ水準である。これに対して男性の高等教育レベルでは 3 倍近い高い数値となっている。女性および低

学歴の男性では、卒業者と中退者の非正規比率の差は小さいが、男性の高等教育レベルでは、中退したことがこの段階でも非正規比率の高さに繋がっている。

年齢段階を分けた②の表を見ると、高等教育卒業の男性の非正規比率は年齢が高いほど低くなっているが、中退者の場合は低下傾向はあるものの高い水準にとどまっている。高等教育段階での中退は、男性については長く雇用形態に影響しているといえる。

ただし、男女計にすると、中退の影響はほとんど見えなくなっている。女性の非正規雇用率が非常に高く、また女性の間では中退が雇用形態に及ぼす影響が小さいことから、全体としては、30代後半から40歳代にかけて、中退が雇用形態に及ぼす影響はほとんど確認できなくなっている。

図表1-29 雇用者中に占める非正規雇用者の比率（履歴データ）

①全年齢（30～44歳）

		全年齢(30～44歳)		
		男性	女性	男女計
雇用者中の非正規比率*	中学卒	29.3	-	47.7
	高校卒	12.8	66.5	39.6
	専門・短大・高専卒	10.7	53.6	40.6
	大学・大学院卒	10.1	40.8	21.0
	高校中退	14.9	82.1	35.7
	専門・短大・高専中退	31.3	62.5	46.9
	大学・大学院中退	27.7	-	33.3
	計	12.3	55.8	34.6
中退者/卒業者：高校		1.2	1.2	0.9
中退者/卒業者：専門・短大・高専		2.9	1.2	1.2
中退者/卒業者：大学・大学院		2.7	-	1.6
雇用者(N)	中学卒	42	25	67
	高校卒	1,006	1,006	2,012
	専門・短大・高専卒	583	1,353	1,936
	大学・大学院卒	1,105	623	1,728
	高校中退	89	40	129
	専門・短大・高専中退	48	48	96
	大学・大学院中退	68	22	90
	計	2,974	3,153	6,127

②年齢段階別

	男性			女性			男女計			
	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	
雇用者中の非正規比率*	18.0	16.0	10.7	55.6	65.5	65.5	35.2	39.8	43.0	
高校卒	15.5	12.7	7.4	43.2	49.2	49.2	31.3	32.2	33.9	
高校中退	-	16.1	16.3	-	-	-	-	25.6	38.1	
高等教育中退	45.5	22.7	28.2	-	-	-	53.4	33.3	38.5	
計	17.8	15.0	9.8	47.4	55.1	63.6	33.6	35.0	37.5	
中退者/卒業者：高校		-	1.0	1.5	-	-	-	0.6	0.9	
中退者/卒業者：高等教育		2.9	1.8	3.8	-	-	1.7	1.0	1.1	
雇用者(N)	高校卒	200	349	457	169	322	515	369	671	972
	高等教育卒	445	545	698	588	624	764	1,033	1,169	1,462
	高校中退	15	31	43	12	8	20	27	39	63
	高等教育中退	33	44	39	25	19	26	58	63	65
	計	712	988	1,274	815	986	1,352	1,527	1,974	2,626

次に検討するのは、所得や労働時間である。前の節での検討等同様に、前年の所得、現在の週労働時間が把握されているので、これを整理し、その上でそこから時間当たりの収入を推計して、これについて卒業者と中退者との間の差を検討する。

まず前年所得であるが、卒業者と中退者の差は、男性の高校レベルで約 57 万円、専門・短大・高専レベルで約 75 万円、大学・大学院レベルでは約 121 万円と大きい。時間当たり収入の比を 2003 年当時と比べてみると、大学・大学院中退の比の値は大きくなっており(66→75) 差が縮小した傾向があるが、専門・短大・高専や高校レベルでは逆にこの値は小さくなっており、差は拡大しているように見える。

女性の場合、大学・大学院中退者は特に少ないのでこれを除くと、収入差は高校レベルで約 31 万円、専門・短大・高専レベルで約 43 万円と男性より小さい。時間当たり収入の比は 87 と 82 で、2003 年時の 68、85 と比較すると、高校レベルでは差が縮小し、専門・短大・高専では、あまり変わらない。卒業したか中退したかで、収入に違いがある傾向は、この年齢層までであることは確かだが、縮小しているのか否かは、性別や学歴で異なる動きが混在しているようである。

変化の方向を検討するために、図表 1-30③では、男性のみ年齢段階別の所得や時間等を整理してみた。女性は中退者数が少ないので、ここまで分解することはできない。右側の卒業生に対する比の値を見ると、大学・大学院レベルで 79、76、82、高校レベルで 79 と 80 となっており、あまり変わらないとみるべきだろう。収入については、40 歳代でも違いがあるといえそうである。

図表 1-30 所得、労働時間、時間当たりの収入（履歴データ）

①男性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	312.1	59	48.8	71	1,309	57	
高校卒	386.4	1,352	47.6	1,511	1,679	1,282	
専門・短大・高専卒	389.4	786	49.0	853	1,650	737	
大学・大学院卒	500.3	1,325	48.7	1,438	2,093	1,255	
高校中退	329.9	123	50.9	139	1,329	113	79
専門・短大・高専中退	314.7	59	47.6	64	1,387	52	84
大学・大学院中退	349.3	90	47.0	102	1,561	83	75

②女性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	-	27	28.7	36	-	24	
高校卒	169.4	1,174	33.6	1,263	1,022	1,032	
専門・短大・高専卒	218.7	1,573	35.3	1,687	1,257	1,387	
大学・大学院卒	293.8	735	37.6	743	1,568	638	
高校中退	138.4	48	32.6	55	890	42	87
専門・短大・高専中退	175.9	56	34.3	61	1,036	42	82
大学・大学院中退	-	25	-	24	-	21	-

③男性・年齢段階別

	前年の所得 (万円)				現在の週労働時間 (時間)				時間当たり収入 (円)				卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入	
	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退		
30～34歳	332.7	387.6	-	301.7	46.7	47.9	-	47.1	1,463	1,648	-	1,306	-	79
35～39歳	373.9	435.4	318.4	319.8	47.7	48.6	52.8	45.9	1,607	1,845	1,271	1,410	79	76
40～44歳	420.9	521.4	372.6	380.9	47.9	49.5	51.5	48.7	1,834	2,165	1,460	1,773	80	82
対 30～34歳	267	528	26	42	298	563	28	45	250	486	24	37		
象 35～39歳	453	689	38	53	508	759	47	60	432	648	34	49		
数 40～44歳	632	894	59	54	705	969	64	61	600	858	55	49		

注：対象は現在有業の者のみで、上下5%を除く平均値。

* 前年所得は勤労所得（税込）とその他の所得の合計。前年の所得なしの者を除いて集計した。

* 時間当たり収入は 前年の年収 / (現在の平均的な1週間の就業時間(残業含む) × 50週)。前年所得があり、かつ現職経験年数が1年以上の者のみを集計した。

* 「その他・不明の学校卒」「同中退」は掲載を省いた。

* ③の集計においては、「中学卒」の掲載も省き、また、「専門・短大・高専」と「大学・大学院」はあわせて「高等教育」として扱った。

次に、家族形成の状況を見る。図表1-31にみるように、まず、全体として有配偶で子どもがいる人が男性の5割、女性の6割を超える一方、独身で親元にいる人は男性の25%、女性の18%にまで低下し、家族形成が進んでいることがうかがえる。

図表1-31 家族形成の状況（履歴データ）

単位：%、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計	
	男性	40.2	10.9	5.4	41.3	2.2	
中学卒	24.3	10.7	9.0	54.1	2.0	100.0	1,640
高校卒	29.6	9.5	8.4	52.1	0.4	100.0	916
専門・短大・高専卒	20.2	12.9	12.9	53.3	0.6	100.0	1,514
大学・大学院卒	24.8	10.8	7.0	50.3	7.0	100.0	157
高校中退	35.7	14.3	5.7	41.4	2.9	100.0	70
専門・短大・高専中退	32.8	11.8	11.8	43.7	0.0	100.0	119
大学・大学院中退	24.9	11.2	10.0	52.5	1.4	100.0	4,566
合計	25.5	7.8	5.9	52.9	7.8	100.0	51
女性	15.6	3.5	7.8	66.8	6.3	100.0	1,768
中学卒	18.7	5.7	10.8	60.6	4.2	100.0	2,334
高校卒	20.5	8.3	14.2	54.0	3.0	100.0	1,089
専門・短大・高専卒	17.2	1.1	6.9	57.5	17.2	100.0	87
大学・大学院卒	27.8	9.3	11.3	43.3	8.2	100.0	97
高校中退	23.5	14.7	8.8	47.1	5.9	100.0	34
専門・短大・高専中退	18.4	5.7	10.4	60.6	5.0	100.0	5,526
大学・大学院中退	35.0	9.8	5.6	45.5	4.2	100.0	143
合計	19.8	6.9	8.4	60.7	4.2	100.0	3,408
男女計	21.8	6.8	10.1	58.2	3.1	100.0	3,250
中学卒	20.3	11.0	13.5	53.6	1.6	100.0	2,603
高校卒	22.1	7.4	7.0	52.9	10.7	100.0	244
専門・短大・高専卒	31.1	11.4	9.0	42.5	6.0	100.0	167
大学・大学院卒	30.7	12.4	11.1	44.4	1.3	100.0	153
高校中退	21.3	8.2	10.2	56.9	3.3	100.0	10,092
専門・短大・高専中退							
大学・大学院中退							
合計							

ここでの、中退と卒業の違いを見ると、大きな差ではないが、男女とも中退者の方が有配偶で子どものいる人が少なく、独身で親と同居している人が多い。この傾向は高等教育段階での中退者により明らかである。20歳代が対象の「2012年調査」では、高校中退者を中心に、中退者の方が家族形成が早い傾向が見られたが、30歳以上になると逆転している。中退者には家族形成の早いグループと遅いグループがいるということであろう。

次の図表1-32では、年齢段階で分けて家族形成の進展の程度を見たものである。男女とも、年齢段階が上がることに「有配偶・子ども有」の人が増えているが、男性中退者の場合、40歳代前半で急激にこの比率が高まっている。40歳といった節目が行動を変えさせることもあるのかもしれない。

図表1-32 年齢段階別家族の状況（履歴データ）

①男性

単位：%、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計(N)		
30～34歳	高校卒	38.9	13.8	9.9	36.8	0.6	100.0	334
	専門・短大・高専卒	44.9	13.4	8.3	33.3	0.0	100.0	216
	大学・大学院卒	29.5	20.4	16.0	34.1	0.0	100.0	393
	高校中退	34.4	15.6	3.1	37.5	9.4	100.0	32
	高等教育中退	40.0	20.0	7.3	30.9	1.8	100.0	55
	合計	37.0	16.5	11.3	34.5	0.7	100.0	1,069
35～39歳	高校卒	24.1	10.6	10.2	53.6	1.5	100.0	547
	専門・短大・高専卒	31.2	8.0	10.1	50.7	0.0	100.0	337
	大学・大学院卒	20.0	14.6	12.9	52.1	0.4	100.0	466
	高校中退	26.4	7.5	11.3	45.3	9.4	100.0	53
	高等教育中退	43.5	13.0	8.7	33.3	1.4	100.0	69
	合計	25.8	11.1	10.8	51.2	1.1	100.0	1,510
40～44歳	高校卒	17.9	9.4	7.6	62.2	2.9	100.0	759
	専門・短大・高専卒	19.0	8.5	6.9	64.5	1.1	100.0	363
	大学・大学院卒	14.8	7.3	11.1	65.6	1.1	100.0	655
	高校中退	19.4	11.1	5.6	59.7	4.2	100.0	72
	高等教育中退	18.5	6.2	12.3	63.1	0.0	100.0	65
	合計	17.8	8.5	8.8	63.1	1.9	100.0	1,987

②女性

単位：％、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計(N)		
30～34歳	高校卒	32.3	7.1	10.5	47.1	3.1	100.0	325
	専門・短大・高専卒	29.7	8.1	15.7	44.5	2.1	100.0	607
	大学・大学院卒	28.5	10.9	19.3	39.9	1.4	100.0	414
	高校中退	-	-	-	-	-	100.0	21
	高等教育中退	28.9	11.1	22.2	33.3	4.4	100.0	45
	合計	30.1	8.7	15.4	43.5	2.3	100.0	1,442
35～39歳	高校卒	15.8	4.6	8.2	66.7	4.8	100.0	564
	専門・短大・高専卒	19.9	6.7	9.4	59.9	4.1	100.0	763
	大学・大学院卒	20.7	7.6	10.6	58.5	2.5	100.0	357
	高校中退	26.7	0.0	6.7	53.3	13.3	100.0	30
	高等教育中退	27.5	12.5	5.0	42.5	12.5	100.0	40
	合計	19.1	6.3	9.2	61.1	4.4	100.0	1,786
40～44歳	高校卒	9.3	1.4	6.6	74.2	8.5	100.0	879
	専門・短大・高専卒	10.8	3.5	8.8	71.4	5.5	100.0	964
	大学・大学院卒	9.7	5.7	11.6	67.3	5.7	100.0	318
	高校中退	5.6	2.8	11.1	55.6	25.0	100.0	36
	高等教育中退	23.9	8.7	4.3	56.5	6.5	100.0	46
	合計	10.5	3.3	8.3	70.8	7.1	100.0	2,298

第8節 求職活動経験とハローワーク等の利用

最後に、「2012年調査」から、過去1年間の求職活動についてみる。これは別途行っているハローワークを通じての中退経験のある人に対する調査について、その把握できる範囲の特徴について検討するためである。

元の設問は、図表1-33に示す4つの選択肢に、「職業能力を向上させるため公共の施設を利用した」「資格、免許等を取得するために学校や通信教育等で勉強した」「特に何もしていない」の3つを加えた計7つの選択肢を示し、多重回答を求める形である。ここでは、求職活動に当たる4つだけに注目する。

全体として、過去1年間に何らかの求職活動をした人（＝図表中の4つの設問のいずれかに○を付けた人）は全体の26.8%で、4人に1人にあたる。そして、その6割が「ハローワーク等公的機関で求職活動をした」としている¹⁰。

中退者の回答に注目すると、まず、中退者は卒業者より求職活動経験者割合が多い。先にみたとおり中退者には無業で求職中の方が卒業者より多いことに加えて、非正規雇用率も高く、新たな職を求める人が多いと思われる。中退者の中では、特に専門・短大・高専中退者で多く、男女とも4割の人が求職活動をしている。その活動の中でのハローワーク等の利用経験のある人は、やはり専門・短大・高専中退者で多く、7割近い。一方、大学・大学院中退では男性は6割近くがハローワーク等を利用しているが、女性は5割にとどまる。

¹⁰ 入職経路としてハローワーク及びハローワークインターネットサービスを挙げる人は、入職者の25%にかぎられる（厚生労働省（2012）「雇用動向調査」）が、本設問は、求職活動の一環としてハローワーク等の公的機関を利用したことがあるかを問うものであるため、より高い利用率となったと考えられる。

求職活動の一環としてハローワークを利用する中退者は、5割から7割に達していることから、ハローワークを通じた調査で就業支援を要する中退者の実態を測ることは可能だと思われる。

図表 1-33 過去1年間の求職活動の経験と内容（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	中学卒	高校卒	専門・短大・高専卒	大学・大学院卒	高校中退	専門・短大・高専中退	大学・大学院中退	合計	
男性	ハローワーク等公的機関で求職活動	65.6	70.4	69.4	49.8	61.5	68.1	59.8	62.6
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	3.1	5.2	10.7	16.7	1.9	6.7	8.0	9.9
	求人情報サイトに登録した	12.5	17.2	26.6	46.0	25.0	23.0	29.6	29.3
	その他の求職活動をした	46.9	36.0	36.7	38.6	47.4	33.3	41.7	38.1
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	64	822	591	861	156	135	199	2,850
求職活動経験者比率	23.6	19.5	27.5	29.4	27.8	41.0	39.0	25.7	
女性	ハローワーク等公的機関で求職活動	48.7	68.9	64.4	50.5	63.0	67.5	47.8	62.0
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	0.0	3.8	7.3	16.7	2.2	6.0	1.5	8.1
	求人情報サイトに登録した	25.6	23.0	29.7	48.2	29.0	27.8	26.9	31.9
	その他の求職活動をした	41.0	34.8	34.5	38.7	41.3	30.5	49.3	36.0
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	39	1004	1143	796	138	151	67	3,365
求職活動経験者比率	23.8	26.9	26.4	29.1	30.2	39.7	36.8	27.8	
男女計	ハローワーク等公的機関で求職活動	59.2	69.6	66.1	50.2	62.2	67.8	56.8	62.3
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	1.9	4.4	8.5	16.7	2.0	6.3	6.4	8.9
	求人情報サイトに登録した	17.5	20.4	28.7	47.1	26.9	25.5	28.9	30.7
	その他の求職活動をした	44.7	35.3	35.2	38.6	44.6	31.8	43.6	37.0
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	103	1826	1734	1657	294	286	266	6,215
求職活動経験者比率	23.7	23.0	26.8	29.2	28.9	40.3	38.4	26.8	

一方、求職活動をしている人が3～4割に限られるため、中退者全体の就業行動などより一般的な情報を把握するためには、ハローワーク経由の調査で得られる情報は偏っている。すなわち、ハローワーク利用者は中退者全体からすると、高校中退では18%、専門・短大・高専中退では27%、大学中退では22%と限られる。調査結果の分析にあたっては、こうした偏りに留意する必要があるだろう。

第9節 まとめ

本章の検討で明らかになった主な点は、以下のとおりである。

- ① 卒業や中退で学校を離れた（以降、離学と呼ぶ）20歳代の若者の10人に1人は学校中退者である。男性に限れば8人に1人と多い。中退者は増加傾向にあり、20歳代後半層にしばった数字では2003年の7.5%から2012年の10.5%に増えた。最も増加率が高いのは大学中退者である。
- ② 離学後、何らかの就業までの期間は、卒業者に比べて中退者では長い。中退者の場合、離学から3カ月以内に就業した者は3割に満たず、3か月以上かかった者の方が多い。3年以上の期間の空きがある者、あるいは現在も未就業の者が合わせて2～3割いる。2003年時の調査と比較すると、就業までにかかる期間は長くなる傾向にある。

- ③ 正社員としての就業までの期間はさらに長い。中退者で離学から3か月以内に正社員になった者は大学・大学院中退で1割、高校中退では数%にとどまる。中退者の6割前後がこれまで一度も正社員を経験していない。この比率は女性で特に高い。
- ④ 現在の就業状況を見ると、中退者は卒業者に比べて無業の者が多い。無業で、求職中ないし就業希望を持つ者が、中退者では男女とも全体の2割から2割5分程度を占める。無業で求職中の者を失業者として失業率を求めると、中退者の失業率は同じ教育段階の卒業者の2倍前後と高い。この比は高校中退の場合が最も大きく、高校段階での中退は他の教育段階での中退以上に失業のリスクを高めている。
- ⑤ 雇用形態に注目すると、中退者は非正規雇用が多い。雇用者に占める非正規雇用比率を同じ教育段階の卒業者と比べると、男女とも2倍前後になっている。この比は大学・大学院卒が最も大きく、大学・大学院段階での中退は非正規雇用になるリスクを他の教育段階での中退以上に高めている。
- ⑥ 無業で求職中か就業希望のある中退者では、男性の6～7割、女性の2～3割が正社員就職を希望している。この希望は、就業中の中退者の就業形態に比べると、男女とも、より正社員に偏っており、正社員希望があってもなかなか叶えられずに求職を続けている可能性が高い。
- ⑦ 前年の所得と現在の1週間の労働時間という限られた情報から、疑似的に労働時間1時間当たりの収入を求め、これを同じ教育段階を中退した者と卒業した者と比較すると、中退者の時間当たり収入は卒業者の7割から9割の水準にとどまった。男女とも高い教育段階で中退した者ほどこの値は低く、高い段階での中途退学ほど収入に与える影響は大きいことが示唆された。
- ⑧ 対象者が30歳から40歳代前半に達している「履歴データ」から、中退の長期的な影響を検討すると、30歳代後半から40歳代にかけて、同じ教育段階の卒業者との差異は、失業率についてはかなり改善された。非正規雇用率については、男性の大学・大学院段階での中退と卒業の差異は明らかであったものの、非正規雇用の多くを占める女性での差異が小さいために全体としては、差異は小さくなった。収入への影響は、この年齢層でも同じように残っていた。

以上、「21世紀成年者縦断調査」のデータ分析から得られた情報をまとめたが、最後に、今回の分析においては、中退の影響を過大評価している可能性があることを指摘しておきたい。それは、中途退学の背後に別の要因があり、そのことが中途退学を促す要因になるとともに、その後の就業にも影響を与えている可能性である。例えば、病気やけが、早い妊娠や出産、障害、貧困、家族内のトラブルなど、いろいろな要因が想定される。本分析の中でも、在学中の病気やけが、あるいは妊娠や出産などの可能性を指摘し、本データで得られる範囲ではその影響を検討した。しかし、情報が限られおり、十分な検討はできなかった。

また、大学等の中退率は大学の選抜性や学部・学科等によってもかなり異なることが指摘されている¹¹。こうした学校の情報は本データにはないため、これらの要因の影響もここでは考慮できなかった。

「21世紀成年者縦断調査」は貴重なパネル調査であり、この調査データなくしては今回の研究は不可能であった。今後ともこうしたパネル調査が蓄積され続けることを期待するとともに、学校中退に対する問題意識を組み込んだ長期的な調査研究が別途必要であることも付言しておきたい。

引用文献

- 文部科学省・中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会（2010）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について（第2次審議経過報告）」
- 文部科学省（2014a）「学生の中途退学や休学等の状況について」
- 文部科学省（2014b）「平成25年度生涯学習施策に関する調査研究：専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査報告書」

¹¹ 序章参照。

付表1 「2003年調査」における分析対象者の学歴構成（男女別）

単位：%、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	254	2.7	131	1.2	385	1.9
高校卒	3,567	38.4	3,596	34.2	7,163	36.2
専門学校卒	1,604	17.3	1,989	18.9	3,593	18.1
短大・高専卒	299	3.2	2,433	23.2	2,732	13.8
大学卒	2,381	25.6	1,696	16.1	4,077	20.6
大学院卒	204	2.2	61	0.6	265	1.3
他・不明の学校卒	67	0.7	52	0.5	119	0.6
高校中退	451	4.9	240	2.3	691	3.5
専門学校中退	191	2.1	171	1.6	362	1.8
短大・高専中退	20	0.2	64	0.6	84	0.4
大学中退	235	2.5	67	0.6	302	1.5
大学院中退	18	0.2	6	0.1	24	0.1
他・不明の学校中退	6	0.1	2	0.0	8	0.0
合計	9,297	100.0	10,508	100.0	19,805	100.0

付表2 「2003年調査」における離学から就業までの期間（男女別）

① 年齢計（21～34歳）

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～3ヶ月以内	3年超	3年以上後	期間不明	未就業・不明	合計		
男									
性									
	中学卒	3.5	29.9	10.2	10.2	41.3	4.7	100.0	254
	高校卒	8.1	60.4	7.7	2.4	19.7	1.8	100.0	3,567
	専門・短大・高専卒	10.0	64.8	6.3	2.0	15.7	1.3	100.0	1,903
	大学・大学院卒	7.7	69.1	8.8	1.4	10.9	2.2	100.0	2,585
	高校中退	11.3	23.5	23.7	4.9	33.3	3.3	100.0	451
	専門・短大・高専中退	15.2	29.4	20.9	3.3	28.0	3.3	100.0	211
	大学・大学院中退	20.6	30.0	22.5	2.0	16.2	8.7	100.0	253
	合計	9.0	59.5	9.3	2.4	17.7	2.2	100.0	9,297
女									
性									
	中学卒	2.3	30.5	9.9	9.2	41.2	6.9	100.0	131
	高校卒	6.7	67.3	5.5	1.9	17.2	1.4	100.0	3,596
	専門・短大・高専卒	8.6	69.7	8.0	2.1	10.4	1.0	100.0	4,422
	大学・大学院卒	6.8	70.1	8.3	1.3	10.6	2.8	100.0	1,757
	高校中退	13.3	17.5	23.8	5.4	34.2	5.8	100.0	240
	専門・短大・高専中退	22.6	21.3	26.8	2.6	25.1	1.7	100.0	235
	大学・大学院中退	20.5	23.3	30.1	2.7	11.0	12.3	100.0	73
	合計	8.2	65.7	8.2	2.1	14.0	1.8	100.0	10,508

② うち 25～29歳

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～3ヶ月以内	3年超	3年以上後	期間不明	未就業・不明	合計		
男									
性									
	中学卒	3.9	28.6	7.8	10.4	45.5	3.9	100.0	77
	高校卒	9.0	58.1	7.7	1.7	21.6	1.9	100.0	1,125
	専門・短大・高専卒	10.7	66.2	7.1	2.2	13.6	0.3	100.0	693
	大学・大学院卒	9.4	65.7	11.3	1.1	10.4	2.1	100.0	935
	高校中退	8.6	25.0	28.1	3.1	32.8	2.3	100.0	128
	専門・短大・高専中退	13.8	27.6	20.7	5.7	27.6	4.6	100.0	87
	大学・大学院中退	23.5	27.6	20.4	2.0	17.3	9.2	100.0	98
	合計	10.0	58.3	10.2	2.0	17.6	2.0	100.0	3,160
女									
性									
	中学卒	6.5	32.3	12.9	9.7	32.3	6.5	100.0	31
	高校卒	7.0	66.5	6.4	1.4	17.4	1.4	100.0	1,032
	専門・短大・高専卒	9.1	68.6	10.2	1.5	9.5	1.2	100.0	1,466
	大学・大学院卒	7.0	69.9	10.5	0.3	10.5	1.7	100.0	712
	高校中退	7.0	18.3	28.2	5.6	35.2	5.6	100.0	71
	専門・短大・高専中退	24.4	20.9	26.7	3.5	23.3	1.2	100.0	86
	大学・大学院中退	16.0	28.0	28.0	0.0	8.0	20.0	100.0	25
	合計	8.5	65.2	10.1	1.4	13.2	1.6	100.0	3,437

付表3 「2003年調査」における離学から正社員就業までの期間（男女別）

①年齢計（21～34歳）

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～			正社員 時期不 明	正社員 移行なし	就業形 態不明	未就業・ 不明	合計	
		3ヶ月以 内	3年以内	3年超						
中学卒	2.4	18.9	6.3	6.7	23.2	29.5	8.3	4.7	100.0	254
高校卒	5.4	51.3	4.4	1.5	13.5	14.1	8.0	1.8	100.0	3,567
専門・短大・高専卒	5.8	55.1	3.6	1.5	12.0	13.7	7.0	1.3	100.0	1,903
男性 大学・大学院卒	4.1	60.8	5.3	1.2	7.6	12.3	6.6	2.2	100.0	2,585
男性 高校中退	3.3	11.3	14.0	3.5	23.5	32.6	8.4	3.3	100.0	451
専門・短大・高専中退	1.9	13.3	12.8	1.9	28.9	30.8	7.1	3.3	100.0	211
大学・大学院中退	5.1	17.4	15.0	2.4	13.8	32.4	5.1	8.7	100.0	253
合計	4.9	49.9	5.5	1.7	12.6	15.8	7.3	2.2	100.0	9,297
中学卒	0.0	14.5	5.3	6.9	6.9	51.9	7.6	6.9	100.0	131
高校卒	4.4	59.2	3.8	1.4	9.9	16.9	3.0	1.4	100.0	3,596
専門・短大・高専卒	5.3	58.5	6.8	1.8	6.7	15.2	4.7	1.0	100.0	4,422
女性 大学・大学院卒	3.5	55.2	5.3	0.9	7.1	19.6	5.6	2.8	100.0	1,757
女性 高校中退	2.9	5.0	12.1	5.4	11.7	54.2	2.9	5.8	100.0	240
専門・短大・高専中退	8.5	10.6	17.0	3.8	11.5	41.3	5.5	1.7	100.0	235
大学・大学院中退	2.7	11.0	19.2	2.7	8.2	41.1	2.7	12.3	100.0	73
合計	4.7	54.9	5.9	1.7	8.1	18.7	4.3	1.8	100.0	10,508

②うち25～29歳

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～			正社員 時期不 明	正社員 移行なし	就業形 態不明	未就業・ 不明	合計	
		3ヶ月以 内	3年以内	3年超						
中学卒	3.9	18.2	3.9	6.5	22.1	33.8	7.8	3.9	100.0	77
高校卒	6.3	49.9	4.5	0.9	13.6	14.7	8.3	1.9	100.0	1,125
専門・短大・高専卒	5.9	55.4	3.6	1.4	12.6	13.9	6.9	0.3	100.0	693
男性 大学・大学院卒	5.3	55.7	6.0	0.7	8.1	15.8	6.1	2.1	100.0	935
男性 高校中退	4.7	12.5	14.8	1.6	26.6	31.3	6.3	2.3	100.0	128
専門・短大・高専中退	1.1	11.5	13.8	1.1	36.8	23.0	8.0	4.6	100.0	87
大学・大学院中退	5.1	13.3	8.2	2.0	15.3	39.8	7.1	9.2	100.0	98
男性計	5.6	48.2	5.5	1.2	13.2	17.1	7.2	2.0	100.0	3,160
中学卒	0.0	12.9	9.7	6.5	3.2	54.8	6.5	6.5	100.0	31
高校卒	4.7	56.8	4.3	0.8	10.9	18.8	2.5	1.4	100.0	1,032
専門・短大・高専卒	5.2	55.8	8.8	1.6	7.4	15.6	4.5	1.2	100.0	1,466
女性 大学・大学院卒	3.8	52.7	5.9	0.4	8.0	20.8	6.7	1.7	100.0	712
女性 高校中退	0.0	1.4	12.7	8.5	14.1	57.7	0.0	5.6	100.0	71
専門・短大・高専中退	8.1	10.5	16.3	3.5	14.0	41.9	4.7	1.2	100.0	86
大学・大学院中退	0.0	12.0	8.0	0.0	8.0	48.0	4.0	20.0	100.0	25
女性計	4.7	52.3	7.1	1.4	8.8	19.8	4.3	1.6	100.0	3,437

付表4 現在の就業・無業の状況 (25～29歳)

単位：%、太字は実数

		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	計		
2012年	男性	中学卒	35.4	17.7	25.0	9.1	6.7	6.1	100.0	164
		高校卒	54.4	16.5	21.4	3.9	2.1	1.6	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	53.3	17.3	22.4	4.8	1.4	0.8	100.0	1,342
		大学・大学院卒	61.0	11.9	19.2	5.8	1.4	0.6	100.0	2,151
		高校中退	37.5	18.5	24.9	10.3	5.9	2.9	100.0	341
		専門・短大・高専中退	38.0	26.8	17.3	8.4	5.0	4.5	100.0	179
		大学・大学院中退	36.3	26.7	19.9	7.7	7.4	1.9	100.0	311
		計	53.5	16.1	21.0	5.5	2.4	1.5	100.0	6,723
	女性	中学卒	5.6	37.1	9.0	12.4	19.1	16.9	100.0	89
		高校卒	28.6	35.0	12.8	7.1	8.1	8.4	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	45.0	25.5	14.9	4.9	5.0	4.7	100.0	2,481
		大学・大学院卒	55.2	19.0	14.9	4.2	3.4	3.3	100.0	1,906
		高校中退	5.5	44.4	9.1	12.4	14.2	14.5	100.0	275
		専門・短大・高専中退	17.1	41.9	10.4	11.7	10.4	8.6	100.0	222
大学・大学院中退		25.7	40.6	13.9	5.0	10.9	4.0	100.0	101	
計		39.8	28.0	13.9	6.0	6.3	6.0	100.0	7,101	
男女計	中学卒	24.9	24.5	19.4	10.3	11.1	9.9	100.0	253	
	高校卒	42.1	25.3	17.3	5.5	5.0	4.9	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	47.9	22.6	17.5	4.9	3.7	3.3	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	58.3	15.3	17.2	5.1	2.4	1.8	100.0	4,057	
	高校中退	23.2	30.0	17.9	11.2	9.6	8.1	100.0	616	
	専門・短大・高専中退	26.4	35.2	13.5	10.2	8.0	6.7	100.0	401	
	大学・大学院中退	33.7	30.1	18.4	7.0	8.3	2.4	100.0	412	
	計	46.5	22.2	17.4	5.7	4.4	3.8	100.0	13,824	
2003年	男性	中学卒	33.8	15.6	35.1	6.5	2.6	6.5	100.0	77
		高校卒	59.4	10.0	21.9	5.5	1.6	1.6	100.0	1,125
		専門・短大・高専卒	61.8	13.0	16.6	7.4	1.0	0.3	100.0	693
		大学・大学院卒	66.8	11.8	13.8	6.0	1.0	0.6	100.0	935
		高校中退	49.2	14.1	24.2	8.6	2.3	1.6	100.0	128
		専門・短大・高専中退	52.9	10.3	24.1	9.2	3.4	0.0	100.0	87
		大学・大学院中退	34.7	22.4	25.5	6.1	7.1	4.1	100.0	98
		計	60.0	11.9	18.9	6.3	1.6	1.2	100.0	3,160
	女性	中学卒	9.7	45.2	16.1	6.5	12.9	9.7	100.0	31
		高校卒	29.4	29.2	8.5	9.1	9.6	14.2	100.0	1,032
		専門・短大・高専卒	43.9	23.1	10.6	5.0	7.4	10.0	100.0	1,466
		大学・大学院卒	47.9	20.2	13.8	7.0	3.7	7.4	100.0	712
		高校中退	11.3	33.8	5.6	15.5	11.3	22.5	100.0	71
		専門・短大・高専中退	19.8	40.7	8.1	7.0	12.8	11.6	100.0	86
大学・大学院中退		16.0	32.0	12.0	28.0	8.0	4.0	100.0	25	
計		38.5	25.3	10.5	7.1	7.5	11.1	100.0	3,437	
男女計	中学卒	26.9	24.1	29.6	6.5	5.6	7.4	100.0	108	
	高校卒	45.0	19.2	15.5	7.2	5.4	7.6	100.0	2,157	
	専門・短大・高専卒	49.7	19.8	12.5	5.7	5.4	6.9	100.0	2,159	
	大学・大学院卒	58.7	15.4	13.8	6.4	2.1	3.6	100.0	1,647	
	高校中退	35.7	21.1	17.6	11.1	5.5	9.0	100.0	199	
	専門・短大・高専中退	36.4	25.4	16.2	8.1	8.1	5.8	100.0	173	
	大学・大学院中退	30.9	24.4	22.8	10.6	7.3	4.1	100.0	123	
	計	48.8	18.9	14.5	6.7	4.7	6.4	100.0	6,597	

付表5 就業者の現職就業形態

①2012年調査

単位：%、太字は実数

	役員・自 営業主	自家営業 の手伝 い、内職	正規の職 員・従業 員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男性	中学卒	12.0	3.8	39.2	20.6	8.1	6.7	9.6	100.0	209
	高校卒	5.1	3.1	59.4	11.3	6.6	1.7	12.7	100.0	3,859
	専門・短大・高専卒	4.3	3.7	56.4	11.9	8.6	0.9	14.2	100.0	1,980
	大学・大学院卒	4.6	2.0	64.6	9.3	5.5	1.8	12.2	100.0	2,669
	高校中退	8.4	6.1	43.1	23.9	7.7	0.9	9.9	100.0	443
	専門・短大・高専中退	4.5	3.0	40.3	27.2	14.6	0.7	9.7	100.0	268
	大学・大学院中退	4.3	4.8	35.5	33.0	9.3	1.5	11.8	100.0	400
合計	5.0	3.2	57.4	13.0	7.1	1.7	12.6	100.0	9,931	
女性	中学卒	5.3	2.7	12.0	61.3	10.7	1.3	6.7	100.0	75
	高校卒	2.4	2.3	40.9	33.0	8.4	1.2	11.8	100.0	2,997
	専門・短大・高専卒	2.8	1.7	53.3	16.9	12.0	1.6	11.6	100.0	3,835
	大学・大学院卒	2.6	0.7	62.5	9.2	11.8	2.5	10.8	100.0	2,490
	高校中退	2.2	2.2	10.4	66.7	8.2	1.1	9.3	100.0	279
	専門・短大・高専中退	1.4	4.3	23.6	50.7	12.1	0.0	7.9	100.0	280
	大学・大学院中退	2.8	2.8	28.9	45.1	14.1	0.7	5.6	100.0	142
合計	2.6	1.7	49.1	22.9	10.8	1.7	11.2	100.0	10,168	
男女計	中学卒	10.2	3.5	32.0	31.3	8.8	5.3	8.8	100.0	284
	高校卒	3.9	2.7	51.3	20.8	7.4	1.5	12.3	100.0	6,856
	専門・短大・高専卒	3.3	2.4	54.4	15.2	10.9	1.3	12.5	100.0	5,815
	大学・大学院卒	3.6	1.4	63.6	9.2	8.6	2.1	11.5	100.0	5,159
	高校中退	6.0	4.6	30.5	40.4	7.9	1.0	9.7	100.0	722
	専門・短大・高専中退	2.9	3.6	31.8	39.2	13.3	0.4	8.8	100.0	548
	大学・大学院中退	3.9	4.2	33.8	36.2	10.5	1.3	10.1	100.0	542
合計	3.8	2.4	53.2	18.0	9.0	1.7	11.9	100.0	20,099	

②2003年調査

単位：%、太字は実数

	会社など の役員・ 自営業主	自家営業 の手伝 い、内職	正規の職 員・従業 員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男性	中学卒	11.4	5.0	51.7	10.0	3.5	5.5	12.9	100.0	73
	高校卒	7.0	4.6	64.0	6.9	3.8	1.4	12.3	100.0	1,539
	専門・短大・高専卒	6.0	3.6	67.9	7.6	4.0	0.5	10.4	100.0	865
	大学・大学院卒	4.4	2.7	74.1	5.3	3.8	1.2	8.4	100.0	1,456
	高校中退	12.7	5.4	48.2	13.5	4.9	2.8	12.4	100.0	142
	専門・短大・高専中退	8.4	7.9	52.8	11.8	6.7	1.7	10.7	100.0	64
	大学・大学院中退	8.0	6.0	50.7	20.4	4.5	1.5	9.0	100.0	104
合計	6.5	4.0	66.1	7.4	4.0	1.4	10.7	100.0	4,292	
女性	中学卒	1.5	7.4	8.8	57.4	1.5	4.4	19.1	100.0	36
	高校卒	1.7	5.6	39.2	35.9	8.1	1.1	8.3	100.0	1,301
	専門・短大・高専卒	1.7	4.3	52.1	20.1	11.8	1.4	8.7	100.0	1,732
	大学・大学院卒	2.7	2.0	56.9	12.1	13.7	3.6	9.0	100.0	778
	高校中退	3.0	8.3	18.9	53.0	8.3	2.3	6.1	100.0	55
	専門・短大・高専中退	2.4	6.6	24.7	40.4	13.9	2.4	9.6	100.0	62
	大学・大学院中退	0.0	13.7	27.5	45.1	9.8	0.0	3.9	100.0	25
合計	1.9	4.5	47.1	25.3	10.9	1.7	8.7	100.0	4,035	
男女計	中学卒	8.9	5.6	40.9	21.9	3.0	5.2	14.5	100.0	269
	高校卒	4.8	5.0	53.8	18.9	5.6	1.3	10.7	100.0	5,614
	専門・短大・高専卒	3.2	4.0	57.7	15.7	9.0	1.1	9.3	100.0	4,990
	大学・大学院卒	3.8	2.4	67.9	7.7	7.4	2.1	8.6	100.0	3,757
	高校中退	10.2	6.2	40.7	23.6	5.8	2.7	10.8	100.0	518
	専門・短大・高専中退	5.5	7.3	39.2	25.6	10.2	2.0	10.2	100.0	344
	大学・大学院中退	6.3	7.5	46.0	25.4	5.6	1.2	7.9	100.0	252
合計	4.3	4.2	57.2	15.7	7.2	1.6	9.8	100.0	15,835	

③履歴データ

単位：%、太字は実数

	会社などの役員・自営業主	自営業の手伝い、内職	正規の職員・従業員	アルバイト・パート	派遣、契約、嘱託	その他	不詳	合計(N)	
男性	中学卒	13.7	2.7	39.7	9.6	6.8	1.4	100.0	73
	高校卒	6.8	3.8	56.2	3.8	4.4	0.9	100.0	1,539
	専門・短大・高専卒	9.1	3.5	59.8	3.8	3.4	0.5	100.0	865
	大学・大学院卒	5.6	1.4	67.4	3.1	4.5	1.0	100.0	1,456
	高校中退	15.5	2.1	52.1	4.9	4.2	1.4	100.0	142
	専門・短大・高専中退	6.3	6.3	51.6	12.5	10.9	0.0	100.0	64
	大学・大学院中退	6.7	5.8	45.2	5.8	11.5	2.9	100.0	104
	合計	7.3	2.9	60.0	3.8	4.5	0.9	100.0	4,292
女性	中学卒	5.6	5.6	13.9	47.2	5.6	2.8	100.0	36
	高校卒	1.6	3.2	25.5	42.8	7.8	1.2	100.0	1,301
	専門・短大・高専卒	2.4	4.2	35.6	30.4	10.7	1.4	100.0	1,732
	大学・大学院卒	3.5	2.4	45.6	18.6	12.9	3.0	100.0	778
	高校中退	1.8	3.6	12.7	43.6	14.5	1.8	100.0	55
	専門・短大・高専中退	0.0	4.8	29.0	35.5	12.9	0.0	100.0	62
	大学・大学院中退	4.0	0.0	44.0	20.0	24.0	0.0	100.0	25
	合計	2.3	3.5	33.8	32.4	10.3	1.7	100.0	4,035
男女計	中学卒	11.0	3.7	31.2	22.0	6.4	1.8	100.0	109
	高校卒	4.4	3.6	42.1	21.7	6.0	1.1	100.0	2,840
	専門・短大・高専卒	4.6	3.9	43.6	21.5	8.3	1.1	100.0	2,597
	大学・大学院卒	4.9	1.7	59.8	8.5	7.4	1.7	100.0	2,234
	高校中退	11.7	2.5	41.1	15.7	7.1	1.5	100.0	197
	専門・短大・高専中退	3.2	5.6	40.5	23.8	11.9	0.0	100.0	126
	大学・大学院中退	6.2	4.7	45.0	8.5	14.0	2.3	100.0	129
	合計	4.9	3.2	47.3	17.7	7.3	1.3	100.0	8,327

付表6 年齢段階別現在の就業・無業状況（履歴データ）

① 男性

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計		
30～34歳	高校卒	49.1	9.6	31.7	4.8	3.3	1.5	100.0	334
	専門・短大・高専卒	55.1	10.6	25.5	5.6	1.9	1.4	100.0	216
	大学・大学院卒	65.4	10.2	20.1	3.6	0.8	0.0	100.0	393
	高校中退	37.5	9.4	40.6	12.5	0.0	0.0	100.0	32
	高等教育中退	32.7	25.5	23.6	3.6	5.5	9.1	100.0	55
	計	54.7	10.8	26.0	4.6	2.3	1.6	100.0	1,069
35～39歳	高校卒	53.6	9.1	31.6	3.3	1.1	1.3	100.0	547
	専門・短大・高専卒	55.5	7.4	31.8	2.4	1.8	1.2	100.0	337
	大学・大学院卒	62.0	8.4	26.0	2.6	0.4	0.6	100.0	466
	高校中退	49.1	7.5	32.1	3.8	3.8	3.8	100.0	53
	高等教育中退	49.3	11.6	27.5	4.3	5.8	1.4	100.0	69
	計	55.6	8.8	29.8	3.1	1.5	1.2	100.0	1,510
40～44歳	高校卒	53.8	5.9	35.3	3.0	0.9	1.1	100.0	759
	専門・短大・高専卒	58.1	3.9	34.2	2.2	0.3	1.4	100.0	363
	大学・大学院卒	66.4	4.7	25.2	2.6	0.8	0.3	100.0	655
	高校中退	50.0	8.3	34.7	2.8	1.4	2.8	100.0	72
	高等教育中退	43.1	16.9	35.4	3.1	1.5	0.0	100.0	65
	計	57.8	5.6	31.7	2.9	0.9	1.1	100.0	1,987

② 女性

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計		
30～34歳	高校卒	23.1	27.7	18.2	5.5	11.7	13.8	100.0	325
	専門・短大・高専卒	29.3	26.0	17.0	4.6	7.6	15.5	100.0	607
	大学・大学院卒	37.7	18.8	14.7	4.1	9.2	15.5	100.0	414
	高校中退	4.8	52.4	23.8	0.0	9.5	9.5	100.0	21
	高等教育中退	20.0	35.6	8.9	6.7	17.8	11.1	100.0	45
	計	29.8	25.1	16.4	4.6	9.3	14.8	100.0	1,442
35～39歳	高校卒	19.7	36.2	15.2	7.8	7.6	13.5	100.0	564
	専門・短大・高専卒	26.7	29.1	15.5	8.1	8.3	12.3	100.0	763
	大学・大学院卒	31.7	21.0	16.8	3.6	10.4	16.5	100.0	357
	高校中退	10.0	16.7	13.3	13.3	16.7	30.0	100.0	30
	高等教育中退	20.0	27.5	12.5	7.5	15.0	17.5	100.0	40
	計	24.8	29.5	15.8	7.1	8.7	14.1	100.0	1,786
40～44歳	高校卒	16.6	41.4	18.9	6.3	6.9	9.9	100.0	879
	専門・短大・高専卒	24.3	34.4	19.0	5.7	7.2	9.4	100.0	964
	大学・大学院卒	27.0	28.9	17.9	5.0	8.5	12.6	100.0	318
	高校中退	8.3	44.4	19.4	8.3	13.9	5.6	100.0	36
	高等教育中退	26.1	30.4	17.4	6.5	4.3	15.2	100.0	46
	計	21.4	36.2	18.8	6.1	7.4	10.1	100.0	2,298

注：図表1-26の注に示した扱いに加えて、年齢段階別においては「中学卒」は対象数のごくわずかになるので、掲載を省く。

第2章 ハローワークに来所した中途退学者の実態① ：学校時代と中退後の生活を中心に

第1節 はじめに

本章では、「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」をもとに、ハローワークに来所した大学等を中途退学した者（以下、中退者）の実態について、特に1）中退した学校での生活と中退理由、2）中退後の生活状況と意識の側面に着目した分析をおこなう。そして、つづく第3章では、中退後の就職活動について検討していく。

本調査は、大学等中退者の学校生活や中退理由、中退後からこれまでの仕事・生活状況等を尋ねる項目を含んでおり、大学等中退者の実態を把握する上で貴重なデータである。もちろん対象がハローワーク来所者に限定されることなどから、ここでの結果を中退者全体に敷衍し論じることは難しいが、大学等中退者の特徴について、中退以前だけでなく、中退以後の状況も含め多角的に考察できることの利点は大きいと考える。

本章で使用するデータは、下記のとおりである。なお、本調査に関しては、序章でもその概要を説明している。

● 使用するデータ

調査名：「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」（以下、ハローワーク調査）

調査期間：2014年8月～11月

調査対象：全国のハローワークを利用する大学等中退者（回収数：1,107票）。なお、分析では、年齢が39歳以下の若年者に対象を限定し、無効票、および年齢が40歳以上であるケースは除いた。そのため、分析対象者数は、1,095名である。また、大学院中退者に関しては、分析には使用しているが、ケース数が少ないため、参考値としてのみ掲載することとした。

さらに、以下では、中退者と卒業者の比較のため、他の調査データの分析結果も一部利用している。それらの調査データについては、下記のとおりである。

- 1) 「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」（以下、2005年大学生調査）：2005年10月～11月に、全国の4年制大学（医歯学・看護学・宗教学の単科大学を除く）276校の4年生（医学部、歯学部、看護学部を除く）を対象に、JILPTが実施した。有効回答票数は、18,509票。この調査の概要については、労働政策研究・研修機構（2006）を参照。
- 2) 「第3回 若者のワークスタイル調査」（以下、ワークスタイル調査）：2011年2月～3

月に、東京都在住の20代男女を対象に、JILPTが実施した。有効回答票数は、2,058票。この調査の概要については、労働政策研究・研修機構（2012）を参照。

第2節 中退した学校での生活と中退理由

本節では、中退者の学校での生活状況、中退をした理由やその背景について検討する。

1. 分析対象者の基本情報、および中退した学校・専攻・学年

はじめに、分析対象者の基本情報について確認しておこう。図表2-1に掲載したのが、分析対象者の男女比、年齢構成、学校の種類（以下、学校種と同義）の構成である。

第1に、男女比を見てみると、全体のうち、61.4%が男性、38.1%が女性となっており、6割程度を男性が占めていることがわかる。

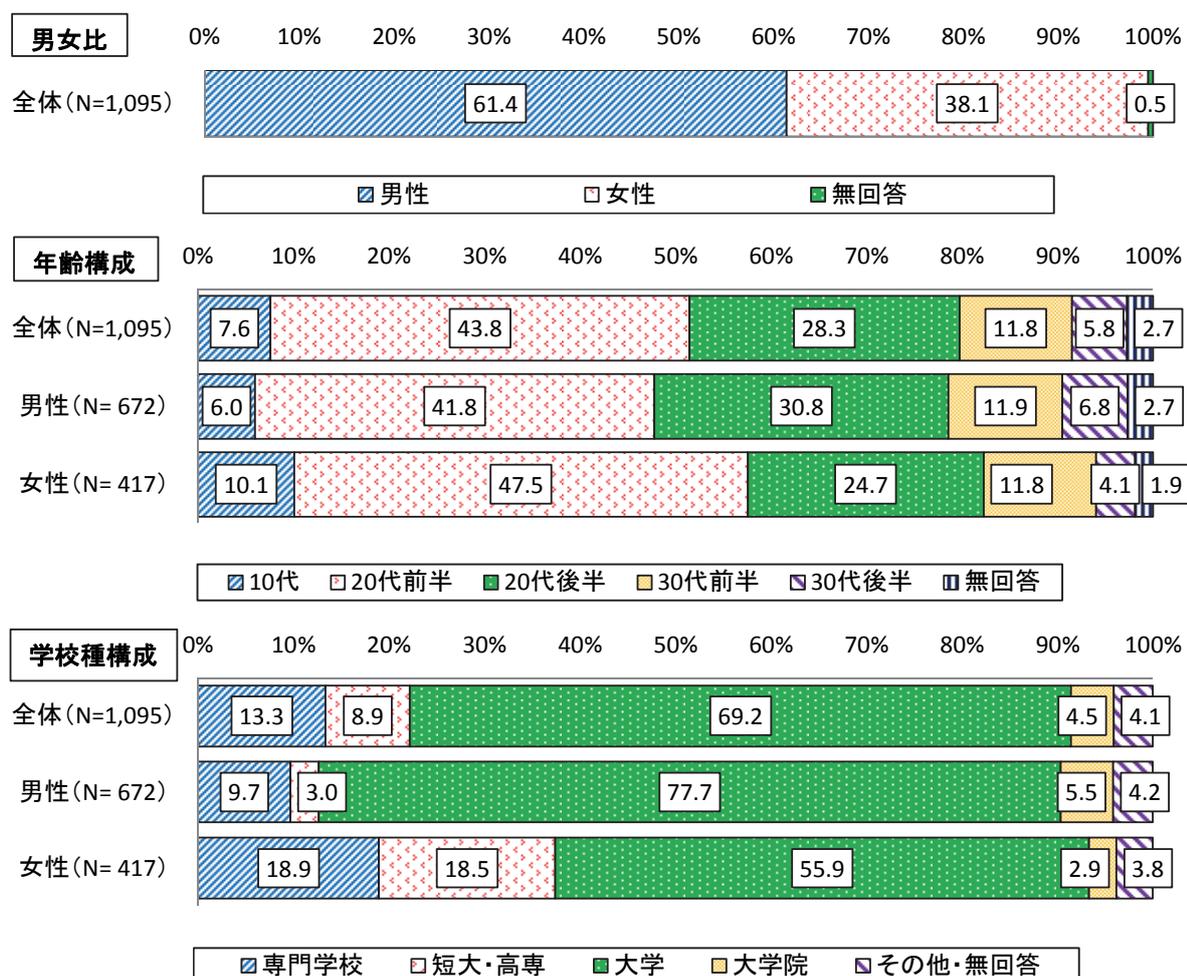
第2に、年齢構成を見てみると、全体のうち、7.6%が10代、43.8%が20代前半、28.3%が20代後半、11.8%が30代前半、5.8%が30代後半となっており、20代以下の者で8割程度を占めている。また、男女別に年齢構成を見ると、男性よりも女性で10代と20代前半の者の割合が高くなっている。女性の場合、後述するように、専門学校や短大を中退した者の割合が比較的高いため、大学中退が多くを占める男性よりもハローワーク利用者の年齢層が低くなっているのではないかと推測される。

そして第3に、中退した学校の種類を見てみると、全体のうち、13.3%が専門学校、8.9%が短大・高専、69.2%が大学となっている。今回の分析対象者の約7割が大学中退者であることがわかる。ただし、男女別に学校種の構成を見ると、男女で違いがある。すなわち、男性では専門・短大・高専の割合は約13%であるが、女性では、専門学校が18.9%、短大・高専が18.5%と男性よりも高い割合となっている。ちなみに、男性の短大・高専カテゴリには高専中退者が、女性の同カテゴリには短大中退者が多く含まれている。

このように男女によってハローワークに来所する中退者の学校種の構成は異なると考えられるが、学校種ごとの男女比はどのようになっているだろうか。その結果を示したのが、図表2-2である。図表2-2の左表を見ると、専門学校では女性が半数以上、短大・高専では女性が8割程度、大学では男性が7割程度を占めていることがわかる¹。

¹ ただし、性別・無回答を除いた割合。

図表 2-1 分析対象者の男女比、年齢構成、学校種構成



図表 2-2 中退した学校の種類、大学・専攻分野ごとの男女比

	性別		合計	
	男性	女性	%	N
専門学校	45.1	54.9	100.0	144
短大・高専	20.6	79.4	100.0	97
大学	69.1	30.9	100.0	755
大学院	75.5	24.5	100.0	49
合計	61.7	38.3	100.0	1,089

	性別		合計	
	男性	女性	%	N
人文科学	54.2	45.8	100.0	131
社会科学	77.1	22.9	100.0	249
理・工・農	85.6	14.4	100.0	188
保健	50.0	50.0	100.0	44
教育	55.6	44.4	100.0	27
芸術・家政	38.6	61.4	100.0	44
その他	51.4	48.6	100.0	37
合計	69.0	31.0	100.0	720

注: 性別・無回答は分析から除いた。右表では、学部・専攻の無回答も分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

つぎに、分析対象者が中退した学校での専攻分野を見よう (図表 2-3)。全体を見ると、社会科学の割合が最も大きく 28.8% であり、理・工・農 (24.2%)、人文科学 (14.4%) がそれに続いている。また、男女別には、男性で社会科学 (34.9%)、理・工・農 (33.6%)、女性で医療・保健・衛生 (19.8%)、社会科学 (19.3%) の割合が高くなっている。

ただし、これは、図表2-2の左表で検討した学校の種類による男女比の違いを反映したものだと考えられる。そのため、学校種ごとに専攻分野を見ていくと、専門学校では医療・保健・衛生(51.1%)、短大・高専では教育・福祉(29.2%)や芸術・服飾家政・文化教養(26.0%)、大学では社会科学(34.6%)、理・工・農(26.1%)の割合が高くなっている。なお、大学について専攻分野別に見ると、特に社会科学、理・工・農で男性の割合が8割前後と高い(図表2-2の右表)。

図表2-3 中退した時の専攻分野

	学部・専攻							合計		
	人文科学 (教養含)	社会科学 (商業実務 含)	理・工・農	医療・保健・ 衛生	教育・福祉	芸術・服飾 家政・文化 教養	その他・分 類不能	%	N	
男性	専門学校	—	9.7	27.4	35.5	8.1	19.4	—	100.0	62
	短大・高専	0.0	20.0	50.0	5.0	10.0	10.0	5.0	100.0	20
	大学	14.3	38.6	32.4	4.4	3.0	3.4	3.8	100.0	497
	大学院	8.8	35.3	50.0	5.9	0.0	0.0	0.0	100.0	34
	合計	12.1	34.9	33.6	7.7	3.6	5.0	3.3	100.0	614
女性	専門学校	—	14.3	3.9	63.6	5.2	13.0	—	100.0	77
	短大・高専	7.9	6.6	3.9	7.9	34.2	30.3	9.2	100.0	76
	大学	26.9	25.6	12.1	9.9	5.4	12.1	8.1	100.0	223
	大学院	33.3	16.7	25.0	0.0	16.7	8.3	0.0	100.0	12
	合計	18.0	19.3	9.3	19.8	11.3	15.7	6.4	100.0	388
男女 計	専門学校	—	12.2	14.4	51.1	6.5	15.8	—	100.0	139
	短大・高専	6.3	9.4	13.5	7.3	29.2	26.0	8.3	100.0	96
	大学	18.2	34.6	26.1	6.1	3.8	6.1	5.1	100.0	720
	大学院	15.2	30.4	43.5	4.3	4.3	2.2	0.0	100.0	46
	合計	14.4	28.8	24.2	12.4	6.6	9.2	4.5	100.0	1,002

注:学部・専攻の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

ちなみに、学校基本調査における関係学科別学生数の比率と比較して、今回対象となった中退者でのそれは大きく異なるのだろうか。今回の対象者の年齢は10代から30代までと広範囲であるため、単純に両者を比較できないが、参考までに平成26年度学校基本調査の結果を掲載する(参考図表2-1)。

この結果から、全体(男女計)では、在学生と比較して、中退者で以下の傾向が読み取れる。1) 専門学校では医療・保健・衛生の割合が約6ポイント高く、芸術・服飾家政・文化教養の割合が約9ポイント低いこと、2) 短大・高専では芸術・服飾家政・文化教養の割合が約10ポイント高く、理・工・農の割合が約17ポイント低いこと、3) 大学では理・工・農の割合が約5ポイント高く、医療・保健・衛生の割合が約6ポイント低いことである²。

² なお、ポイントは(中退者での割合-在学者での割合)の値。

参考図表 2-1 平成 26 年度学校基本調査における関係学科別生徒・学生数

	関係学科別							合計		
	人文科学 (教養含む)	社会科学 (商業実務 含む)	理・工・農	医療・保 健・衛生	教育・福祉	芸術・服飾 家政・文化 教養	商船・その 他	%	N	
男性	専修学校	—	9.3	25.3	33.8	4.9	26.7	—	100.0	294,376
	短大・高専	2.2	5.0	79.5	3.3	4.3	2.9	2.8	100.0	59,829
	大学	8.9	38.4	30.6	8.6	5.4	1.9	6.1	100.0	1,434,244
女性	専修学校	—	10.7	3.6	54.4	7.8	23.5	—	100.0	365,076
	短大・高専	10.7	7.6	7.8	8.5	37.0	21.6	6.9	100.0	125,866
	大学	21.8	25.4	9.4	16.0	9.9	10.2	7.3	100.0	1,117,778
男	専修学校	—	10.1	13.3	45.2	6.5	24.9	—	100.0	659,452
女	短大・高専	7.9	6.7	30.9	6.8	26.5	15.5	5.6	100.0	185,695
計	大学	14.5	32.7	21.3	11.9	7.3	5.5	6.7	100.0	2,552,022

注:「平成26年度学校基本調査」をもとに作成。大学の医療・保健・衛生は、医学・歯学・薬学に看護・その他も含めた値。

ただし、この結果を解釈する上で、中退者の男女比が在学者のそれと異なることに留意する必要がある。なぜなら、両者の男女比を比較すると、専門学校では男女比がほぼ同じであるが（ともに男性割合が約 45%）、短大・高専では中退者に占める男性割合が 20.8%で在学者の 32.2%よりも低く、大学では中退者に占める男性割合が 69.0%で在学者の 56.2%よりも高いからである³。

そこで、男女別に分野構成を見てみると、男女で傾向に違いがある。具体的には、在学者と比較して、今回対象となった中退者では以下の傾向が見られる。すなわち、1) 専門学校に関しては、男性で教育・福祉の割合が高くなるが、女性で医療・保健・衛生の割合が高くなること、2) 短大・高専に関しては、男性で社会科学の割合が高くなるが、女性で芸術・服飾家政・文化教養の割合が高くなること、3) 大学に関しては、男女ともに人文科学の割合が高くなる傾向がおもに確認された⁴。

以上、男女で傾向に違いはあるが、専門学校では医療・保健・衛生、大学では男性の中退者が多い理・工・農や人文科学で中退者が生み出されやすい傾向があると言える。また、短大・高専では、特に短大の、女性が多い芸術・服飾家政・文化教養で中退者が輩出されやすいことが、学校基本調査との比較から指摘できるだろう。

では、ここでハローワーク調査の分析に戻り、中退したときの学年について見てみよう（図表 2-4）。中退時の学年に関しては、全体の 4 分の 1 以上（25.7%）が 1 年生までに中退をしており、特に女性で 38.0%とその傾向はさらに強い。また、学校の種類別には、専門・短大・高専で 1 年生の割合が最も高く、大学では 2 年生、ついで 4 年生以上での中退割合が高くなっている。この大学での中退学年については、例えば、A 大学のケース記録（付属資料）で指摘されているように、必要単位の不足等による 2 年次留年と 4 年次での卒業論文・研究未着手が大きく関わっていると推測される。ただし、回答者によって、中退した学年の答え

³ なお、男性割合は、中退者については図表 2-3、在学者については参考図表 2-1 の合計（N）をもとにそれぞれ算出した。

⁴ ここでは、（中退者での割合－在学者での割合）のポイント差がプラスに最も大きい専攻分野のみ挙げている。

方（実質的な在学年数か否かなど）は異なる可能性があり、また中退した学校によって、進級制度にはヴァリエーションがあると考えられる。

さらに大学について専攻分野別に見ると、保健、芸術・家政、その他では2年生までの、それ以外では3、4年生での中退者割合が高い結果となっている（図表2-5）。早い段階から専門性の高い教育をおこなう専攻分野のほうが、早期に中退決定をする学生が多くなるのかもしれない。また、学費等の経済的負担の問題も、これに少なからず関わっているのではないかと想像される。

図表2-4 中退したときの学年

	中退したときの学年				合計		
	1年生	2年生	3年生	4年生以上	%	N	
男性	専門学校	53.1	35.9	6.3	4.7	100.0	64
	短大・高専	25.0	40.0	15.0	20.0	100.0	20
	大学	12.3	28.4	26.4	32.9	100.0	511
	大学院	33.3	61.1	2.8	2.8	100.0	36
	合計	18.1	31.5	22.7	27.7	100.0	635
女性	専門学校	53.9	40.8	5.3	0.0	100.0	76
	短大・高専	59.5	37.8	1.4	1.4	100.0	74
	大学	27.5	37.1	17.9	17.5	100.0	229
	大学院	8.3	66.7	16.7	8.3	100.0	12
	合計	38.0	39.0	12.2	10.7	100.0	392
男女計	専門学校	53.6	38.6	5.7	2.1	100.0	140
	短大・高専	52.1	38.3	4.3	5.3	100.0	94
	大学	17.0	31.1	23.8	28.1	100.0	740
	大学院	27.1	62.5	6.3	4.2	100.0	48
	合計	25.7	34.4	18.7	21.2	100.0	1,027

注：中退学年の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

図表2-5 中退したときの学年（大学・専攻分野別）

	中退したときの学年				合計	
	1年生	2年生	3年生	4年生以上	%	N
人文科学	17.3	29.9	21.3	31.5	100.0	127
社会科学	13.0	31.7	19.9	35.4	100.0	246
理・工・農	11.9	28.1	33.5	26.5	100.0	185
保健	26.7	40.0	17.8	15.6	100.0	45
教育	18.5	22.2	37.0	22.2	100.0	27
芸術・家政	28.9	40.0	13.3	17.8	100.0	45
その他	37.1	25.7	20.0	17.1	100.0	35
合計	16.8	30.8	23.8	28.6	100.0	710

注：学部・専攻の無回答、および中退学年の無回答は分析から除いた。

2. 学校時代での取り組みへの熱心度

つづいて、中退した学校時代での諸活動への取り組みへの熱心さについて見ていこう。結果は、図表2-6に示した。

この結果を見ると、全体として、学校での授業には51.6%、クラブやサークルでの活動には36.0%、友だちや恋人との付き合いには63.2%、アルバイトには55.4%、ダブルスクール・資格取得には11.3%の者が、熱心に取り組んでいたと回答している。また、概ね男性よりも女性のほうが、それら諸活動に熱心に取り組んでいた者の割合が高い。

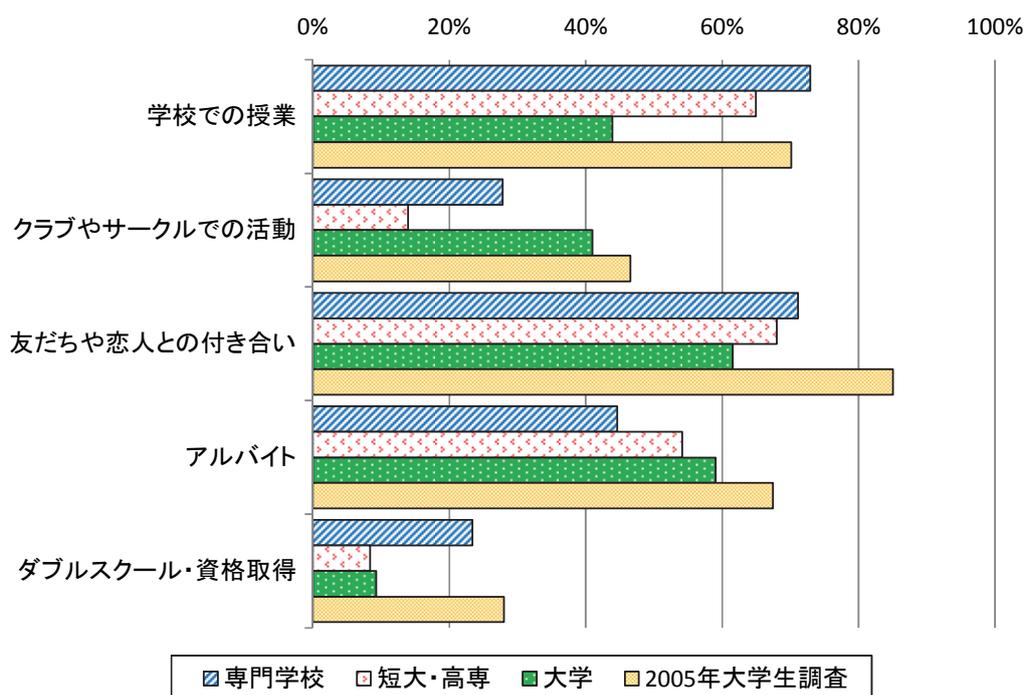
また、学歴別に見ていくと、1) 授業への熱心さは、専門・短大・高専で6割以上であるのに対して、大学では4割程度にとどまること、2) 友だちや恋人との付き合いでは、専門学校、短大・高専、大学ともに6割以上の者が熱心であったこと、3) アルバイトへの熱心さは、大学で高く、6割弱であることが、特徴的な点として挙げられる。

しかし、大学中退者について、2005年大学生調査における大学4年生の結果と比較してみると、5項目とも、中退者の熱心さが下回る結果となり、特に学校での授業、友だちや恋人との付き合いでその差が大きく見られる。中退者では、卒業生よりも、学校内外での活動、特に学業に対して消極的であった者が多く含まれることが、ここから推測される。

図表2-6 学校時代の諸活動への熱心さ（図は男女計のみ）

熱心だった(とても+まあ)の割合	学校での授業	クラブやサークルでの活動	友だちや恋人との付き合い	アルバイト	ダブルスクール・資格取得
専門学校	72.3	27.0	63.1	32.8	22.2
短大・高専	65.0	15.0	55.0	55.0	0.0
男性 大学	39.2	40.5	59.2	58.2	8.5
大学院	83.8	27.0	64.9	27.0	13.5
合計	45.9	37.7	59.8	53.6	10.0
2005年大学生調査	61.5	48.8	80.9	61.7	19.2
女性 専門学校	73.4	28.6	77.9	54.7	24.3
短大・高専	64.9	13.7	71.4	53.9	10.7
大学	54.5	42.0	66.7	61.1	11.0
大学院	75.0	16.7	41.7	58.3	8.3
合計	60.8	33.2	68.7	58.3	13.3
2005年大学生調査	77.9	44.6	88.7	72.7	36.0
男女計 専門学校	72.9	27.8	71.1	44.6	23.4
短大・高専	64.9	14.0	68.0	54.2	8.4
大学	43.9	41.0	61.5	59.1	9.3
大学院	81.6	24.5	59.2	34.7	12.2
合計	51.6	36.0	63.2	55.4	11.3
2005年大学生調査	70.1	46.6	85.0	67.5	28.0

注:それぞれの熱心度の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



3. 中退を決めるまでの期間

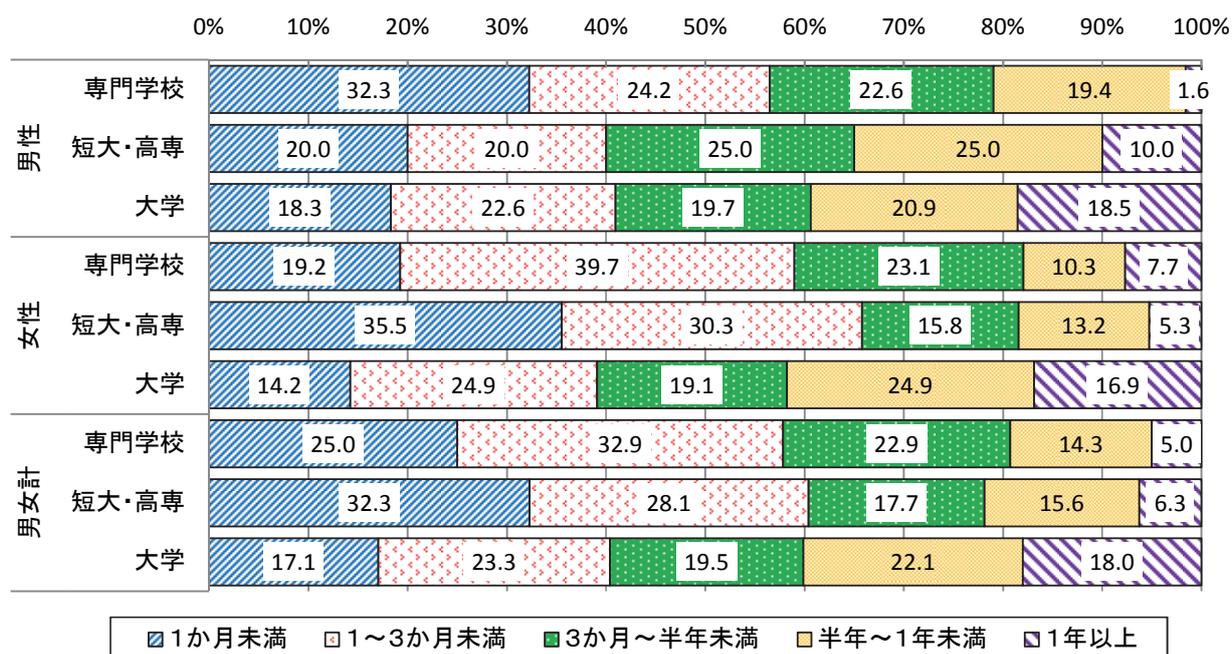
では、中退者は、どのくらいの期間をかけて中退を決めるに至っているのだろうか。中退を考え始めてから、実際に中退するまでの期間について見てみよう（図表2-7）。

この結果によると、全体の約20%が1か月未満、約25%が1～3ヶ月未満で中退することを決めており、決定まで1年以上を要する者は15%程度となっている。また、学校の種類別には、専門学校の男女、短大・高専の女性で3ヶ月未満に中退を決めた割合が半数以上となっており、比較的速やかに中退まで至っていると言える。しかし他方で、大学の男女では、中退決定までに時間を要した者の割合が高く、その4割程度が半年以上の期間がかかったと回答している。

図表 2-7 中退を考え始めてから、実際に中退するまでの期間

		中退を考え始めてから、実際に中退するまでの期間					合計	
		1か月未満	1～3か月未満	3か月～半年未満	半年～1年未満	1年以上	%	N
男性	専門学校	32.3	24.2	22.6	19.4	1.6	100.0	62
	短大・高専	20.0	20.0	25.0	25.0	10.0	100.0	20
	大学	18.3	22.6	19.7	20.9	18.5	100.0	508
	大学院	32.4	18.9	10.8	24.3	13.5	100.0	37
	合計	20.9	22.3	19.7	20.9	16.2	100.0	631
女性	専門学校	19.2	39.7	23.1	10.3	7.7	100.0	78
	短大・高専	35.5	30.3	15.8	13.2	5.3	100.0	76
	大学	14.2	24.9	19.1	24.9	16.9	100.0	225
	大学院	0.0	9.1	27.3	36.4	27.3	100.0	11
	合計	18.9	28.6	19.4	20.2	13.0	100.0	392
男女計	専門学校	25.0	32.9	22.9	14.3	5.0	100.0	140
	短大・高専	32.3	28.1	17.7	15.6	6.3	100.0	96
	大学	17.1	23.3	19.5	22.1	18.0	100.0	733
	大学院	25.0	16.7	14.6	27.1	16.7	100.0	48
	合計	20.1	24.7	19.6	20.6	15.0	100.0	1,023

注：中退までの期間の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



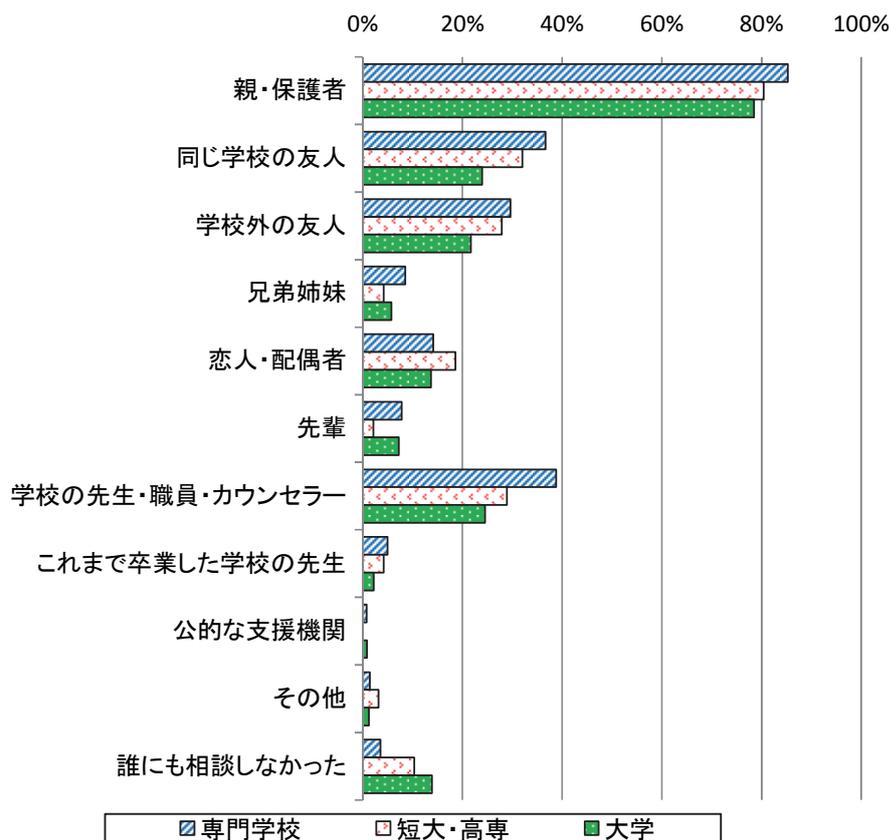
4. 中退を決めるまでの相談相手

また、中退を決めるまでの相談相手（複数回答）としては、親・保護者が79.3%と最も高く、学校の先生・職員・カウンセラー（27.6%）、同じ学校の友人（26.2%）、学校外の友人（23.2%）がそれに続いている（図表2-8）。誰にも相談しなかった者は、全体の12.5%である。男女別には、女性よりも男性で誰にも相談しなかった者の割合が高い傾向にある。

図表2-8 中退を決めるまでの間に相談した相手（複数回答、図は男女計のみ）

		専門学校	短大・高専	大学	大学院	全体	2005年 大学生調査
男 性	親・保護者	78.5	75.0	78.6	64.9	77.8	70.8
	同じ学校の友人	26.2	20.0	24.1	21.6	23.9	72.6
	学校外の友人	23.1	15.0	19.8	21.6	20.0	46.9
	兄弟姉妹	3.1	5.0	4.4	5.4	4.3	19.0
	恋人・配偶者	9.2	5.0	11.0	5.4	10.2	26.1
	先輩	9.2	5.0	8.3	5.4	8.1	32.6
	学校の先生・職員・カウンセラー	33.8	25.0	22.5	35.1	24.7	34.5
	これまで卒業した学校の先生	4.6	5.0	1.5	2.7	2.0	
	公的な支援機関	0.0	0.0	0.2	5.4	0.5	2.2 ※
	その他	0.0	0.0	1.0	2.7	0.9	
	誰にも相談しなかった	4.6	25.0	15.0	27.0	14.9	9.0
合計(N)	65	20	519	37	645	8,611	
女 性	親・保護者	90.9	81.8	78.1	83.3	81.5	80.2
	同じ学校の友人	45.5	35.1	23.6	16.7	29.9	84.5
	学校外の友人	35.1	31.2	25.8	25.0	28.4	55.5
	兄弟姉妹	13.0	3.9	8.6	0.0	8.2	28.4
	恋人・配偶者	18.2	22.1	19.7	0.0	19.2	35.2
	先輩	6.5	1.3	4.7	0.0	4.2	32.4
	学校の先生・職員・カウンセラー	42.9	29.9	28.8	50.0	32.4	39.5
	これまで卒業した学校の先生	5.2	3.9	3.4	0.0	3.7	
	公的な支援機関	1.3	0.0	2.1	0.0	1.5	3.1 ※
	その他	2.6	3.9	1.7	0.0	2.2	
	誰にも相談しなかった	2.6	6.5	11.2	16.7	8.7	3.7
合計(N)	77	77	233	12	401	9,564	
男 女 計	親・保護者	85.2	80.4	78.5	69.4	79.3	75.7
	同じ学校の友人	36.6	32.0	23.9	20.4	26.2	78.9
	学校外の友人	29.6	27.8	21.7	22.4	23.2	51.4
	兄弟姉妹	8.5	4.1	5.7	4.1	5.8	24.0
	恋人・配偶者	14.1	18.6	13.7	4.1	13.7	30.9
	先輩	7.7	2.1	7.2	4.1	6.6	32.5
	学校の先生・職員・カウンセラー	38.7	28.9	24.5	38.8	27.6	37.1
	これまで卒業した学校の先生	4.9	4.1	2.1	2.0	2.7	
	公的な支援機関	0.7	0.0	0.8	4.1	0.9	2.7 ※
	その他	1.4	3.1	1.2	2.0	1.4	
	誰にも相談しなかった	3.5	10.3	13.8	24.5	12.5	6.2
合計(N)	142	97	752	49	1,046	18,175	

注：相談相手の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。なお、2005年大学生調査は、「大学3年生のとき、卒業後の進路について誰かと話し合ったり相談したりしましたか」への回答結果。※は「その他」の相談相手（アルバイト先の人、社会人の知り合い、就職支援機関等）への回答割合。



さらに、学校の種類別に見ていくと、1) 相談者としては親・保護者が最も多く、専門学校、短大・高専、大学とも8割前後であること、2) 同じ学校の友人、学校外の友人、学校の先生・職員・カウンセラーなどを相談相手とする者の割合は、専門・短大・高専と比べて、大学中退者で低いこと、3) 誰にも相談しなかった者の割合は、専門・短大・高専と比べて、大学中退者で13.8%と高いことなどの特徴が見出される。

加えて、2005年大学生調査の結果（大学3年時での卒業後進路に関する相談相手）と比較してみると、親・保護者に相談する者の割合は両者で大差ないが、中退者では学内外の友人、兄弟姉妹など身近な相談者の割合が顕著に低く、かわって誰にも相談しなかった割合が高いことがわかる。その一方で、質問項目が異なるため直接の比較は出来ないが、これまで卒業した学校の先生や公的な支援機関などに相談した者の割合は、中退者のほうが若干高くなっている。中退者の場合、親・保護者以外では、身近に中退後の進路や求職について相談する相手を見つけることが難しい状況にあるのかもしれないことが、ここから推測される。例えば、つぎの自由回答（中退時の悩みや困難について。詳しくは付属資料を参照）にも、そうした相談相手を見つけることの難しさが見出せる。

【相談相手が居なかった事。身近な知り合いでなくカウンセラーの方などに相談していたら良かったと思います。】（女性／30歳／大学中退）

【うつ状態で何もやる気がおきず、適切な判断能力がなかったため、中退のデメリットなどを考えていなかった。相談する相手が親しかおらず、その親もどうしたらいいのかとまどったまま、中退後のフォローなど具体性がないまま決めてしまった。その場しのぎの決断となってしまった。そのため長く自宅にひきこもっていたので社会復帰に時間がかかった。】(女性/26歳/大学中退)

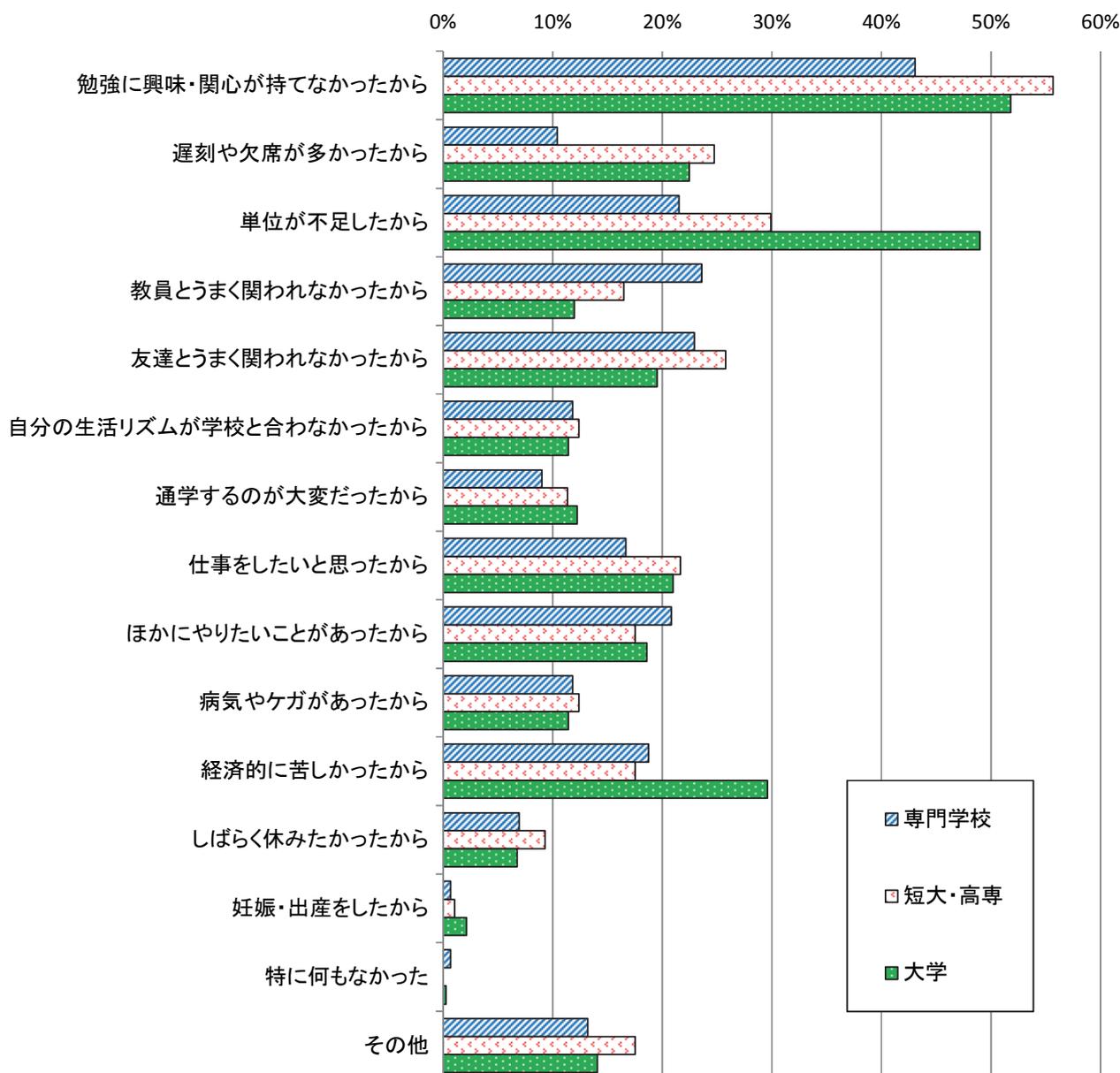
5. 中退理由

つづいて、中退理由（複数回答）について見ていこう（図表2-9）。まず、全体の傾向を確認すると、「勉強に興味・関心が持てなかったから」が中退理由として最も多く、全体の49.5%の者がそれを理由の1つとして挙げている。また、それ以外では、「単位が不足したから」（41.7%）、「経済的に苦しかったから」（27.3%）、「仕事をしたいと思ったから」（20.4%）、「友だちとうまく関われなかったから」（20.3%）、「遅刻や欠席が多かったから」（20.1%）などが主要な中退理由となっている。

図表2-9 中退しようと思った理由（複数回答）

	専門学校	短大・高専	大学	大学院	合計
勉強に興味・関心が持てなかったから	43.1	55.7	51.8	26.5	49.5
遅刻や欠席が多かったから	10.4	24.7	22.4	4.1	20.1
単位が不足したから	21.5	29.9	49.0	10.2	41.7
教員とうまく関われなかったから	23.6	16.5	12.0	40.8	15.3
友達とうまく関われなかったから	22.9	25.8	19.5	16.3	20.3
自分の生活リズムが学校と合わなかったから	11.8	12.4	11.4	8.2	11.3
通学するのが大変だったから	9.0	11.3	12.2	4.1	11.2
仕事をしたいと思ったから	16.7	21.6	21.0	20.4	20.4
ほかにやりたいことがあったから	20.8	17.5	18.6	14.3	18.5
病気やケガがあったから	11.8	12.4	11.4	20.4	12.1
経済的に苦しかったから	18.8	17.5	29.6	30.6	27.3
しばらく休みたかったから	6.9	9.3	6.8	6.1	7.0
妊娠・出産をしたから	0.7	1.0	2.1	0.0	1.7
特に何もなかった	0.7	0.0	0.3	0.0	0.3
その他	13.2	17.5	14.1	24.5	14.7
合計(N)	144	97	753	49	1,049

注：中退理由の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



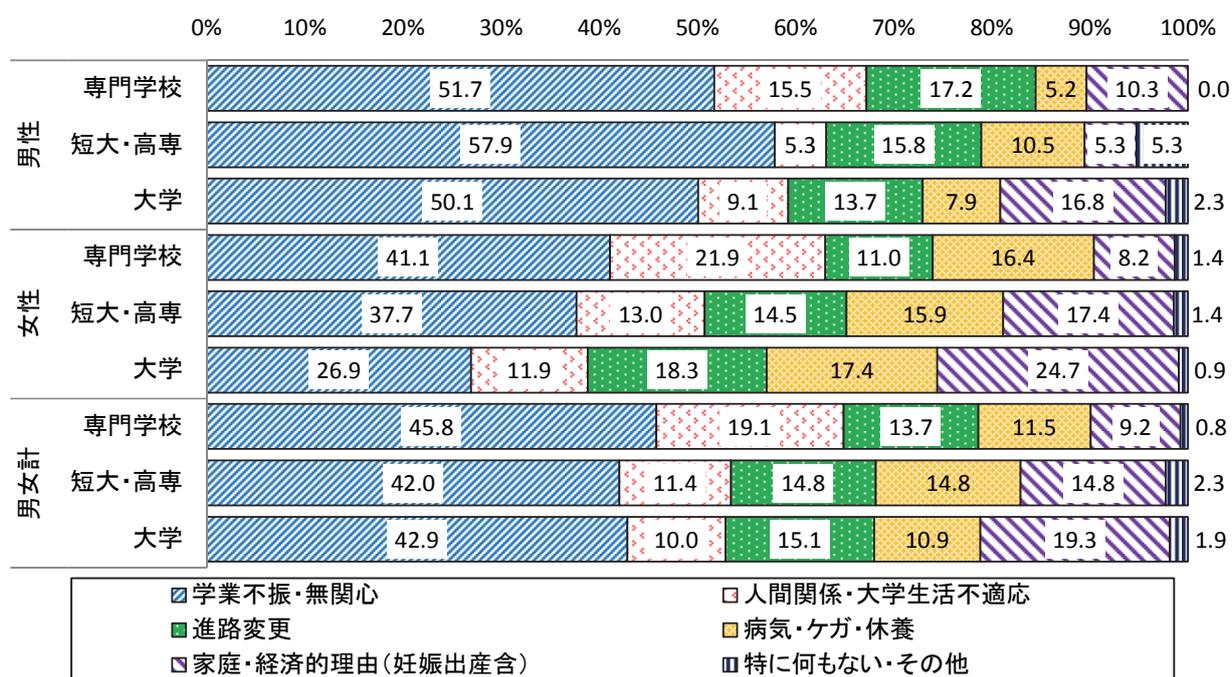
他方、学校の種類別に見ても、専門学校、短大・高専、大学ともに、「勉強に興味・関心が持てなかったから」が最も多い理由となっている。それ以外の理由に関しては、1)「単位が不足したから」・「経済的に苦しかった」が、大学中退者で他よりも高いこと、2)「教員とうまく関われなかったから」は、専門学校で他よりも高い傾向にあることなどが注目される。

では、以上のうち、最も重要であると中退者が挙げる理由は何か。つぎに最も重要な中退理由を見ていこう（図表2-10）。なお、ここでの分析では、上記の中退理由を、「その他」の記述内容も検討した上で再分類し、新たに6類型として用いている。

図表 2-10 最も重要な中退理由

		最も重要な中退理由						合計	
		学業不振・無関心	人間関係・大学生生活不 適応	進路変更	病気・ケガ・休養	家庭・経済的理由(妊 娠出産含)	特に何もな い・その他	%	N
男性	専門学校	51.7	15.5	17.2	5.2	10.3	0.0	100.0	58
	短大・高専	57.9	5.3	15.8	10.5	5.3	5.3	100.0	19
	大学	50.1	9.1	13.7	7.9	16.8	2.3	100.0	481
	大学院	22.9	22.9	14.3	17.1	22.9	0.0	100.0	35
	合計	48.6	10.4	14.1	8.4	16.6	2.0	100.0	597
女性	専門学校	41.1	21.9	11.0	16.4	8.2	1.4	100.0	73
	短大・高専	37.7	13.0	14.5	15.9	17.4	1.4	100.0	69
	大学	26.9	11.9	18.3	17.4	24.7	0.9	100.0	219
	大学院	45.5	9.1	18.2	18.2	0.0	9.1	100.0	11
	合計	32.2	13.9	16.1	17.2	19.3	1.3	100.0	373
男女計	専門学校	45.8	19.1	13.7	11.5	9.2	0.8	100.0	131
	短大・高専	42.0	11.4	14.8	14.8	14.8	2.3	100.0	88
	大学	42.9	10.0	15.1	10.9	19.3	1.9	100.0	700
	大学院	28.3	19.6	15.2	17.4	17.4	2.2	100.0	46
	合計	42.3	11.8	14.8	11.8	17.6	1.8	100.0	970

注: 最も重要な中退理由の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



その結果、最も重要な中退理由は、どの学校種でも、「学業不振・無関心」が4割前後、「人間関係・大学生生活不適合」が1～2割弱、「進路変更」が1割5分程度、「病気・ケガ・休養」が1～1割5分程度、「家庭・経済的理由」が1～2割程度であることがわかる。

ただし、男女によって違いがあり、どの学校種の男性でも「学業不振・無関心」が半数以上であることや、専門学校の女性で「人間関係・大学生生活不適合」が21.9%、大学の女性で

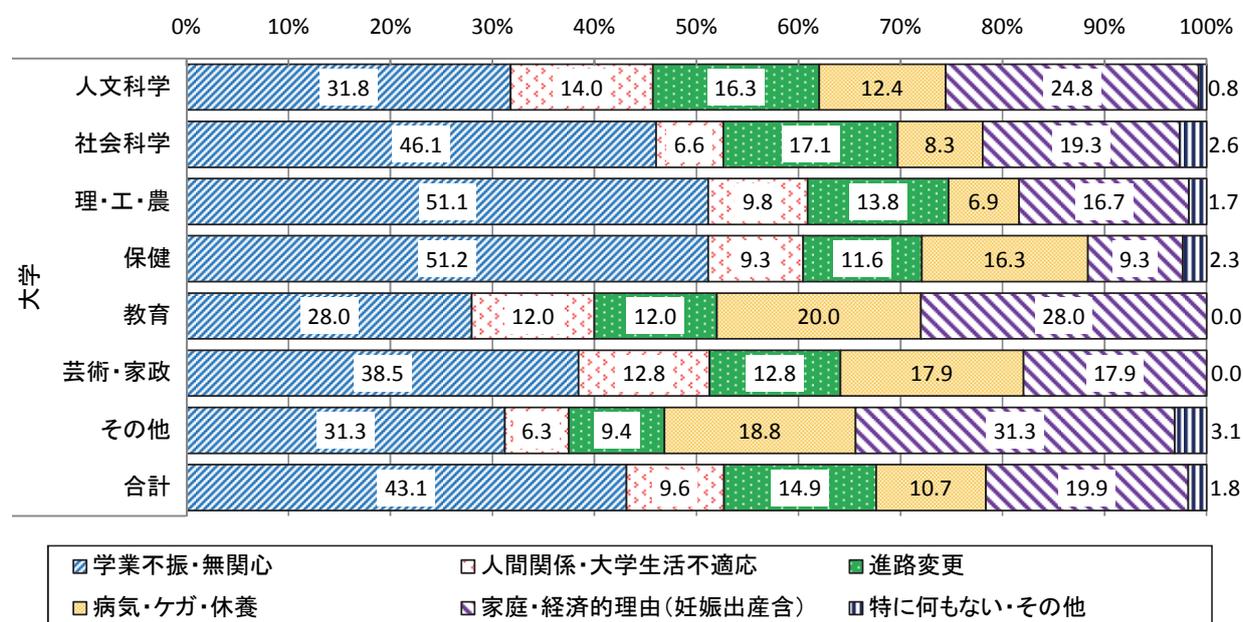
「家庭・経済的理由」が24.7%と比較的高いことなどが男女差の特徴として挙げられる。

さらに、大学・専攻分野別に、最も重要な中退理由を見ると違いが確認される（図表2-11）。具体的には、1）人文科学、教育、その他では「学業不振・無関心」が3割前後と比較的低いこと、2）人文科学、教育、芸術・家政では「人間関係・大学生活不適應」が1割を超えること、3）「進路変更」は人文・社会科学で15%以上と高いこと、4）「家庭・経済的理由」は教育、人文科学、その他で2割以上であることなどが、分野別の特徴として挙げられる。

図表2-11 最も重要な中退理由（大学・専攻分野別）

	最も重要な中退理由						合計	
	学業不振・無関心	人間関係・大学生活不適應	進路変更	病気・ケガ・休養	家庭・経済的理由(妊娠出産含)	特に何も無い・その他	%	N
人文科学	31.8	14.0	16.3	12.4	24.8	0.8	100.0	129
社会科学	46.1	6.6	17.1	8.3	19.3	2.6	100.0	228
理・工・農	51.1	9.8	13.8	6.9	16.7	1.7	100.0	174
大 保健	51.2	9.3	11.6	16.3	9.3	2.3	100.0	43
学 教育	28.0	12.0	12.0	20.0	28.0	0.0	100.0	25
芸術・家政	38.5	12.8	12.8	17.9	17.9	0.0	100.0	39
その他	31.3	6.3	9.4	18.8	31.3	3.1	100.0	32
合計	43.1	9.6	14.9	10.7	19.9	1.8	100.0	670

注：学部・専攻の無回答、および最も重要な中退理由の無回答は分析から除いた。



なお、本調査以外に、大学等中退者の中退理由の把握等を試みた調査として、大学、短大、高専を対象に実施された文部科学省による調査（以下、文科省調査）がある。同調査におけ

る中退理由の内訳は、参考図表 2-2 に示している⁵。その結果を見ると、中退理由として、「その他」の理由（22.6%）を除いて、「経済的理由」が 21.6%と最も高く、「転学」（16.8%）、「学業不振」（15.6%）がそれに続いている。

また、文科省調査と今回のハローワーク調査（短大・高専・大学）を比較すると、今回の調査では、学業面や学校生活不適應、病気・けが等に関わる理由の割合が大きく、進路変更の割合が小さいことがわかる。経済的理由に関しては、ハローワーク調査で数ポイント低い割合となっている。

参考図表 2-2 文科省調査による平成 24 年度中退者（学部生）の中退理由の内訳

	学部生(短大・高専含む)				
	国立	公立	私立	高専	合計
学業不振	18.6	12.2	15.0	33.6	15.6
学校生活不適應	1.9	3.8	5.1	4.8	4.8
就職	10.9	13.4	12.2	7.9	12.1
転学	18.4	19.4	16.1	36.2	16.8
海外留学	0.3	0.8	0.7	0.2	0.7
病気・けが・死亡	6.4	6.9	5.8	2.7	5.8
経済的理由	13.7	10.9	23.1	1.0	21.6
その他	29.8	32.5	21.9	13.6	22.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(上段:%, 下段:N)	5,465	1,816	61,681	1,405	70,367

注: (報道発表) 文部科学省(2014)「学生の中途退学や休学等の状況について」より作成。

一方、専門学校（専修学校）に関しては、平成 25 年度文部科学省委託事業「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」（以下、専修学校調査）が専修学校生の中退理由を検討している。その結果は、参考図表 2-3 に掲載している。この調査によると、専門学校を中退する理由として最も多いのが「学業不振」（19.1%）であり、「進路変更（その他）」（15.7%）と「進路変更（就職）」（14.9%）がそれに続く。「経済的理由」による中退は 11.0% となっている。

この結果を今回のハローワーク調査（専門学校）と比較すると、今回調査では、病気・けがや経済的理由に関しては同程度であるが、学業面や学校生活不適應に関わる理由の割合は大きく、進路変更の割合は小さくなっていることがわかる。

⁵ なお、文科省調査では、大学院の修士・博士課程についても対象となっている。しかし、本稿では、上述のように、大学院中退者についてはあくまで参考値のため、参考図表 2-2 の作成において、対象を学部生（短大・高専含む）に限定している。

参考図表 2-3 専修学校調査による中退理由の内訳

	平成24年度末				合計	割合
	専門課程 (公立)	専門課程 (私立)	一般課程 (公立)	一般課程 (私立)	N	%
学業不振	131	5,696	0	14	5,841	19.1
学校生活不適応	111	3,747	1	50	3,909	12.8
進路変更(就職)	135	4,402	0	17	4,554	14.9
進路変更(転学)	47	1,791	0	25	1,863	6.1
進路変更(その他)	271	4,452	3	71	4,797	15.7
病気・けが・死亡	98	3,443	0	36	3,577	11.7
経済的理由	35	3,273	0	27	3,335	11.0
海外留学	1	70	0	1	72	0.3
その他	66	2,553	1	25	2,645	8.7
合計	895	29,427	5	266	30,593	100

注:小林・圓入(2014, p.13)の図表O-2をもとに作成。

もちろん調査対象・方法等に違いがあるため、比較した結果の解釈には慎重である必要があるが、これらの結果を踏まえると、中退者全体のうちでも、進学・就職などの進路が未定のまま、あるいは将来展望が不明確なまま中退した者が、ハローワークを利用する中退者には多く含まれている可能性が考えられる。

6. 大学等入学以前の進路意識

以上のように今回のハローワーク調査では、中退理由のうち、「学業不振・無関心」が高い割合を占めるが、それは大学進学時の進路意識と何らかの関連性があるのだろうか。以下では、まず中退者の大学等入学以前の進路意識の分布を確認し、つづいて進路意識と中退理由との関係性を見ていこう。

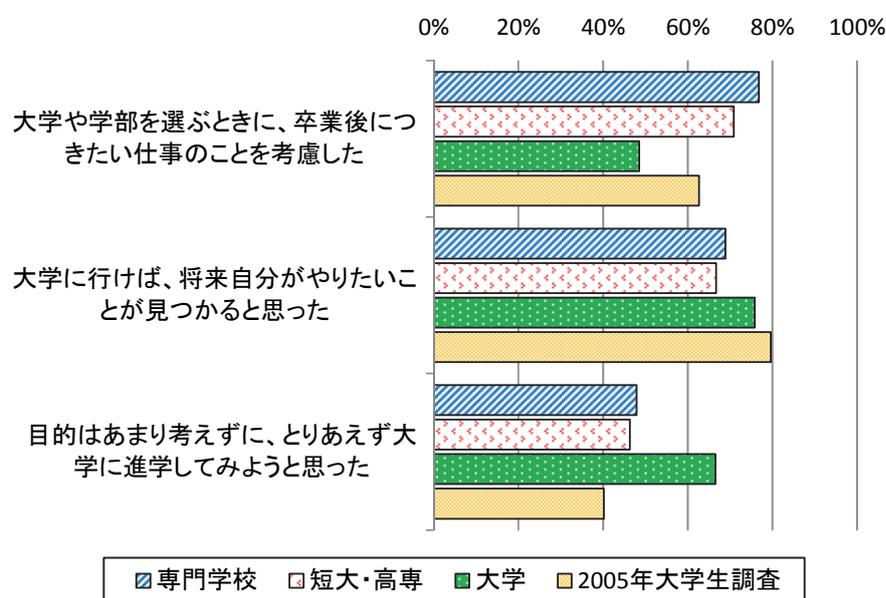
まず、大学等進学選択時の進路意識について見てみると(図表2-12)、全体うち、「大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した」者は54.5%、「大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った」者は73.8%、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者は61.3%となっている。2005年大学生調査の結果と合わせて見ると、在学生と比較して、大学等中退者では「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者の割合が、男女ともに顕著に高い結果であることがわかる。

また、これを学校の種類別に見ていくと、1) 進路選択時に将来の仕事のことを考慮した者は、専門学校、短大・高専(ただし女性のみ)では7割を超えるが、大学の特に男性では4割半ばと低いこと、2) 目的はあまり考えず、進学した者は、専門学校、短大・高専で半数以下であるが、大学の特に男性で7割以上と高いことが指摘できる。

図表 2-12 大学等進学選択時の進路意識（図は男女計のみ）

あてはまる(かなり+ある程度)の割合	大学や学部を選ぶときに、卒業後に付きたい仕事のことを考慮した	大学に行けば、将来自分が見つかると思った	目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った
専門学校	74.6	65.0	54.8
短大・高専	57.9	73.7	47.4
男 大学	44.6	75.7	71.6
性 大学院	48.6	78.4	54.1
合計	48.2	74.8	67.8
2005年大学生調査	58.6	79.3	45.8
専門学校	78.5	71.8	42.3
短大・高専	74.0	64.9	46.1
女 大学	57.1	76.0	55.2
性 大学院	50.0	50.0	58.3
合計	64.5	72.4	51.0
2005年大学生調査	66.1	79.8	35.0
専門学校	76.8	68.8	47.9
短大・高専	70.8	66.7	46.3
男 大学	48.5	75.8	66.5
女 大学院	49.0	71.4	55.1
男女計 合計	54.5	73.8	61.3
2005年大学生調査	62.6	79.5	40.1

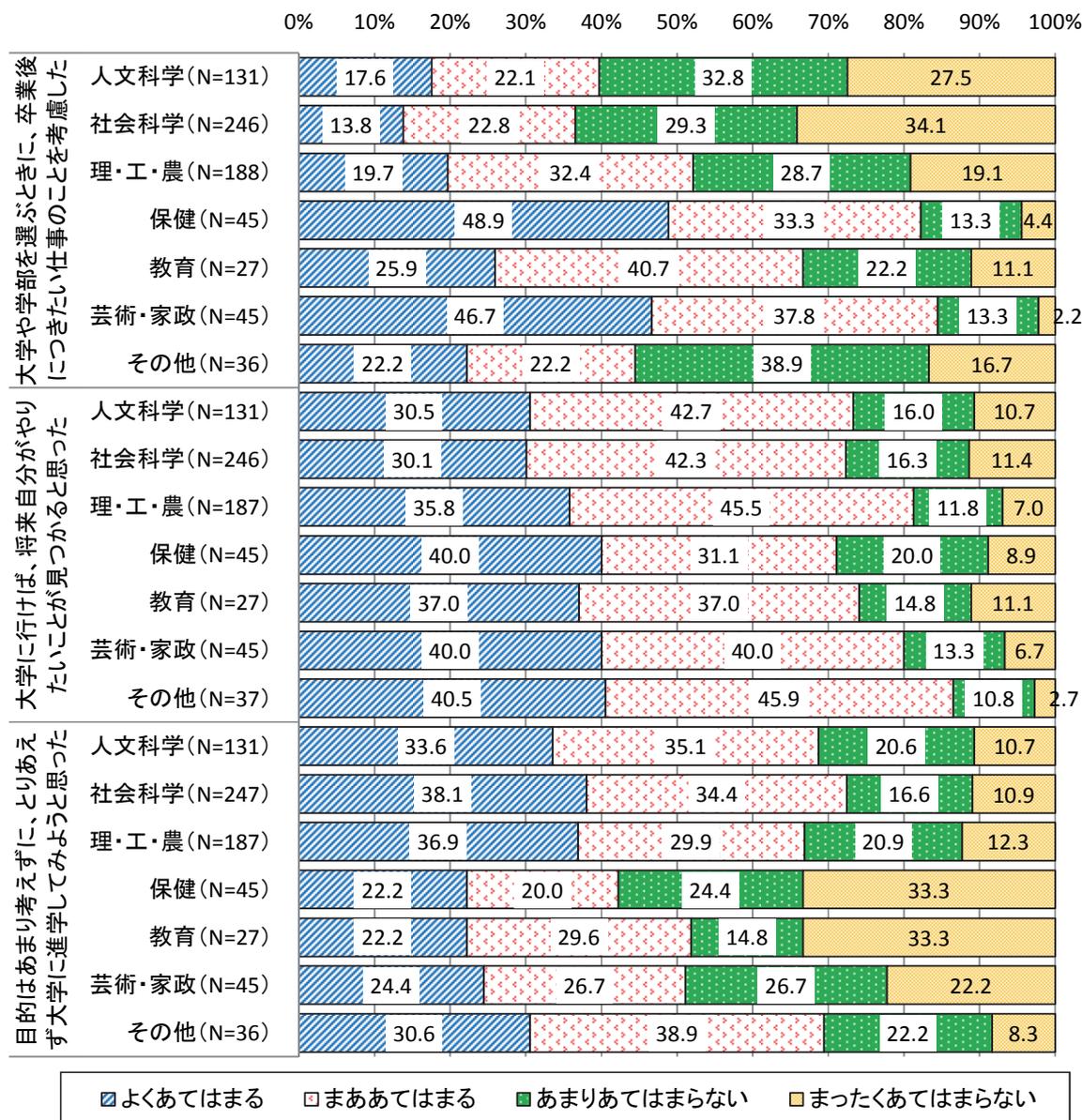
注:それぞれの進路意識の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



さらに、大学について専攻分野別に見てみると（図表 2-13）、1）進路選択時に将来の仕事を考慮した者は、人文・社会科学、理・工・農、その他で低く、保健、教育、芸術・家政では比較的高いこと、2）目的はあまり考えず、進学した者は、それとは反対に、人文社会科学、理・工・農、その他で高く、保健、教育、芸術・家政では低いことが傾向として読み

取れる。

図表 2-13 大学進学選択時の進路意識（大学・専攻分野別）



それでは、以上見てきた大学等入学以前での進路意識と中退をしようと思った理由には何か関連が見られるのだろうか。ここでは、大学中退者に限定し、中退理由ごとに、進学選択時の進路意識の高低を確認しよう。その結果を示したのが、図表 2-14 である。

この結果を見ると、特に「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」で、中退理由による顕著な違いがあることがわかる。具体的には、学業不振・無関心や人間関係・大学生活不適応、進路変更を中退理由とする者で、目的意識がはっきりとしないまま進学した者が多く、なかでも、学業不振・無関心による中退者の7割以上がとりあえ

ず大学に進学していることは注目に値する。他方、病気・ケガ・休養や家庭・経済的理由による中退者では、比較的目的を持って進学したが退学することになった者が多い傾向が見られる。

図表 2-14 大学等進学選択時の進路意識（中退理由別、大学中退者のみ）

	大学や学部を選ぶときに、卒業後に就きたい仕事のことを考慮した				大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った				目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った			
	あてはまる	あてはまらない	%	N	あてはまる	あてはまらない	%	N	あてはまる	あてはまらない	%	N
学業不振・無関心	44.0	56.0	100.0	309	79.5	20.5	100.0	309	74.5	25.5	100.0	309
人間関係・大学生活不適應	51.4	48.6	100.0	70	75.7	24.3	100.0	70	67.1	32.9	100.0	70
進路変更	38.7	61.3	100.0	103	72.6	27.4	100.0	103	66.7	33.3	100.0	102
病気・ケガ・休養	60.5	39.5	100.0	76	80.3	19.7	100.0	76	59.2	40.8	100.0	76
家庭・経済的理由（妊娠・出産含）	56.8	43.2	100.0	132	75.9	24.1	100.0	133	56.5	43.5	100.0	131
特に何もない・その他	23.1	76.9	100.0	9	61.5	38.5	100.0	9	38.5	61.5	100.0	9
合計	47.8	52.2	100.0	699	77.1	22.9	100.0	700	66.9	33.1	100.0	697

注：大学中退者に限った分析結果。最も重要な中退理由の無回答、およびそれぞれの進路意識の無回答は分析から除いた。

第3節 中退後の生活状況と意識

以上、第2節では、中退までの学校生活や中退理由などについて検討してきた。では、中退者は、中退した後の現在どのような生活をしており、これまでの生活に関してどのように考えているのだろうか。最後に、本節では、大学等中退者の現在の生活状況、および生活諸面に関わる意識について検討していこう。また、中退後の生活・意識に関連して、彼らが中退前後にどのような悩みや困難を経験していたのかについても、自由記述の分析をもとに見ていくことにする。なお、中退後の就職活動については、次章で検討しているので、そちらを参照されたい。

1. 現在の居住状況、結婚の有無、生計維持

まず、現在の生活状況として、現在一人暮らしか否か、結婚しているか否か、自らの収入によって生活しているか否かについて見ていくと（図表2-15）、全体のうち、14.0%が現在一人暮らし、8.8%が既婚であり、34.2%の者がおもに自分自身の収入で生活していることがわかる。男女による違いは、それほど大きく見られない。

また、学校の種類別にこれらの状況を見てみると、1）現在ひとり暮らしの者は、大学中退者で多少高いが、全体としては1割5分以下であること、2）現在結婚している者は、対象者の多くが20代であるため総じて少なく、結婚者の割合が高い大学・女性でも1割程度であること、3）現在、おもに自分の収入によって生活している者は、全体の3分の1程度であるが、その割合は専門学校よりも短大・高専、大学で高いことが指摘できる。

図表 2-15 現在の居住状況、結婚の有無、生計維持

	現在、一人暮らしか否か				現在、結婚しているか否か				現在、おもに自分自身の収入によって生活しているか否か				
	ひとり	ひとりではない	合計(%、N)		結婚している	結婚していない	合計(%、N)		あなた自身	あなた以外の家族	合計(%、N)		
男性	専門学校	9.2	90.8	100.0	65	6.3	93.8	100.0	64	21.9	78.1	100.0	64
	短大・高専	5.0	95.0	100.0	20	5.0	95.0	100.0	20	30.0	70.0	100.0	20
	大学	15.1	84.9	100.0	518	8.8	91.2	100.0	521	39.1	60.9	100.0	516
	大学院	27.0	73.0	100.0	37	2.7	97.3	100.0	37	27.0	73.0	100.0	37
	合計	14.5	85.5	100.0	668	8.1	91.9	100.0	670	35.5	64.5	100.0	665
女性	専門学校	12.7	87.3	100.0	79	3.8	96.2	100.0	79	19.0	81.0	100.0	79
	短大・高専	7.9	92.1	100.0	76	10.4	89.6	100.0	77	30.7	69.3	100.0	75
	大学	14.2	85.8	100.0	233	11.6	88.4	100.0	233	36.6	63.4	100.0	232
	大学院	25.0	75.0	100.0	12	8.3	91.7	100.0	12	25.0	75.0	100.0	12
	合計	13.2	86.8	100.0	416	10.1	89.9	100.0	417	32.1	67.9	100.0	414
男女計	専門学校	11.1	88.9	100.0	144	4.9	95.1	100.0	143	20.3	79.7	100.0	143
	短大・高専	7.3	92.7	100.0	96	9.3	90.7	100.0	97	30.5	69.5	100.0	95
計	大学	14.8	85.2	100.0	751	9.7	90.3	100.0	754	38.4	61.6	100.0	748
	大学院	26.5	73.5	100.0	49	4.1	95.9	100.0	49	26.5	73.5	100.0	49
合計	14.0	86.0	100.0	1,084	8.8	91.2	100.0	1,087	34.2	65.8	100.0	1,079	

注:それぞれの項目(居住状況、結婚の有無、生計維持)の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

加えて、居住状況に関して、中退した学校時代と現在の居住状況の関係を見たところ(図表2-16)、中退時にアパートなどで一人暮らしであった者のうち、2割程度は継続してひとり暮らしをしているが、大多数は中退後に一人暮らしから両親・兄弟姉妹との同居にかわっていることがわかる。中退後の就労状況とも関係して、独力で生計を立てることが難しく、家族と同居するに至っている者が、中退者には多く見られるのではないかと推測される。

図表 2-16 中退した学校時代と現在の居住状況との関係

	現在、一人暮らしか否か		合計		現在、両親・兄弟姉妹と同居か否か		合計	
	ひとり	ひとりではない	%	N	同居している	同居していない	%	N
	中退した学校時代の居住状況							
実家	8.6	91.4	100.0	338	81.7	18.3	100.0	338
アパートなど	23.1	76.9	100.0	247	66.0	34.0	100.0	247
男 (一人暮らし)	17.8	82.2	100.0	45	68.9	31.1	100.0	45
性 学生寮など	16.7	83.3	100.0	12	83.3	16.7	100.0	12
その他	15.0	85.0	100.0	642	74.8	25.2	100.0	642
合計	5.2	94.8	100.0	233	77.3	22.7	100.0	233
実家	24.6	75.4	100.0	138	61.6	38.4	100.0	138
女 (一人暮らし)	21.7	78.3	100.0	23	69.6	30.4	100.0	23
性 学生寮など	14.3	85.7	100.0	7	71.4	28.6	100.0	7
その他	13.0	87.0	100.0	401	71.3	28.7	100.0	401
合計	7.2	92.8	100.0	571	79.9	20.1	100.0	571
実家	23.6	76.4	100.0	385	64.4	35.6	100.0	385
男 女 計 (一人暮らし)	19.1	80.9	100.0	68	69.1	30.9	100.0	68
性 学生寮など	15.8	84.2	100.0	19	78.9	21.1	100.0	19
その他	14.2	85.8	100.0	1,043	73.4	26.6	100.0	1,043
合計								

注: 中退した学校時代および現在の居住形態の無回答は分析から除いた。

2. 生活諸面に関わる意識

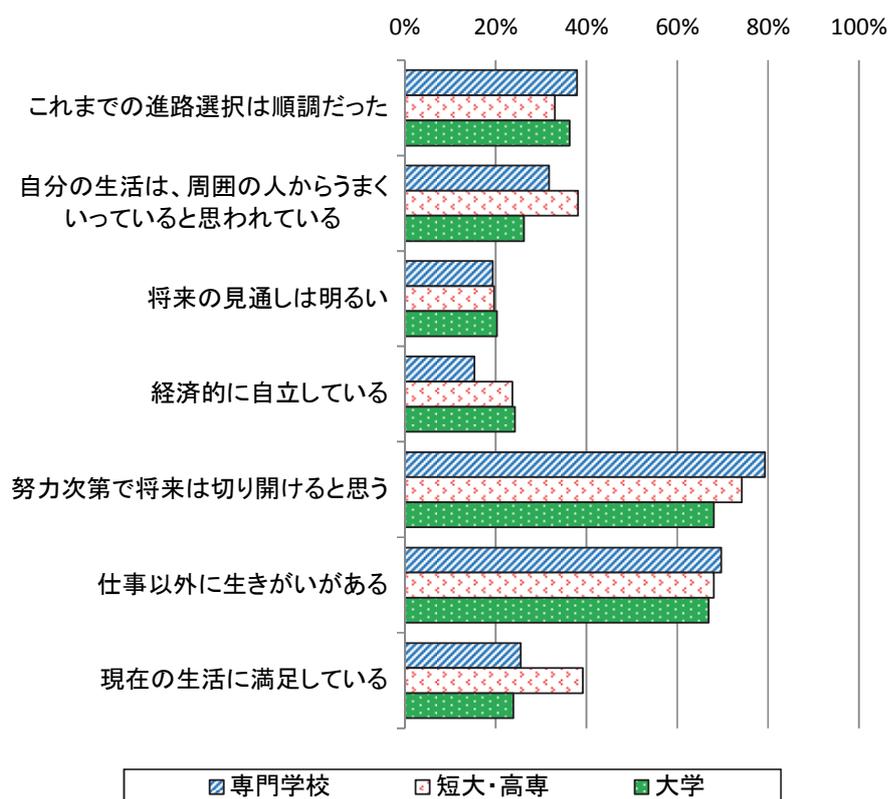
つぎに、現在の生活意識について見ると（図表 2-17）、全体のうち、70.8%の者が「努力次第で将来は切り開ける」と考えており、67.7%の者が「仕事以外に生きがいがある」と回答している。これら 2 項目については、男性よりも女性で高い傾向にあり、またどの学校種でもそれぞれ 6 割を超えている。

しかし、その一方で、全体のうち、以下の項目に肯定的な回答をした者は、「自分の生活は周囲の人からうまくいっていると思われる」で 28.2%、「将来の見通しは明るい」で 20.8%、「経済的に自立している」で 22.9%、「現在の生活に満足している」では 25.1%と、3 割以下のかかなり低い割合となっている。それらどの項目でも、男性の肯定的回答の割合が女性に比べて低い傾向にある。

図表 2-17 生活諸面に関わる意識（図は男女計のみ）

	あてはまる(かなり+ある程度)の割合	これまでの進路選択は順調だった	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	将来の見通しは明るい	経済的に自立している	努力次第で将来は切り開けると思う	仕事以外に生きがいがある	現在の生活に満足している
男性	専門学校	26.2	21.5	10.8	13.8	72.3	70.8	23.1
	短大・高専	10.0	10.0	5.0	15.0	65.0	60.0	25.0
	大学	34.4	21.3	16.4	24.2	66.0	65.3	20.5
	大学院	56.8	18.9	27.0	21.6	78.4	75.7	16.2
	合計	34.3	21.3	16.1	22.5	67.7	66.4	20.4
女性	専門学校	46.8	39.2	25.3	15.4	84.8	68.4	26.6
	短大・高専	39.0	45.5	23.4	26.0	76.6	70.1	42.9
	大学	41.2	37.7	29.2	24.2	72.1	71.1	31.3
	大学院	58.3	50.0	58.3	33.3	66.7	58.3	33.3
	合計	42.0	39.4	28.3	23.2	75.5	70.0	32.4
男女計	専門学校	37.9	31.7	19.3	15.3	79.3	69.7	25.5
	短大・高専	33.0	38.1	19.6	23.7	74.2	68.0	39.2
	大学	36.3	26.2	20.3	24.2	68.0	66.9	23.9
	大学院	57.1	26.5	34.7	24.5	75.5	71.4	20.4
	合計	37.2	28.2	20.8	22.9	70.8	67.7	25.1

注：それぞれの意識項目の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



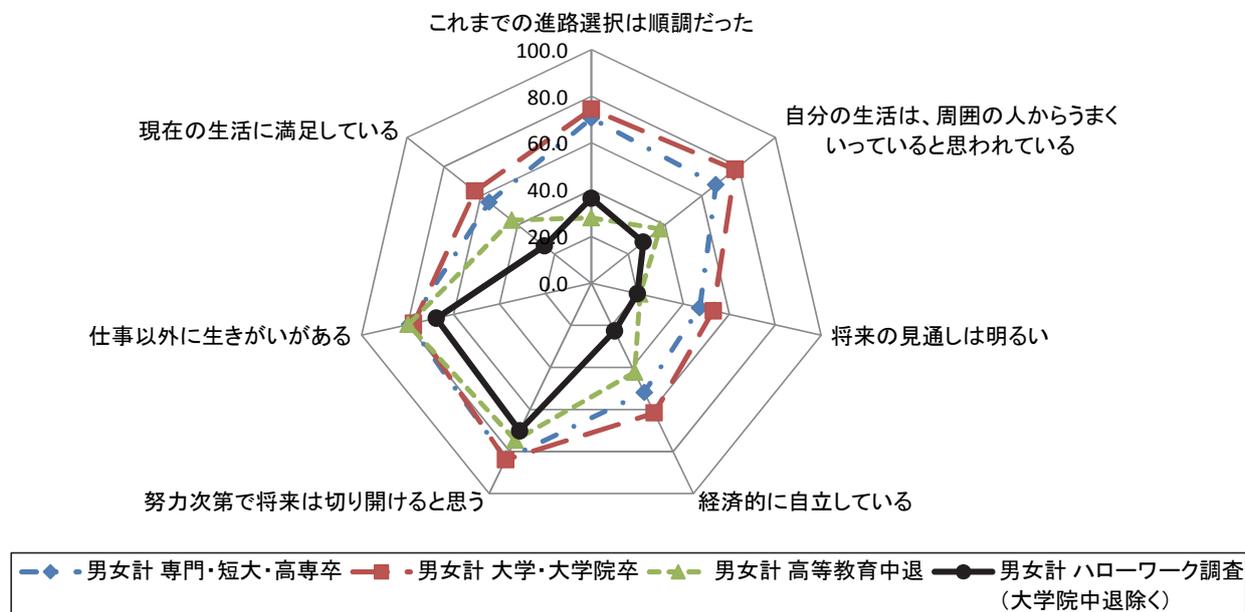
また、こうした生活諸面に関わる肯定的回答の少なさは、ワークスタイル調査と比較してみるとさらに明らかであり（図表 2-18）、ワークスタイル調査の高等教育卒業者とハローワーク調査の中退者とは肯定的度合いが大きく異なることがわかる。さらに、「経済的に自立している」「現在の生活に満足している」に関しては、ワークスタイル調査の高等教育中退者と比較しても、ハローワーク調査の中退者（大学院中退除く）のほうが、顕著に低い値になっ

ている。今回対象となったハローワークを利用する中退者の場合、中退という経験に加えて、経済的な安定性を欠いていることで、現在の生活に満足できない状況に置かれているのではないかと推察される。

図表 2-18 東京都 20 代の生活意識（ワークスタイル調査より作成。図は男女計のみ）

あてはまる(かなり+ある程度)の割合	これまでの進路選択は順調だった	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	将来の見通しは明るい	経済的に自立している	努力次第で将来は切り開けると思う	仕事以外に生きがいがある	現在の生活に満足している
男性	専門・短大・高専卒	66.1	54.9	39.1	50.6	82.4	48.9
	大学・大学院卒	72.7	73.7	50.0	63.2	85.5	61.3
	高等教育中退	28.8	35.6	21.9	41.1	76.7	43.8
	ハローワーク調査(大学院中退除く)	32.7	21.0	15.4	22.8	66.7	20.9
女性	専門・短大・高専卒	73.5	75.9	52.5	52.7	84.3	59.8
	大学・大学院卒	76.2	82.5	56.4	60.1	82.2	65.1
	高等教育中退	26.7	40.0	20.0	44.4	71.1	42.2
	ハローワーク調査(大学院中退除く)	41.9	39.5	27.2	22.8	75.6	32.6
男女計	専門・短大・高専卒	70.6	67.6	47.2	51.9	83.6	55.5
	大学・大学院卒	74.4	78.0	53.1	61.7	83.9	63.2
	高等教育中退	28.0	37.3	21.2	42.4	74.6	43.2
計	ハローワーク調査(大学院中退除く)	36.3	28.2	20.0	22.8	70.2	25.5

注：それぞれの意識項目の無回答は、分析から除いた。なお、「高等教育中退」は大学院中退を含まない値。ハローワーク調査(大学院中退除く)の値は、今回調査をもとに算出した。



3. 中退時に抱いた悩みや困難

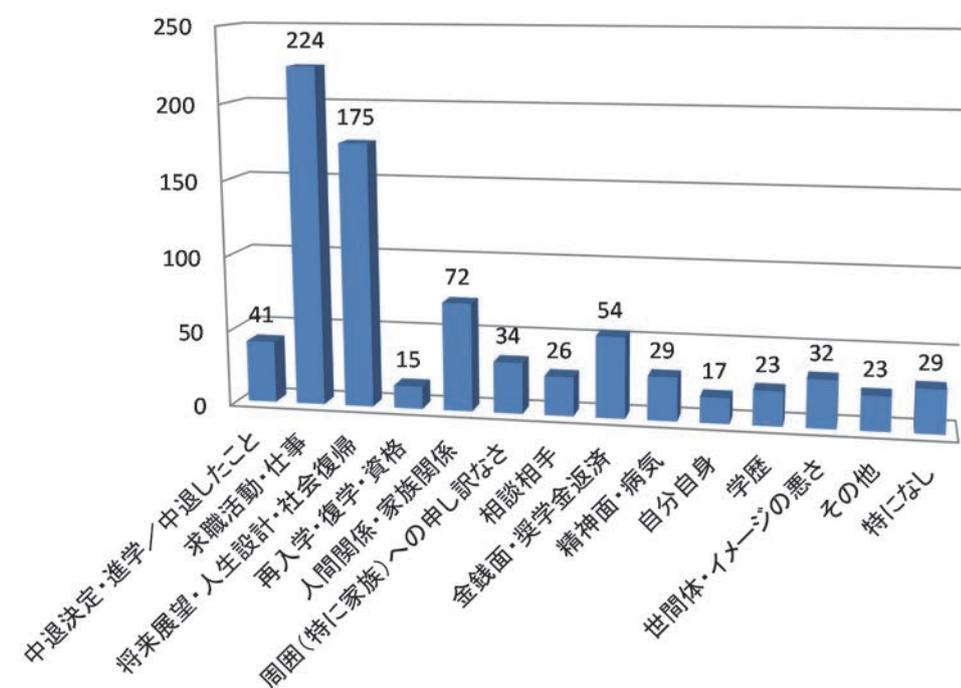
では、最後に、中退時にどのような悩み・困難があったか（「問 17 中退したときに、悩んだことや困ったことはありましたか。具体的にご記入ください」）に対する自由回答をも

とに、彼らが中退前後にどのような悩みを抱き、困難を経験していたのかを見ていこう。上記の質問に対する有効回答数は、621名（全回答者の56.7%）である。

それらの記述をコーディングした結果、回答内容は以下のように分類された。なお、1つの記述に複数のテーマが出現する場合は、それぞれのコードについてカウントした。

テーマ別コメント数を見てみると（図表2-19）、「求職活動・仕事」（224件）に関する悩み・困難が最も多く、「将来展望・人生設計・社会復帰」（175件）、「人間関係・家族関係」（72件）、「金銭面・奨学金返済」（54件）がそれに続いている。

図表2-19 中退時の悩み・困難（N=621、複数回答扱い）



具体的な記述内容はその一部を付属資料として巻末に掲載しているが、主要なテーマに関しては、ここでどのような記述があったか、数例紹介する。頻出テーマである①「求職活動・仕事」、②「将来展望・人生設計・社会復帰」、③「人間関係・家族関係」、④「金銭面・奨学金返済」には、以下のような悩みや困難が多く記されていた。

①「求職活動・仕事」（224件）

【大学における就活などの流れから完全にはみだしたので不安が大きかった。当時は安定した職に就きたいという思いしかなく、今思うと職や今後のキャリアの重ね方など、様々な方法を知っておくべきだったと思います。】（男性/25歳/大学中退）

【正直すごく焦りました。学生ではなくなってしまうし、年齢的なものもあって、早く正社員にならないと！と空回りしてしまったので、不安をやわらげるようなセミナーを受けたかった。】

(女性／21 歳／大学中退)

②「将来展望・人生設計・社会復帰」(175 件)

【今後の進路について、自分がこれからどうしていけばいいのか考えがつかなかった。単位不足の為中退後の目的もなしに中退してしまった為、本当は大学も続けて卒業したかった。明日に恐怖を感じるようになり、中退した後悔をなかなか受け止められなかった。】(男性／22 歳／大学中退)

【自分の将来について悩みました。中退は本来なら望んではいませんでした。しかし中退せざるを得なくなり、非常に苦しみました。大学の補助金・奨学金の充実を求めます。】(男性／20 歳／大学中退)

【中退した後、進むべき道が分からなくしばらく迷っていた時期がありました。中退したあとの人がどういう道を進んでいるのか、例などがあればもっと知りたかったです。】(女性／20 歳／大学中退)

③「人間関係・家族関係」(72 件)

【周囲からの目が厳しくなったこと。「中退＝悪いこと」という目で見られるため、友人の接し方も少し変わった気がする。】(女性／22 歳／大学中退)

【推薦で入学させてもらったにも関わらず、入学後すぐに退学してしまったので、母校への罪悪感と、親不幸の罪悪感がつらかった。】(女性／33 歳／大学中退)

【家族や親族の理解を得られず孤立、精神的に追い詰められた。順調な友人に会うのが恐ろしくなり引きこもりがちになった。周囲の目を過度に気にするようになった。】(男性／32 歳／大学中退)

④「金銭面・奨学金返済」(54 件)

【奨学金返済で困った。】(男性／22 歳／大学中退)

【これからどうやって親にお金を返していくか、どうすればお金を稼げるか。】(女性／18 歳／大学中退)

中退したことを周囲に相談しづらく、また十分な支援等を受ける機会を見つけられないまま、中退後の進路や将来設計について思い悩む大学等中退者の姿が、これらの記述から想像される。もちろん中退理由や中退時の周囲との関係性などによって、中退者が抱える悩みや困難さには幅があると考えられる。しかし、彼らが中退したがゆえに経験する悩みや困難さに関しては、それを軽減するために必要な支援・施策の充実が求められていると言えるだろう。

第4節 まとめ

以上、本章では、ハローワークを利用する中退者の実態について、1) 中退した学校での生活と中退理由、2) 現在の生活状況と意識の面から検討してきた。本章の分析から見出されたおもな知見は、以下のとおりである。

1) 中退した学校での生活と中退理由について

- ① 分析対象者のうち、約7割が大学中退者、約6割が男性である。また、学校の種類ごとに中退した学校での専攻分野を見ると、専門学校では医療・保健・衛生(51.1%)、短大・高専では教育・福祉(29.2%)、大学では社会科学(34.6%)が最も多くなっている。ただし、平成26年度学校基本調査の関係学科別学生比率と比較したところ、これらの専攻分野で必ずしも中退者が生み出されやすいという訳ではない。中退時の学年については、専門・短大・高専では1年生が5割以上、大学では2年生と4年生がともに3割前後と高い。
- ② 中退した学校時代に、学校での授業、友だちや恋人との付き合い、アルバイトに熱心に取り組んでいた者は全体の5割以上であり、クラブやサークルでの活動についても4割弱となっている。ただし、JILPTによる大学生調査と比較すると、中退者のほうが、どの活動でも熱心であった者の割合が低い。
- ③ 全体の4割以上が中退を考え始めてから、3ヶ月未満で実際に中退するに至っており、1年以上の期間を要した者は15%程度であった。また、大学中退者で、中退決定までの期間が長くなる傾向があり、中退を決めるまで半年以上が約4割となっている。
- ④ 中退を決めるまでの相談相手(M.A.)としては、親・保護者が79.3%と最も高く、学校の教職員・カウンセラーや学校内外の友人が2割台でそれに続いている。また、誰にも相談しなかった者は全体の12.5%で、大学中退者でその割合は高い。ただし、JILPTによる大学生調査(大学3年時での卒業後進路の相談相手)と比較すると、中退者のほうが、身近な人に相談した者の割合が低く、かわってこれまで卒業した学校の先生や公的機関などに相談した者の割合が若干高い傾向が見られた。
- ⑤ 中退理由(M.A.)を見ると、「勉強に興味・関心が持てなかったから」が49.5%と最も高く、「経済的に苦しかったから」は3割弱となっている。また、最も重要な中退理由としては、「学業不振・無関心」を挙げる者が4割以上と高く、「家庭・経済的理由(妊娠・出産含む)」と「進路変更」が15%前後でそれに続いている。「家庭・経済的理由」は、大学中退者の女性で4分の1程度と高い。
- ⑥ 大学等入学以前の進路意識を見ると、「大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した」者は54.5%、「大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った」者は73.8%、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者は61.3%であった。特に大学中退者の男性でとりあえず進学した者の割合が約7割と高い。また、進路意識と中退理由には関係が見られ、「学業不振・無関心」で大学を中

退した者の7割以上が目的を持たずに進学した層であることが確認された。

2) 中退後の生活状況と意識について

- ① 現在の生活状況について見ると、全体の14.0%が一人暮らしで、8.8%が既婚者であった。また、現在、おもに自分自身の収入で生活している者は全体の約3分の1であったが、専門学校中退者でその割合が短大・高専、大学と比べて低い。
- ② 生活諸面に関わる意識について見ると、「努力次第で将来は切り開ける」、「仕事以外に生きがいがある」に肯定的な回答をした者は6割を超える一方、「自分の生活は周囲の人から上手くいっていると思われる」、「将来の見通しは明るい」、「経済的に自立している」、「現在の生活に満足している」に関しては、3割を下回っていた。また、JILPTによるワークスタイル調査の高等教育卒業者と比較して、この結果は、前2者を除き、かなり低い値であった。
- ③ 中退時に抱いた悩みや困難について、自由回答(N=621)を検討したところ、「求職活動・仕事」や「将来展望・人生設計・社会復帰」に関する悩みや困難が最も多く見られた。また、「人間関係・家族関係」や「金銭面・奨学金返済」に関するものもそれについて多く挙げられた。

参考文献

- 小林雅之・圓入由美, 2014, 「専修学校制度の概要と本調査の概要」, 平成25年度生涯学習施策に関する調査研究『「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」調査研究報告書』東京大学政策ビジョン研究センター, pp.1-23.
- 文部科学省, 2014, 「(報道発表) 学生の中途退学や休学等の状況について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/08/1352425_01.pdf 最終アクセス: 2015年4月1日).
- 労働政策研究・研修機構, 2006, 『大学生の就職・募集採用活動等実態調査結果 II——「大学就職部/キャリアセンター調査」及び「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」』JILPT 調査シリーズ No.17.
- 労働政策研究・研修機構, 2012, 『大都市の若者の就業行動と意識の展開——「第3回若者のワークスタイル調査」から』労働政策研究報告書 No.148.

第3章 ハローワークに来所した中途退学者の実態②：中退後の就職活動

本章では、就職活動の開始時期、ハローワークを通じた就職活動、中退直後の希望と実際、就職活動の状況、支援の利用状況について整理する。なお学校種別ごとに見る際には大学院中退者はサンプルサイズが小さいため参考値とする。

第1節 ハローワークを通じた就職活動の開始

はじめに調査対象者の現在の就業状況を確認する。

図表3-1によれば、「就職活動のみをしている」という割合が最も高く半数を占め、特に男性で54.8%と高くなっている。就職活動をしながら働いているのは全体の4分の1だが、非正規雇用で働いている割合が男性で24.3%、女性は26.6%となっている。男性は30代前半を除くと年齢が若いと「就職活動のみをしている」割合が高くなり、年齢が高くなると「就職活動中だが、進学や資格取得のために勉強している」割合が高くなる。女性は10代と20代後半で「就職活動のみをしている」割合が高いが、20代後半は就職活動をしながら非正規雇用で働いている割合が高い。

図表3-1 現在の状況（年齢）

		就職活動のみをしている	就職活動中だが、非正規雇用で働いている	就職活動中だが、正規雇用で働いている	就職活動中だが、進学や資格取得のために勉強している	その他	無回答	合計	N
男性	10代	67.5	15.0	2.5	2.5	2.5	10.0	100.0	40
	20代前半	53.7	29.9	1.4	8.9	4.6	1.4	100.0	281
	20代後半	53.1	22.2	3.9	15.5	4.8	0.5	100.0	207
	30代前半	58.8	18.8	3.8	15.0	2.5	1.2	100.0	80
	30代後半	50.0	19.6	8.7	19.6	2.2	0.0	100.0	46
	無回答	55.6	16.7	5.6	22.2	0.0	0.0	100.0	18
	全体	54.8	24.3	3.1	12.4	4.0	1.5	100.0	672
女性	10代	57.1	23.8	0.0	11.9	0.0	7.1	100.0	42
	20代前半	44.4	35.9	3.5	13.1	2.5	0.5	100.0	198
	20代後半	53.4	17.5	5.8	17.5	4.9	1.0	100.0	103
	30代前半	49.0	14.3	6.1	22.4	8.2	0.0	100.0	49
	30代後半	47.1	17.6	0.0	11.8	23.5	0.0	100.0	17
	無回答	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	100.0	8
	全体	48.7	26.6	3.8	15.3	4.3	1.2	100.0	417

学校種別ごとに見るとサンプルサイズにばらつきがあるが（図表3-2）、男女とも大学中退者で「就職活動のみをしている」という割合が低い。

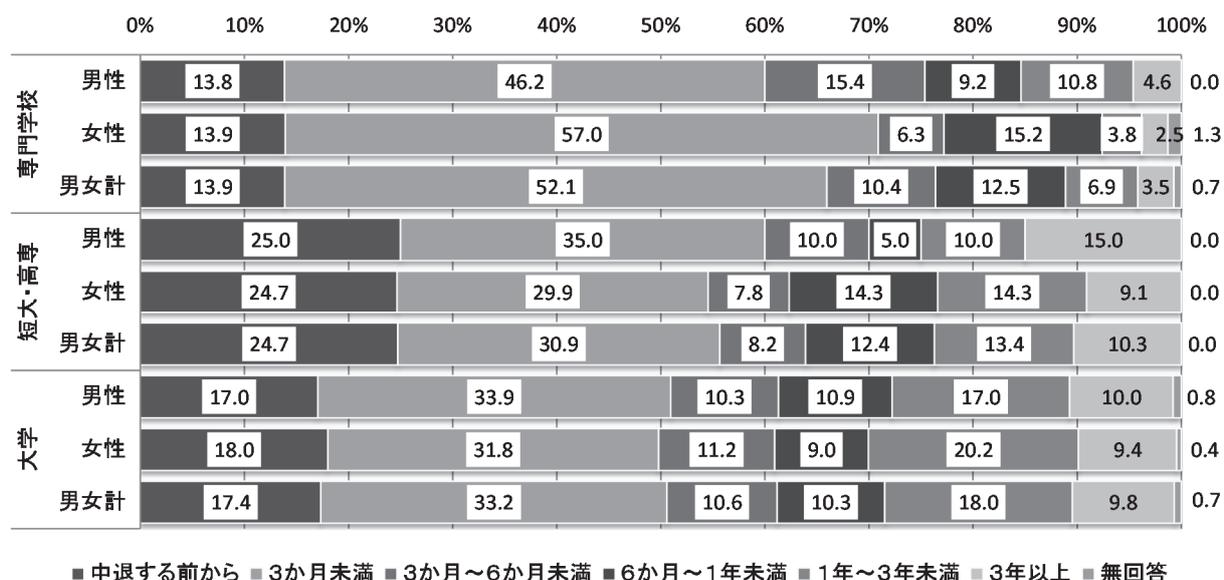
図表 3-2 現在の状況（学校種別）

		就職活動 のみをし ている	就職活動 中だが、 非正規雇 用で働い ている	就職活動 中だが、 正規雇用 で働いて いる	就職活動 中だが、 進学や資 格取得の 為に勉強 している	その他	無回答	合計	N
男性	専門学校	64.6	21.5	4.6	6.2	3.1	0.0	100.0	65
	短大・高専	65.0	10.0	0.0	20.0	5.0	0.0	100.0	20
	大学	53.3	25.5	3.3	12.6	3.6	1.7	100.0	522
	大学院	51.4	21.6	0.0	16.2	10.8	0.0	100.0	37
	その他・無回答	57.1	21.4	3.6	10.7	3.6	3.6	100.0	28
	全体	54.8	24.3	3.1	12.4	4.0	1.5	100.0	672
女性	専門学校	57.0	26.6	3.8	8.9	1.3	2.5	100.0	79
	短大・高専	70.1	14.3	1.3	7.8	3.9	2.6	100.0	77
	大学	39.1	30.0	5.2	19.3	6.0	0.4	100.0	233
	大学院	50.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	12
	その他・無回答	43.8	43.8	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0	16
	全体	48.7	26.6	3.8	15.3	4.3	1.2	100.0	417

次に中退後に就職活動を始めるときの期間を学校種別ごとにみると（図表 3-3）、短大・高専中退者では「中退する前から」が4分の1を占める。専門学校中退者は3ヶ月未満というカテゴリで高く、全体として早い傾向が見られる。大学中退者はもともと遅く、1年以上を要した割合が3分の1を占めている。

図表 3-3 中退後に就職活動を始めるときの期間

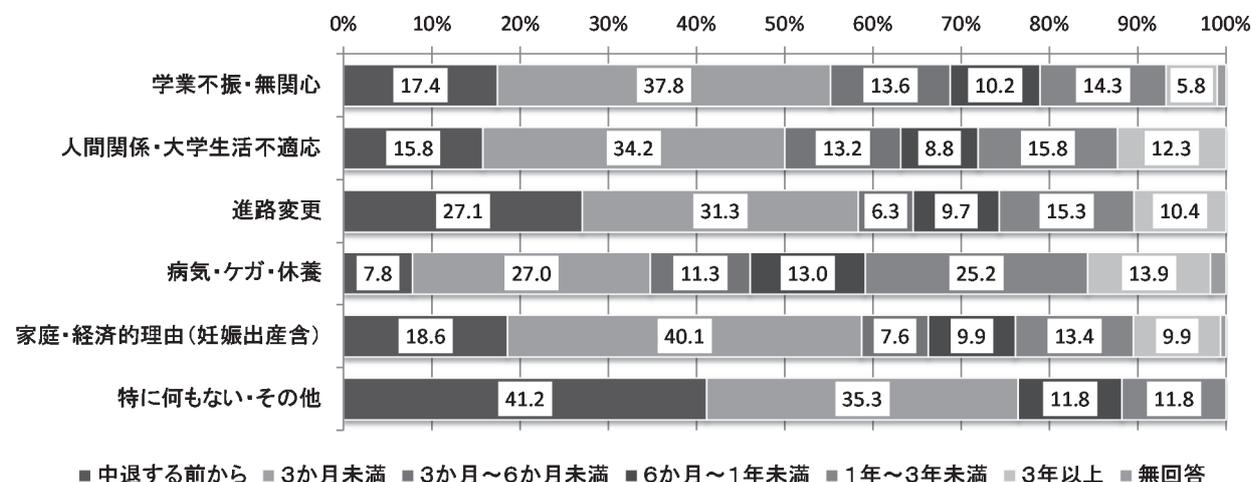
		中退する 前から	3か月未満	3か月～6 か月未満	6か月～1 年未満	1年～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
男性	専門学校	13.8	46.2	15.4	9.2	10.8	4.6	0.0	100.0	65
	短大・高専	25.0	35.0	10.0	5.0	10.0	15.0	0.0	100.0	20
	大学	17.0	33.9	10.3	10.9	17.0	10.0	0.8	100.0	522
	大学院	29.7	32.4	16.2	2.7	10.8	8.1	0.0	100.0	37
	その他・無回答	14.3	42.9	14.3	3.6	10.7	10.7	3.6	100.0	28
	全体	17.6	35.4	11.3	9.8	15.6	9.5	0.7	100.0	672
女性	専門学校	13.9	57.0	6.3	15.2	3.8	2.5	1.3	100.0	79
	短大・高専	24.7	29.9	7.8	14.3	14.3	9.1	0.0	100.0	77
	大学	18.0	31.8	11.2	9.0	20.2	9.4	0.4	100.0	233
	大学院	41.7	33.3	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	100.0	12
	その他・無回答	31.3	37.5	18.8	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0	16
	全体	19.7	36.5	10.1	10.6	15.3	7.4	0.5	100.0	417
男女計	専門学校	13.9	52.1	10.4	12.5	6.9	3.5	0.7	100.0	144
	短大・高専	24.7	30.9	8.2	12.4	13.4	10.3	0.0	100.0	97
	大学	17.4	33.2	10.6	10.3	18.0	9.8	0.7	100.0	755
	大学院	32.7	32.7	16.3	2.0	10.2	6.1	0.0	100.0	49
	その他・無回答	20.5	40.9	15.9	2.3	11.4	6.8	2.3	100.0	44
	全体	18.4	35.8	10.8	10.1	15.5	8.7	0.6	100.0	1,089



大学等の中退した理由と中退後の就職活動開始時期との関連はあるのだろうか（図表3-4）。最も重要な中退理由が「進路変更」の場合は「中退する前から」就職活動を始めている割合が27.1%を占めるが、「病気・ケガ・休養」を理由とする場合には、就職活動の開始時期までに時間がかかっている。中退理由によって、就職活動開始時期にはばらつきが見られる。

図表3-4 最も重要な中退理由と中退後の就職活動開始時期との関連

	中退する 前から	3か月未満	3か月～6 か月未満	6か月～1 年未満	1年～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
学業不振・無関心	17.4	37.8	13.6	10.2	14.3	5.8	1.0	100.0	413
人間関係・大学生活不適應	15.8	34.2	13.2	8.8	15.8	12.3	0.0	100.0	114
進路変更	27.1	31.3	6.3	9.7	15.3	10.4	0.0	100.0	144
病気・ケガ・休養	7.8	27.0	11.3	13.0	25.2	13.9	1.7	100.0	115
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	18.6	40.1	7.6	9.9	13.4	9.9	0.6	100.0	172
特に何もない・その他	41.2	35.3	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0	100.0	17
全体	18.2	35.5	10.9	10.3	15.7	8.8	0.7	100.0	975



続いて、今回の対象者はハローワークの利用者であるので、ハローワークを利用しようと思った時期の分布を確認する（図表3-5）。ハローワークの利用を思い立つ時期としては、「中退する前」が16.7%を占めており、中退後1年未満があわせて50.2%と、中退以前から中退後1年未満までがおよそ半数を占めている。ハローワークを利用する層においては、比較的中退後早い時期に利用が意識されていると言える。

学校種別ごとに見ると、大学院中退者はサンプルサイズが小さいが中退以前から利用しようと思う割合が高く、また専門学校中退者は中退後3ヶ月未満が多くなっている。しかし短大・高専中退者や大学中退者は、中退後ハローワークを利用しようと思うまでの期間が長くなっており、就職活動の開始時期と共通した傾向となっている。

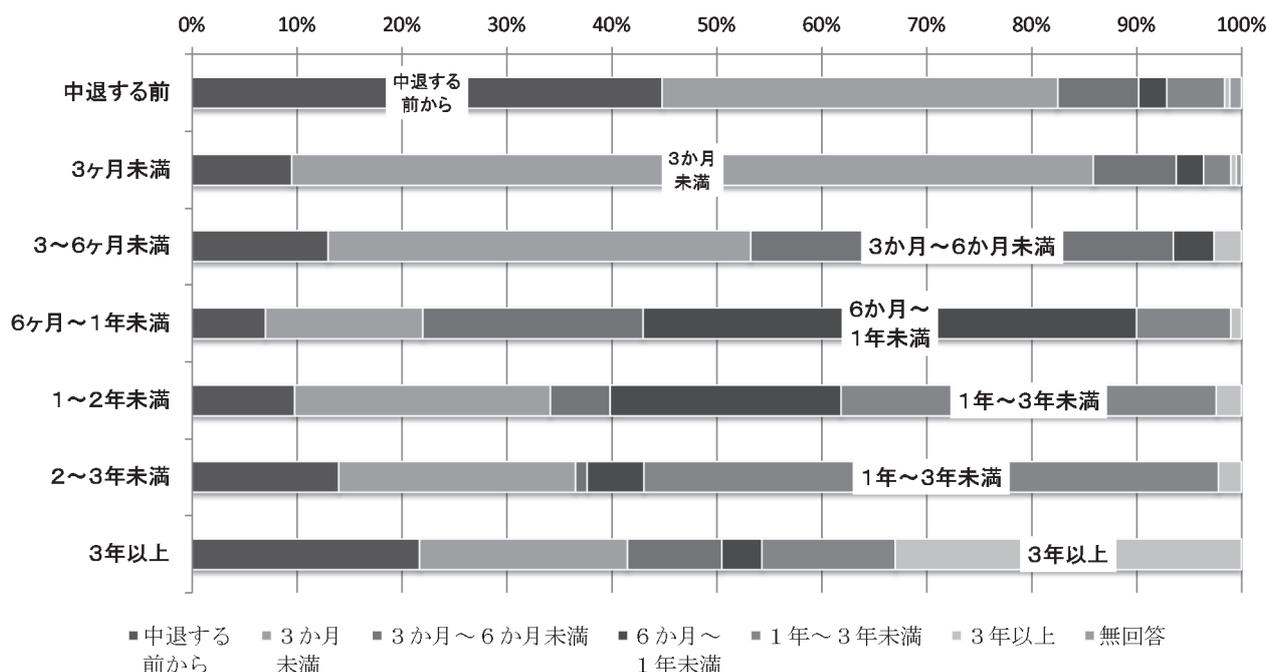
図表3-5 学校種別と「ハローワークを利用しよう」と思った時期

	中退する 前	3ヶ月 未満	3~6ヶ 月未満	6ヶ月~ 1年未満	1~2年 未満	2~3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
専門学校	18.5	34.2	7.5	11.0	7.5	4.1	6.2	11.0	100.0	146
短大・高専	13.4	16.5	6.2	10.3	9.3	9.3	22.7	12.4	100.0	97
大学	15.8	14.4	6.6	8.7	12.4	9.5	21.9	10.7	100.0	758
大学院	32.7	14.3	8.2	4.1	14.3	8.2	14.3	4.1	100.0	49
その他・無回答	15.6	17.8	13.3	13.3	4.4	4.4	17.8	13.3	100.0	45
全体	16.7	17.4	7.0	9.1	11.2	8.5	19.4	10.7	100.0	1095

ハローワークを利用しようと思った時期と、就職活動を始める時期にはそれほどずれはなく（図表3-6）、すでにハローワークを利用している層においては、ハローワークは就職活動を始めにあたって最初の段階で利用できる手段として認識されていると推察される。

図表3-6 「ハローワークを利用しよう」と思った時期と就職活動を始めた時期

	就職活動を始めた時期						無回答	合計	N
	中退する 前から	3か月 未満	3か月~6 か月未満	6か月~ 1年未満	1年~3年 未満	3年以上			
中退する前	44.8	37.7	7.7	2.7	5.5	0.5	1.1	100.0	183
利用3ヶ月未満	9.5	76.3	7.9	2.6	2.6	0.5	0.5	100.0	190
利用3~6ヶ月未満	13.0	40.3	40.3	3.9	0.0	2.6	0.0	100.0	77
利用6ヶ月~1年未満	7.0	15.0	21.0	47.0	9.0	1.0	0.0	100.0	100
利用1~2年未満	9.8	24.4	5.7	22.0	35.8	2.4	0.0	100.0	123
利用2~3年未満	14.0	22.6	1.1	5.4	54.8	2.2	0.0	100.0	93
利用3年以上	21.7	19.8	9.0	3.8	12.7	33.0	0.0	100.0	212
無回答	10.3	34.2	8.5	8.5	20.5	13.7	4.3	100.0	117
全体	18.3	35.9	10.8	10.0	15.5	8.8	0.7	100.0	1095



続いてハローワーク利用のきっかけを自由記述から整理する（図表3-7）。最も多いのが「親」48.6%であり、続いて「友人」18.1%、「その他」が10.3%となっている。

ハローワークを利用しようと思ったきっかけを学校種別ごとに見ると、もっとも多いのは「親」という回答だが、学校種別ごとに特徴が見られる。大学・大学院は「ホームページ」という回答が多く、大学院はサンプルサイズが小さいが「学校」「サポステや支援機関」という回答が多く、「親」という割合が低くなる。他方で専門学校では「親」が、短大・高専は「友人」で高くなっているが、より若い年齢と性別構成（短大・高専は女性が多い）が反映されていると推察される。

図表3-7 学校種別とハローワークを利用しようと思ったきっかけ

	ホーム ページ	親	友人	学校	サポステ や支援 機関等	親族・ 知人・ 恋人	失業給 付受給・ 職業訓 練	その他	記入 なし	無回答	合計	N
専門学校	6.8	62.3	15.1	3.4	0.7	2.1	0.0	6.2	2.1	1.4	100.0	146
短大・高専	0.0	49.5	21.6	2.1	1.0	2.1	6.2	12.4	3.1	2.1	100.0	97
大学	10.2	46.7	18.6	2.1	2.2	2.0	1.7	11.2	2.2	3.0	100.0	758
大学院	24.5	32.7	16.3	8.2	6.1	2.0	2.0	4.1	0.0	4.1	100.0	49
その他・無回答	8.9	51.1	13.3	4.4	6.7	2.2	0.0	11.1	0.0	2.2	100.0	45
全体	9.4	48.6	18.1	2.6	2.3	2.0	1.8	10.3	2.1	2.7	100.0	1095

次に、ハローワークを利用しようと思った時期別に検討した（図表3-8）。中退する前に検討した場合には、学校が他のカテゴリーと比較してやや高いが、7.7%にとどまっている。また中退してからの年月が長いほど親の割合は低下傾向にあり、友人やその他、「失業給付受給・職業訓練」がきっかけとなる場合が増加する。

図表 3-8 ハローワークを利用しようと思った時期ときっかけ

	ホーム ページ	親	友人	学校	サポステ や支援 機関等	親族・ 知人・ 恋人	失業給 付受給・ 職業訓 練	その他	記入 なし	無回答	合計	N
中退する前	7.1	54.6	18.6	7.7	1.1	2.7	0.0	6.0	1.1	1.1	100.0	183
3ヶ月未満	8.9	65.8	14.2	3.2	0.5	0.5	0.0	4.7	1.1	1.1	100.0	190
3～6ヶ月未満	7.8	50.6	19.5	2.6	3.9	1.3	0.0	11.7	2.6	0.0	100.0	77
6ヶ月～1年未満	9.0	64.0	12.0	1.0	2.0	1.0	0.0	10.0	1.0	0.0	100.0	100
1～2年未満	9.8	50.4	17.1	2.4	2.4	4.1	1.6	10.6	0.0	1.6	100.0	123
2～3年未満	10.8	44.1	23.7	0.0	3.2	1.1	2.2	11.8	2.2	1.1	100.0	93
3年以上	11.3	26.4	23.6	0.0	4.7	2.4	7.1	18.9	2.8	2.8	100.0	212
無回答	10.3	38.5	14.5	2.6	0.9	2.6	0.9	8.5	6.8	14.5	100.0	117
全体	9.4	48.6	18.1	2.6	2.3	2.0	1.8	10.3	2.1	2.7	100.0	1095

図表 3-7 の行と列を入れ替え、ハローワークを利用したきっかけと、利用しようと思った時期の関連をクロスした（図表 3-9）。サンプルサイズはかなり小さいが、利用したきっかけが学校の場合には中退する前から利用しようとする割合が高くなっている。中退する前にハローワークを利用しようと思うに至るには、学校が鍵になることが推察される。

図表 3-9 ハローワークを利用したきっかけと利用しようと思った時期

	中退する 前	3ヶ月 未満	3～6ヶ 月未満	6ヶ月～ 1年未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
ホームページ	12.6	16.5	5.8	8.7	11.7	9.7	23.3	11.7	100.0	103
親	18.8	23.5	7.3	12.0	11.7	7.7	10.5	8.5	100.0	532
友人	17.2	13.6	7.6	6.1	10.6	11.1	25.3	8.6	100.0	198
学校	48.3	20.7	6.9	3.4	10.3	0.0	0.0	10.3	100.0	29
サポステや支援機関等	8.0	4.0	12.0	8.0	12.0	12.0	40.0	4.0	100.0	25
親族・知人・恋人	22.7	4.5	4.5	4.5	22.7	4.5	22.7	13.6	100.0	22
失業給付受給・職業訓練	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	75.0	5.0	100.0	20
その他	9.7	8.0	8.0	8.8	11.5	9.7	35.4	8.8	100.0	113
記入なし	8.7	8.7	8.7	4.3	0.0	8.7	26.1	34.8	100.0	23
無回答	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	3.3	20.0	56.7	100.0	30

次にハローワーク以外の求職方法を検討する（図表 3-10）。

ハローワーク以外の求職方法として最も多いのが「求人情報サイトを見る」、「求人広告・雑誌を見る」が飛びぬけて高く、「家族や友人・知人に紹介を頼む」、「派遣会社への登録」、「民間の職業紹介会社への登録」が続いている。

学校種別ごとには、男性の専門学校中退者と大学中退者は「求人情報サイト」を特に活用する傾向が見られ、学校種別を問わず男性よりも女性の方が派遣会社への登録割合が高い。

図表 3-10 ハローワーク以外の求職方法

		求人広告・雑誌を見る	求人情報サイトを見る	家族や友人・知人に紹介を頼む	民間の職業紹介会社に登録する	派遣会社に登録する	その他	N
男性	専門学校	67.2	75.0	21.9	3.1	10.9	1.6	64
	短大・高専	80.0	65.0	25.0	10.0	10.0	5.0	20
	大学	62.0	76.3	18.8	7.6	9.0	3.1	489
	大学院	51.4	82.9	5.7	25.7	8.6	5.7	35
	その他・無回答	60.7	67.9	25.0	0.0	7.1	3.6	28
女性	専門学校	75.6	69.2	7.7	3.8	14.1	2.6	78
	短大・高専	69.3	76.0	16.0	4.0	17.3	0.0	75
	大学	71.0	80.4	12.9	6.7	18.8	1.3	224
	大学院	41.7	100.0	8.3	0.0	16.7	0.0	12
	その他・無回答	68.8	81.2	6.2	6.2	31.2	0.0	16

図表 3-11 によれば、ハローワークを利用しようと思った時期との関連については直線的な変化は見られない。

図表 3-11 ハローワークを利用しようと思った時期とハローワーク以外の求職方法

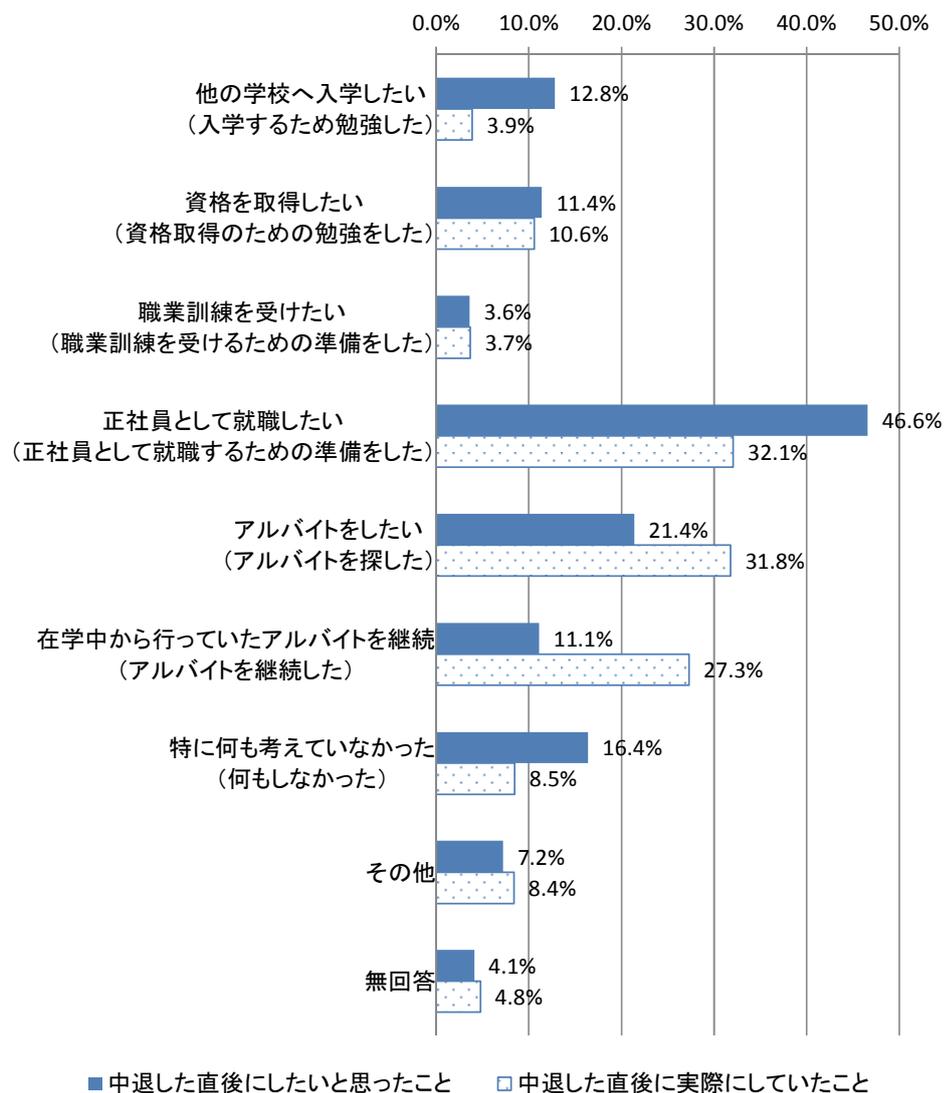
	求人広告・雑誌を見る	求人情報サイトを見る	家族や友人・知人に紹介を頼む	民間の職業紹介会社に登録する	派遣会社に登録する	その他	無回答	N
中退する前	60.7	72.1	18.0	6.0	9.8	2.2	4.4	183
3ヶ月未満	67.9	70.0	16.3	6.8	7.4	1.6	3.7	190
3～6ヶ月未満	63.6	68.8	7.8	7.8	13.0	5.2	3.9	77
6ヶ月～1年未満	60.0	72.0	14.0	1.0	9.0	5.0	5.0	100
1～2年未満	64.2	82.1	10.6	4.9	17.1	0.8	5.7	123
2～3年未満	55.9	72.0	12.9	11.8	12.9	2.2	6.5	93
3年以上	63.7	78.8	19.3	7.1	16.0	1.9	3.3	212
無回答	61.5	65.0	17.1	7.7	12.0	1.7	6.0	117

第2節 中退直後の希望と実際

本項では中退直後に希望していたことと実際について比較するが、データが回顧データであるため、当事者の記憶の中で変容している可能性に留意しながら検討したい。まず中退直後にしたいと思ったことと、実際に何をしていたかについて比較したのが図表 3-12 である。

中退した直後は、「正社員として就職したい」、「アルバイトをしたい」、「他の学校に入学したい」、「特に何も考えていなかった」が上位を占めている。実際には、「正社員として就職するための活動をした」、「アルバイトを探した」、が高かったが、他方で中退した直後にはあまり想定されていなかった、「在学中から行っていたアルバイトを継続した」という割合が高くなっている。またギャップが見られる項目としては、再入学希望が 12.8%に対して、「他の学校へ入学するための勉強をした」という割合が 3.9%と低くなっており、ハローワーク利用者という特性はあるものの、教育に残るよりも実際には労働市場へ参入していく割合が高くなるようである。

図表 3-12 中退した直後にしたいと思ったことと実際にしていたこと（複数回答）



学校種別ではそれほど大きな違いはないものの（図表 3-13）、専門学校中退者では「在学中から行っていたアルバイトを継続」という割合が希望よりもかなり高くなっており、短大・高専中退者では「正社員として就職したい」と希望していたが実際に正社員のための活動をするという割合が低くなっている。大学中退者では、資格取得希望で実際にそのための勉強をしている割合が高い。

図表 3-13 中退した直後にしたいと思ったことと実際にしていたこと（学校種別）

	専門学校		短大・高専		大学		大学院	
	希望	実際	希望	実際	希望	実際	希望	実際
他の学校へ入学したい	13.7	3.4	15.5	5.2	13.5	4.2	2.0	0.0
資格を取得したい	13.0	8.2	15.5	8.2	10.9	11.1	14.3	22.4
職業訓練を受けたい	6.2	2.7	2.1	1.0	3.6	4.4	0.0	4.1
正社員として就職したい	53.4	40.4	41.2	20.6	47.1	32.6	67.3	51.0
アルバイトをしたい	29.5	35.6	23.7	36.1	20.7	32.7	18.4	18.4
在学中から行っていたアルバイトを継続	8.9	24.7	16.5	34.0	12.0	29.7	4.1	8.2
特に何も考えていなかった	12.3	4.8	17.5	6.2	18.3	9.6	8.2	14.3
その他	5.5	6.2	7.2	8.2	7.4	9.1	16.3	12.2
無回答	0.7	2.7	0.0	2.1	0.7	1.1	0.0	0.0
	146	146	97	97	758	758	49	49

図表 3-12 で実際に「在学中から行っていたアルバイトを継続した」という割合が高いことから、在学中から行っていたアルバイトを継続した者のみ取り出し、中退した直後の希望との関連を検討した（図表 3-14：これらは複数回答であり、同時に他の活動も行っている可能性がある）。中退直後からアルバイトを継続しようと思っていた場合において高いのは当然であるが、正社員として就職したいと考えていたり、再入学や職業訓練・資格取得などを希望していても、当面は在学中からのアルバイトを続けるという行動に至りやすいことが推察される。

この理由としては、「中退後の就職活動で困難・不利益を感じたこと」の自由記述からは、アルバイトといってもフルタイムに近いためますます正社員へのチャンスが遠のくことが語られている。

【正社員として雇用してくれる所を探す事が大変でしたので、派遣やアルバイトでつないでいました。フルタイムで働いていたので、その中での就活は時間的に難しかったです。】（女性／36歳／大学）

【生活費を稼ぐ必要性から、希望する仕事への就職活動や必要な勉強をする時間を確保し辛い。】（男性／27歳／大学）

また中退者の場合、何から手をつけてよいのかわからないという点も大きいようである。

【新卒の就職活動の仕方は、調べなくても自然と耳に入ってくるが、中退したら何をすればいいのかわかも分からなかった。】（男性／20歳／大学）

図表 3-14 中退した直後の希望と在学中から行っていたアルバイトを継続した割合
(複数回答)

	在学中から行っていた アルバイトを継続した	N
他の学校へ入学したい	24.3	140
資格を取得したい	17.6	125
職業訓練を受けたい	20.5	39
正社員として就職したい	29.6	510
アルバイトをしたい	26.1	234
在学中から行っていたアルバイトを継続したい	92.6	122
特に何も考えていなかった	22.2	180
その他	26.6	79

ただし在学中から行っていたアルバイトを継続することが一概にキャリアにマイナスに働くわけではない。図表 3-15 は、在学中から行っていたアルバイトを継続した者の就業経験（詳しくは次節で説明）を整理しているが、他のカテゴリーよりも働いた経験がないという割合が低くなっている。なお年齢をコントロールしても同様の傾向が見られた。正社員のみを経験という割合はごく少ないので、中退直後に無職ではないという状態は必ずしもマイナスの経験ともいえないことが推測される。

図表 3-15 在学中から行っていたアルバイトを継続した者の就業経験

	働いた経験 なし	非典型一貫	正社員＋ 非正社員	正社員のみ 経験(無職 経験含む)	合計	N
在学中からアルバイトを継続した	0.0	72.9	27.1	0.0	0.0	295
それ以外	18.0	54.0	21.5	6.5	0.0	739
無回答	18.0	58.0	20.0	4.0	0.0	50
全体	13.1	59.3	23.0	4.6	0.0	1084

図表 3-16 によれば、中退した直後に知りたかったことと、中退したときに受けたかった支援についてはほとんど違いが見られなかったが、回顧データの特徴が出ている可能性がある。

図表 3-16 中退した直後に知りたかったことと、中退したときに受けたかった支援

	他の学校 への入学 に向けた 情報	資格取得 のための 情報	職業訓練 の情報	仕事探し の相談を するための 支援機関 等の情報	心の悩み を相談する ための支 援機関等 の情報	その他	特に知りた い情報は なかった
中退したときに知りたかった情報	7.6	13.6	15.1	31.4	15.3	1.1	15.9
中退したときに受けたかった支援	7.2	13.9	14.8	32.8	15.2	0.5	15.7

第3節 就職活動の状況

中退してからこれまでしてきた活動内容について個人ごとに分析してみると(図表3-17)、今回対象となっているハローワークに来た者においては、正社員のための求職活動が基本であり、資格取得や他の学校へ入学するための準備だけをしてきた割合は低くなっている。

図表3-17 中退してからこれまでしてきた活動内容

活動内容	割合	N
正社員のための求職活動	23.5	235
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動	21.2	212
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+資格取得+他の学校	13.4	134
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+資格取得	12.1	121
正社員以外の求職活動	10.5	105
正社員のための求職活動+資格取得	5.1	51
正社員以外の求職活動+資格取得	4.5	45
資格取得	2.9	29
正社員以外の求職活動+他の学校	1.5	15
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+他の学校	1.2	12
正社員以外の求職活動+資格取得+他の学校	1.1	11
正社員のための求職活動+資格取得+他の学校	1.0	10
正社員のための求職活動+他の学校	0.9	9
他の学校	0.8	8
資格取得+他の学校	0.3	3
合計	100.0	1000

注：無回答除く

なお、正社員として就職するための求職活動をした者のうち、正社員になった割合は40.1%となっている。学校種別ごとには、大学院中退者が42.1%と最も高く、専門学校中退者が36.2%と最も低かった。また正社員以外として働くための求職活動については、70.7%が仕事を得ているが、専門学校中退者が54.8%と最も低く、短大・高専中退者が76.1%と最も高かった。他の学校へ入学した割合は24.3%と低く、大学中退者で27.7%が最も高い。資格取得については、資格を取得したのは48.8%であり、短大・高専中退者で58.5%と最も高く、大学院中退者で38.9%にとどまった(巻末の基礎集計表参照)。

次に、これまで経験した就業経験について図表3-18に整理する。ここでは「働いた経験なし」、「非典型一貫」、「正社員と非正社員」の3つの類型に分類した。「非典型一貫」が58.7%と最も高く、「正社員と非正社員」の経験がある割合が23.7%、「働いた経験なし」が13.1%であった。

図表3-18 これまで経験した就業経験

	N	%
働いた経験なし	142	13.1
1ヶ月以上無職経験	1	0.1
1ヶ月以上無職経験+働いた経験なし	4	0.4
働いた経験なし	137	12.6
非典型一貫	637	58.7
1ヶ月以上無職経験+非正社員	223	20.6
1ヶ月以上無職経験+非正社員	71	6.5
1ヶ月以上無職経験+非正社員	26	2.4
1ヶ月以上無職経験+非正社員+自営その他	16	1.5
1ヶ月以上無職経験+非正社員+自営その他	10	0.9
1ヶ月以上無職経験+非正社員+自営その他	1	0.1
非正社員+自営その他	7	0.6
非正社員+自営その他	1	0.1
非正社員+自営その他	1	0.1
非正社員のみ	240	22.1
非正社員のみ	35	3.2
非正社員のみ	6	0.6
正社員と非正社員	255	23.7
1ヶ月以上無職経験+正社員+自営その他	4	0.4
1ヶ月以上無職経験+正社員+非正社員+自営その他	5	0.5
1ヶ月以上無職経験+正社員+非正社員+自営その他	1	0.1
1ヶ月以上無職経験+正社員+非正社員+自営その他	2	0.2
1ヶ月以上無職経験+正社員+非正社員+自営その他	1	0.1
1ヶ月以上無職経験+非正社員+正社員	94	8.7
1ヶ月以上無職経験+非正社員+正社員	47	4.3
1ヶ月以上無職経験+非正社員+正社員	18	1.7
自営その他のみ	6	0.6
正社員+非正社員	61	5.6
正社員+非正社員	11	1.0
正社員+非正社員	3	0.3
正社員+非正社員+自営その他	2	0.2
正社員のみ	50	4.6
正社員のみ	23	2.1
1ヶ月以上無職経験+正社員	27	2.5
	1084	100.0

注：11 ケースは情報が得られなかったもので、類型からは除いている。

学校種別でみると（図表3-19）、男女とも働いた経験がない割合が高いのは専門学校中退者である。どのカテゴリーでも非典型一貫が最も多くを占めている。

図表 3-19 学校種別と就業経験

		働いた経 験なし	非典型一 貫	正社員＋ 非正社員	正社員の み経験 (無職経 験含む)	合計	N
男性	専門学校	23.4	46.9	20.3	9.4	100.0	64
	短大・高専	5.0	65.0	20.0	10.0	100.0	20
	大学	11.4	59.7	24.7	4.2	100.0	518
	大学院	47.2	38.9	13.9	0.0	100.0	36
	その他・無回答	17.9	60.7	17.9	3.6	100.0	28
	全体	14.6	57.5	23.3	4.7	100.0	666
女性	専門学校	14.1	64.1	17.9	3.8	100.0	78
	短大・高専	13.3	62.7	21.3	2.7	100.0	75
	大学	8.6	62.9	23.7	4.7	100.0	232
	大学院	8.3	50.0	16.7	25.0	100.0	12
	その他・無回答	12.5	50.0	37.5	0.0	100.0	16
	全体	10.7	62.2	22.5	4.6	100.0	413

次に最も重要な中退理由と就業経験の関連を検討した(図表 3-20)。最も重要な中退理由が「進路変更」であるケースにおいては、「働いた経験なし」や「非典型一貫」の割合が低いが、他の類型では高くなっており、特に「病気・ケガ・休養」を理由とする場合に「非典型一貫」割合が高くなっている。

図表 3-20 最も重要な中退理由と就業経験

	働いた経 験なし	非典型一 貫	正社員＋ 非正社員	正社員の み経験 (無職経 験含む)	合計	N
学業不振・無関心	15.9	61.6	18.1	4.4	100.0	409
人間関係・大学生活不適応	12.4	59.3	25.7	2.7	100.0	113
進路変更	7.6	49.3	36.8	6.3	100.0	144
病気・ケガ・休養	11.4	66.7	16.7	5.3	100.0	114
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	12.9	56.7	25.7	4.7	100.0	171
特に何もない・その他	11.8	35.3	41.2	11.8	100.0	17
全体	13.1	58.8	23.3	4.8	100.0	968

就業経験には年齢と性別が影響を与えていることが考えられるので、以下では主として年齢別・性別ごとに示すこととする。

図表 3-21 によれば、ハローワーク利用者ということもあり、男女とも 10 代は働いた経験がない割合が高く、年齢の上昇に伴って働いた経験がない割合が減少する。20 代前半は非典型一貫が男女とも 7 割、20 代後半でも半数近くを占め、正社員経験は 30 代前半で高くなる。パネルデータではないため年齢による変化と見なすことは難しいとしても、一般的に正社員への移行が進む 20 代ではなく 30 代において正社員経験が高くなるという点で、大学等中退者は年齢の上昇に伴う正社員への移行が全体としてゆるやかであることがうかがえる。

図表 3-21 これまで経験した就業形態（現在の年齢別）

		働いた経験 なし	非典型一貫	正社員＋ 非正社員	正社員のみ 経験(無職 経験含む)	合計	N
男性	10代	51.3	43.6	2.6	2.6	100.0	39
	20代前半	15.8	70.3	11.1	2.9	100.0	279
	20代後半	13.0	54.1	25.6	7.2	100.0	207
	30代前半	2.5	50.6	41.8	5.1	100.0	79
	30代後半	0.0	23.9	69.6	6.5	100.0	46
	無回答	25.0	43.8	31.2	0.0	100.0	16
	合計	14.6	57.5	23.3	4.7	100.0	666
女性	10代	41.0	56.4	2.6	0.0	100.0	39
	20代前半	12.7	70.1	14.7	2.5	100.0	197
	20代後半	2.9	59.2	31.1	6.8	100.0	103
	30代前半	0.0	46.9	40.8	12.2	100.0	49
	30代後半	0.0	41.2	52.9	5.9	100.0	17
	無回答	0.0	75.0	25.0	0.0	100.0	8
	合計	10.7	62.2	22.5	4.6	100.0	413

次に応募先を決める際に重視する条件としては（図表 3-22）、全体としては企業の業種・仕事内容や正社員かどうか、勤務時間・休暇・福利厚生という回答が多くなっている。ただし年齢ごとに差異が見られ、10代は企業の将来性・安定性を特に重視する傾向があり、また10代と20代前半は学歴不問や経験不問を重視する傾向がある。こうした傾向は10代ないしは20代前半は同世代の新卒者を意識せざるを得ないのに対して、20代後半になると学歴による差異を意識することが少なくなることがあるのだろうと推察される。

図表 3-22 年代と応募先を決める際に重視する条件

	企 事 業 内 容 業 種 ・	企 業 の 知 名 度	・企 業 の 安 定 性 将 来 性	か 正 社 員 か ど う	暇 勤 ・ 務 福 時 間 厚 ・ 生 休	給 料	有 無 （ ・ 地 域 ・ 条 件 の 勤	い 適 性 分 こと の 合 能 力 や	る 学 歴 と 不 問 で あ	る 経 験 と 不 問 で あ	そ の 他	な い の も か う ま な わ 条	無 回 答	N
10代	78.3	2.4	34.9	66.3	63.9	51.8	45.8	50.6	43.4	37.3	0.0	1.2	1.2	83
20代前半	75.6	5.2	23.5	66.5	67.5	55.8	50.6	46.0	43.3	44.4	0.8	0.4	0.2	480
20代後半	75.8	3.5	23.9	65.8	66.1	53.5	49.0	56.1	36.1	42.3	0.6	0.0	0.0	310
30代前半	79.8	4.7	21.7	55.0	63.6	59.7	47.3	56.6	34.9	38.8	2.3	0.8	0.0	129
30代後半	77.8	4.8	25.4	57.1	52.4	68.3	50.8	63.5	41.3	44.4	1.6	0.0	0.0	63
無回答	66.7	3.3	23.3	60.0	60.0	56.7	46.7	33.3	43.3	36.7	0.0	0.0	3.3	30

また、就業経験との関連を見ると（図表 3-23）、働いた経験がないと給料や勤務時間等の労働条件への意識が薄い。

図表 3-23 就業経験と応募先を決める際に重視する条件

	事業 内容の 業種・ 業種	企業 の知 名度	・企業 安定の 将来性	か正 社員 かど う	暇勤 ・務 福時 利間 厚・ 生休	給料	有務 無地 域条 件 （転 勤の 動	い適 る性 こと の合 つ力 てや	る自 こ分 と不 問 問 で あ	る経 こ験 と不 問 問 で あ	そ の 他	ない で の よ か う な ま 条 件	ど の よ か う な ま 条 件	無 回 答	N
働いた経験なし	81.7	0.0	26.8	61.3	58.5	42.3	45.8	54.9	33.8	48.6	0.7	0.7	0.0	142	
非典型一貫	74.7	5.4	23.6	62.2	64.1	54.6	48.1	50.7	41.8	43.7	0.5	0.5	0.2	643	
正社員+非正社員	79.1	4.8	26.1	67.5	72.7	66.3	56.6	53.4	40.6	36.9	2.4	0.0	0.0	249	
正社員のみ経験(無職経験含む)	70.0	2.0	18.0	78.0	68.0	66.0	44.0	42.0	40.0	38.0	0.0	0.0	0.0	50	

続いて採用面接を受けた企業数を就業経験別にみると（図表 3-24）、働いた経験がない者でも採用面接を受けた経験がある割合が半数以上を占めている。ただし設問には正社員としての採用に限るとの条件を付していなかったため、正社員としての採用面接に限られているかどうかについては留保が必要である。

図表 3-24 就業経験と採用面接を受けた企業数

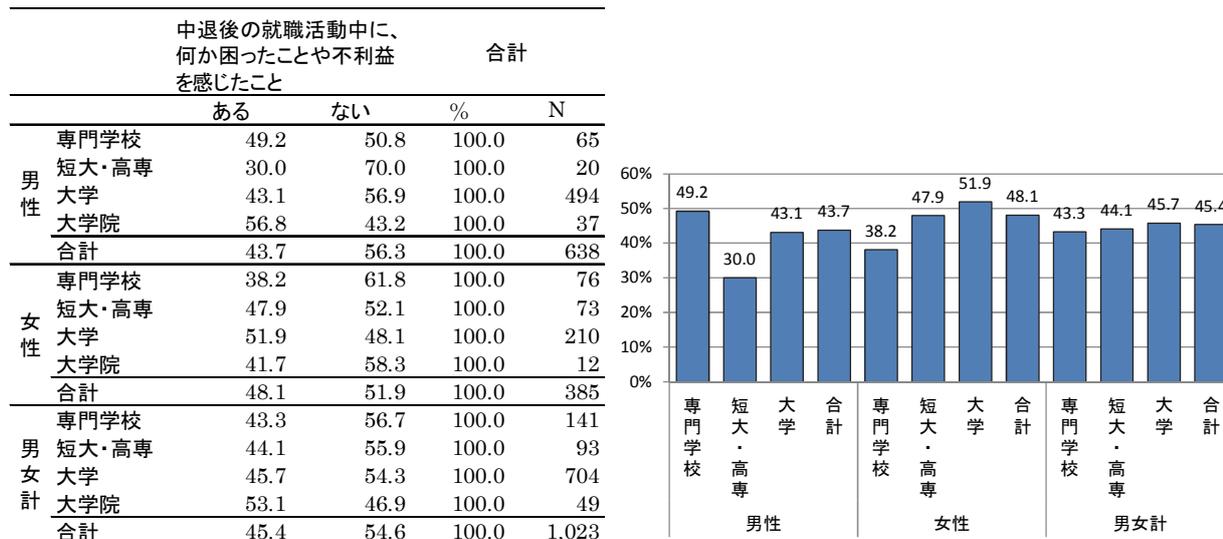
	なし	1~5社	6~10社	11~30社	30社 以上	無回答	合計	N
働いた経験なし	43.7	38.7	4.9	6.3	0.7	5.6	100.0	142
非典型一貫	31.6	45.6	11.4	4.5	1.7	5.3	100.0	643
正社員+非正社員	8.0	55.0	20.1	8.8	3.2	4.8	100.0	249
正社員のみ経験(無職経験含む)	10.0	60.0	12.0	8.0	2.0	8.0	100.0	50

第 4 節 中退後の就職活動での困難さや不利益の経験

つづいて、中退後の就職活動でなにか困難や不利益を感じたか（「問 8 中退後の就職活動中に、何か困ったことや不利益を感じたことはありましたか。ある方は具体的にご記入ください。」）に対する回答を検討する。

まず、どのくらいの中退者が就職活動での困難さや不利益を経験しているのかを確認しておこう。上記の問 8 への回答を見てみると（図表 3-25）、そうした経験をした者は全体の 45.4%であり、学校種間での差異はそれほど見られない。ただし、男性では専門学校中退者で、女性では大学中退者でそうした経験をした傾向が若干高いことが見て取れる。

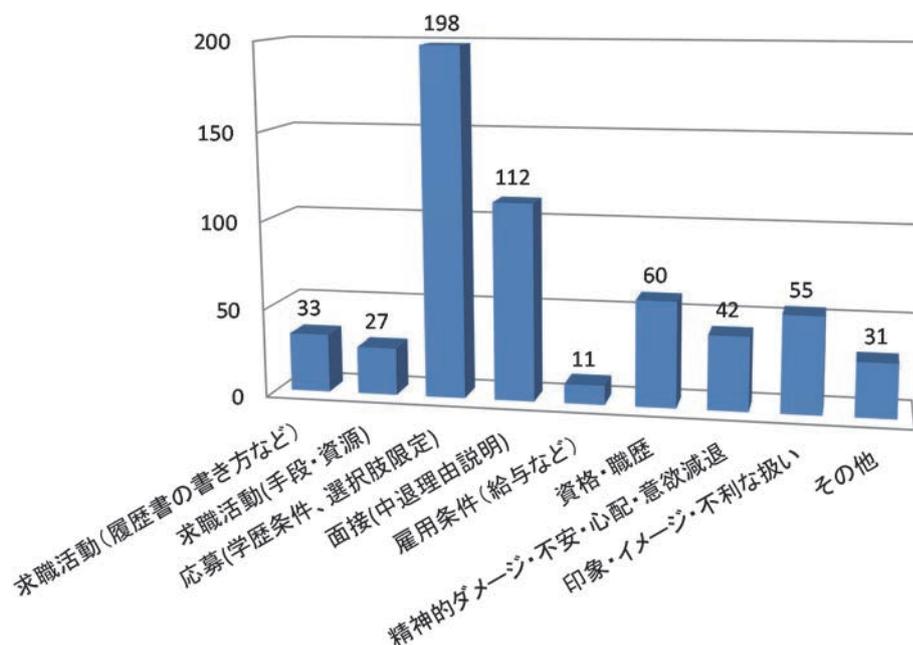
図表3-25 中退後の就職活動で困難・不利益を感じた経験の有無



では、つぎに中退者が経験する就職活動中の困難や不利益がどのようなものであるかについて、自由回答の内容を見ていこう。上記の経験のある有効回答数は、468名である。それらの記述をコーディングした結果、回答内容は以下のように分類された。なお、1つの記述に複数のテーマが出現する場合は、それぞれのコードについてカウントしている。

コメント数を見ると、応募（学歴条件、選択肢限定）（198件）に関する記述が最も多く、面接（中退理由説明）（112件）、資格・職歴（60件）、印象・イメージ・不利な扱い（55件）がそれに続いている（図表3-26）。具体的な記述内容は、その一部を以下に示している（詳細は付属資料の自由回答分類を参照）。

図表3-26 中退後の就職活動での困難・不利益（N=468）



「求職活動（履歴書の書き方など）」（33件）

【根本的にまず何をしたらよいか分からない。何が必要で、どんな職業があるのか、ハローワークに「就職したい」と突然行って大丈夫なのか、無からのスタートなので申し訳ないと思ったが、まず相談・話しが出来るところが欲しいと思った。】（男性／26歳／大学）

「求職活動（手段・資源）」（27件）

【なかなか正社員で働きたいと思えなかった事。アルバイトだけだと、なかなか就活する時間もお金もない事で、アルバイト生活から抜け出せない事。それにともない、正社員で働く事が少しずつ遠のいていくと感じた。なかなか、中退した理由を説明しづらく、理解されにくかった。】（男性／31歳／大学）

「応募（学歴条件、選択肢限定）」（198件）

【経験や能力があっても大卒ではない為、応募出来ない事があった。経緯を説明しても、中退を理由に不採用とされた。資格取得時に条件が不利で選択の幅が狭まる。書類審査を通過出来ない事が多い。】（男性／32歳／大学）

「面接（中退理由説明）」（112件）

【面接で、「なぜ大学を辞めたのか」から話が始まる。（中退後すぐの頃。社会経験がないからか）中退＝仕事もろくに続けられないのではという先方の思いが見てとれるような企業もあり、大学中退より高卒の方が就職に有利なのだと思います。中退の理由は経済的理由など人それぞれなのに、人の痛い所について、話を掘り下げる面接官もいるのが現状。】（女性／28歳／大学）

「雇用条件（給与など）」（11件）

【やはり学歴が無いので選べる仕事や給料が低い。】（男性／22歳／大学）

「資格・職歴」（60件）

【大金を支払って専門学校に行ったので、国家資格を取得して卒業すれば良かったと思う時がある。学校の選び方をもっとしっかり検討して決めれば良かったと思う。そうすれば、お金の無駄にもならなかったし、もっと自分自身の夢に対して遠回りしなかったと後悔している。】（女性／20歳／専門学校）

「精神的ダメージ・不安・心配・意欲減退」（42件）

【自宅ですごしていた時間が長く、生活サイクルも乱れていたため、規則正しい仕事につくことへの不安が大きいのが困った。学歴不問のアルバイトばかり目につくようになる。（正社員（フルタイムの仕事）を最初からあきらめる）】（女性／26歳／大学）

「印象・イメージ・不利な扱い」(55件)

【「大学を中退した」という世間でのイメージの悪さが想像以上に大きい。途中で投げ出したというイメージがあるようです。高校卒業後就職した方々より、学費をはじめ勉学等、より多く力を費したが、就職活動では高卒より下に見られる実感があります。】(男性/22歳/大学)

「その他」(31件)

【自分に合った仕事が見つけれられるか。働ける場所があるのか。】(男性/18歳/専門学校)

第5節 支援の利用状況

続いて支援の利用状況を整理するが、図表3-27には比較のため「ワークスタイル調査」の高等教育中退者の数値を示した。ところで「ハローワーク調査」はハローワークの利用者を対象としているが、「ワークスタイル調査」における高等教育中退者のうち2割程度がハローワークの利用経験があった。第1章の結果からすると都市部という特性を反映してか利用率は低い。図表3-28によれば、「ハローワーク調査」はすでに支援につながっている若者層が対象であることから、様々な公的支援の利用割合は全体として高い傾向が見られる。

図表3-27 公的支援の利用状況

		奨学金	減授業料免除・	失業手当	ヨロコブサポ	地域若者サポート	ジョブカフェ	体のまの職業訓練	生活保護	その他	たどこれとは活ないし	ハローワーク	N
男性	専門学校	35.4	1.5	13.8	6.2	4.6	4.6	1.5	0.0	46.2		65	
	短大・高専	21.1	0.0	36.8	21.1	15.8	26.3	0.0	0.0	26.3		19	
	大学	38.3	4.9	19.7	8.4	8.0	8.4	0.8	0.6	35.0		512	
	大学院	50.0	11.1	13.9	11.1	13.9	11.1	2.8	0.0	25.0		36	
	その他・無回答	50.0	3.6	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	32.1		28	
ワークスタイル調査	高等教育中退	37.8	1.4	8.1	2.7	1.4	1.4	0.0	0.0	41.9	23.0	74	
女性	専門学校	45.9	5.4	10.8	4.1	14.9	5.4	8.1	1.4	39.2		74	
	短大・高専	32.0	5.3	25.3	1.3	2.7	8.0	0.0	0.0	40.0		75	
	大学	40.2	5.2	26.6	1.7	7.4	14.4	1.7	1.7	31.9		229	
	大学院	41.7	8.3	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	25.0		12	
	その他・無回答	60.0	13.3	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	33.3		15	
ワークスタイル調査	高等教育中退	22.7	6.8	6.8	0	0	2.3	0	2.3	70.5	20.5	44	

より詳しく奨学金の利用割合をみると(図表3-28)、「ワークスタイル調査」と直接の比較は難しいが、「ハローワーク調査」の対象者は奨学金の利用割合がやや高いことがうかがえる。

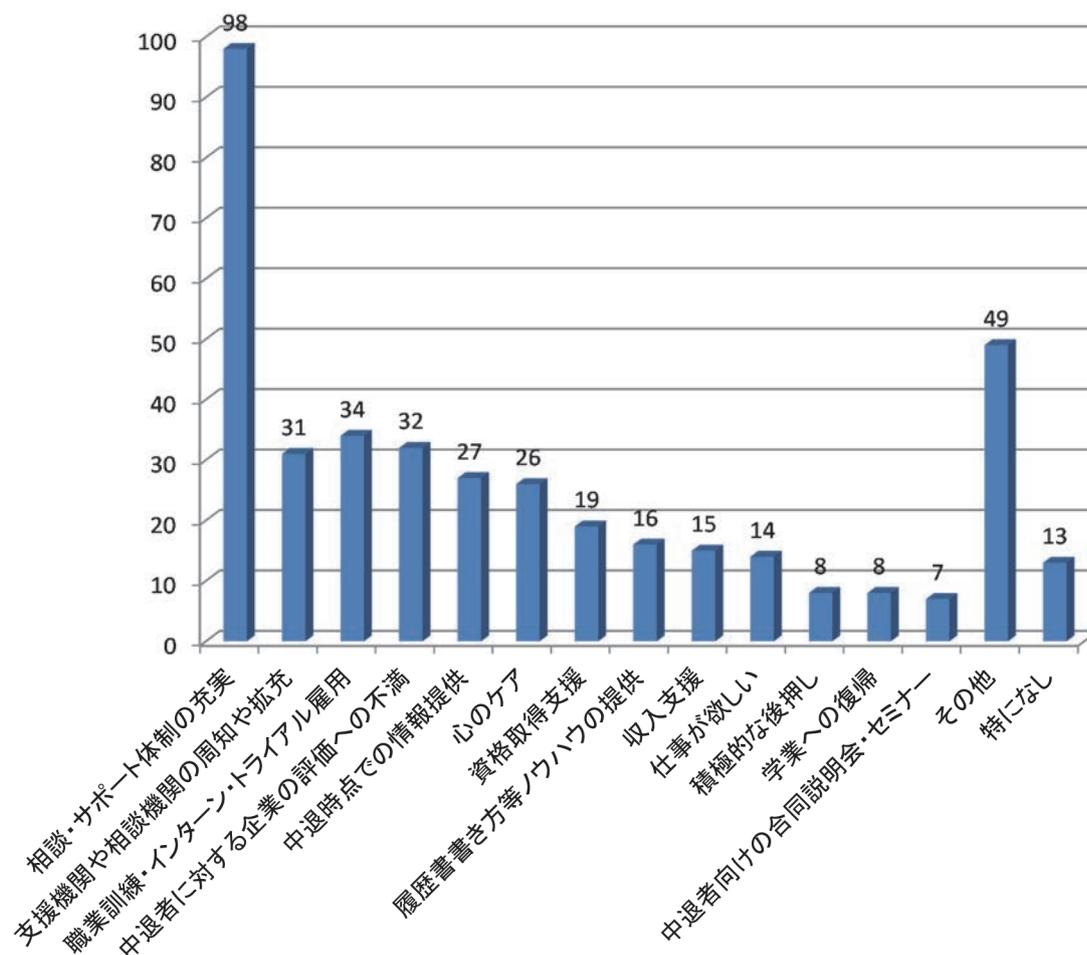
図表 3-28 奨学金の利用割合

		男性	女性
ワークスタイル調査	専門・短大・高専卒	16.7	23.7
	大学・大学院卒	27.6	31.7
	高等教育中退	37.8	22.7
ハローワーク調査	専門学校中退	35.4	43.0
	短大・高専中退	20.0	31.2
	大学中退	37.5	39.5
	大学院中退	48.6	41.7

自由記述から中退者からの就職支援への要望について探った（図表 3-29）。

「問 28 中退時や中退後の就職支援に対する要望について、自由にご記入下さい」という問いに対して、360 人の記述が寄せられた。その記述を複数回答としてコーディングしたところ、「相談・サポート体制の充実」98 件、「支援機関や相談機関の周知や拡充」31 件、「職業訓練・インターン・トライアル雇用」34 件、「中退者に対する企業の評価への不満」32 件、「中退時点での情報提供」27 件、「心のケア」26 件、「資格取得支援」19 件、「履歴書書き方等ノウハウの提供」16 件、「収入支援」15 件、「仕事が欲しい」14 件、「積極的な後押し」8 件、「学業への復帰」8 件、「中退者向けの合同説明会・セミナー」7 件、「その他」49 件、「特になし」が 13 件であった。代表的な記述を下記に挙げた（より詳しくは付属資料の自由回答分類を参照）。

図表 3-29 中退時や中退後の就職支援に対する要望について（自由記述を分類）



「相談・サポート体制の充実」

【中退する人の大半は自分が何をしたいのか、何が出来るのか、どうしたいのか、先が見えないのだと思います。不安であるけど心のどこかで「どうにかなる」だろうと考えている人もいるでしょう。なので先の事、今後の事をはっきりさせる事が大事だと思います。それが出来るマンツーマンでの相談を増やした方が良いのかもしれない。】（25歳・男性）

「支援機関や相談機関の周知や拡充」

【自分は専門学校を中退してから、就活の知識がゼロのまま、とりあえずまずはハローワークに行こうと思い立って行きました。ハローワークに行って初めて若年者サポートコーナーというものがあることを知りました。就活についてすごく悩みましたが、若年者サポートコーナーの担当者の方が自分の話をちゃんと聞いてアドバイスして頂けたのですごく助かりました。なので学校を中退された方で、これから初めて就活をする人に向けて、ハローワークには若者向けにどのような事業があるのか、行政としてはどのような事業があるとか、もっと分かりやすくしてくれるといいなと思います。】（23歳・女性）

「職業訓練・インターン・トライアル雇用」

【大学と連携をとることで、中退をした人々へ様々な就活方法をまとめた資料（職業訓練のパンフレット等）が送られると良いと思います。その後の道がわからずに何も出来ないでいる人が少しは減るのではないのでしょうか。】（28歳・男性）

「中退者に対する企業の評価への不満」

【応募資格に学歴をもとめる場合は、理由を明記してほしい。仕事によっては、なぜ大卒以上でなければならないのか理解出来ないし、企業も明確な理由でない場合もあると思う。】（24歳・男性）

「中退時点での情報提供」

【中退する人間は大抵就職活動に手を付けておらず、アルバイトか職なしが多いのでは？手続き等あっさり終わった記憶があるので、各大学が中退時の就職支援組織への紹介ぐらいいはあってもよかったと思う。】（30歳・男性）

「心のケア」

【中退者には繊細な人が多いと思うので、心のケアや社会復帰しやすい環境を作るべきだと思う。（ハローワークとサポートステーションを連携して支援）】（27歳・男性）

「資格取得支援」

【中退後、他の学校への進学を目指さない場合、資格等を取得し中退の穴埋めをしていくしかないかと思っている。】（25歳・男性）

「履歴書書き方等就職活動ノウハウの提供」

【中退後は履歴書の書き方・職務経歴書の作り方などを教えて頂けるとありがたいです。経歴は人それぞれなのでその人にあった書き方を一緒に見てもらえるとよいです。また、担当される方によっていい方・やり方・アドバイスも違うので、学校中退して初めてハローワークにくる方は担当制にされたらよいのではないかと思います。私は転職する時いろんな人とあたり、良い人もいれば悪い事しかいわない人もいて、どのアドバイスを信じればよいかわからない時がありました。今は同じ人に担当して頂き、相談しやすいですし、理解して頂けるので担当制にしてよかったので。】（28歳・女性）

「収入支援」

【学校を退学してしまったのは自分なのですが、お金がかかる事が割とあるので、バイトが忙しくあまり就職活動が満足にできていない。】（20歳・女性）

「仕事が欲しい」

【大学を中退した人でも積極的に採用して下さる企業が増えればいいなと思います。】(25歳・男性)

「積極的な後押し」

【積極的に案内をして欲しい。そもそも相談者は知らない事の方が多いと思うので(実際、私は中退当時、職業訓練という物がある事すら知らなかった)良いサポートがあるのであれば積極的に提示して頂けると助かる。】(31歳・女性)

「学業への復帰」

【私は薬学部の4年生分の単位はあります。7年目の在籍で中退となりましたが、大学に短大の設定がなく、大卒はもちろん短大卒の資格も得られず、高卒の学歴というのがなんとかならないのかなぁと思います。】(25歳・女性)

「中退者向けの合同説明会・セミナー」

【卒業する人にはいろいろなセミナーが用意されているのに、中退者には何にもないので、中退者向けの就職説明会や進学セミナーなどのサービスが欲しい。】(37歳・男性)

「その他」

【自営や独立に向けて相談しやすい機関が増えると良いと思います。】(22歳・男性)

「特になし」

【特にないです。窓口で相談に乗ってもらえるので大変助かっています。】(21歳・女性)

第6節 まとめ

本章では主として中退後の就職活動について分析した。明らかになったのは次の点である。

- ① ハローワークに来る中退者の場合、半数以上が就職活動に専念している。中退してからこれまで行ってきた活動内容は、正社員のための求職活動が中心であり、並行して正社員以外の求職活動や資格取得、他の学校へ入学するための勉強などが行われていた。
- ② 中退から就職活動を始めるまでの期間については、中退する前から就職活動をはじめた割合は18.4%、3ヶ月未満が35.8%であったが、中退してから6ヶ月以降に就職活動を始めた割合も3分の1を占めていた。また就職活動までの期間と中退理由との関連をみると、「進路変更」の場合には中退前が4分の1以上を占めるが、ほかの類型では低く、また病気やケガなどが中退理由の場合には就職活動の開始がかなり遅れていた。
- ③ ハローワークの利用を思い立つ時期は、中退以前から中退後1年未満がおよそ半数である。ハローワークを利用しようと思った時期と就職活動をはじめるとの時期はおおむね一致して

おり、ハローワークを利用しようとしている層においてはハローワークが就職のための最初的手段として意識されている。

- ④ ハローワークを利用したきっかけは「親」という回答が最も高い。サンプルサイズは小さいが、「学校」がきっかけの場合には中退する前という回答が多く、中退する前にハローワークにつながるには「学校」が重要な役割を果たす可能性がある。
- ⑤ 中退した直後にしたいと思っていたことについては、半数が正社員就職を希望していたが、中退後に正社員のための就職活動をした割合は3割にすぎなかった。また希望と実際の行動が異なる行動として、在学中から行っていたアルバイトを継続したり、アルバイトを探す割合が高いことが見出された。
- ⑥ これまでの就業経験は、非典型一貫が6割弱を占め、正社員と非正社員を両方経験が4分の1、働いた経験がないが1割、正社員のみ経験という割合は5%に満たなかった。若い世代では働いた経験がない者の割合が高く、年齢の上昇にともなって就業経験者が増加するものの、20代後半になっても男性では1割強が就業経験を持っていなかった。中退理由による違いとしては、「進路変更」では比較的安定した就業経験となっているが、病気やケガの場合には不安定な就業経験となっていた。
- ⑦ 支援の利用状況については、調査対象者がハローワーク利用者であるため、様々な公的支援を利用する割合が他の調査よりも高い割合が見られた。ハローワークにつながれば、ハローワークを起点として支援につながっていく可能性がある。
- ⑧ 中退者支援への希望や要望に関する自由記述においては、「相談・サポート体制の充実」、「支援機関や相談機関の周知や拡充」、「職業訓練・インターン・トライアル雇用」、「中退者に対する企業の評価への不満」、「中退時点での情報提供」、「心のケア」、「資格取得支援」、「履歴書書き方等ノウハウの提供」、「収入支援」、「仕事が欲しい」、「積極的な後押し」、「学業への復帰」、「中退者向けの合同説明会・セミナー」、などが寄せられた。特に中退前に学校から情報提供をしてもらいたかったという要望や、中退後に何をしたら良いのか分かるような情報が強く求められていた。

第4章 サポステに來所した中途退学者の実態：支援者への量的調査から

第1節 はじめに

本章の目的は、地域若者サポートステーション（以下、サポステ）の利用者に関する調査をもとに、サポステに來所する中途退学者（以下、中退者）の特徴を多角的に明らかにすることである。

同調査は、ある期間におけるサポステ來所者全体を対象とするものであるが、本章では特に中退者に着目した分析をおこなう。具体的には、サポステに來所する中退者は、①いつ、どのような経路をたどり、サポステに來所し、その後どのような状況にあるのか、②新規登録時の状態（生活習慣や意識、進路決定に向けた状況（困難度）のレベル¹など）はどうか、③過去にどのような経験をしてきたのかなどについて分析する。なお、利用者のレベル別の特徴は、補論で分析した。

以下、それらの点について、順に分析を進める。サポステ調査の概要は、下記のとおりである。

● 使用するデータ

調査実施機関：若者自立支援中央センター

調査期間：2014年2月～3月

調査対象：全国のサポステにおける支援者に調査票を配布し、2012年10月～12月に新規登録をしたすべてのサポステ利用者について回答していただいた。回収票数は6,625票である。なお、分析では、中学・高校在学中の者などを除き、サポステ利用対象者である15歳～39歳の若年者を主対象とした。そのため、分析対象者数は、5,625名である。

第2節 サポステ利用者の基礎情報

まず、サポステ利用者の基礎情報として、新規登録時の年齢、利用の経緯、進路決定状況と直近（調査時点）の状況について見ていこう。

1. 新規登録時の年齢

図表4-1より、利用者の新規登録時の年齢について、学歴別に見てみると、高校中退者では、10代後半で來所する割合が34.7%と最も高く、20代後半までで8割以上を占めている。他方、専門学校・短大・高専中退者の場合、20代前半での來所が38.8%、大学中退者の場合、20代後半での來所が38.2%と最も高くなっている。大学中退者の場合、中退直後だと

¹ レベルのイメージについては、補論を参照されたい。

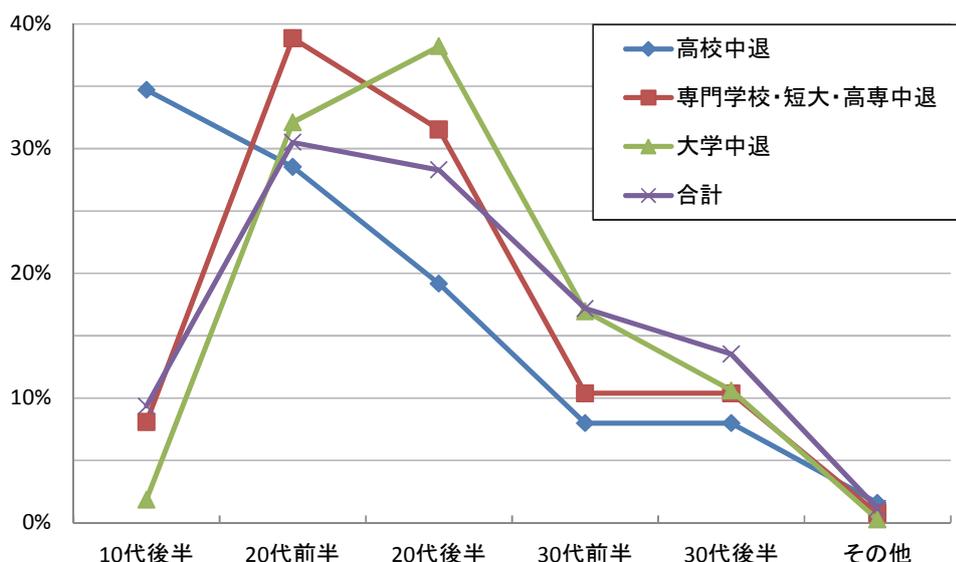
考えられる 20 代前半からサポステ来所までに数年程度のブランクがある者が多くいるのかもしれない。

また、例えば、高卒者と高校中退者など、同レベルの教育段階内で比較してみると、卒業者よりも中退者のほうが、年齢的に早い時期に来所する人の割合が高いことがわかる。

図表 4 - 1 利用者の年齢構成² (図は中退者のみ)

	10代後半	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	その他	合計	
							%	N
中卒	35.8	20.9	17.7	9.8	13.9	1.9	100.0	316
高校中退	34.7	28.5	19.2	8.0	8.0	1.6	100.0	438
高卒	10.8	31.7	23.1	15.9	16.9	1.6	100.0	1,333
高等教育在学中	14.5	73.8	9.4	1.6	0.8	0.0	100.0	385
専門学校・短大・高専中退	8.1	38.8	31.5	10.4	10.4	0.8	100.0	260
専門学校・短大・高専卒業	1.3	24.6	31.3	22.9	18.3	1.6	100.0	837
大学中退	1.9	32.1	38.2	17.0	10.6	0.3	100.0	377
大卒	0.1	23.7	37.7	23.8	14.1	0.7	100.0	1,416
大学院	0.0	15.7	42.6	28.7	11.1	1.9	100.0	108
合計	9.4	30.5	28.3	17.2	13.5	1.1	100.0	5,588

注：年齢・無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



2. 利用の経緯

つぎに、図表 4 - 2 より、サポステ利用の経緯について見てみると、高校中退者の場合、「ハローワーク (HW) 以外の機関の紹介」(36.6%)、「家族や知人の紹介」(23.0%)が多く、「学校からの紹介」も 8%程度見られる。他方、高等教育中退者(専門学校・短大・高専中退者および大学中退者)の場合、「HW 以外の機関の紹介」は 2割前後見られるが、「学校からの紹介」はほとんどなく、かわりに「家族や知人の紹介」、「サポステのチラシや HP で」の割合が高くなっている。また、図表は掲載していないが、男女で比較すると、男性のほう

² 12歳(高校・中退)が1名、14歳(学歴・無回答)が1名いたが、誤答の可能性が高いため、分析から除外した。

が「家族や知人の紹介」が、女性のほうが「サポステのチラシやHPで」や「その他」が多くなっている。

図表 4-2 利用の経緯

	ハローワークからの紹介	HW以外の機関の紹介 (医療福祉を含む)	学校からの紹介	家族や知人の紹介	サポステのチラシやHPで	その他	合計	
							%	N
中卒	7.9	40.0	5.2	20.3	14.4	12.1	100.0	305
高校中退	7.2	36.6	7.7	23.0	16.5	9.1	100.0	418
高卒	14.3	21.4	5.7	18.5	26.0	14.1	100.0	1,280
高等教育在学中	6.8	12.7	29.7	15.1	25.9	9.7	100.0	370
専門・短大・高専中退	9.7	25.1	1.6	25.5	26.7	11.3	100.0	247
専門・短大・高専卒業	17.3	17.0	1.0	15.1	34.2	15.4	100.0	813
大学中退	10.4	19.3	0.5	28.9	28.3	12.5	100.0	367
大卒	19.4	15.2	1.1	15.5	35.6	13.1	100.0	1,355
大学院	18.3	12.5	5.8	13.5	34.6	15.4	100.0	104
合計	14.1	20.6	5.0	18.4	28.7	13.2	100.0	5,378

注：利用経緯の無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

3. 進路決定状況

他方、図表 4-3 より、進路決定状況について見てみると、高校中退者の場合、「進学」(6.7%)や「他機関へのリファー」(10.2%)、「進路未決定(利用中)」(18.2%)などが、全体の割合よりも高くなっている。専門・短大・高専中退者の場合でも、「他機関へのリファー」(12.4%)や「進路未決定」(16.7%)、「その他」(4.0%)が全体よりも高く、大学中退の場合、「職業訓練」(5.4%)や「他機関へのリファー」(8.8%)、「利用中断」(29.5%)が高くなっている。

「就職」者については、どの教育段階でも、卒業者と比較して、中退者で低い割合となっている。

図表 4-3 進路決定状況

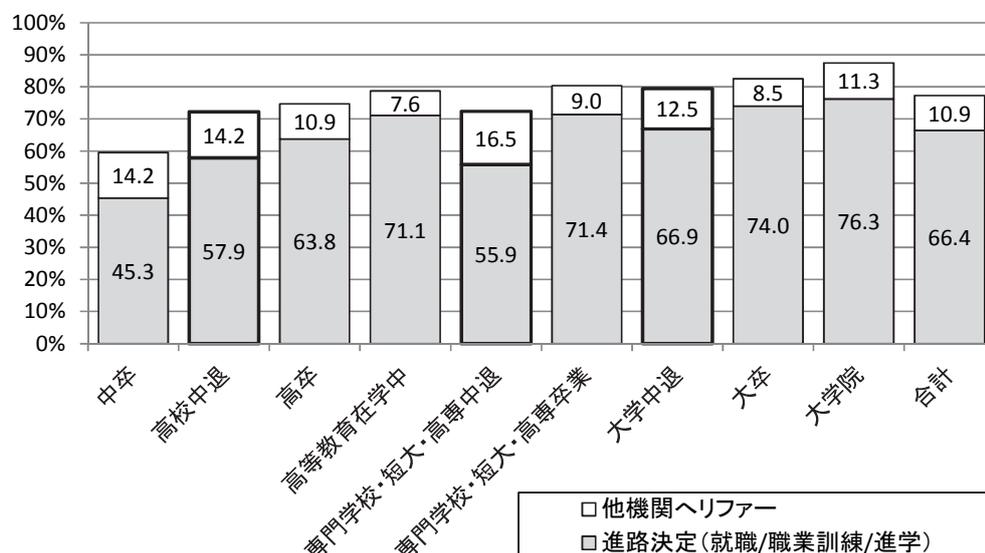
	就職	職業訓練	進学	他機関へ リファー	利用中断	その他	進路未決定 (利用中)	合計	
								%	N
中卒	27.8	2.3	2.9	10.4	27.2	2.3	27.2	100.0	309
高校中退	30.5	4.2	6.7	10.2	28.6	1.6	18.2	100.0	433
高卒	40.5	4.4	1.3	7.9	27.5	4.2	14.1	100.0	1,298
高等教育在学中	39.6	1.6	6.1	5.1	33.4	4.3	9.9	100.0	374
専門・短大・高専中退	37.8	2.8	1.2	12.4	25.1	4.0	16.7	100.0	251
専門・短大・高専卒業	48.9	4.5	0.2	6.7	24.9	3.4	11.3	100.0	830
大学中退	39.9	5.4	1.9	8.8	29.5	2.7	11.8	100.0	373
大卒	47.5	4.7	0.7	6.1	28.5	2.5	10.0	100.0	1,384
大学院	52.8	3.8	0.9	8.5	24.5	0.9	8.5	100.0	106
合計	41.9	4.1	1.8	7.9	28.0	3.1	13.2	100.0	5,480

注：進路決定状況の無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

また、サポステ利用中断者を除いて、進路決定(就職/職業訓練/進学)率を算出した場合、その進路決定率は、高校中退者で57.9%、専門学校・短大・高専中退者で55.9%、大学中退者で66.9%となっている(図表 4-4)。これを見ても、中退者の進路決定率は、中卒

者よりも高くなっているが、それ以外の層と比べると、低い割合であることがわかる。特に専門学校・短大・高専で、中退者と卒業生間での進路決定率の差が大きい。

図表 4-4 利用中断を除く進路決定率



4. 直近の状況

さらに、直近（調査時点）の状況について見てみると、中退者層では、「就労」の割合は全体よりも若干低くなっている。また、特に高校中退者、大学中退者で「無業」の割合が高くなっている（図表 4-5）。ただし、どの学歴層でも「(サポステでは) 把握していない」が多い。

図表 4-5 直近の状況

	就労	職業訓練	就学	無業	把握して いない	その他	合計		「把握して いない」を除いた、就 労、職業訓練、 就学の割合(%)
							%	N	
中卒	19.3	2.9	4.6	25.8	40.8	6.5	100.0	306	45.3
高校中退	26.0	1.2	5.0	22.9	41.4	3.6	100.0	420	54.9
高卒	28.8	1.9	1.9	15.1	48.5	3.8	100.0	1,270	63.3
高等教育在学中	22.7	1.1	8.8	7.7	54.0	5.8	100.0	365	70.8
専門・短大・高専中退	26.0	2.1	1.2	15.3	49.2	6.2	100.0	242	57.7
専門・短大・高専卒業	33.2	1.6	0.3	14.0	48.6	2.4	100.0	799	68.1
大学中退	28.5	1.7	1.4	19.3	45.3	3.9	100.0	358	57.7
大卒	31.9	1.7	0.4	14.4	48.3	3.3	100.0	1,355	65.8
大学院	39.0	2.0	1.0	13.0	41.0	4.0	100.0	100	71.2
合計	28.9	1.7	2.2	15.7	47.7	3.8	100.0	5,327	62.7

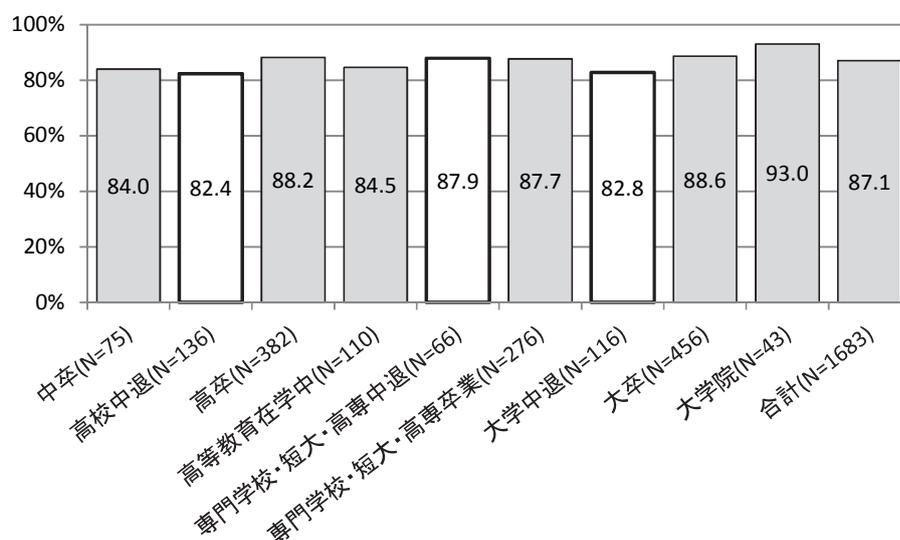
注：直近の状況の無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

そのため、「(サポステでは) 把握していない」場合を除いて、直近の進路決定（就労／職業訓練／就学）割合を算出した結果もあわせて図表 4-5 に掲載している。これを見ると、

どの教育段階でも、中退者層に占める就労／職業訓練／就学者の割合は5割台となっており、それ以外の層と比較して、低い値となっている。具体的には、高校中退者の54.9%、専門学校・短大・高専中退者および大学中退者の57.7%が、直近の状況において、就労、職業訓練あるいは就学の状況にある。ただし、先述したように、進路決定状況において、中退者層の進路決定率は低い傾向にあったことを考えると、いったん進路が決定した後は調査時点（直近）まで継続して就労等の状態にある者は少なくはないと推察される。

そこで、進路決定状況と直近（調査時点）の状況との組み合わせから、進路決定（就職／職業訓練／進学）者のうち、直近の状況においても継続して就労／職業訓練／就学の状態にある者の割合（以下、進路決定継続率とする）がどの程度であるのかについて、検討する。学歴別の進路決定継続率は、図表4-6に示したとおりである³。ここに見られるように、卒業生でも中退者でも、進路決定継続率は総じて高く、8割以上に及んでいる。高校中退者、大学中退者で進路決定継続率は若干低い、専門学校・短大・高専中退者では同教育段階卒業生とほぼ同等であり、一度就労などの進路決定がなされた場合、中退か否かに関わりなく、それが継続される傾向があることが確認された。

図表4-6 進路決定継続率



第3節 新規登録時の本人の状況と新規登録時のレベルの診断

つづいて、新規登録時の本人の状況と新規登録時の進路決定に向けた状況（困難度）のレベルについて見よう。

³ ただし、直近の状況が「把握していない」者は除いた比率。

1. 新規登録時の本人の状況

まず、図表4-7より、新規登録時の本人の状況について見てみると、多くの項目で、中退者層では課題がある者の割合が高いことがわかる。特に生活面(生活リズムが不規則など)とコミュニケーション面(集団に対する苦手意識が強いなど)で、卒業者と中退者の差が大きい。高校中退に関してこれまでも指摘されてきたことであるが、中退の背景には、生活リズムや人間関係の問題が大きく関係していることが、ここから考えられる。また、これは高校中退だけでなく、高等教育中退の場合にも同様に当てはまる問題ではないかと推察される。

図表4-7 新規登録時の本人の状況（インテイク時の担当者記入のみ）

	生活				コミュニケーション				N
	生活リズムが不規則(昼夜逆転など)	時間を守ることができない	ほとんど外出することがない	就職活動をするだけの体力がない	相手を見て話せない	声が小さく聞き取りづらい	聞かれたことに対して、適切な受け答えができない	集団に対する苦手意識が強い(セミナー等の集まりに参加するのを怖がるなど)	
中卒	41.3	17.5	35.6	26.3	21.9	23.8	25.6	48.1	160
高校中退	42.9	18.4	31.6	20.4	15.3	22.4	13.3	39.8	196
高卒	24.5	9.5	22.8	14.3	18.3	17.1	19.6	34.1	601
高等教育在学中	15.8	7.3	18.8	10.9	14.5	14.5	16.4	42.4	165
専門・短大・高専中退	35.2	16.6	26.9	18.6	20.0	19.3	21.4	37.9	145
専門・短大・高専卒業	16.3	6.2	15.0	7.0	14.7	12.4	18.3	26.4	387
大学中退	30.1	14.1	27.0	19.0	17.8	21.5	19.6	37.4	163
大卒	18.1	5.1	14.3	12.6	10.2	10.5	11.5	24.8	609
大学院	16.4	5.5	10.9	10.9	7.3	10.9	12.7	18.2	55
合計	24.2	9.5	20.9	14.4	15.3	15.7	17.1	32.6	2,522

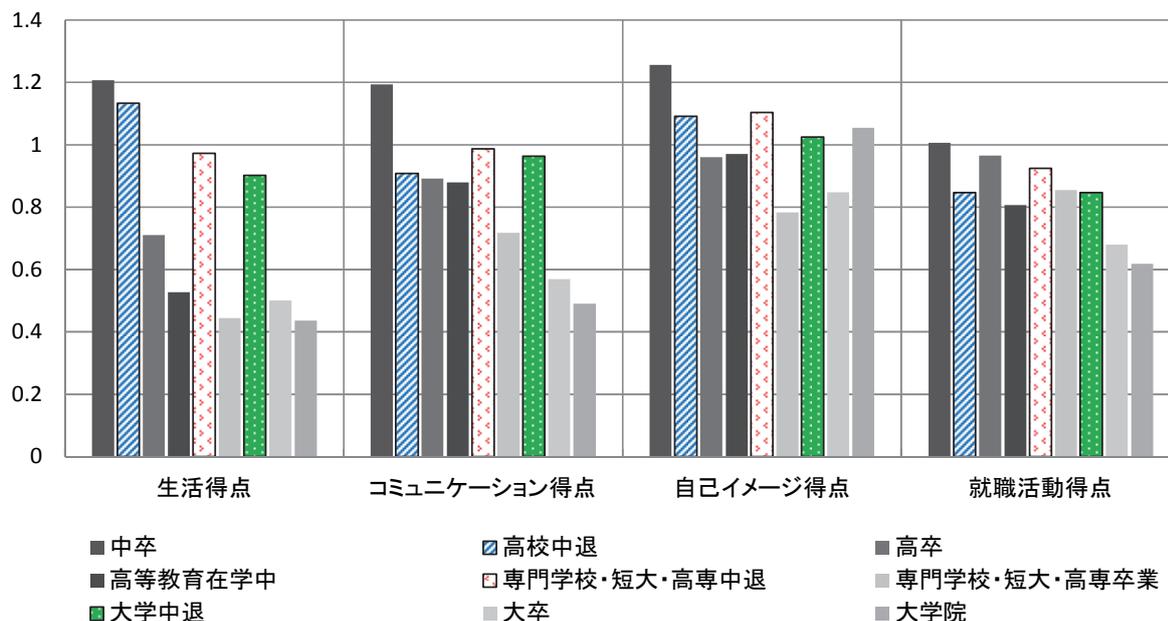
	自己イメージ				就職活動				基礎的な読み書き計算ができない	N
	自己否定的感情が強い(「自分に何かができるとは思えない」など)	進路に限らず、自分で選択することができない	働いている自分がイメージできない	仕事への偏った見方にこだわる(「事務職はしゃべらなくてもいい」など)	相談や応募先の求人選択をすることができない	求職活動をしようと思っていればよいかわからない	履歴書をまとめることができない(経歴や経験の説明ができない)	就職活動の失敗理由がわからない(考えられない、受け入れられないなど)		
中卒	43.1	35.0	31.3	16.3	26.3	36.9	30.0	7.5	11.3	160
高校中退	40.3	27.6	24.0	17.3	26.0	29.1	18.9	10.7	5.1	196
高卒	35.1	22.3	20.6	18.0	26.5	32.1	23.1	14.8	5.0	601
高等教育在学中	30.3	23.6	31.5	11.5	18.8	33.3	22.4	6.1	1.2	165
専門・短大・高専中退	34.5	31.7	22.1	22.1	22.1	37.9	21.4	11.0	5.5	145
専門・短大・高専卒業	28.2	15.2	15.5	19.4	20.9	30.2	18.9	15.5	1.6	387
大学中退	37.4	19.0	21.5	24.5	22.1	30.1	19.6	12.9	1.2	163
大卒	31.9	16.1	16.4	20.4	17.6	25.1	14.0	11.3	0.8	609
大学院	36.4	23.6	23.6	21.8	18.2	16.4	14.5	12.7	0.0	55
合計	34.0	21.3	20.6	18.9	22.0	30.1	19.7	12.3	3.3	2,522

注：インテイク時の担当者による回答のみを分析した。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

また、図表4-7の項目を「生活」、「コミュニケーション」、「自己イメージ」、「就職活動」の4つのカテゴリーにわけ、それぞれの平均値を算出しグラフ化したものが図表4-8である。得点は各4点満点であり、得点が高いほうが課題の多いことを意味する。これを見ると、就職活動以外の3側面、特に生活面での得点において、中退者層の平均値とそれ以外の層との差が大きくなっている。

さらに、中退者間で平均値を比較すると、生活面に関しては、高校中退者が最も高く、コミュニケーションや自己イメージに関しては、高等教育中退者、特に専門学校・短大・高専中退者で高くなっており、それらの層でそれぞれの側面での課題が大きいことがうかがえる。

図表 4-8 新規登録時の本人の状況（平均値）（インテイク時の担当者記入のみ）

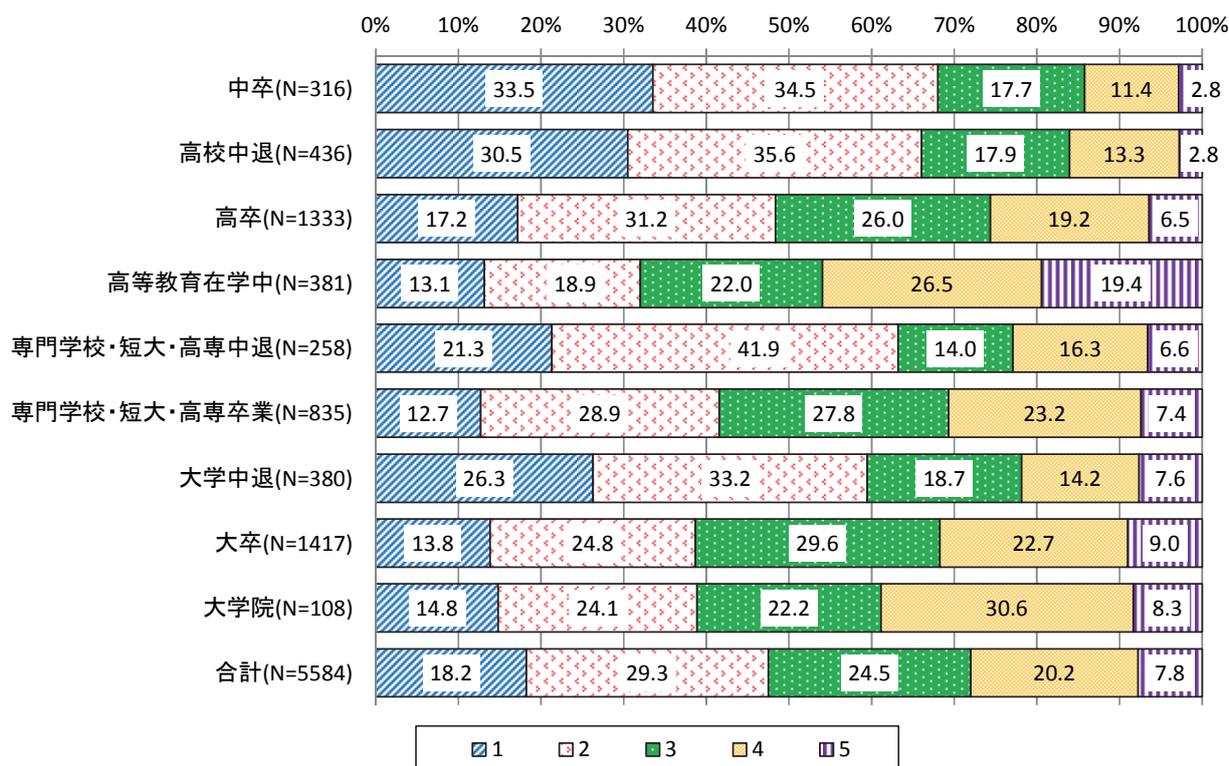


2. 新規登録時のレベル

つぎに、新規登録時の進路決定に向けた状況（困難度）のレベルについて検討しよう。レベルは1から5までとなっており、5に近いほうが就職や進路決定に近いことを示す。

学歴別にレベル構成を見てみると（図表4-9）、中退者層でレベル1あるいは2に該当する者の割合が6割前後と、かなり高くなっている。具体的には、高校中退者の66.1%、専門学校・短大・高専中退者の63.2%、大学中退者の59.5%が、レベル1あるいは2に該当している。中退者層には、就職や進路決定に達するまでには課題があり、時間を要すると判断された者が、他と比較すると、多く含まれていることがわかる。

図表 4-9 新規登録時のレベル構成



第4節 新規登録時の諸状況

最後に、新規登録時の諸状況、具体的には過去の就労経験、直近（登録以前）の無業期間、過去の学校、職場、家族・家庭での経験や疾病・障害の有無について、順に見ていこう。

1. 過去の就労経験

学歴別に過去の就労経験について示したのが、図表4-10である。なお、過去の就労経験は、「1年以上の正社員経験」と「非正規雇用経験」の有無の組み合わせから、「正規・非正規経験あり」、「正規のみ経験あり」、「非正規のみ経験あり」、「正規・非正規経験なし」の4カテゴリーに分類した。これを見ると、中退者層では、正規雇用経験ありの者が卒業者と比較してかなり少なく、非正規雇用の経験のみか、正規・非正規雇用どちらの経験もない者の割合が高くなっている。ただし、中退者間で比較すると、高校中退者で就労経験なしの割合が高く、大学中退者で正規雇用経験の割合が高い傾向が見られる。

図表 4-10 過去の就労経験

	正規・非正	正規のみ経	非正規のみ	正規・非正	合計	
	規経験あり	験あり	験あり	規経験なし	%	N
中卒	9.1	0.4	41.3	49.1	100.0	230
高校中退	4.8	0.6	55.5	39.1	100.0	330
高卒	21.4	5.6	51.8	21.3	100.0	960
高等教育在学中	1.9	0.4	42.6	55.0	100.0	258
専門・短大・高専中退	7.6	1.4	63.0	28.0	100.0	211
専門・短大・高専卒業	27.8	6.5	54.6	11.1	100.0	615
大学中退	6.6	4.2	66.8	22.5	100.0	289
大卒	24.1	8.9	51.9	15.0	100.0	1,057
大学院	14.3	4.8	54.8	26.2	100.0	84
合計	17.9	5.2	52.9	24.0	100.0	4,092

注：過去の就労経験の無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

2. 直近（新規登録以前）の無業期間

つぎに、直近（新規登録以前）の無業期間について見てみると（図表 4-11）、中退者と同レベルの教育段階での卒業者で無業期間が「なし」の割合はそれほど大きく違ってはいない。しかし、中退者では、それ以外の層と比較して、無業期間が3年よりも長くなっている者の割合が高い。過去の就労経験の結果と合わせて考えると、中退直後にサポステに来所した場合を除いては、中退直後からサポステ来所までに、何らかの就労経験を持たず、長年無業のままとなっていた者が、中退者には多いのかもしれない。

図表 4-11 直近の無業期間

	なし(就労な	半年未満	半年～1年	1年～2年	3年～5年	5年以上	合計	
	ど)						%	N
中卒	19.9	20.6	9.9	15.2	9.2	25.2	100.0	282
高校中退	17.4	23.0	15.0	11.8	12.6	20.3	100.0	374
高卒	18.6	27.8	17.0	13.5	9.2	14.0	100.0	1,135
高等教育在学中	76.9	9.7	4.7	3.1	1.2	4.4	100.0	321
専門・短大・高専中退	20.7	30.0	13.1	11.4	9.7	15.2	100.0	237
専門・短大・高専卒業	20.1	30.1	16.1	13.9	8.3	11.5	100.0	747
大学中退	19.4	21.5	14.1	14.1	11.8	19.1	100.0	340
大卒	23.6	27.3	17.3	13.9	8.1	9.8	100.0	1,240
大学院	28.7	18.1	13.8	8.5	13.8	17.0	100.0	94
合計	24.5	25.4	15.0	12.8	8.7	13.5	100.0	4,836

注：直近の無業期間の無回答は分析から除いた。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

3. 学校、職場、家族・家庭での経験、疾病・障害の有無

そして最後に、図表 4-12 より、過去の諸経験や疾病・障害の有無について検討する。

はじめに学校での経験について見てみると、不登校経験や進級に関わる成績不振など、学校でネガティブな経験をしたことのある中退者の割合がかなり高いことがわかる。特に高校中退者に占める不登校経験の割合は 66.3%と、7割近くとなっている。また、専門学校・短

大・高専中退者に占めるいじめ経験の割合も41.4%と高い。これまでの学校生活を通じたネガティブな経験の蓄積により、学校環境への適応が困難となっている層が、中退者の中には少なくない割合でいるのかもしれない。

家族、家庭での経験に関しても、中退者層で高い割合となる項目が多くなっている。特に高校中退者での「家庭内の不和」(34.7%)、「親との離死別」(21.4%)、「貧困」(16.3%)、専門学校・短大・高専中退者での「親の過干渉」(26.9%)の割合が他と比べて高い傾向が見られる。ただし、大学中退者では、家族、家庭での経験に関しては、それほど問題が指摘された者の割合は高いとはいえない。

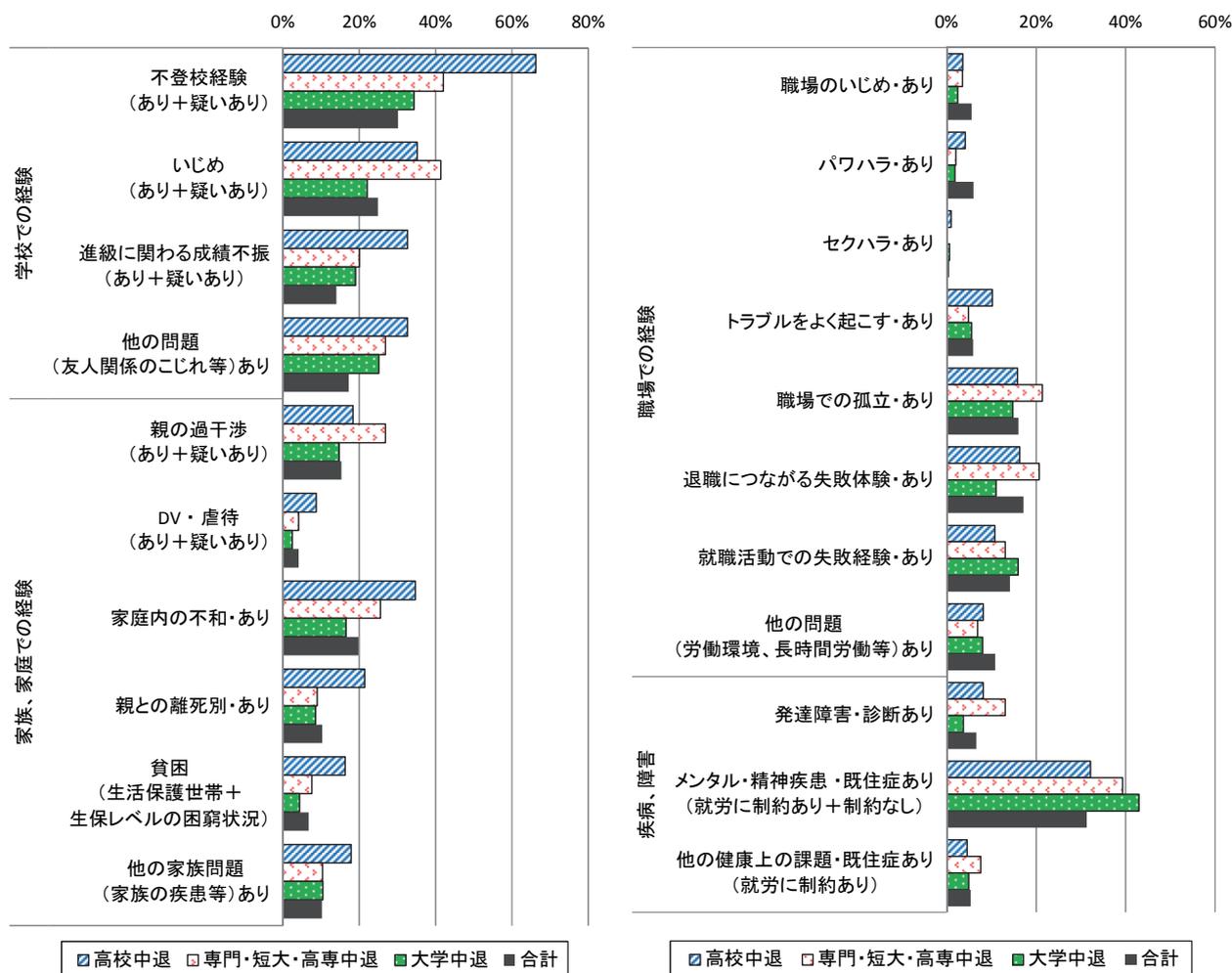
図表4-12 学校、職場、家族・家庭での経験、疾病・障害

(インタビュー時の担当者記入のみ、図は中退者のみ)

	学校での経験				家族、家庭での経験						N
	不登校経験 (あり+疑いあり)	いじめ (あり+疑いあり)	進級に関わる成績不振 (あり+疑いあり)	他の問題 (友人関係のこじれ等)あり	親の過干渉 (あり+疑いあり)	DV・虐待 (あり+疑いあり)	家庭内の不和・あり	親との離死別・あり	貧困 (生活保護世帯+生保レベルの困窮状況)	他の家族問題 (家族の疾患等)あり	
中卒	68.1	46.9	33.1	30.0	17.5	11.9	34.4	25.6	23.8	16.9	160
高校中退	66.3	35.2	32.7	32.7	18.4	8.7	34.7	21.4	16.3	17.9	196
高卒	31.6	27.0	15.3	14.8	15.0	4.7	19.8	12.1	9.8	11.1	601
高等教育在学中	37.0	26.7	15.8	19.4	17.6	2.4	12.7	6.7	1.2	7.9	165
専門・短大・高専中退	42.1	41.4	20.0	26.9	26.9	4.1	25.5	9.0	7.6	10.3	145
専門・短大・高専卒業	17.6	24.3	6.5	14.2	12.7	2.8	14.5	6.7	2.3	8.8	387
大学中退	34.4	22.1	19.0	25.2	14.7	2.5	16.6	8.6	4.3	10.4	163
大卒	11.7	12.2	3.9	8.5	11.8	1.6	15.9	5.7	0.8	6.4	609
大学院	7.3	5.5	5.5	9.1	21.8	3.6	14.5	5.5	3.6	9.1	55
合計	30.1	24.9	14.0	17.2	15.3	4.1	19.7	10.3	6.7	10.2	2,522

	職場での経験							疾病、障害			N	
	職場のいじめ・あり	パワハラ・あり	セクハラ・あり	トラブルをよく起こす・あり	職場での孤立・あり	退職につながる失敗体験・あり	就職活動での失敗経験・あり	他の問題 (労働環境、長時間労働等)あり	発達障害・診断あり	メンタル・精神疾患・既往あり (就労に制約あり+制約なし)		他の健康上の課題・既往あり (就労に制約あり)
中卒	3.8	1.9	0.6	3.8	6.3	5.6	8.8	6.9	8.8	26.9	6.3	160
高校中退	3.6	4.1	1.0	10.2	15.8	16.3	10.7	8.2	8.2	32.1	4.6	196
高卒	7.8	6.8	0.7	6.2	16.1	22.3	14.3	10.3	6.7	30.3	6.2	601
高等教育在学中	0.6	1.2	0.0	1.2	3.0	5.5	5.5	0.6	11.5	28.5	2.4	165
専門・短大・高専中退	3.4	2.1	0.0	4.8	21.4	20.7	13.1	6.9	13.1	39.3	7.6	145
専門・短大・高専卒業	7.0	9.6	1.0	7.0	19.6	22.5	17.1	17.6	4.9	26.4	6.2	387
大学中退	2.5	1.8	0.6	5.5	14.7	11.0	16.0	8.0	3.7	42.9	4.9	163
大卒	5.7	8.2	0.2	5.7	18.9	16.4	17.2	13.1	5.3	32.0	3.9	609
大学院	3.6	1.8	0.0	5.5	20.0	12.7	10.9	12.7	0.0	38.2	5.5	55
合計	5.6	6.0	0.5	5.9	16.0	17.2	14.2	10.8	6.7	31.3	5.4	2,522

注：インタビュー時の担当者による回答のみを分析した。また、学歴・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。



ここで特に「貧困」に注目してみると、高校中退者では約16%と、その割合が中卒者について高くなっているが、高等教育中退者ではさほど高くはないことが読みとれる。これまで中退が生じる理由のひとつとして、経済的理由（学費負担の問題）が指摘されてきたが、サポステに来所する高等教育中退者の場合、少なくとも深刻な経済状況にあるがために中退に至ったケースはそれほど多くないのかもしれない。経済的理由を主として中退した者は、サポステに来所するよりも、中退後すぐに就労するか、求職活動のためにハローワーク等の機関に来所するケースが多いのではないかと推測される。

他方、職場での経験に関しては、就職活動や就労（特に正規雇用）での経験が少ないためか、中退者に目立った特徴はあまり見出せないが、高校中退者で、「トラブルをよく起こす」（10.2%）が、専門学校・短大・高専中退者で、「職場での孤立」（21.4%）や「退職につながる失敗体験」（20.7%）が、大学中退者で、「就職活動での失敗経験」（16.0%）が、比較的高い割合となっている。

また、疾病や障害に関しては、中退者層、特に大学中退者での、「メンタル・精神疾患」における既往症ありの割合が42.9%と高くなっており、専門学校・短大・高専中退者では、

「発達障害・診断あり」の割合が13.1%と全体より高い。

第5節 まとめ

以上、サポステに来所した中退者の特徴について検討してきた。ここでは、高校中退者、高等教育（専門・短大・高専、および大学）中退者ごとに、その特徴をまとめる。分析の結果見出されたおもな知見は、以下のとおりである。また、図表4-13に、各中退者層の特徴を整理した。

高等教育（専門学校・短大・高専、大学）中退者：

- ①新規登録時の年齢は、専門学校・短大・高専中退者の場合、20代前半が、大学中退者の場合、20代後半が多く、両者とも、家族・知人の紹介やサポステのチラシ・HPを見て、サポステに来所する人が多い。学校からの紹介はほとんどない。
- ②進路決定（就職、職業訓練、進学）率、および直近（調査時点）の進路決定（就労、職業訓練、就学）率については、高校中退者と同様、同じ教育段階の卒業者と比べて、その割合は低い。進路決定率について具体的に見ると、専門学校・短大・高専中退者の場合、55.9%、大学中退者の場合、66.9%となっている。また、それら進路決定者のうち、調査時点（直近）でも就労、職業訓練、就学いずれかの状態にある者の割合（進路決定継続率）は、専門学校・短大・高専中退者で87.9%と高く、大学中退者でも82.8%となっている。
- ③新規登録時の本人状況については、同じ教育段階の卒業者と比べて、諸々の面で課題が見られる。特に専門学校・短大・高専中退者では、コミュニケーション面や自己イメージ面での課題が大きい。また、新規登録時のレベルについては、進路決定や就職から遠い状態にあるレベル1か2と判断された者が、専門学校・短大・高専中退者で63.2%、大学中退者で59.5%と、半数以上を占めている。
- ④過去の就労経験に関しては、専門・短大・高専中退、大学中退ともに正規雇用経験者の割合は低いが、高校中退者と比べると、就労経験なしの者は20%台と比較的少ない。高校中退者同様、サポステ来所までの無業期間が長くなる場合は多い。他方、正規雇用経験者については、大学中退者で10.8%となっており、中退者の中では比較的高い割合となっている。
- ⑤過去の諸経験に関しては、高校中退者同様、学校や家族・家庭でネガティブな経験をしている割合が高い。より細かく見ると、専門学校・短大・高専中退者では、いじめ経験の割合が41.4%、親の過干渉の割合が26.9%と、他の層と比べて高いが、大学中退者では、それほど家族・家庭に問題を抱えている者の割合は高くない。他方、疾病や障害については、メンタル・精神疾患における既往症ありの割合が大学中退者で42.9%と高く、発達障害の診断ありの割合が専門学校・短大・高専中退者で13.1%と高くなる傾向が見られた。

高校中退者：

- ①新規登録時の年齢は 10 代後半から 20 代前半が多く、ハローワーク以外の機関の紹介（36.6%）や家族・知人の紹介（23.0%）によってサポステに来所する人が多い。学校からの紹介は 1 割弱（7.7%）である。
- ②進路決定（就職、職業訓練、進学）率、および直近（調査時点）の進路決定（就労、職業訓練、就学）率については、前者が 57.9%、後者が 54.9%と、同じ教育段階の卒業者と比べて、その割合は低くなっている。ただし、それら進路決定者のうち、調査時点（直近）でも就労、職業訓練、就学いずれかの状態にある者の割合（進路決定継続率）は 82.4%に及んでいる。
- ③新規登録時の本人状況については、卒業者と比較して、中退者では全体的に生活面やコミュニケーション面、自己イメージ面いずれにおいても課題が多く見受けられる。特に高校中退者では、生活面での課題が大きい。新規登録時のレベルを見ても、高等教育中退者同様、進路決定や就職から遠い状態にあるレベル 1 か 2 と判断された者が半数以上（66.1%）にのぼる。
- ④過去の就労経験に関しては、正規雇用経験者の割合が 5.4%と、高校卒業者と比べて、かなり低くなっている。サポステに来所するまでの無業期間が比較的長い者も多い。また、高校中退者では就労経験なしの割合が 39.1%と、他の中退者よりも高い。
- ⑤過去の諸経験に関しては、学校や家族・家庭でネガティブな経験をしている者が多く、高校中退者の不登校経験率は 66.3%と高い。また、高校中退者に占める家庭内の不和（34.7%）、親との離死別（21.4%）、貧困（16.3%）の割合も、他の層と比較して、高くなっている。

図表 4-13 サポステを利用する中退者の特徴のまとめ

	高等教育中退		高校中退
	専門学校・短大・高専中退	大学中退	
利用者の年齢	20代前半(38.8%) ～20代後半(31.5%)	20代前半(32.1%) ～20代後半(38.2%)	10代後半(34.7%) ～20代前半(28.5%)
利用の経緯	サポステのチラシやHPで(26.7%)、 家族や知人の紹介(25.5%)	家族や知人の紹介(28.9%)、 サポステのチラシやHPで(28.3%)	HW以外の機関の紹介(36.6%)、 家族や知人の紹介(23.0%)
進路決定率	55.9%	66.9%	57.9%
直近の進路決定率	57.7%	57.7%	54.9%
進路決定継続率	87.9%	82.8%	82.4%
新規登録時の本人状況 (課題あり)	生活面(生活リズムが不規則など)、コミュニケーション面(集団に対する苦手意識が強いなど)、 自己イメージ面(自己否定感情が強いなど)		
新規登録時のレベル (1, 2の割合)	63.2%	59.5%	66.1%
過去の就労経験 (なしの割合)	28.0%	22.5%	39.1%
直近の無業期間 (なしの割合)	20.7%	19.4%	17.4%
過去の 経験	学校	いじめ(41.4%)	不登校(66.3%)、 進級に関わる成績不振(32.7%)
	家族、家庭	親の過干渉(26.9%)	家庭内の不和(34.7%)、親との 離死別(21.4%)、貧困(16.3%)
	職場	職場での孤立(21.4%)、 退職につながる失敗体験(20.7%)	就職活動での失敗経験(16.0%) トラブルをよく起す(10.2%)
	疾病、障害	発達障害・診断あり(13.1%)	メンタル・精神疾患・既往症あり (42.9%)

注1:「進路決定率」は、進路決定状況が、就職、職業訓練、進学の内いずれかである者の割合。ただし、利用中断、無回答のケースは除いて算出。

2:「直近の進路決定率」は、直近(調査時点)の状況が、就労、職業訓練、就学の内いずれかである者の割合。ただし、把握していない、無回答のケースは除いて算出。

3:「進路決定継続率」は、進路決定者のうち、直近(調査時点)においても進路が決まっている者の割合。ただし、直近の状況を把握していない、あるいは無回答のケースは除いて算出。

4:「新規登録時のレベル」は、進路決定に向けた状況(困難度)を表す指標。レベルは1～5。5に近いほうが就職や進路決定に近い。

このようにサポステに来所する中退者は、卒業者と比較して、進路決定や就労などに向けて、様々な面で課題や困難を抱えている場合が多く見られること、そしてそれらの課題や困難は、彼ら彼女らの家庭環境や過去の学校・就労におけるネガティブな諸経験と不可分に生じている可能性が高いことが、本稿の結果から見えてきた。

また、「中退者」と一括りに言っても、どの教育段階で中退したかによって、サポステ登録時の本人状況や中退後の状況、そして抱えている課題・困難の内容や質なども異なることが明らかとなった。彼ら彼女らが抱える複合的な問題を考慮した上での取り組みが、中退者の就労支援において、求められるのかもしれない。

ただし、本章で扱ったサポステ利用者である中退者は、継続的な就労を目指すには課題や困難の度合いが比較的高い層であることが十分考えられる。中退者に対する就労支援策をより有効なものとしていくためには、サポステ以外の公的支援機関(ハローワークなど)を利用する者や、そうした支援を知らない、あるいは利用しないでいる中退者との比較分析によって、中退者の特徴やニーズを把握し、就労支援の課題を今後明らかにしていく必要があるだろう。

補論 サポステ利用者の実像：支援者への調査から

第1節 はじめに

補論では、地域若者サポートステーション（以下、サポステ）の支援者への調査を通じて、本報告書で論じてきた中退者も含め、サポステに来所する若者の全体像を把握する。分析に当たっては、新規登録時に支援方針を検討するためにサポステで判断される困難度のレベルに着目する。

調査は2014年2月～3月にかけて、若者自立支援中央センターによって実施されたものである。調査対象は、全国のすべてのサポステにおいて、利用登録時期が2012年10月～12月であったすべての利用者であるが、分析においては、中学・高校在学中の者等を除外した、5,625名の回答を用いている。

第2節 新規登録時のレベルと利用の経緯

本節の目的は、各サポステで行われている新規登録時のレベルごとの対象者像を、調査を通じて明らかにすることである。

サポステにおいては、新規登録時に以下のようなレベルわけを行っている。

図表補－1 レベルのイメージ

レベル	状態
1	進路についてのイメージがなく、興味・関心もないレベル。
2	進路について漠然としたイメージを持ち始めた、あるいは興味や関心が出てきたレベル。まだ明確な方向性を持つには至っていない。
3	進路についての方向性が見えてきて、情報収集をできるレベル。しかし、進路決定のための行動には移せていない。
4	進路への方向性が見えてきた（3のレベル）上で、就職や進路決定に向けて具体的に動き始めることができるレベル。ハローワークで求職登録し、求職活動を開始する、ジョブトレーニングなどを開始する等。
5	進路決定（就職、職業訓練、進学など）したレベル。進路先に行く時期が決定している場合も（例えば4月から進学、就職等）、進路決定とみなしてもよい。

資料出所：若者自立支援中央センターの提供資料の中から、レベル1から5の記述を抜粋。なおレベルのイメージは利用登録時2012年当時の分類である。

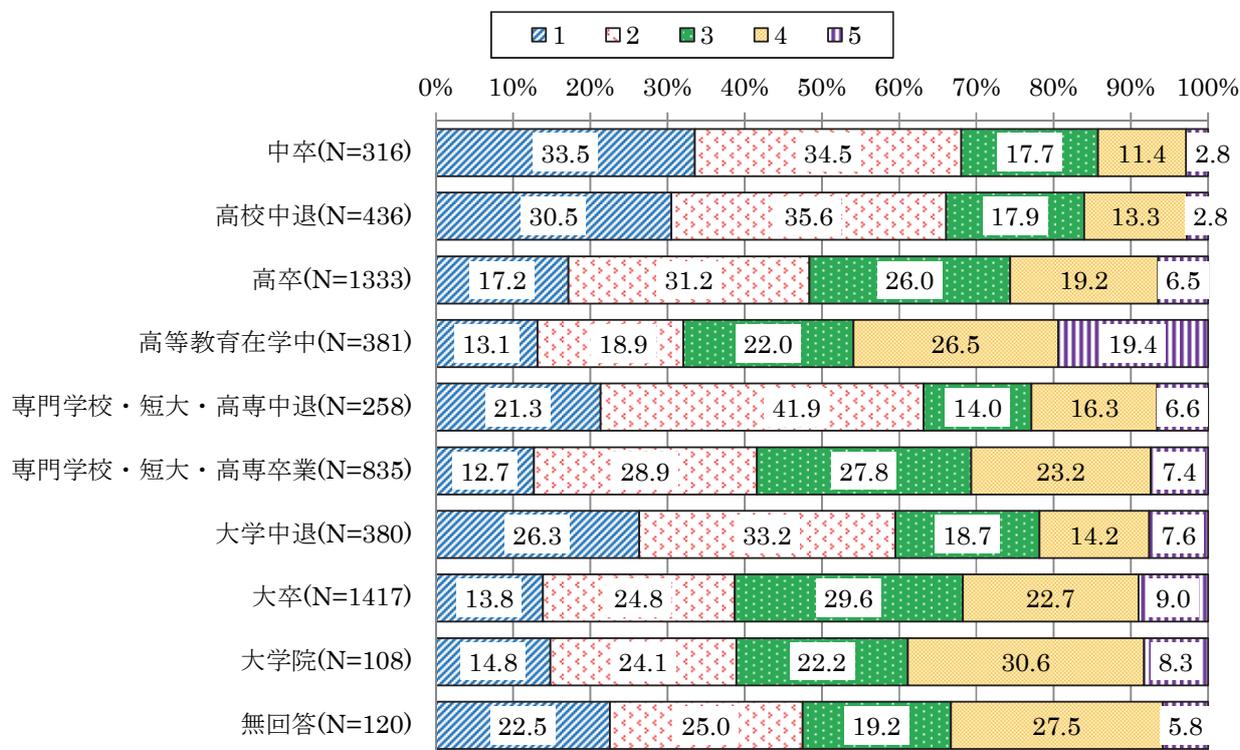
図表補－2はレベルの分布を示しているが、レベル1と2で半数程度を占めている。

図表補－２ レベルの分布

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	合計	N
男	21.7	29.9	22.1	18.6	7.7	100.0	3,456
女	12.4	28.2	28.5	23.0	7.9	100.0	2,077
無回答	17.6	31.4	29.4	17.6	3.9	100.0	51
合計	18.2	29.3	24.5	20.2	7.8	100.0	5,584

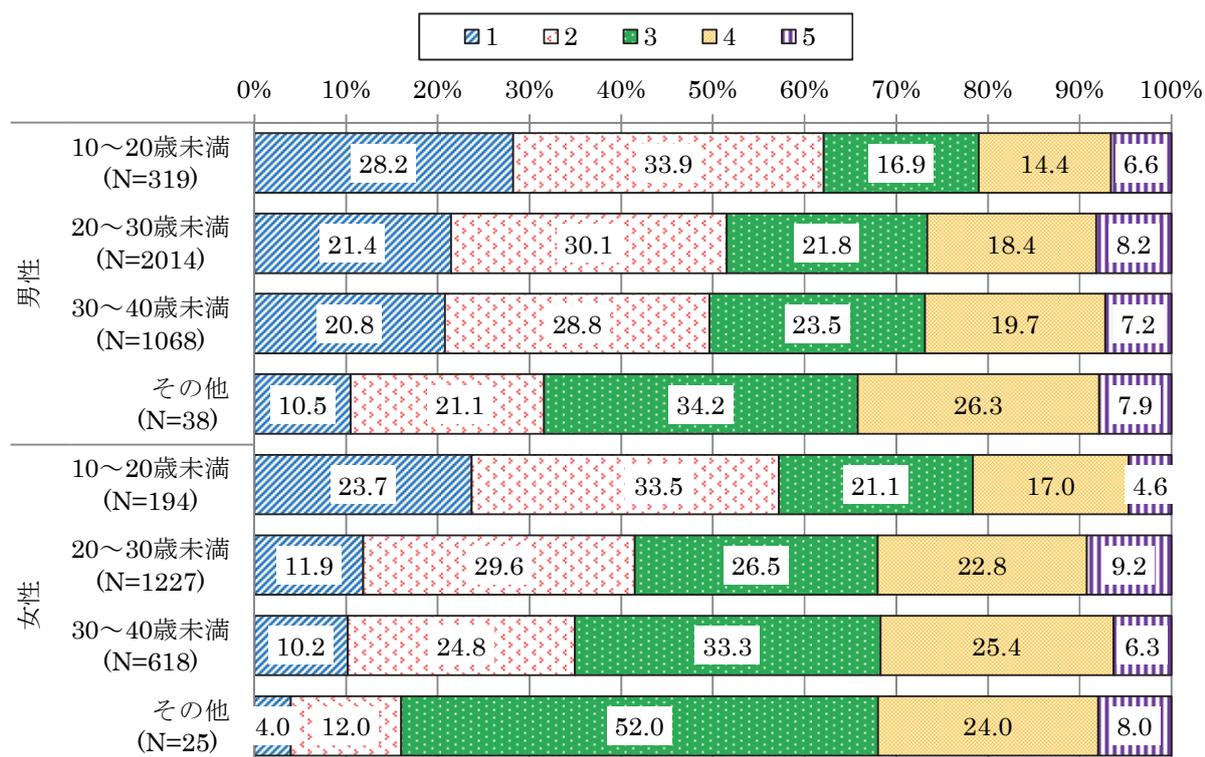
学歴ごとに新規登録時のレベル構成をみると（図表補－３）、中卒、高校中退、専門学校・短大・高専中退、大学中退などの中退者において、レベル1および2の割合が高くなっている。

図表補－３ 新規登録時のレベル構成（学歴）



年齢別に見ると（図表補－４）、男女とも年齢が若いとレベル1や2の割合が高くなり、年齢が高いとレベル3から5の割合が高い。

図表補－４ 新規登録時のレベル構成（年齢）



利用の経緯はレベルごとに違いがある（図表補－５）。レベル１と２は「ハローワーク（以下、図表ではHWと記載）以外の機関の紹介」や、「家族や知人の紹介」が占める割合が高い。他方でレベル３と４は「ハローワークからの紹介」や、「サポステのチラシやHP」で高くなっている。レベル５は支援機関を通じた紹介の割合が低いのが特徴である。

図表補－５ 利用の経緯

	HWからの紹介	HW以外の機関の紹介（医療福祉を含む）	学校からの紹介	家族や知人の紹介	サポステのチラシやHPで	その他	無回答	合計	N
レベル1	6.4	26.6	3.4	27.9	19.7	10.8	5.1	100.0	1,018
レベル2	11.3	24.3	2.6	20.7	26.9	9.1	5.1	100.0	1,635
レベル3	19.6	15.9	5.3	13.7	30.8	10.9	3.9	100.0	1,369
レベル4	18.5	12.8	7.4	10.4	32.0	15.3	3.7	100.0	1,129
レベル5	6.5	15.5	7.9	12.7	26.1	28.9	2.5	100.0	433
合計	13.5	19.6	4.8	17.6	27.5	12.6	4.3	100.0	5,584

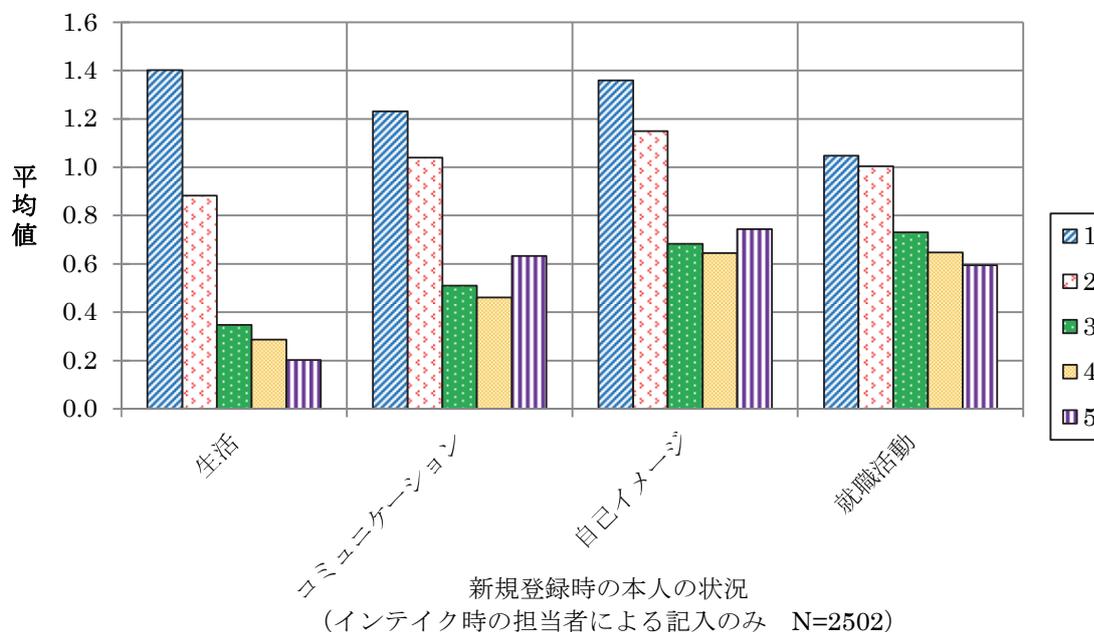
第３節 対象者の概要－個人の特徴

第３節および第４節の分析においては、原則として、初回のインテイク担当者によって回答された調査票に絞って分析を行う。

はじめにレベル別の利用者像を把握するために、生活、コミュニケーション、自己イメー

ジ、就職活動の各領域について、困難の度合いを検討した（図表補－6）。図表補－7に詳しく示す項目それぞれに、あてはまる＝1点、あてはまらない＝0点を与えて作成した。

図表補－6 新規登録時の利用者像（困難状況の度合い/レベル別）



生活、コミュニケーション、自己イメージ、就職活動のすべての領域において、レベル1およびレベル2の困難度が極めて高くなっている。レベル3から5については、コミュニケーション、自己イメージに関わる困難状況については、必ずしもレベルとの明確な対応が見られなかったが、就職活動についてはレベル3から5まで違いが見られた。

こうした結果から、レベル1から2、およびレベル3から5までとは利用者が抱える問題が質的に異なっていることが推察される。そのため、以下ではレベル1から2についての考察と、レベル3から5についての考察にそれぞれわけて分析を行っていくことにしたい。

図表補－7は困難状況の度合いについて項目ごとに詳しく示しているが、まずはレベル1および2について記述する。図表補－8には、レベル1および2に限定して、生活領域に関する困難状況を図示した。

レベル1はもっとも困難度が高い。約半数が昼夜逆転しており、また外出がほとんどなく、就職活動をするだけの体力もない。相手を見て話せない、集団に対する苦手意識がある。自己否定的な感情が強く、進路に限らず、自分で選択することが苦手であり、働いている自分がイメージできない点などにおいて特に困難度が高くなっている。

レベル2は、レベル1に比べるとやや生活領域での困難度は低い。しかし声が小さい、適切な受け答えが出来ない、自己否定的感情が強い、仕事への偏った見方にこだわる、求職活動の仕方がわからないなど、コミュニケーションや自己イメージについては課題が大きい。

レベル1においても2においても、就職活動をする以前の課題が極めて大きいと言える。

図表補－7 新規登録時の利用者像の詳細（困難状況の度合い／レベル別）

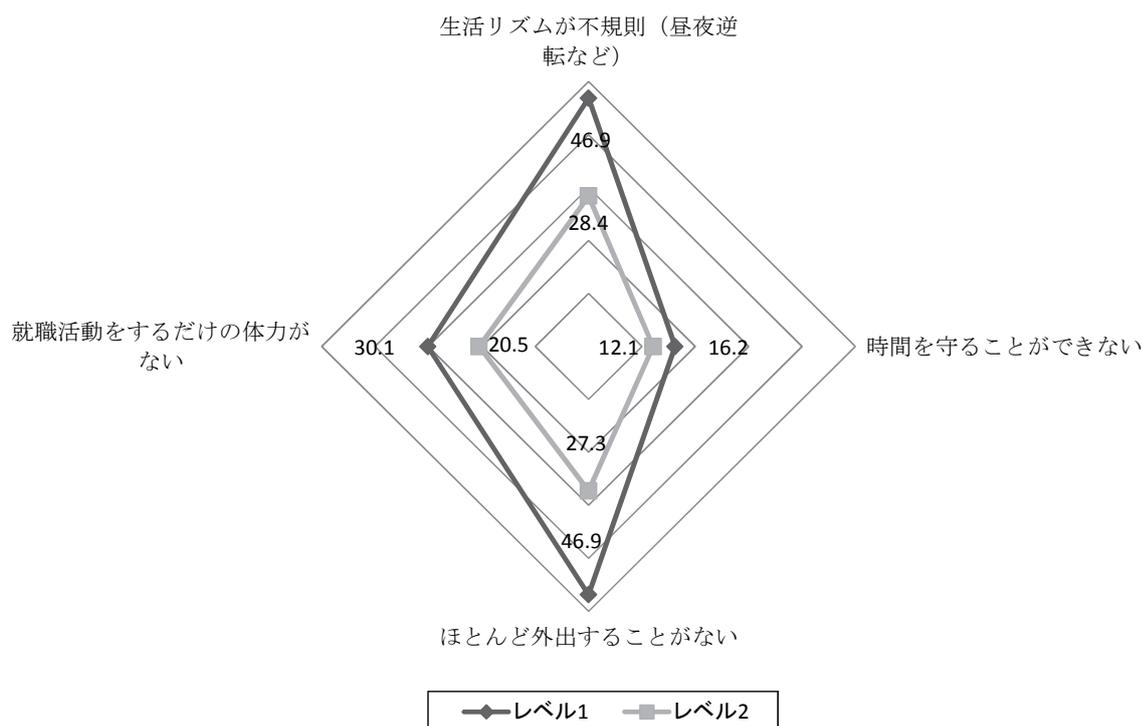
単位%

	生活				コミュニケーション				
	生活リズムが不規則（昼夜逆転など）	時間を守ることができない	ほとんど外出することがない	就職活動をするだけの体力がない	相手を見て話せない	声が小さく聞き取りづらい	聞かれたことに対し、適切な受け答えができない	集団に対する苦手意識が強い（セミナー等の集まりに参加するのを怖がるなど）	
レベル1	46.9	16.2	46.9	30.1	26.7	23.0	24.2	49.1	
レベル2	28.4	12.1	27.3	20.5	19.8	21.8	21.6	40.8	
レベル3	13.4	5.7	9.2	6.4	8.2	9.6	10.6	22.6	
レベル4	13.6	5.5	5.7	3.9	6.9	9.6	11.8	17.9	
レベル5	9.7	4.8	4.8	1.0	12.1	8.7	15.9	26.6	
	自己イメージ				就職活動				
	自己否定的感情が強い（「自分に何かができるとは思えない」など）	進路に限らず、自分で選択することができない	働いている自分がイメージできない	仕事への偏った見方にこだわる（「事務職はしゃべらなくてもいい」など）	相談や応募先の求人選択ができない	求職活動しようと思っはいるがどうすればよかわからない	履歴書をまとめることができない（経歴や経験の説明ができない）	就職活動の失敗理由がわからない（考えられない、受け入れられないなど）	
レベル1	42.2	37.8	38.8	17.0	31.7	36.6	22.6	13.7	10.5
レベル2	41.2	26.2	26.1	21.4	27.0	37.5	23.1	12.7	12.4
レベル3	25.6	11.0	11.0	20.9	16.5	26.4	17.6	12.5	30.8
レベル4	26.0	13.4	8.7	16.3	14.4	21.1	17.5	11.6	37.6
レベル5	31.9	12.6	13.5	16.4	16.4	22.2	13.0	7.7	36.7

図表補－8 新規登録時の利用者像の詳細

（困難状況の度合い／レベル1および2／生活領域）

単位%



次に図表補－9から、レベル3から5の傾向を比較し、それぞれのレベルの特徴について記述する。

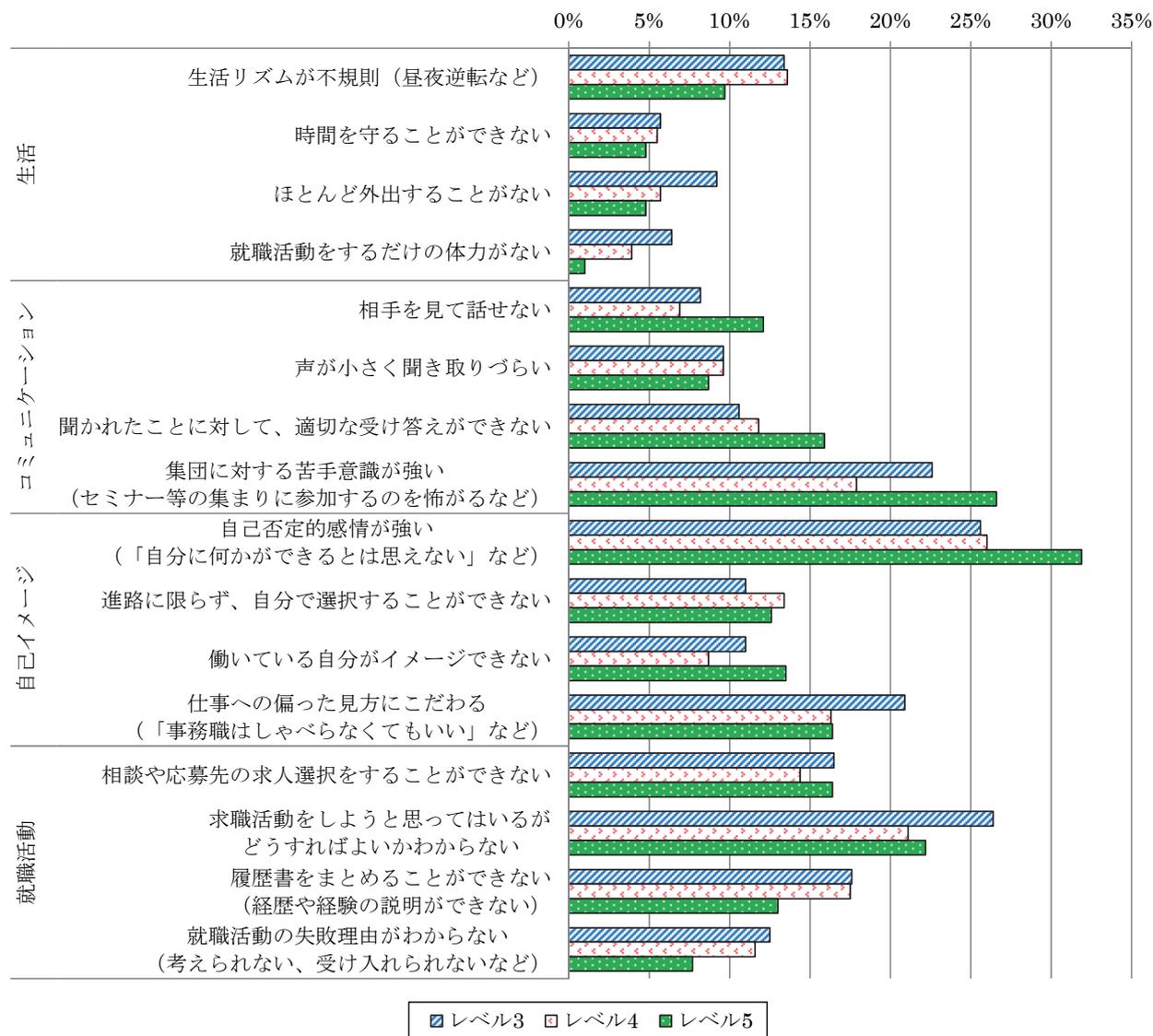
レベル3の特徴として、「生活リズムが不規則（昼夜逆転など）」はレベル4と同程度であるものの高く、「ほとんど外出することがない」、「就職活動をするだけの体力がない」で、レベル4と5よりも高くなっており、やや生活習慣に難が見られる。「集団に対する苦手意識が強い（セミナー等の集まりに参加するのを怖がるなど）」でも高い。また「求職活動をしように思っているがどうすればよいかわからない」、「仕事への偏った見方にこだわる（「事務職はしゃべらなくてもいい」など）」、「履歴書をまとめることができない（経歴や経験の説明ができない）」において高い。

レベル4の特徴として、レベル3と同じように、「生活リズムが不規則（昼夜逆転など）」という生活習慣にやや課題があったが、コミュニケーション領域ではあまり課題は見られず、就職活動における課題も「履歴書をまとめることができない（経歴や経験の説明ができない）」で高かったものの、レベル3から5において比較すると、就職活動の課題はやや小さい傾向があった。

レベル5は、生活習慣にはあまり課題はないものの、「自己否定的感情が強い（「自分に何ができるとは思えない」など）」傾向があり、またコミュニケーション領域での課題が大きく、「相手を見て話せない」「聞かれたことに対して、適切な受け答えができない」「集団に対する苦手意識が強い（セミナー等の集まりに参加するのを怖がるなど）」において高い傾向があった。

インテイク時の「レベル5」は、在学中の者やアルバイト中の者など何らかの所属先のある来談者に振られている場合が多い（約7割）。より早期からの支援が効果的であることが明らかになってきたために、支援対象者の幅を拡大してきたというサポステの進化に対して、レベル判断基準が当初の定義を引き継いできたことからくる混乱だといえる。所属先があるこうした人たちがサポステが支援対象として受け入れているのは、自己否定的な感情が強く、コミュニケーションに課題があるために、ハローワークですぐに効果的な求職活動を行うことが困難なためだと考えられる。

図表補－9 新規登録時の利用者像の詳細（困難状況の度合い／レベル3～5）



第4節 対象者の概要－背景的な要因

つづいて、対象者の背景的な要因について検討する。ここでは、①学校での経験、②職場での経験、③家族・家庭での経験、④疾病、障害の4側面から、各レベルの特徴を概観する。レベル別に見た①と②の結果については図表補－10に、③と④の結果については図表補－11に示した。なお、インテイク時に担当者であったかどうかで回答傾向に違いが見られるため、担当者による記入があったケースのみを扱う。

図表補－10 学校や職場での経験（レベル1～5）

単位%	学校での経験				職歴・職場での経験								N	
	不登校 経験 あり+ 疑いあ り	いじめ あり+疑 いあり	進級に関 わる成績 不振 あり+疑 いあり	他の問題 (友人関 係のこじ れなど) あり	職場の いじめ あり	パワハ ラ あり	セクハ ラ あり	トラブル をよく起 こす あり	職場での 孤立 あり	退職につ ながる失 敗体験 あり	就職活動 での失敗 経験 あり	他の問題 (労働環 境、長時 間労働な ど)あり		
レ ベ ル の 時 計	新 1	50.6	36.6	23.8	26.2	3.0	4.9	0.6	6.6	18.1	14.7	10.4	8.5	470
	規 2	34.2	28.3	16.2	18.1	6.6	6.1	0.6	7.2	19.5	19.7	13.7	10.7	692
	登 3	19.9	16.0	9.8	13.2	6.1	6.9	0.4	6.3	14.5	18.9	19.9	11.9	539
	録 4	15.9	17.4	6.8	12.8	6.6	6.8	0.7	4.9	14.3	17.0	15.5	16.6	453
	時 5	21.7	24.0	8.6	12.6	9.7	9.1	0.6	4.6	20.0	22.3	14.3	10.9	175
の 合 計	29.7	24.7	13.9	17.1	6.0	6.4	0.6	6.2	17.1	18.2	14.9	11.7	2,329	

注：在学中はすべて除外。インテイク時の担当者による記入のみ。

図表補－11 家族、家庭での経験、および疾病、障害（レベル1～5）

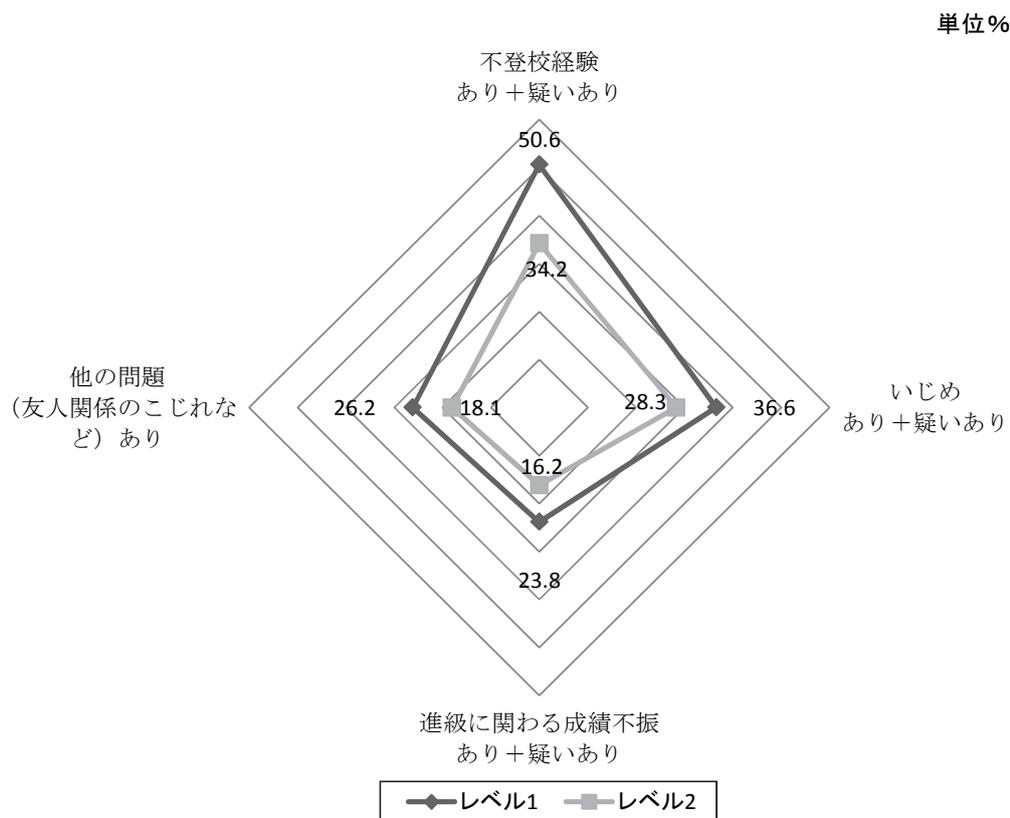
単位%	家族、家庭での経験						疾病、障害			N	
	親の過干 渉 あり+疑 いあり	DV・虐待 あり+疑 いあり	家庭内の 不和 あり	親との 離死別 あり	貧困 生活保護 世帯+生 保レベル の困窮状 況	他の家族 問題(家 族の疾患 等) あり	発達障害 診断あり	メンタ ル・精神 疾患 既往症あ り(就労 に制約あ り+な し)	他の健康 上の課題 既往症あ り(就労 に制約あ り)		
レ ベ ル の 時 計	新 1	23.6	4.9	28.9	12.8	7.9	11.9	7.4	38.7	5.1	470
	規 2	18.8	4.8	23.8	14.6	9.1	11.1	8.5	36.3	7.1	692
	登 3	9.1	3.9	16.1	9.1	6.5	9.6	4.6	28.2	5.6	539
	録 4	9.3	2.9	12.1	4.9	5.3	7.5	4.0	19.2	5.1	453
	時 5	13.1	5.1	18.3	7.4	4.0	13.1	6.9	34.3	2.9	175
の 合 計	15.2	4.3	20.4	10.5	7.1	10.4	6.4	31.4	5.6	2,329	

注：在学中はすべて除外。インテイク時の担当者による記入のみ。

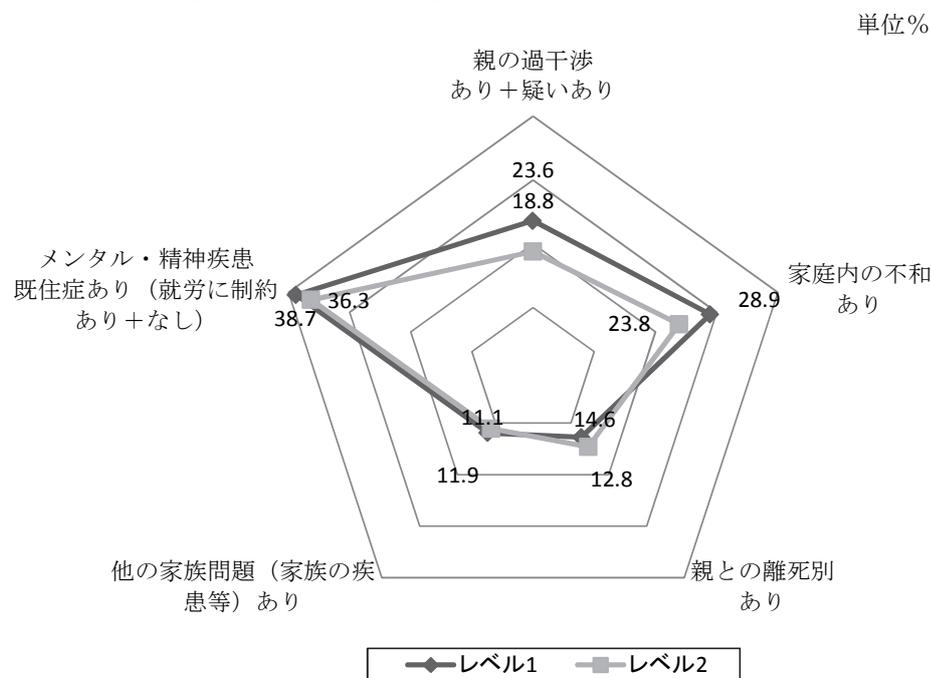
図表補－10 および図表補－11 から、レベル別にそれぞれの背景的特徴を見ると、全体としてレベル1と2で高い割合の項目が多くなっていることがわかる。なお、レベル1と2に関して、特徴的な項目は図表補－12 および図表補－13 で取り上げている。

特に①学校での経験では、「不登校の経験」、「いじめ」、「進級に関わる成績不振」が（図表補－10）、③家族・家庭での経験では、「親の過干渉」、「家庭内の不和」、「親との離死別」の割合がかなり高く、さらにはメンタル・精神疾患の既往症がある割合も他のレベルより高くなっている（図表補－11）。他方、レベル1と2では、レベル3から5と比較して、過去に何らかの就労経験がある対象者が割合として少ないためか、②職場での経験に関しては、それほど他のレベルと大きな違いは見られない。

図表補－12 学校での経験（レベル1および2）



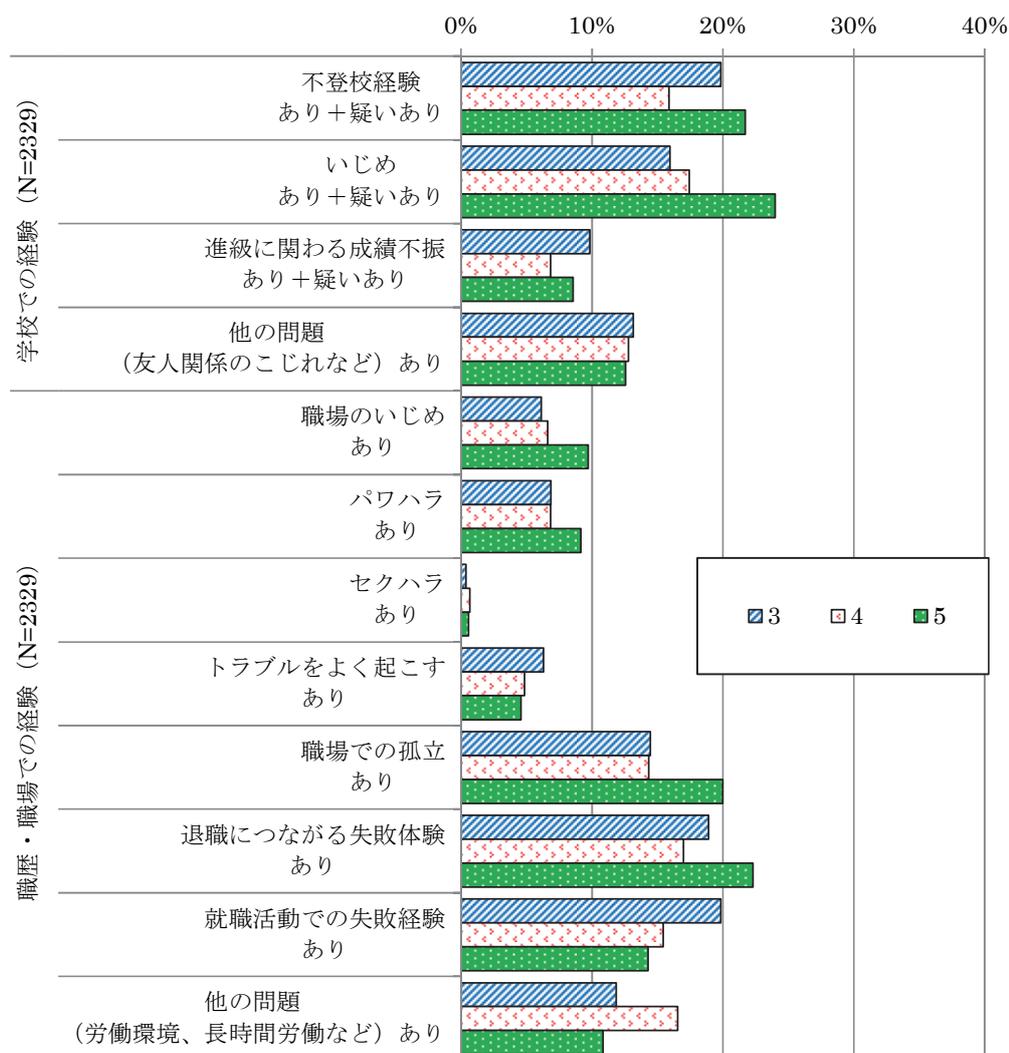
図表補－13 家族、家庭での経験、および障害（レベル1および2）



注：数値が高い項目のみ抜粋

以上より、レベル1・2とレベル3～5では、背景要因から見た困難さの割合はかなり異なっていると思われる。そのため、以下では前節同様に、レベル3から5について特に注目し記述する。レベル3から5のみを取り出し図示したものが、図表補-14と図表補-15である（図表中のNは全体の合計）。

図表補-14 学校や職場での経験（レベル3～5）



まず、図表補-14より、学校での経験について見ると、いじめや不登校の経験が3レベルとも、特にレベル5で高い。「進級にかかわる成績不振」に関してはどのレベルでも比較的低い、レベル3で若干高い。

つぎに、職場での経験について見ると、「トラブルをよく起こす」割合はレベルが低くなるにつれ高く見られる。また、「就職活動での失敗経験」についても、同様な傾向が見られる。

特に「就職活動での失敗経験」が4や5よりも高いレベル3の者は、就労の前段階の就職活動において、何らかのつまづきを経験している場合が多いのではないかと考えられる。そ

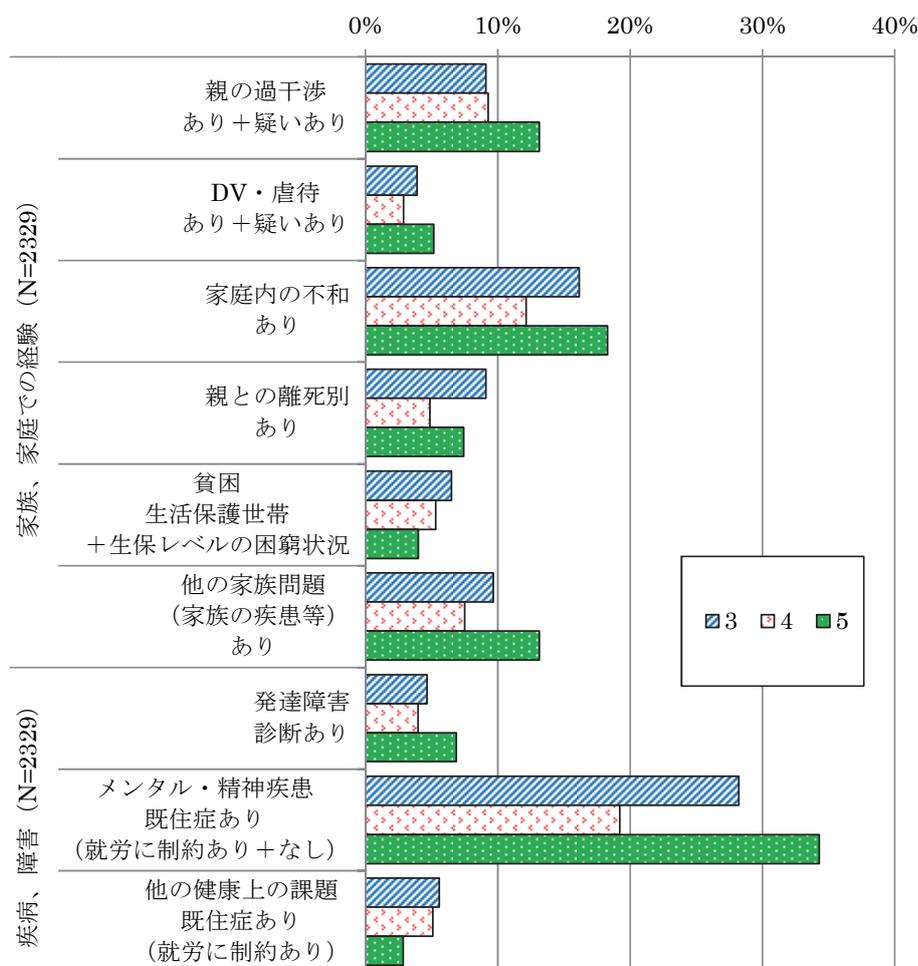
のため、そこに支援の必要性があるのかもしれない。

他方、レベル4は、レベル3と5の中間的な特徴を有しており、レベル4には、就労以前の段階で課題がある場合と、就労後の職場への適応面で課題がある場合が混在しているのではないかと考えられる。また、それに加えて、「他の問題（労働環境、長時間労働など）」では最も高い傾向にある。

レベル3と4は、利用の経緯（図表補-5）において「ハローワークからの紹介」の割合が高かったが、ハローワークでの職業紹介が難しいと判断されたために、サポステにリファーされているタイプが多く含まれているものと推測される。

レベル5では、「職場のいじめ」や「パワハラ」、「職場での孤立」や「退職につながる失敗経験」が高くなっている。レベル5では、仕事に就くという点では問題は少ないが、過去に経験した職場での負の経験から回復できるようなケアの必要性があるのかもしれない。

図表補-15 家族・家庭での経験、疫病、障害の状況（レベル3～5）



つづいて、図表補-15より、家族、家庭での経験について見ると、レベル3と5で、「DV・虐待」、「家庭内の不和」、「親との離死別」、「他の家族問題」での割合が（4よりも）高い傾

向にある。「親の過干渉」については、他のレベルと比べて5で高い。他方、貧困については、レベルに応じて、生活保護世帯や生保レベルの困窮状況にある割合が高くなっている。

疾病、障害について見ると、「発達障害」の診断あり、「メンタル・精神疾患」の既往症ありにおいてレベル5が最も高くなっている。

第5節 進路決定状況

進路決定状況について見ると（図表補-16）、男女ともに、レベル4で進路決定者の割合が最も高くなっている。

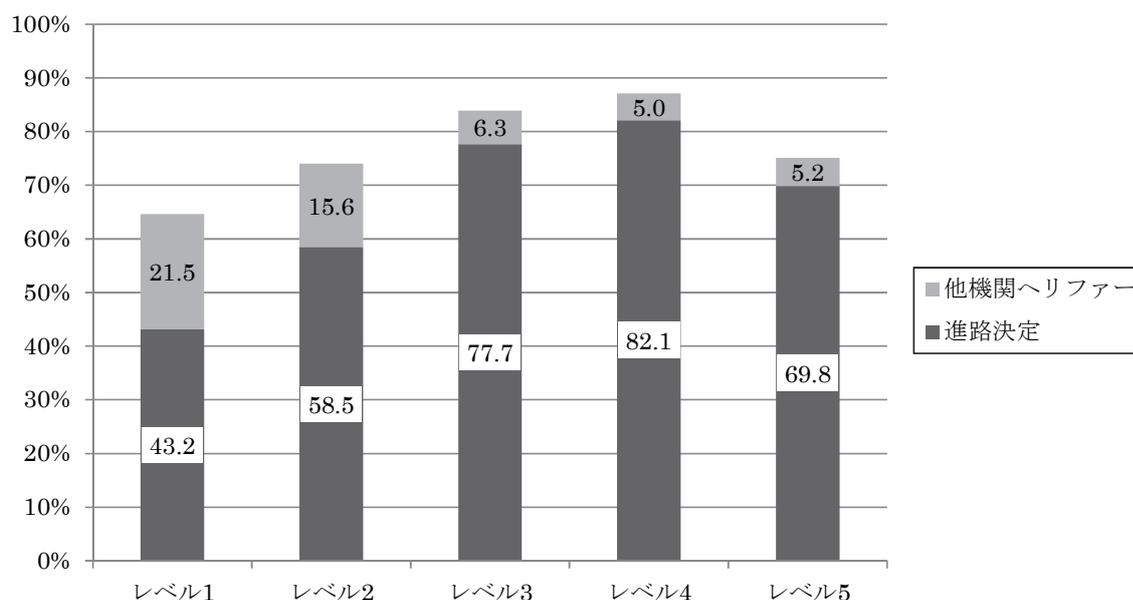
図表補-16 新規登録時のレベルと進路決定状況

	就職	職業訓練	進学	他機関 ヘリ ファー	利用中 断	その他	進路未 決定 (利用 中)	無回答	合計	N
レベル1	21.4	3.1	2.1	13.3	35.0	3.3	18.8	3.0	100.0	1,018
レベル2	33.5	4.7	1.7	10.6	29.1	2.6	15.5	2.2	100.0	1,635
レベル3	46.8	4.5	2.0	4.3	28.6	2.8	8.9	2.1	100.0	1,369
レベル4	59.1	3.2	1.5	3.9	19.7	2.7	7.9	2.1	100.0	1,129
レベル5	46.9	4.2	1.4	3.9	18.7	6.2	14.3	4.4	100.0	433
合計	40.8	4.0	1.8	7.7	27.3	3.1	12.9	2.5	100.0	5,584

ここから進路決定率（就職＋職業訓練＋進学）を算出した（図表補-17）。

重い課題を抱えるレベル1も進路決定率が43.2%、他機関へのリファーが21.5%、またレベル2もそれぞれ58.5%、15.6%となっており、決して低い数値ではない。

図表補-17 利用中断を除く進路決定率（就職＋職業訓練＋進学）



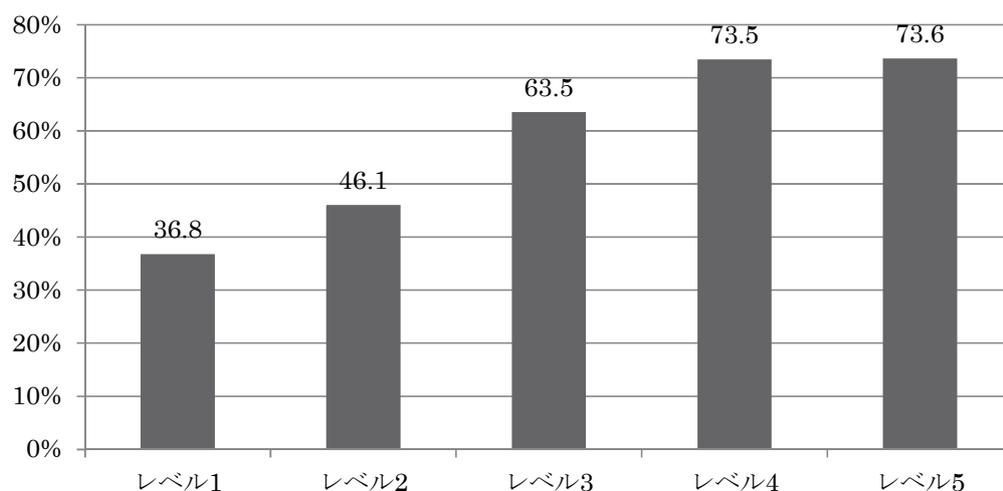
直近の状況については（図表補－18）、把握していない割合が 45.3%と高かった。そこで図表補－19 では、把握していない割合を除いて直近の進路決定状況（就労＋職業訓練＋就学）を示した。

図表補－18 新規登録時のレベルと直近の状況

	就労	職業訓練	就学	無業	把握して いない	その他	無回答	合計	N
レベル1	14.8	2.0	2.5	23.4	47.6	4.3	5.4	100.0	1,018
レベル2	21.6	2.0	1.8	18.0	45.0	4.8	6.9	100.0	1,635
レベル3	29.8	1.1	1.9	11.1	48.4	2.7	5.0	100.0	1,369
レベル4	37.7	1.0	1.8	8.7	44.9	2.1	3.8	100.0	1,129
レベル5	43.6	3.2	2.8	10.4	32.6	4.4	3.0	100.0	433
合計	27.3	1.6	2.0	14.8	45.3	3.6	5.2	100.0	5,584

図表補－19 によれば、直近の進路決定率よりは低くなるものの、大きく低下はしていないことから、進路が決定した場合には継続する割合が高いことが推測される。

図表補－19 新規登録時のレベルと直近の進路決定状況（就労＋職業訓練＋就学）



第6節 まとめ

新規登録時のレベルごとに対象者の困難性について、図表補－20 に整理した。それぞれの特徴は、レベル1および2、またレベル3から5における相対的な比較であることに留意されたい。

レベル1および2は、就職活動に至る前の課題が大きい。

レベル1は、生活面での課題が特に大きい。貧困の割合は低い、親の過干渉や家庭内の不和がある。またメンタル面の問題や精神疾患を多く抱えている。

レベル2は、生活面よりも、コミュニケーションや自己イメージに課題がある。親の過干渉や家庭内の不和、メンタル面の問題や精神疾患はレベル1と共通する。

つづいて、レベル3から5の中での比較を簡単に要約する。

レベル3は生活習慣にやや難があり、就職活動での課題がかなり大きく、就職活動の失敗経験を抱えている。職業紹介を受ける前に、時間をかけた支援が必要な状態である。

レベル4はやや生活習慣に難があるものの、相対的に就職活動へのレディネスが整ってきているが、労働環境や長時間労働に起因する問題を体験しており、すぐにハローワークでの職業紹介を受けられる状態とはいえないようである。

レベル5は、生活習慣や就職活動へのレディネスには問題はないが、コミュニケーションや自己イメージにおいてかなり課題が大きい。また、いじめや不登校経験の割合が高く、退職につながる失敗経験やメンタル・精神疾患の割合が高い傾向が見られた。

進路決定状況は、レベル1でも進路決定率が43.2%、他機関へのリファーが21.5%、またレベル2もそれぞれ58.5%、15.6%となっており、一定の成果を上げていることがうかがえた。

図表補-20 レベル別新規登録時の困難度の概観

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
利用の経緯	HWからの紹介	HWからの紹介	HWからの紹介	HWからの紹介	支援機関以外
生活	半数が昼夜逆転、外出なし、体力なし		生活リズム不規則、外出しない、体力不足	生活リズム不規則、外出しない、	
コミュニケーション	相手を見て話せない、集団苦手	声が小さい、適切な受け答えできない	集団に対する苦手意識		相手を見て話せない、適切な受け答えできない、集団に対する苦手意識
自己イメージ	自分で選択できない、自己否定的感情強い	仕事への偏った見方			働いている自分がイメージできない、自己否定的感情強い
就職活動			就職活動の仕方わからない、履歴書まとめられない	履歴書まとめられない	
学校での経験	不登校経験、いじめ、成績不振、人間関係のこじれなど	不登校経験、いじめ、成績不振、人間関係のこじれなど	いじめ、不登校経験	いじめ、不登校経験	いじめ、不登校経験高い
職場での経験	職場での孤立	職場での孤立、退職につながる失敗体験	就職活動での失敗経験	労働環境、長時間労働	退職につながる失敗経験
家族・家庭での経験	親の過干渉、家庭内不和、家族の疾患等	親の過干渉、家庭内不和、親との離死別、家族の疾患等	家庭内不和		親の過干渉、家庭内不和
疫病等	発達障害、メンタル・精神疾患	発達障害、メンタル・精神疾患			発達障害、メンタル・精神疾患

付 属 資 料

ケース記録

【A大学】

聞き取り日：2014年7月29日

(1) 大学の基本情報

1. 大学の概要について（学部・学科、学生数、留年者数、就職率など）

1975（昭和 50）年に開学し、1988（昭和 63）年、現在の大学名に改称された。現在、工学部（機械工学科、電気電子情報工学科、応用化学科）、情報学部（情報工学科、情報ネットワーク・コミュニケーション学科、情報メディア学科）、創造工学部（自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科）、応用バイオ科学部（応用バイオ科学科、栄養生命科学科）の4学部・11学科がある。また、2015（平成 27）年4月から新たに、看護学部・看護学科、工学部・臨床工学科が開設される予定である。

なお、学生数、留年者数・留年率、就職率は、以下の表に掲載した（インタビュー時の配布資料より作成）。

①学生数（現在、1学年の定員数は1,085名）

学部名	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
工学部	1,317	1,353	1,373	1,393	1,423
情報学部	1,959	1,952	1,934	1,926	1,878
創造工学部	925	899	899	947	943
応用バイオ科学部	880	867	771	669	543
総計	5,081	5,071	4,977	4,935	4,787

②留年者数・留年率

年次	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
1年次	10 / 0.46%	12 / 0.67%	15 / 1.09%	12 / 0.86%	10 / 0.70%
2年次	187 / 5.67%	174 / 6.97%	171 / 8.84%	174 / 9.03%	187 / 9.96%
3年次	50 / 4.43%	61 / 5.90%	37 / 4.12%	61 / 6.44%	50 / 5.30%
4年次	255 / 29.55%	269 / 29.64%	267 / 34.63%	269 / 40.21%	255 / 46.96%
総計	502 / 8.23%	516 / 8.97%	490 / 9.85%	516 / 10.46%	502 / 10.49%

③就職率

	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
全学部	45.1%	93.0%	91.2%	84.1%	87.3%

注：平成26年度は、平成26年度7月15日現在

2. 中退に関する担当部署について（学内での連携状況など）

教務課が学籍の所轄部署となっており、中退に関するデータ集計をおこなっている。学生支援に関しては、学生支援本部に含まれる、学生課、キャリア就職課、教務課の3課が連携し、おこなっている。

(2) 中退者の傾向について

1. 貴大学の（年間おおよその）中退者数及び中退率の近況及び推移について
2. 中退者は増加／減少傾向にあるかどうか、またその背景について
3. 中退の経緯や理由（主要なもの）、中退の時期（何学年時、入学後何年経過後が多いかなど）、中退後の希望進路について

中退は、何らかの理由で学生本人が願出をする「退学」と、授業料未納による大学側からの「除籍」の2種類に区分される。近年、退学者数は4%前後、除籍者数は1%台で推移しており（除退合計は例年5%前後）、どちらも大きく変動する状況ではない。

学年別に退学者数を見ると、2年次と4年次がボリュームゾーンになっている。これには進級要件が関係している。2年終了段階で取得単位が50単位未満の場合、進級できず留め置かれる（「2年次留年制度」）。これはそれほど高いハードルとはいえないが、進級ができないと、どうしてもその後の経済的負担が高くなるため、その時点で「見切りをつけてしまう」傾向が見られる。また、大学進学に際し、保護者と「ストレート卒業」を約束していた場合、2年次の留年決定で、それが難しいことがわかると退学するケースも多い。4年次に関しては、必須科目である卒業研究に進むための必要単位が足りない場合、卒業研究未着手となり（「卒研の着手制度」）、それを機に退学に至るケースが多い。また、4年次での退学者の場合、卒業研究でメンタル面の問題を抱えてしまったなど、「単純な理由じゃない」ケースも多いかもしれない。前出の留年者数も、同様な理由で、2年次と4年次に高くなっている。

中退理由は、学業不振、経済的理由、健康上の理由、ミスマッチ・進路変更、その他の大きく5つに分類している。最も多い理由が、学業不振（全体の4割前後）であり、例年この傾向は変わらない。大学進学層の拡大を背景に、学力の二極化が生じており、基礎学力が身につけていないまま大学に進学し、授業についていけなくなるケースがここに含まれる。こうした状況に対応し、初年次教育や導入教育の強化、個別指導による支援の充実をおこなっているが、それでも学業不振による退学割合は低くならない状況にある。また、ミスマッチ・進路変更も2割台と、大きな割合を占めている。健康上の理由は、おもに精神的な理由であり、友人関係でこじれを起したり、ひきこもってしまうタイプがここに含まれる。

年度・月ごとの傾向に関しては、学生支援本部が、退学者に関する集計や出席管理を毎年、毎月おこなっているが、それぞれの年度・月ごとに大きな違いは見られない。ただし、2学期制のため、学期開始時期である4月と9月は多少傾向に違いはある。

なお、下表の退学の理由は、学生が提出した退学願いの退学理由欄の記述と、クラス担任との面談での結果をもとに集計している。しかし、中退の背景にはさまざまな要因が複合的に絡んでいるため、何が直接的な理由であり、根本的な問題なのかを見出すことは難しい。その例として、経済的負担が大きいため、昼夜アルバイトに励んでいたところ、大学に来る

ことができなくなり、学業不振に陥るケースなどが挙げられる。そのため、中退要因の解析をおこなってもはっきりとした結果はなかなか出てこない。

①中退者の推移

	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
在籍者数（人）	5,071	4,977	4,935	4,787
退学者数（人）	184; 3.6%	184; 3.7%	205; 4.2%	197; 4.1%
除籍者数（人）	68; 1.3%	62; 1.2%	81; 1.6%	46; 1.0%
除退合計（人）	252; 5.0%	246; 4.9%	286; 5.8%	243; 5.1%

②学年別退学者数

	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
1年次	27; 14.7%	38; 20.7%	44; 21.5%	41; 20.8%
2年次	95; 51.6%	95; 51.6%	108; 52.7%	99; 50.3%
3年次	28; 15.2%	16; 8.7%	16; 7.8%	20; 10.2%
4年次	31; 16.8%	35; 19.0%	37; 18.0%	37; 18.8%

③退学理由

	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
学業不振	73; 39.7%	73; 39.7%	94; 45.9%	69; 35.0%
経済的理由	25; 13.6%	21; 11.4%	20; 9.8%	37; 18.8%
健康上の理由	18; 9.8%	21; 11.4%	18; 8.8%	25; 12.7%
ミスマッチ・進路変更	45; 24.5%	48; 26.1%	53; 25.9%	54; 27.4%
その他	23; 12.5%	21; 11.4%	20; 9.8%	12; 6.1%

④退学理由の具体的内訳

学業不振	基礎学力不足のため授業についていけない。学習意欲の喪失。その他
経済的理由	保証人の失業、死去など経済的負担。留年による家計の負担の増加。その他
健康上の理由	精神的理由。身体的理由。その他
ミスマッチ・進路変更	他大学への進学、編入、あるいは専門学校への入学。他の大学、専門学校の受験準備。就職、またはその準備。その他
その他	大学になじめない。学業以外に熱中しすぎた。友人関係。理由がはっきりしない。死亡。その他

4. 中退する学生の特徴について（個人特性や過去の教育経験、留年者との違いなど）

5. 中退に関連した学生問題について（ひきこもり、不登校、学習意欲の低下など）

全国、47都道府県から学生が来ており、一人暮らしの学生も少なくないが、親元に住んでいるかどうかと中退はあまり関連があるとはいえない。大学の近くに住んでいても、朝起きられず、大学に行きづらい学生はいる。

また、適度なアルバイトであればいいが、1週間ずつなど、アルバイトが「本業」になってしまう学生で、学業不振となる場合もある。近年、1年生の時から卒業するまでずっと、アルバイトを続けている学生が増えているように感じられる。大学院に入学してからもアルバイトをしている学生もいる。おそらく、これまで大学に進学してこなかったような学力的、あるいは経済的な層の学生が増えたことが、これに関係している。

学業的な適応に関して、出身高校による違いは、最初の段階では普通科高校と専門高校でカリキュラムが異なるため多少あるが、最終的にはほとんどない。しかし、ミスマッチの面では、普通科高校出身の学生の方が大きく、明確な理由がなく「なんとなく」工学系に

進学してしまった場合、入学後に苦労したり、授業が面白くなくなることもある。

工学系の学科が多く、男子学生の割合が高いが、中退の理由は男女でそれほど変わらない。

6. 大学中退後、中退者に発生している、または発生が予想される問題などについて

中退者のその後を把握できていないため、どのような問題があるのかわからない。友達同士では連絡を取り合っているのだろうが、中退者とは、たいていの場合、音信不通になってしまう。

7. 貴大学の「中退」観について（支援の必要性の認識など）

中退者問題は大学にとって大変重要な問題のため、様々な観点から、「対症的に」取り組んできた。現在は、退学者問題実働委員会を立ち上げ、中退者に関して様々な分析をおこない、そこからどのような取り組みが必要となるかを議論している。当初中退問題自体は教育改革と結びつくものではなかったが、中退問題をより「根本的なところから見直すということになれば、そこ[教育改革]に手をつけなければ、なかなか抜本的な解決にはならないだろうという話になって」いる。

例えば、そこでの議論では、中退問題は、以前のように、対症的に解決できるものではなくっており、共通基盤教育や学期制の仕組みなど、より構造的なところから見直していく必要があるといった意見も出ている。学期制に関しては、クォーター制にすることで、必修である初年次科目での単位の取りこぼしを防ぎ、落とした場合でも、学生が期間を空けず再履修できるようにするかなどの議論がある。

さらに、学生への経済的支援に関しても、5年次以降の学生に対して授業料の減免をするかどうか、また個別のケアに関しても、現在のクラス担任制では教員に負担がかかるため、それに代わるかたちで、ケアの専門家によるサポート体制の充実が必要なのではないかということについて、コスト・ベネフィットを考えながら、どうしていくべきかという議論を始めている。現在検討中の対応策については、できることから、可及的速やかに実施していく予定である。

（3）現在の支援状況について

1. 学生が中退を希望する場合の手続き方法などについて

中退を引き止めるための「最終ハードル」は、クラス担任との面談となる。その面談が終了した段階で、教務課のほうで退学届けの書類を受理し、書類が受理されると、審議に移り、承認が下る流れとなる。クラス担任がすべての学生を引き止めるという訳ではなく、個別の事情を勘案し対応する。なかには、引止めを拒む保護者もいる。

経済的な問題や、トラブルを抱えているなどの理由で、どうしても大学に通えないことも

あるため、面談では、クラス担任と保護者、そして学生がよく相談し、総合的にどうするかを判断する。次の進路や就職を決め、面談に臨む学生もいるが、その場合も、その中身をよく見た上で、学生本人にとって何がベストな選択かを判断させるようにしている。そのため、クラス担任にとって、「アドバイザー」としての役割をすることも、仕事の1つとなる。

ちなみに、クラス担任によって印象は異なると思うが、次の進路（専門学校入学、家庭の事情で就職など）を決め面談に臨む学生は全体の3分の2程度であり、何も決まらないでやめる学生はあまりいない。中退後どうなるか心配な学生は少なく、生き生きしている学生もいる。その後の進路としては、専門学校に進学するケースが多く、アルバイト先に正規に就職するというケースも少なくない。

退学時点で、就職を希望する学生には、キャリア支援課と接触してもらうようにしている。

2. 中退が予想される学生の把握方法について

学生が入学してすぐに、プレースメントテスト（英語、数学、物理、化学、一部の学科で生物も）を実施している。その得点をもとにして、英語、物理、数学の導入系の科目で、習熟度別クラス編成をおこない、授業をスタートさせている。また、特に得点の低い学生に関しては、個別に連絡を取り、基礎教育支援センターのほうで個別指導を受けられるような体制をとっている。

また、学生が何か相談したいことがある場合、いくつかのルートを設けている。1つがクラス担任であり、もう1つが学生相談室である。何か問題があればクラス担任と学生相談室が「一緒に面倒をみていく」仕組みになっており、例えば、メンタル面で課題がある学生の場合、教員だけでは対処できないため、以前から、相談室の専門家と連携して対応している。

退学届けの書類を取りに来る以前の段階で、「退学の因子を持っているような子たちを、いかに早期に発見して、早期からケアをしていって、止めるという形じゃないと、わかった段階で止められるか」というと、「ほとんどない」という。

3. 中退が予想される学生に対する支援の内容及びその効果について（特に貴大学において実績をあげている、あるいは特徴的な取り組み）

一般入試で入学した学生と比べて、AO入試などで入学した学生で、一部の科目の授業についていけなくなり、学業不振に陥る場合が少し多いかもしれない。しかし、AO入試などで入学した学生で中退が多いとは言えない。AO入試などで入学した学生の中でも、学力には個人差があるし、むしろ進学時の意識が高い学生は多い。また、学業不振に陥る確率の高い学生に対しては、個別指導をおこない、フォローアップをしている。なお、AO入試による入学者割合は、学科によって異なるが、多いところでは3～4割を占める。

ミスマッチに関しては、その対策として、1、2年次までは、どの学科の学生でも、共通の一般教養系科目などを受講できるように、共通基盤教育をおこなっている。それにより、

専門分野に移行する段階でのミスマッチを減らし、他学科への転科がしやすいようにしている。ただし、かといって、転科をする学生が多くなる傾向はなく、入学時の学科に残る学生がほとんどである。

また、クラス担任制度によって、各学科の教員がクラス担任となり、教員1人当たり30人程度の学生を、1年次から受け持っている。クラスに不登校や遅刻気味の学生がいる場合、そうした学生に対して、モーニングコールをしたり、アパートまで行って生活状況を確認し、特に地方にいる保護者には報告をおこなったりする教員も見られる。学科によっては、クラス担任のほかに、アドバイザー制度を設けているところもある。また、今ほとんどの学科では、「よろず相談室」のような形で、学生が勉強出来るスペースを設けている。そこに学科の教員が常駐し、学生から質問を受けたり、宿題や課題のサポートをしたりしている。そうすることで学生が孤立しないような環境を作っている。

クラス担任制度については、3年次以降はクラスの規模が大きくなるが、1～2年次はなるべく小規模クラス（教員1人に対して学生10～15人程度）を設定し、徹底的に指導をし、ケアをおこなっている。出欠も細かく見ている。学生と教員との接触時間を長くし、距離を短くすることで、学生にとって「頼れる人」がいる状況を作ろうと意図している。そのため、専任講師が「総動員」でそれにあたっており、教員によって賛否はあると思われるが、「教員は割ともう、学生の面倒を見るのは当たり前だという」状況にある。クラス担任制度はもともと中退問題に特化して設けられたわけではなく、今と昔ではその内容も異なってきている。例えば、以前と比べ現在では教員が学生と接触する機会はかなり多くなっており、「だんだん高校のクラス担任に近いような状況まで、大学でそこまでやるかというところまで来ている」という。

さらに、授業への出席数をカウントし、個々の学生の出席状況を、日ごと、週ごとに、把握する試みもしている。そこから、例えば、3回連続で授業を欠席した場合には、クラス担任に情報が回り、個別に学生に連絡が行き、面談をする場合もある。早い段階でのミスマッチを解消し、「本学でやってみよう」と「立ち直る」きっかけをつくり、中退の早期予防をすることが、その目的である。こうした細かな出席状況の把握に対して、学内で「葛藤」もあったが、中退問題に対して早期対応をなるべくしたいという考えに至っている。

その他、学生の状況を確認するために、最近はLINEやSNSを利用して、一斉情報発信をしている。保護者に対しては、学生の出席状況を定期的に配信するサービスもあり、それに登録した保護者は、学生の出席情報を1週間ごとに電子メールで受け取ることができる。

4. 大学（キャリアセンターなど）での中退者情報の共有・把握の有無について

キャリアセンターでは、就職活動がスタートした段階から学生の情報を把握するため、中退者に関する情報は把握していない。退学者や除籍者の情報は、教務課や各学科の教員がおもに把握している。

5. 中退者に対する退学後の就職支援の内容及びその効果について

6. 中退者に対する就職支援が必要と考えられる時期について（中退後直ちに、一定期間後など）

中退するまでのサポートはおこなっているが、中退後についてまでは対応できていない。これまで中退者に対してどのようなサポートをするのかという観点から大学側には欠けていたため、今後ハローワークなどと連携することで、何らかの対応は出来るかもしれない。そのかわり、中退した学生は母校の高校に相談に行くケースが多いのではないかと考えられる。

また、退学後に、何かの相談で中退した学生が相談に来ることはほとんどない。ただし、再入学の制度があるため、例えば、経済的な理由で退学した学生で、再入学する場合もある。その場合、入試課や元クラス担任の教員に相談に来て、再入学の準備、もしくはその手続きをとるケースもある。

中退者に対する就職支援として、クラス担任が知り合いの企業を紹介したり、クラブの顧問や監督が次の進路を紹介し、就職させる例は、「レアケース」かもしれないがある。ただし、それは大学全体としての取り組みとしてではなく、「個々の教員の努力」による。

7. 中退に関する行政や外部機関との連携状況について（連携先及び連携内容など）

中退希望者に対して、ハローワークなど公的支援機関を紹介することは、特にしてこなかった。地方にUターンする学生で、地元のハローワークを利用するケースはあると思われるが。ちなみに、中退後、地元に戻る学生はそれほど多くなく、戻るケースは女性に多いと考えられる。また、ジョブサポーターの活用はおこなっておらず、学内でのキャリアセンター相談員による学生支援が主である。

（4）今後の課題など

1. 中退防止、支援対策について困難な点や今後の課題など

2. 今後中退が予想される者あるいは中退者に対して実施を予定している支援について

現在、中退者数の3割減を目標に対策の充実を図ろうと考えている。学業不振、経済的理由、ミスマッチが中退理由全体の7～8割を占めているため、これら3要因に対処することで、中退者3割減の達成は可能だと考えている。具体的な対策案は目下検討中である。

また、ミスマッチに関して、それは高校時点での進路選択とも関連する問題である。そのため、高校とも連携し、高校のキャリア支援の充実化をはかることで、より早期からミスマッチ対策をおこなえるのではないかと考えている。高校との連携は毎年の課題であり、県下の高校を中心に連携校を増やし、やり取りしている。毎年5月には、指定校である高校の先生方を呼んで、学内で説明会を開いている。それ以外にも、関東甲信越や東海地方を中心に各県1名ずつ、進学アドバイザーがいるため、彼らに各県ごとの在学生の状況を送り、そこ

からそれぞれの学生の母校の方にその情報を伝えている。進学アドバイザーの先生とは学生の現状について直接情報交換をする機会もあり、中退者に関する情報など把握していると思われる。

【B大学】

聞き取り日：2014年8月5日

(1) 大学の基本情報**1. 大学の概要について（学部・学科、学生数、留年者数、就職率など）**

平成10年に開学。教育学部（教育福祉学科、英語教育学科）、人間科学部（人間心理学科、経営学科、ビジネス行動学科）、保健医療学部（看護学科）がある。キャンパスは、自宅通学が中心の〇〇キャンパスと、下宿が中心の△△キャンパスの2つである。入試方法としては、看護を除くと、AOと推薦で過半数を占める。

初年次教育のユニットとして、アドバイザーという専任教員の担任制度があり、1人当たり15～20名程度の学生を担当することになっている。入学当初から1年間は同じアドバイザーであり、そのあとはゼミ指導教員がアドバイザーとなる。

2. 中退に関する担当部署について（学内での連携状況など）

文科省の大学間連携共同教育推進事業の助成を受け、学生支援型IR（Institutional Research）を進めることを通じて、データに基づいた様々な教育活動を全学的に行っている。中退者を減少させるための支援もその一つである。

(2) 中退者の傾向について**1. 貴大学の（年間およその）中退者数及び中退率の近況及び推移について****2. 中退者は増加／減少傾向にあるかどうか、またその背景について**

学科によって中退率が異なる。目的が明確な教育学部や看護系は低い。

中退に対しては、これまで初年次教育で対応してきたが、アドバイザーとの個人面談が少なかったため、アドバイザーとの面談準備シートを作成し強化したところ、中退率が3分の1に急減した。初年次教育に加えて、学生個人のモニタリングを併せて行うことが効果的であった。また、すぐに中退させないでいったん休学に持っていくなど、冷却期間を設けることも効果がある。

3. 中退の経緯や理由（主要なもの）、中退の時期（何学年時、入学後何年経過後が多いかなど）、中退後の希望進路について

中退は主として1年次が多い。退学等の理由は、進路変更・進路再考、経済的困窮、学習意欲の低下、心身疾患、の順に多い。

経済的困窮については、JASSO奨学金受給と中退との関連を見るとあまり相関は強くない。

学生の中にはいわゆるファースト・ジェネレーション(家族で初めて高等教育を受ける学生)がおり、保護者も学生も、学費に困窮した際の色々な制度の情報を知らない可能性が推測される。

ただし学科によって退学理由には違いがあり、学業不振が中心の学科と、進路変更等が多い学科が存在する。ある学科は体育会系の学生が多く入学してくるため、「進路変更」「退部」が理由として多く、英語で授業を行う学科では、学業についていけないという理由が多くを占める。パーソナルな支援と、ターゲットを絞るサポートを組み合わせることが必要だと感じている。

4. 中退する学生の特徴について（個人特性や過去の教育経験、留年者との違いなど）

入学時に「日本語運用能力テスト」「論理思考テスト」を自前で実施しているが、入学者全体よりも、退学・除籍者の得点がやや低い傾向が見られる。

ただし退学・除籍により影響があるのは、1年終了時のGPA（Grade Point Average）である。1年生の最初の学期は不問にするが、1年の後期から、GPAが1学期1.0を割った段階でアドバイザーから注意があり、2学期目の終わりには保護者と本人に厳重注意、3学期続いたら退学勧告をすることになっている（実際の対応としては、必修のゼミ科目を取らせないで留年をさせることになっている）。退学勧告で辞めるのは数人である。

5. 中退に関連した学生問題について（ひきこもり、不登校、学習意欲の低下など）

ユニバーサル化に伴う多様な学生の受け入れのために、学習支援センターやアドバイザー制度など、学生への学習支援体制の整備を進めている。アドバイザーは、履修指導、学習目標の明確化、学業不振への対策方法など、個別に指導助言を行う。

また、入学前教育としてウォーミングアップ学習、センターオフィスアワー（専任教員によるアクティブラーニング室での学習支援）、欠席調査（後述）、センタープログラム（基礎的な学習）等、様々な教育機会を学生に提供している。

学生間、学生と教員間で自由に話せる場づくりのひとつとして、ラーニングコモンズや研究室を出たところに学生の勉強するスペースを作り、教員と学生の距離を近くしている。

6. 大学中退後、中退者に発生している、または発生が予想される問題などについて

「ふわっと」中退する学生がいる。就職といっても、アルバイト先にそのまま就職したり、またはアルバイトでいいやと思っていることもある。世の中のことがあまり見えていないのか、あまり切羽詰っておらず、自信満々なこともある。アドバイザーがキャリアサポート室に行きなさいといっても、なかなか行かない。

自分が何に向いているのかについて考えることがなく、また中退することが自分の将来に大きなリスクをもたらすということについて無自覚な学生が多いように感じる。

7. 貴大学の「中退」観について（支援の必要性の認識など）

卒業しても中退しても、一度大学に籍を置いた学生には支援する。中退しても、面接の練習や履歴書の書き方について尋ねてくる元学生もいる。

（3）現在の支援状況について

1. 学生が中退を希望する場合の手続き方法などについて

かつては中退の際には、教務に退学願いを提出し、それを審査するという手続きであったが、退学願いの提出先をアドバイザーと呼ばれる担任の先生（大学教員）に提出し、さらに学部長が面談をするという手続きに変更した。アドバイザーからキャリアサポート室に連絡があり、フォローを頼まれることもある。

ただし、上述したように、本人が中退することの社会的な不利を認識していないので、中退をする段階では支援を受ける必要性を感じていない中退者がほとんどである。厳しい現実を把握していない中退者を無理にキャリアサポート室につなげても、きちんと話を聞かないだろうと予想している。

2. 中退が予想される学生の把握方法について

各学期の授業開始から3－4週間経過した時点で、すべての科目担当者に対して欠席者の調査を実施し、多欠席の者にはアドバイザーから個別指導を行う。

3. 中退が予想される学生に対する支援の内容及びその効果について（特に貴大学において実績をあげている、あるいは特徴的な取り組み）

リテンション（学業継続）対策プロジェクトを立ち上げ、学習意欲・成績低下、生活習慣、教育プログラムへの不適応、メンタル、経済的要因、転出、クラブなど8項目の要因に分類し、対応部局を決定し、改善に努めている。

また休学や転学科・転専攻などのチャンネルを開くなどしている。

4. 中退に関する行政や外部機関との連携状況について（連携先及び連携内容など）

中退理由を聞いたうえで、必要な場合にはサポステやハローワークを紹介しているが、公的な支援機関はもっと気軽に学生が行きやすいような工夫（ワンストップ化等）をするとよいのではないか。またその際には、自分の適性が分かっていないので、適性検査のようなツールが必要ではないか。

(4) 今後の課題など

中退の背景には、大学教育で教えるべきスタンダードが喪失したこと、高校の履修主義、高校のカリキュラムの枝分かれの早さなどの高校教育の質保証における課題が存在すると考えている。大学としては、中退させた大学ではなくて、中退者を受け入れようとする大学とつなぐことはできると思うが、中退した大学が斡旋の世話をするのは現実的ではないように思う。

【C専門学校】

聞き取り日：2014年8月6日

(1) 学校の基本情報

1. 学校の概要について（学部・学科、学生数、留年者数、就職率など）

1996（平成8）年、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を建学の理念に掲げ、開校した。現在、介護福祉士科（2年制）、社会福祉士科（3年制）、こども福祉科（3年制）、介護福祉士科Ⅱ部（3年制／夜間課程）、社会福祉士養成科（1年制／夜間課程）、キャリアデザイン・コミュニケーション科（1年制）、こども福祉科Ⅱ部（3年制／夜間課程）の7学科がある。

全学生数は700名を超える。学生のほとんどが学校所在県の出身者のため、実家から通う学生が多い。地方出身の学生で寮暮らしの者もいるが、1割程度と少数である。

就職率については、例年、就職希望者の100%が就職できている。また、そのうち学校で学んだ分野（福祉・医療・保育）の仕事に就いた卒業生の割合は、99.1%になる（平成25年3月卒業者）。そのほとんどが学校所在県内あるいは出身県内での就職である（同年度の地元就職率は97.7%）。福祉系の学科の場合、教員のネットワークを活用した就職が多い。

2. 中退に関する担当部署について（学内での連携状況など）

各学科にクラス担任を設けており、もし学生が中退を希望する場合、まずクラス担任に相談するケースが圧倒的に多い。面談後、クラス担任が、教務全体のとりまとめをおこなっている教務部長に相談を持ちかけ、そこから担任、学科長、教務部長の3者で協議をし、その学生に対する支援をスタートさせる。

また、支援としては、中退の原因となる下記の要因別に対策を考えるようにしている。そのため、「学生がやめたいというときの原因がまずはっきりすれば、その原因を取り除くというか、解決するところからスタートする」ようにしている。その際、教務部の職員だけでなく、学生相談室の相談員など、色々な人がその学生に関わるようにし、学生の個別背景をできるだけ知った上で支援をおこなうようにしている。

中退希望者である学生との面談では、必ず保護者に同席をお願いしている。中退に対する保護者の対応は様々であるが、近年は家庭環境に課題のある学生が増えている印象があり、面談には参加するが子どもとの関係があまりよくないケースも多々見受けられる。また、面談で、中退をとめない保護者も多く、そもそも面談への参加を拒否する保護者もいる。最近では、「判断は子どもに任せているので、書類だけください」という保護者もやや増えている。

(2) 中退者の傾向について

1. 貴校の（年間おおよその）中退者数及び中退率の近況及び推移について

2. 中退者は増加／減少傾向にあるかどうか、またその背景について

中退者率の推移を見ると、平成19年度以前では4%台であったが、その後、平成20年で2.7%、平成22年で2.4%、平成24年で1.5%と、3%を下回るようになっている。

3. 中退の経緯や理由（主要なもの）、中退の時期（何学年時、入学後何年経過後が多いかなど）、中退後の希望進路について

4. 中退に関連した学生問題について（ひきこもり、不登校、学習意欲の低下など）

おもな中退理由としては、目標設定不足、集団不適應、学力不足、精神疾患、家庭問題、経済的な問題、身体的な病気、妊娠・出産が挙げられる。ただし、ひとりの学生が複数の要因を持っている場合も多い。

最も多いのが、目標設定不足であり、目標が途中で変わってしまったというケースが圧倒的である。中退の時期は1年次が圧倒的だが、そのうちの多くが目標設定不足を理由としたケースである。例えば、当初は介護福祉士を目指し入学したが、実際に授業が始まり、実習に参加したところ、イメージしていた内容とは大きく違っていたため、目標意識が低下し、それ以上の在学継続を望まないケースがその一つである。こうした理由で中退するケースは、全体の6割程度に及ぶ。

次に多いのが、集団不適應であり、クラスに馴染めず、仲間はずれになり、登校できなくなるケースがここに含まれる。この場合、欠席日数が増えてくるため、それに気づいたクラス担任から「最近おかしいですね」ということで、学生に連絡が行き、面談の機会が設けられることになる。なお、生活習慣の乱れという要因は、集団不適應、あるいは次に見る精神疾患に分類される。例えば、昼夜逆転生活により病院に行くことになったケースや、食生活の乱れから、イライラが治まらず、クラスで孤立してしまったケースなどがこれに当たる。生活習慣の乱れが直接的な中退原因になるというよりも、それによって引き起こされた要因が中退に結びついていると考えられる。

つづいて多い理由が、学力不足や精神疾患である。精神疾患には発達障害も含まれる。もともとそうした疾患を抱え入学する学生もいるし、入学後に発症する学生もいる。この場合、長期休学を余儀なくされるため、在籍の継続が難しくなる。

ここ数年での変化としては、中退の理由となる背景が、以前は単純であったが、去年、一昨年あたりから、複数の要因が絡み合うようになっていることが挙げられる。例えば、目標設定不足の背後に、発達障害が関係しているケースである。またそれに、奨学金は借用可能

だが、すでに借金があるため、他の教育ローンを借りることができないなどの家庭の貧困が絡んでいるケースや、しかもそれが生活保護を貰っている母子家庭で、母親が病気を患っており、学生本人は精神障害で病院に通院しているといったケースも見られる。このように中退の背景要因が複雑化した状況があり、それに見合った支援体制を作っていく必要性を強く感じている。

5. 中退する学生の特徴について（個人特性や過去の教育経験、留年者との違いなど）

入試形態による、中退者割合の差はそれほど大きくない。ちなみに、全入学者（社会人入学を含む）を入学形態別に見ると、AO入試が4割、指定校推薦が1割、一般入試が5割程度となる。高卒すぐの入学に限定すると、AO入試による入学者割合はさらに高い。

他の学校を中退、あるいは大学を卒業し、こちらの学校に入学してくる学生は、介護福祉士科Ⅱ部や子供福祉科Ⅱ部など、夜間課程に多い。その数は毎年5、6人程度であり、年度による変動が大きい。年齢としては、20代から30代前半が多いが、介護系では50～60代で入学する者もいる。しっかりとした目的意識を持っている方もいる一方で、過去に職場不適應を起こし、学校に入りなおしてきたケースもあるなど、「なかなかポジティブなイメージを今の学科で持つことができずに、次失敗したらどうしようという気持ちがどうしても振り切れないという弱さを抱えながら勉強を続けている方」も少なからずいる。しかし、そうした学生でも大方中退をせずに、卒業までたどり着いている。

全学生のうち約半数が、日本育英会の奨学金を借りているが、奨学金の関係で中退する学生はかなりいる。中退後の奨学金返済の厳しさを意識した上で、中退する学生はほとんどいない。そうした状況もあり、キャリアデザイン・コミュニケーション科では、マネー教育を導入し、学生の将来設計と絡めて、奨学金返済についてなど取り上げている。なお、奨学金に関する対応は学生サービス課がおこなっており、奨学金の停止と返済プランを立てるところまでは指導している。

6. 学校中退後、中退者に発生している、または発生が予想される問題などについて

7. 貴校の「中退」観について（支援の必要性の認識など）

学校としては中退者のその後について把握できておらず、中退者に対する支援は難しいと言える。ただし、特に精神疾患や発達に問題がある中退した学生に関しては、学生相談室の職員が、何とか自立するまでは面倒を見ようという責任感から個人的にその後も追跡をしている。本来であれば、中退後に学校からの支援は出来ないのだが、精神疾患、発達障害などをもつ中退者に対しては、今後どうしていくか相談にのるようにしている。例えば、数年前に夜間課程を、統合失調症を理由に中退した学生がいるが、その保護者とは話し合いを重ね、

次の進路として新しい学校に入り直すことが決定している。

(3) 現在の支援状況について

1. 学生が中退を希望する場合の手続き方法などについて
2. 中退が予想される学生の把握方法について
3. 中退が予想される学生に対する支援の内容及びその効果について（特に貴校において実績をあげている、あるいは特徴的な取り組み）

まず、クラス単位では、クラスの担任に、全体指導として、学校を卒業することの意義や中退することのリスクについてなどは、話してもらっている。

加えて、中退者率が減少してきた時期からという訳ではないが、学生相談室での取り組みに力を入れている。学生相談室では、特に学生のメンタル面に関する相談に対応している。目的意識が低下し、途中で学業継続が難しくなっている学生への対応もしている。学生相談（面談）は、完全予約制で、その利用が本人以外の担任や同級生に知られることはない。また、カウンセリングは、専門のカウンセラー（臨床心理士）と学生の1対1でおこなわれている。というのも、中退は学生の個別の背景に起因するケースが多く、個別の背景を丁寧に見ていかなければ、中退を抑制することはできないため、1対1のカウンセリングが効果的だからである。学生の生活全般に関わる、そうした手厚い個別支援の結果、例えば、学生相談室が受け持つ場合が最も多い、精神疾患や発達障害の学生では、中退をするケースはほとんどない。

ちなみに、カウンセリングでは、目標設定不足で中退を希望する学生に対しては、目標についてしっかり話し合うところからスタートしている。目標設定不足の学生に対しては、一度キャリアデザイン・コミュニケーション科（1年制）に移ってもらうようにしている。もともと国家資格取得を目標とした学科が多いため、一度ある学科に入学すると学科変更は本来的には難しいのだが、目標設定不足でキャリアデザイン・コミュニケーション科に移った学生に関しては、目標を設定し直した結果として、もとの学科に戻る事が出来るようにもしている。また、進路変更も積極的に勧めており、場合によっては、以前とは別の進路に変更してしまうケースもある。事例として、保育の学科（子ども福祉学科）に入学した学生が、他の学科に移りたいということで、介護系の夜間の学科に移ったケースが挙げられる。

相談内容によっては、カウンセリングではなく、カウンセラー以外の者が対応する場合がある。例えば、心理的な問題ではなく、「一人暮らしで寂しいから、相談相手がほしい」という相談であった場合は、学校の警備員や清掃員の方々に頼み、そうした学生に声かけをってもらうようにしている。そうしたケースも、これまで1、2件あった。

なお、学校を運営する学園（学校法人）全体でも、10年以上前から、カウンセリングの導入に力を入れており、臨床心理士の配置も常勤、非常勤ともに進んでいる。学園全体のカウンセラーの取りまとめをおこなう、トータルサポートセンターが本部に設けられており、そこでサポートアンケートを実施したり、そこから学生相談に関する情報を発信しその周知を図るなどしている。

4. 学校（キャリアセンターなど）での中退者情報の共有・把握の有無について

5. 中退者に対する退学後の就職支援の内容及びその効果について

6. 中退者に対する就職支援が必要と考えられる時期について（中退後直ちに、一定期間後など）

中退希望者に対して、就職の斡旋などはしていないが、学生の将来像がはっきりしているかを確認し、中退を許可するかどうかの目安としている。例えば、3年課程の2年目で中退を希望する学生に対しては、学校側から、中退後どうするかを確認する。その際、臨床心理士も加わる場合もあれば、教務部長のみで判断する場合もある。

中退後の仕事などが決まっている学生の場合は良いが、将来展望がないまま中退を希望する学生に対しては、できるだけ思いとどまらせるようにしている。また、特に、アルバイトをしておらず、学校も欠席しており、まったく先が見えていないが、とにかくやめたいという学生には、中退後にひきこもるリスクがあるため、キャリアデザイン・コミュニケーション科に移るよう勧める場合もある。

なお、就職支援に関しては、キャリアセンターの部署が担当しており、福祉系の就職はそこが窓口となっている。就職支援の流れとしては、まずキャリアセンターが主導し学生指導を実施、ガイダンス等を開催している。ガイダンスでは、例えば、保育の分野といっても仕事の種別は多様であるため、学生がどういったところに勤めたいかを確認する作業からはじめ、その後学生が希望する仕事条件（勤務日数、勤務地、給料など）に合った企業をマッチングさせていく。

出席日数や取得単位数などを条件に、卒業見込みが明確になった学生から、就職支援を始めることになる。留年の可能性がある場合は、就職支援は延期する。また、卒業見込みではあるが、日頃に態度が良くない学生については、希望通りの就職が難しいため、学校側から理解のある施設を見つけ、そこに行ってもらおう等の配慮をしている。

7. 中退に関する行政や外部機関との連携状況について（連携先及び連携内容など）

中退希望者の中で、引きこもるリスクの高い学生への支援が最も難しいが、その場合、中退後に地域若者サポートステーションにつなげることが多い。そちらにも、臨床心理士の方

がいたので、中退後の相談業務や適職診断を引き継いでもらっている。3～4年前に初めてそうした試みをおこない、以後連携関係は続いている。以前はこの学校の社会福祉士養成科の卒業生が、引き受け先であるサポートステーションで、相談員として、働いていたこともあった。それ以外にも、直接、支援機関にお願いしたこともある。

また、中退者に関してではないが、以前からハローワークの担当者と連携をしており、キャリアデザイン・コミュニケーション科の学生を中心にハローワークに紹介をしている。ハローワークの担当者に直接学校に来てもらい、学生に指導をしてもらうなどもしている。例年5月頃に、この学科の学生の中から、本人の希望により一般就労したいという学生を集め、ハローワークのほうで求人登録をしてもらい、就職活動をスタートさせる流れを組んでいる。なかなか動き始めるのが遅い学生もいるが、9月を過ぎた時点で、さらに、個別の支援をスタートさせている。

(4) 今後の課題など

1. 中退防止、支援対策について困難な点や今後の課題など

2. 今後中退が予想される者あるいは中退者に対して実施を予定している支援について

現在、学校全体としては、職業人教育の一環として、社会人基礎力養成などをベースとした、キャリア教育の取り組みを高めている。特に、学校側としては、卒業生の離職率に注目しており、キャリア教育の観点から、3年以内の早期離職を抑えるための対策を考えている。介護や保育の分野では離職率は高く、学校が実施した卒業生の追跡調査からも、卒業生のうち、数十人程度が1年以内に離職しているという結果が出ているためである。

また、キャリア教育の内容としては、規律教育に特徴があり、学生が挨拶、掃除、仕事上のマナーなど、働く上での基礎を見につけ、学生段階から職場で働くのと同じ意識を持って行動ができるように指導している。

その他、学生の実習先や卒業生の就職先からは、例えば、高齢者福祉施設で、高齢者と関わる中で必要となる、一般常識レベルの学力や「オープンな姿勢」を、学生に見につけるよう指導してほしいとの要望もあり、それにどのように取り組むか検討している。

(5) その他

キャリアデザイン・コミュニケーション科について

キャリアデザイン・コミュニケーション科は、定員40名程度であり、その半分が新規高卒者、残りの半分が他学科から転科の学生となっている。当学科では、福祉、健康、食、美

容など、幅広い領域の授業を受けることができる。年 800 時間、51 単位以上の授業を学生が受講できるように、カリキュラムを組んでいる。また、資格取得も可能であり、例えば、介護職員初任者研修の資格は、今後、介護福祉科などで介護研修に行く場合や仕事でも生かすことができる。学生の将来につながる、民間の資格取得をどのように組み込むことができるかを重視し、カリキュラムの組み直しをこれまでおこなってきた。その際、ハローワークにヒアリングをおこない、どのような資格を組み込むかの参考にしている。

キャリアデザイン・コミュニケーション科は、当初、高校卒業後すぐに、明確な進路意識を持たないまま進学してしまった学生の「受け皿」となることを目的に、立ち上げられた学科である。実際に立ち上げたところ、通信制サポート校などの教員から問い合わせが多く寄せられ、発達障害など、進学はしたいが、なかなか受け入れてもらえない学生が多く通ってきている。近年、通信制サポート校からの入学者は多くなる傾向にある。また、彼らの一部は、学力不足であったり、登校習慣がないこともあり、支援の必要性がある。学力不足に関しては、不登校経験などで、小学校レベルで学力がとまっているため、A4で1枚程度の実習レポートが書けなかったり、日本語の「てにをは」がまったくできないケースもいくつか見られる。

このように支援の必要性が高い面もあるが、通信制サポート校（高校）時代には、あまり学校に通っていなかったという学生であっても、この学科であれば登校できるというケースも多々見られる。その要因としては、授業時間数を少なくし、少人数クラス（1クラス 20人程度）を設定していることや、授業の担当講師として様々な専門資格を有する講師を呼び、学生との相互のやり取りの機会を多くとり、学生にとって「負担とかプレッシャーが少ないような形の授業展開」なるよう工夫していることなどが考えられる。この学科からはほとんど中退者は出ておらず、もし1年間通いきれそうにない場合、半期休学をし、その後復学してもらするなど、学生の状況に合わせて柔軟に対応している。

学生の就職先についてはかなり幅広く考えている。例えば、発達障害や知的障害の学生の場合、就労移行支援施設を紹介することもある。また、学生を一般就労と結びつけるために、（新卒応援）ハローワークや地域若者サポートステーションを利用するよう促すこともある。

キャリアデザイン・コミュニケーション科が立ち上げられる前から、社会福祉士科や子ども福祉科では、知的障害などを理由に資格取得が困難な学生がいたため、そうした学生が卒業だけはできるよう、学校責任者と交渉し、卒業後は就労移行支援施設（以前の「作業所」）で一定期間働いてもらうことをしていた。また、精神疾患の学生の場合は、医療機関から紹介状をもらい、卒業後に、デイケアを受けながら、作業所で働いたり、相談を受けながら社会復帰を目指したりできるような仕組みづくりをこれまでしてきた。この仕組みづくりの過程で、モデルとしたケースは少なく、独自に試行錯誤し、作り上げてきた。

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

		全体		性別		学校種別				
				男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院	
有効回答数 (N)		1095		672	417	146	97	758	49	
		人数	%	%		%				
問1 ハローワークを利用しようと思ったのは、いつ頃ですか。又、どのようなきっかけでそう思いましたか。	利用しようと思った時期	中退する前	183	16.7	17.1	16.1	18.5	13.4	15.8	32.7
		中退したあと	900	82.2	81.7	83.2	80.1	84.5	83.2	65.3
		無回答	12	1.1	1.2	0.7	1.4	2.1	0.9	2.0
		N	900		549	347	117	82	631	32
	中退後利用しようと思うまでの期間(中退したあとに利用しようと思った人のみ)	1か月未満	153	17.0	18.4	14.7	35.0	14.6	13.9	18.8
		1～6か月	179	19.9	20.9	18.2	22.2	19.5	18.4	21.9
		7か月～1年	95	10.6	9.5	12.1	13.7	8.5	11.1	6.3
		1年～1年半	44	4.9	5.3	4.3	3.4	6.1	4.6	15.6
		1年半～2年	90	10.0	10.4	9.5	1.7	9.8	11.9	6.3
		2年～2年半	20	2.2	2.4	2.0	2.6	2.4	2.1	6.3
		2年半～3年	37	4.1	3.3	5.5	4.3	2.4	4.3	0.0
		3～5年	83	9.2	10.6	7.2	4.3	7.3	10.3	9.4
		5～10年	63	7.0	6.7	7.2	0.9	9.8	7.8	12.5
		10年以上	31	3.4	3.5	3.5	0.0	7.3	4.0	0.0
		無回答	105	11.7	9.1	15.9	12.0	12.2	11.7	3.1
	N	1095		672	417	146	97	758	49	
きっかけ	ホームページ	103	9.4	11.3	6.2	6.8	0.0	10.2	24.5	
	親	532	48.6	47.9	49.9	61.6	50.5	46.7	32.7	
	友人	198	18.1	18.8	17.3	15.8	20.6	18.6	16.3	
	学校	29	2.6	2.5	2.9	3.4	2.1	2.1	8.2	
	その他(親族)	20	1.8	1.3	2.4	2.1	2.1	1.7	2.0	
	その他(仕事を探そうと思った)	41	3.7	4.5	2.6	4.1	2.1	3.8	2.0	
	その他(離職・退職・失業)	32	2.9	2.1	4.3	0.7	6.2	3.2	2.0	
	その他(失業保険・職業訓練)	23	2.1	0.6	4.6	0.0	7.2	2.0	2.0	
	その他(サポスタ)	6	0.5	0.6	0.5	0.0	1.0	0.4	0.0	
	その他(他の支援機関)	15	1.4	1.6	1.0	0.0	1.0	1.3	6.1	
	その他(それ以外)	40	3.7	4.0	3.1	2.1	3.1	4.2	0.0	
	その他(無回答・不明)	27	2.5	2.7	2.2	2.1	2.1	2.8	0.0	
	無回答	29	2.6	2.1	3.1	1.4	2.1	3.0	4.1	
求職登録した時期(現時点から)	1か月以内	410	37.4	37.5	37.4	41.1	40.2	36.0	38.8	
	2～3か月前	191	17.4	17.6	17.3	9.6	14.4	18.7	26.5	
	4か月～半年前	100	9.1	9.2	8.9	11.6	9.3	8.8	8.2	
	半年～1年前	95	8.7	8.0	9.8	9.6	11.3	7.8	12.2	
	1年以上前	265	24.2	24.9	23.3	23.3	24.7	25.3	10.2	
		無回答	34	3.1	2.8	3.4	4.8	0.0	3.3	4.1
問2 ハローワークのほかに、どのような方法で仕事を探していますか。(複数回答)	求人広告・雑誌を見る	非選択	358	32.7	35.6	28.5	27.4	27.8	33.1	49.0
		選択	687	62.7	59.1	68.6	70.5	70.1	61.2	46.9
		無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1
	求人情報サイトを見る	非選択	244	22.3	22.9	21.3	28.1	25.8	21.1	12.2
		選択	801	73.2	71.7	75.8	69.9	72.2	73.2	83.7
		無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1
	家族や友人・知人に紹介を頼む	非選択	875	79.9	76.8	85.4	84.2	80.4	78.2	89.8
		選択	170	15.5	17.9	11.8	13.7	17.5	16.1	6.1
		無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1
	民間の職業紹介会社に登録する	非選択	973	88.9	87.2	91.8	94.5	92.8	87.5	77.6
		選択	72	6.6	7.4	5.3	3.4	5.2	6.9	18.4
		無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1
派遣会社に登録する	非選択	913	83.4	86.0	79.6	85.6	82.5	82.8	85.7	
	選択	132	12.1	8.6	17.5	12.3	15.5	11.5	10.2	
	無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1	
その他	非選択	1020	93.2	91.7	95.9	95.9	96.9	92.0	91.8	
	選択	25	2.3	3.0	1.2	2.1	1.0	2.4	4.1	
	無回答	50	4.6	5.4	2.9	2.1	2.1	5.7	4.1	
問3 これまで、何社ぐらいの企業で採用面接を受けましたか	なし	294	26.8	27.7	25.9	28.8	26.8	26.6	20.4	
	1～5社	518	47.3	46.4	48.7	48.6	41.2	47.8	49.0	
	6～10社	136	12.4	13.1	11.3	8.2	10.3	13.6	12.2	
	11～30社	64	5.8	6.8	4.3	4.8	9.3	5.0	16.3	
	30社以上	21	1.9	2.4	1.2	1.4	1.0	2.2	2.0	
		無回答	62	5.7	3.6	8.6	8.2	11.3	4.7	0.0

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)			全体		性別		学校種別			
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
			1095		672	417	146	97	758	49
					%		%			
問4 応募先を決める際に、どのような条件を重視していますか。(複数回答)	企業の業種・仕事内容	非選択	257	23.5	23.1	24.5	26.7	20.6	23.6	14.3
		選択	835	76.3	76.8	75.3	71.9	79.4	76.3	85.7
		無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0
	企業の知名度	非選択	1044	95.3	95.1	96.2	95.9	97.9	94.7	95.9
		選択	48	4.4	4.8	3.6	2.7	2.1	5.1	4.1
		無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0
	企業の将来性・安定性	非選択	825	75.3	72.2	80.3	68.5	77.3	76.8	65.3
		選択	267	24.4	27.7	19.4	30.1	22.7	23.1	34.7
		無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0
	正社員かどうか	非選択	389	35.5	29.6	45.6	31.5	52.6	34.2	26.5
		選択	703	64.2	70.2	54.2	67.1	47.4	65.7	73.5
		無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0
	勤務時間・休暇・福利厚生	非選択	377	34.4	40.9	24.5	30.8	30.9	35.6	38.8
		選択	715	65.3	58.9	75.3	67.8	69.1	64.2	61.2
無回答		3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
給料	非選択	478	43.7	45.8	40.5	42.5	48.5	43.5	51.0	
	選択	614	56.1	54.0	59.2	56.2	51.5	56.3	49.0	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
地域条件(勤務地・転勤の有無)	非選択	552	50.4	52.1	47.7	44.5	48.5	50.7	57.1	
	選択	540	49.3	47.8	52.0	54.1	51.5	49.2	42.9	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
自分の能力や適性と合っていること	非選択	532	48.6	47.9	49.4	45.2	51.5	48.9	38.8	
	選択	560	51.1	51.9	50.4	53.4	48.5	50.9	61.2	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
学歴不問であること	非選択	652	59.5	59.7	60.0	61.6	49.5	58.0	95.9	
	選択	440	40.2	40.2	39.8	37.0	50.5	41.8	4.1	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
経験不問であること	非選択	628	57.4	56.7	59.0	57.5	54.6	57.8	59.2	
	選択	464	42.4	43.2	40.8	41.1	45.4	42.1	40.8	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
その他	非選択	1082	98.8	99.0	98.8	98.6	97.9	98.8	100.0	
	選択	10	0.9	0.9	1.0	0.0	2.1	1.1	0.0	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
どのような条件でもかまわない	非選択	1088	99.4	99.4	99.5	97.3	100.0	99.6	100.0	
	選択	4	0.4	0.4	0.2	1.4	0.0	0.3	0.0	
	無回答	3	0.3	0.1	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	
問5 現在、就職活動のほかに、何かしていますか。	就職活動のみをしている	574	52.4	54.8	48.7	60.3	69.1	48.8	51.0	
	就職活動中だが、非正規雇用で働いている	276	25.2	24.3	26.6	24.0	13.4	27.0	20.4	
	就職活動中だが、正規雇用で働いている	37	3.4	3.1	3.8	4.1	1.0	3.8	0.0	
	就職活動中だが、進学や資格取得の為に勉強している	147	13.4	12.4	15.3	7.5	10.3	14.6	20.4	
	その他	45	4.1	4.0	4.3	2.1	4.1	4.4	8.2	
問6 学校を中退してからこれまでを振り返って、次のような働き方や無職を経験したことがありますか。(複数回答)	1ヶ月以上無職だったことがある(学生や主婦ではなく)	非選択	533	48.7	48.2	49.4	58.2	50.5	45.8	59.2
		選択	551	50.3	50.9	49.6	39.7	47.4	53.6	38.8
		無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0
	これまで働いたことはない	非選択	947	86.5	85.0	89.2	79.5	87.6	89.3	61.2
		選択	137	12.5	14.1	9.8	18.5	10.3	10.0	36.7
		無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0
	パート・アルバイト	非選択	261	23.8	25.1	21.8	30.8	22.7	20.8	55.1
		選択	823	75.2	74.0	77.2	67.1	75.3	78.5	42.9
		無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0
	契約社員・嘱託	非選択	918	83.8	84.7	82.5	87.7	78.4	83.9	79.6
		選択	166	15.2	14.4	16.5	10.3	19.6	15.4	18.4
		無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0
	派遣社員	非選択	899	82.1	82.4	81.8	88.4	79.4	80.5	87.8
		選択	185	16.9	16.7	17.3	9.6	18.6	18.9	10.2
無回答		11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0	
正社員・公務員	非選択	785	71.7	71.4	72.2	73.3	73.2	70.7	77.6	
	選択	299	27.3	27.7	26.9	24.7	24.7	28.6	20.4	
	無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0	
自営・家業	非選択	1030	94.1	93.9	94.5	92.5	93.8	93.9	95.9	
	選択	54	4.9	5.2	4.6	5.5	4.1	5.4	2.0	
	無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0	
その他の働き方	非選択	1076	98.3	98.5	98.1	97.3	95.9	98.7	98.0	
	選択	8	0.7	0.6	1.0	0.7	2.1	0.7	0.0	
	無回答	11	1.0	0.9	1.0	2.1	2.1	0.7	2.0	
問7 中退してから、最初に就職活動を始めるまで、どのくらいの期間がたっていましたか。	中退する前から	200	18.3	17.6	19.7	13.7	24.7	17.3	32.7	
	3か月未満	393	35.9	35.4	36.5	52.1	30.9	33.2	32.7	
	3か月～6か月未満	118	10.8	11.3	10.1	10.3	8.2	10.6	16.3	
	6か月～1年未満	110	10.0	9.8	10.6	12.3	12.4	10.3	2.0	
	1年～3年未満	170	15.5	15.6	15.3	6.8	13.4	18.1	10.2	
	3年以上	96	8.8	9.5	7.4	3.4	10.3	9.9	6.1	
無回答	8	0.7	0.7	0.5	1.4	0.0	0.7	0.0		
問8 中退後の就職活動中に、何か困ったことや不利益を感じたことはありましたか。	ない	560	51.1	53.4	48.0	54.8	53.6	50.4	46.9	
	ある	468	42.7	41.5	44.4	42.5	42.3	42.9	53.1	
	無回答	67	6.1	5.1	7.7	2.7	4.1	6.7	0.0	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

			全体		性別		学校種別			
					男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
有効回答数 (N)			1095		672	417	146	97	758	49
			人数	%	%		%			
問9 あなたが最後に在籍した(中退した)学校について教えてください。	学校所在地	北海道・東北地方	103	9.4	9.8	8.9	11.0	13.4	9.1	8.2
		関東地方	341	31.1	32.9	28.8	21.9	24.7	34.8	42.9
		中部地方	149	13.6	15.0	11.5	17.1	10.3	13.9	18.4
		近畿地方	231	21.1	19.5	24.0	18.5	20.6	23.2	14.3
		中国・四国地方	97	8.9	7.7	10.8	12.3	13.4	7.8	12.2
		九州・沖縄地方	107	9.8	8.8	11.0	18.5	17.5	8.2	2.0
		外国	5	0.5	0.6	0.2	0.0	0.0	0.7	0.0
		無回答	62	5.7	5.7	4.8	0.7	0.0	2.4	2.0
	学校の種類	専門学校	146	13.3	9.7	18.9				
		短大・高専	97	8.9	3.0	18.5				
		大学	758	69.2	77.7	55.9				
		大学院	49	4.5	5.5	2.9				
		その他・無回答	45	4.1	4.2	3.8				
	学部・専攻	専門・工業系	18	1.6	2.1	0.7	12.3			
		専門・農業系	3	0.3	0.4	0.0	2.1			
		専門・医療系	60	5.5	3.0	9.6	41.1			
		専門・衛生系	11	1.0	0.3	2.2	7.5			
		専門・教育社会福祉系	9	0.8	0.7	1.0	6.2			
		専門・商業実務系	18	1.6	0.9	2.6	12.3			
		専門・服飾家政系	3	0.3	0.0	0.7	2.1			
		専門・文化教養系	19	1.7	1.8	1.7	13.0			
		短大・人文系	5	0.5	0.0	1.2		5.2		
		短大・社会系	9	0.8	0.6	1.2		9.3		
		短大・教養系	1	0.1	0.0	0.2		1.0		
		短大・工業系	3	0.3	0.3	0.2		3.1		
		短大・保健系	7	0.6	0.1	1.4		7.2		
		短大・家政系	16	1.5	0.1	3.6		16.5		
短大・教育系		28	2.6	0.3	6.2		28.9			
短大・芸術系		8	0.7	0.0	1.9		8.2			
短大・その他		6	0.5	0.0	1.4		6.2			
高専・工業系		10	0.9	1.2	0.5		10.3			
高専・芸術系		1	0.1	0.1	0.0		1.0			
大学・人文系		131	12.0	10.6	14.4			17.3		
大学・社会科学系		249	22.7	28.6	13.7			32.8		
大学・理学系		20	1.8	1.9	1.7			2.6		
大学・工学系		156	14.2	21.3	3.1			20.4		
大学・農学系		13	1.2	0.9	1.7			1.7		
大学・保健系		45	4.1	3.3	5.3			5.9		
大学・家政系		21	1.9	0.4	4.1			2.8		
大学・教育系		27	2.5	2.2	2.9			3.6		
大学・芸術系	24	2.2	2.1	2.4			3.2			
大学・その他	37	3.4	2.8	4.3			4.9			
大学院・人文系	7	0.6	0.4	1.0			14.3			
大学院・社会科学系	14	1.3	1.8	0.5			28.6			
大学院・理学系	7	0.6	0.9	0.2			14.3			
大学院・工学系	9	0.8	1.3	0.0			18.4			
大学院・農学系	4	0.4	0.3	0.5			8.2			
大学院・保健系	2	0.2	0.3	0.0			4.1			
大学院・教育系	2	0.2	0.0	0.5			4.1			
大学院・芸術系	1	0.1	0.0	0.2			2.0			
分類不能	2	0.2	0.1	0.2	0.0	2.1	0.0	0.0		
無回答	89	8.1	8.6	7.0	3.4	1.0	4.7	6.1		
入学志望度	とても志望していた	261	23.8	20.8	28.8	36.3	33.0	20.1	46.9	
	まあまあ志望していた	539	49.2	50.1	47.7	50.7	52.6	51.1	49.0	
	あまり志望していなかった	174	15.9	18.3	12.0	10.3	12.4	19.3	2.0	
	まったく志望していなかった	68	6.2	5.8	7.0	2.1	2.1	8.3	0.0	
	無回答	53	4.8	4.9	4.6	0.7	0.0	1.3	2.0	
入試方法	一般入試(センター入試含む)	490	44.7	48.4	39.1	34.9	32.0	49.1	73.5	
	AO入試	146	13.3	12.9	14.1	24.0	16.5	12.3	0.0	
	指定校推薦	213	19.5	17.7	22.3	24.0	25.8	19.9	2.0	
	公募推薦	114	10.4	8.2	14.1	9.6	21.6	9.9	8.2	
	附属・系列高校から進学	27	2.5	2.7	2.2	0.0	3.1	2.9	4.1	
	その他	53	4.8	5.5	3.6	6.2	1.0	4.9	12.2	
	無回答	52	4.7	4.6	4.6	1.4	0.0	1.1	0.0	
問10 あなたは、その学校に通っていたとき、おもにどこにお住まいでしたか。	実家	574	52.4	50.4	56.1	71.9	64.9	50.9	36.7	
	アパートなど(一人暮らし)	391	35.7	37.1	33.1	21.2	23.7	40.2	61.2	
	学生寮など	68	6.2	6.7	5.5	4.8	10.3	6.6	2.0	
	その他	19	1.7	1.8	1.7	2.1	1.0	1.8	0.0	
	無回答	43	3.9	4.0	3.6	0.0	0.0	0.4	0.0	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)			全体		性別		学校種別			
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
			1095		672	417	146	97	758	49
					%		%			
問11 あなたは、その学校に通っていたとき、次のことをどのくらい熱心におこなっていましたか。	学校での授業	とても熱心だった	145	13.2	11.2	16.5	23.3	19.6	9.5	40.8
		まあ熱心だった	399	36.4	33.0	42.0	50.0	45.4	34.2	40.8
		それほど熱心ではなかった	359	32.8	34.7	30.0	22.6	28.9	38.0	14.3
		まったく熱心ではなかった	150	13.7	17.4	7.7	4.1	6.2	17.9	4.1
		無回答	42	3.8	3.7	3.8	0.0	0.0	0.4	0.0
	クラブやサークルでの活動	とても熱心だった	172	15.7	17.7	12.7	8.2	6.2	19.5	10.2
		まあ熱心だった	201	18.4	18.5	18.2	17.1	7.2	21.2	14.3
		それほど熱心ではなかった	207	18.9	18.3	19.9	20.5	29.9	18.2	18.4
		まったく熱心ではなかった	458	41.8	41.5	42.2	46.6	52.6	40.6	57.1
		無回答	57	5.2	4.0	7.0	7.5	4.1	0.4	0.0
友だちや恋人との付き合い	とても熱心だった	244	22.3	22.2	22.5	24.7	26.8	23.1	14.3	
	まあ熱心だった	420	38.4	35.3	43.2	45.9	41.2	38.1	44.9	
	それほど熱心ではなかった	244	22.3	23.5	20.4	15.1	22.7	24.3	28.6	
	まったく熱心ではなかった	142	13.0	15.2	9.6	13.0	9.3	14.0	12.2	
	無回答	45	4.1	3.9	4.3	1.4	0.0	0.5	0.0	
アルバイト	とても熱心だった	241	22.0	21.3	23.3	16.4	20.6	25.3	8.2	
	まあ熱心だった	334	30.5	30.1	31.4	26.7	33.0	32.8	26.5	
	それほど熱心ではなかった	198	18.1	18.6	17.3	17.8	16.5	19.1	20.4	
	まったく熱心ではなかった	267	24.4	25.9	21.8	35.6	28.9	21.4	44.9	
	無回答	55	5.0	4.2	6.2	3.4	1.0	1.3	0.0	
ダブルスクール・資格取得	とても熱心だった	35	3.2	2.8	3.8	9.6	2.1	2.0	8.2	
	まあ熱心だった	83	7.6	6.7	8.6	13.0	6.2	7.3	4.1	
	それほど熱心ではなかった	240	21.9	21.7	22.3	33.6	25.8	20.7	14.3	
	まったく熱心ではなかった	678	61.9	64.1	58.8	39.0	63.9	68.6	73.5	
	無回答	59	5.4	4.6	6.5	4.8	2.1	1.5	0.0	
問12 中退したのはいつですか。	中退した時期(年)	～2000年	45	4.1	4.0	4.3	1.4	9.3	4.5	0.0
		2001～2005年	103	9.4	9.1	9.8	3.4	11.3	11.3	2.0
		2006～2010年	226	20.6	21.1	19.9	13.7	22.7	23.0	18.4
		2011～2014年	627	57.3	58.5	55.6	78.1	51.5	55.5	79.6
		無回答	94	8.6	7.3	10.3	3.4	5.2	5.7	0.0
	中退時の年齢	～18歳	69	6.3	3.3	11.0	14.4	18.6	4.0	0.0
		19～20歳	351	32.1	25.4	43.2	54.1	56.7	28.4	0.0
		21～22歳	297	27.1	30.8	21.6	17.1	14.4	33.6	4.1
		23～24歳	160	14.6	18.8	7.9	5.5	3.1	17.4	32.7
		25歳以上	100	9.1	11.9	4.8	3.4	1.0	8.3	63.3
無回答	118	10.8	9.8	11.5	5.5	6.2	8.3	0.0		
中退した時期(月)	1月	31	2.8	3.0	2.6	4.8	2.1	2.8	0.0	
	2月	36	3.3	3.3	3.4	3.4	2.1	3.6	4.1	
	3月	336	30.7	34.4	25.2	21.2	27.8	33.2	51.0	
	4月	70	6.4	7.3	5.0	6.2	6.2	7.1	2.0	
	5月	20	1.8	1.6	1.9	0.7	1.0	2.4	0.0	
	6月	34	3.1	3.0	3.4	5.5	3.1	2.8	4.1	
	7月	36	3.3	2.5	4.6	2.7	7.2	3.3	0.0	
	8月	82	7.5	6.4	9.1	13.7	11.3	6.5	4.1	
	9月	191	17.4	17.7	17.3	18.5	15.5	17.3	32.7	
	10月	61	5.6	5.7	5.5	8.2	6.2	5.7	0.0	
	11月	19	1.7	1.2	2.6	1.4	5.2	1.6	0.0	
	12月	26	2.4	1.9	3.1	5.5	2.1	2.1	0.0	
	無回答	153	14.0	12.1	16.3	8.2	10.3	11.7	2.0	
中退したときの学年	1年生	266	24.3	17.1	35.7	52.1	50.5	16.8	26.5	
	2年生	355	32.4	29.8	36.7	37.7	37.1	30.5	61.2	
	3年生	193	17.6	21.4	11.5	5.5	4.1	23.4	6.1	
	4年生以上	218	19.9	26.2	10.1	2.1	5.2	27.4	4.1	
	無回答	63	5.8	5.5	6.0	2.7	3.1	2.0	2.0	
中退を考え始めてから、実際に中退するまでの期間	1か月未満	207	18.9	19.6	17.7	24.7	32.0	16.5	24.5	
	1～3か月未満	256	23.4	21.0	26.9	32.2	27.8	22.8	16.3	
	3か月～半年未満	200	18.3	18.5	18.2	21.9	17.5	18.9	14.3	
	半年～1年未満	212	19.4	19.6	18.9	13.7	15.5	21.5	26.5	
	1年以上	153	14.0	15.2	12.2	4.8	6.2	17.4	16.3	
無回答	67	6.1	6.1	6.0	2.7	1.0	2.9	2.0		

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)			全体		性別		学校種別			
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
			1095		672	417	146	97	758	49
				%	%		%			
問13 あなたは、なぜ中退しようと思いましたが、(複数回答)	勉強に興味・関心が持てなかったから	非選択	530	48.4	46.1	52.5	56.2	44.3	47.9	73.5
		選択	519	47.4	49.9	43.2	42.5	55.7	51.5	26.5
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	遅刻や欠席が多かったから	非選択	838	76.5	75.4	78.2	88.4	75.3	77.0	95.9
		選択	211	19.3	20.5	17.5	10.3	24.7	22.3	4.1
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	単位が不足したから	非選択	612	55.9	45.8	72.2	77.4	70.1	50.7	89.8
		選択	437	39.9	50.1	23.5	21.2	29.9	48.7	10.2
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	教員とうまく関われなかったから	非選択	889	81.2	83.0	78.2	75.3	83.5	87.5	59.2
		選択	160	14.6	12.9	17.5	23.3	16.5	11.9	40.8
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	友達とうまく関われなかったから	非選択	836	76.3	79.3	71.9	76.0	74.2	79.9	83.7
		選択	213	19.5	16.7	23.7	22.6	25.8	19.4	16.3
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	自分の生活リズムが学校と合わなかったから	非選択	930	84.9	85.4	84.2	87.0	87.6	88.0	91.8
		選択	119	10.9	10.6	11.5	11.6	12.4	11.3	8.2
		無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0
	通学するのが大変だったから	非選択	931	85.0	85.9	83.7	89.7	88.7	87.2	95.9
		選択	118	10.8	10.1	12.0	8.9	11.3	12.1	4.1
無回答		46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
仕事をしたいと思ったから	非選択	835	76.3	78.0	73.6	82.2	78.4	78.5	79.6	
	選択	214	19.5	18.0	22.1	16.4	21.6	20.8	20.4	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
ほかにやりたいことがあったから	非選択	855	78.1	80.1	74.8	78.1	82.5	80.9	85.7	
	選択	194	17.7	15.9	20.9	20.5	17.5	18.5	14.3	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
病気やケガがあったから	非選択	922	84.2	86.2	81.1	87.0	87.6	88.0	79.6	
	選択	127	11.6	9.8	14.6	11.6	12.4	11.3	20.4	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
経済的に苦しかったから	非選択	763	69.7	69.2	70.7	80.1	82.5	69.9	69.4	
	選択	286	26.1	26.8	24.9	18.5	17.5	29.4	30.6	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
しばらく休みたかったから	非選択	976	89.1	91.7	85.4	91.8	90.7	92.6	93.9	
	選択	73	6.7	4.3	10.3	6.8	9.3	6.7	6.1	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
妊娠・出産をしたから	非選択	1031	94.2	95.2	92.6	97.9	99.0	97.2	100.0	
	選択	18	1.6	0.7	3.1	0.7	1.0	2.1	0.0	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
特に何もなかった	非選択	1046	95.5	95.7	95.4	97.9	100.0	99.1	100.0	
	選択	3	0.3	0.3	0.2	0.7	0.0	0.3	0.0	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
その他	非選択	895	81.7	82.7	80.1	85.6	82.5	85.4	75.5	
	選択	154	14.1	13.2	15.6	13.0	17.5	14.0	24.5	
	無回答	46	4.2	4.0	4.3	1.4	0.0	0.7	0.0	
問13-1 中退しようと思った最も重要な理由	勉強に興味・関心が持てなかったから		218	19.9	21.0	18.0	23.3	22.7	20.7	10.2
	遅刻や欠席が多かったから		22	2.0	2.5	1.2	0.7	3.1	2.4	0.0
	単位が不足したから		133	12.1	16.5	5.0	10.3	8.2	14.4	2.0
	教員とうまく関われなかったから		30	2.7	2.7	2.9	8.9	1.0	1.1	16.3
	友達とうまく関われなかったから		44	4.0	3.1	5.5	6.8	6.2	3.7	0.0
	自分の生活リズムが学校と合わなかったから		17	1.6	1.3	1.9	1.4	1.0	1.7	2.0
	通学するのが大変だったから		9	0.8	0.9	0.7	0.0	1.0	1.1	0.0
	仕事をしたいと思ったから		65	5.9	6.3	5.5	4.8	7.2	6.3	6.1
	ほかにやりたいことがあったから		75	6.8	5.8	8.6	6.8	6.2	7.3	8.2
	病気やケガがあったから		74	6.8	4.8	10.1	8.2	7.2	6.2	12.2
	経済的に苦しかったから		132	12.1	12.1	12.0	7.5	10.3	13.3	14.3
	しばらく休みたかったから		18	1.6	1.0	2.4	1.4	1.0	1.8	2.0
	妊娠・出産をしたから		15	1.4	0.6	2.6	0.0	1.0	1.8	0.0
	特に何もなかった		3	0.3	0.3	0.2	0.7	0.0	0.3	0.0
	その他(家庭問題)		25	2.3	2.1	2.6	1.4	2.1	2.6	2.0
	その他(学業起因)		40	3.7	3.1	4.6	6.8	4.1	2.5	14.3
その他(人間関係)		14	1.3	1.2	1.4	0.0	1.0	1.7	0.0	
その他(メンタル・体調不良)		23	2.1	1.6	2.9	1.4	5.2	2.0	2.0	
その他(進路変更・その他)		18	1.6	1.9	1.2	0.7	2.1	1.8	2.0	
無回答		120	11.0	11.2	10.6	8.9	9.3	7.3	6.1	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

			全体		性別		学校種別			
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
有効回答数 (N)			1095		672	417	146	97	758	49
					%		%			
問14 中途退学を決めるまでの間に、誰に相談しましたか。(複数回答)	親・保護者	非選択	217	19.8	21.3	17.7	14.4	19.6	21.4	30.6
		選択	834	76.2	74.7	78.4	84.2	80.4	78.2	69.4
		無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0
	同じ学校の友人	非選択	776	70.9	73.1	67.4	62.3	68.0	75.9	79.6
		選択	275	25.1	22.9	28.8	36.3	32.0	23.7	20.4
		無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0
	学校外の友人	非選択	808	73.8	76.8	68.8	69.9	72.2	78.1	77.6
		選択	243	22.2	19.2	27.3	28.8	27.8	21.5	22.4
		無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0
	兄弟姉妹	非選択	989	90.3	91.8	88.2	90.4	95.9	93.8	95.9
		選択	62	5.7	4.2	7.9	8.2	4.1	5.8	4.1
		無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0
	恋人・配偶者	非選択	908	82.9	86.2	77.7	84.9	81.4	86.0	95.9
		選択	143	13.1	9.8	18.5	13.7	18.6	13.6	4.1
無回答		44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
先輩	非選択	982	89.7	88.2	92.1	91.1	97.9	92.5	95.9	
	選択	69	6.3	7.7	4.1	7.5	2.1	7.1	4.1	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
学校の先生・職員・カウンセラー	非選択	760	69.4	72.3	65.0	60.3	71.1	75.2	61.2	
	選択	291	26.6	23.7	31.2	38.4	28.9	24.4	38.8	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
これまで卒業した学校(小・中・高校・予備校など)の先生など	非選択	1023	93.4	94.0	92.6	93.8	95.9	97.5	98.0	
	選択	28	2.6	1.9	3.6	4.8	4.1	2.1	2.0	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
公的な支援機関	非選択	1042	95.2	95.5	94.7	97.9	100.0	98.8	95.9	
	選択	9	0.8	0.4	1.4	0.7	0.0	0.8	4.1	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
その他	非選択	1036	94.6	95.1	94.0	97.3	96.9	98.4	98.0	
	選択	15	1.4	0.9	2.2	1.4	3.1	1.2	2.0	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
誰にも相談しなかった	非選択	920	84.0	81.7	87.8	95.2	89.7	85.9	75.5	
	選択	131	12.0	14.3	8.4	3.4	10.3	13.7	24.5	
	無回答	44	4.0	4.0	3.8	1.4	0.0	0.4	0.0	
問15-A 中退した直後にしたいと思ったことは何か。(複数回答)	他の学校へ入学したい	非選択	910	83.1	83.3	82.7	85.6	84.5	85.9	98.0
		選択	140	12.8	12.6	13.2	13.7	15.5	13.5	2.0
		無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0
	資格を取得したい	非選択	925	84.5	86.8	80.8	86.3	84.5	88.4	85.7
		選択	125	11.4	9.2	15.1	13.0	15.5	10.9	14.3
		無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0
	職業訓練を受けたい	非選択	1011	92.3	93.0	91.4	93.2	97.9	95.8	100.0
		選択	39	3.6	3.0	4.6	6.2	2.1	3.6	0.0
		無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0
	正社員として就職したい	非選択	540	49.3	45.7	55.2	45.9	58.8	52.2	32.7
		選択	510	46.6	50.3	40.8	53.4	41.2	47.1	67.3
		無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0
	アルバイトをしたい	非選択	816	74.5	75.6	72.7	69.9	76.3	78.6	81.6
		選択	234	21.4	20.4	23.3	29.5	23.7	20.7	18.4
無回答		45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0	
在学中から行っていたアルバイトを継続したい	非選択	928	84.7	85.1	84.2	90.4	83.5	87.3	95.9	
	選択	122	11.1	10.9	11.8	8.9	16.5	12.0	4.1	
	無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0	
特に何も考えていなかった	非選択	870	79.5	79.3	80.3	87.0	82.5	81.0	91.8	
	選択	180	16.4	16.7	15.6	12.3	17.5	18.3	8.2	
	無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0	
その他	非選択	971	88.7	89.6	87.5	93.8	92.8	92.0	83.7	
	選択	79	7.2	6.4	8.4	5.5	7.2	7.4	16.3	
	無回答	45	4.1	4.0	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0	
問15-B 中退した直後に実際には何をしていますか。(複数回答)	他の学校へ入学するため勉強した	非選択	999	91.2	91.2	91.4	93.8	92.8	94.7	100.0
		選択	43	3.9	4.0	3.8	3.4	5.2	4.2	0.0
		無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0
	資格取得のための勉強をした	非選択	926	84.6	85.7	82.7	89.0	89.7	87.9	77.6
		選択	116	10.6	9.5	12.5	8.2	8.2	11.1	22.4
		無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0
	職業訓練を受けるための準備をした	非選択	1001	91.4	91.5	91.4	94.5	96.9	94.6	95.9
		選択	41	3.7	3.7	3.8	2.7	1.0	4.4	4.1
		無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0
	正社員として就職するための活動をした	非選択	691	63.1	59.1	69.8	56.8	77.3	66.4	49.0
		選択	351	32.1	36.2	25.4	40.4	20.6	32.6	51.0
		無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0
	アルバイトを探した	非選択	694	63.4	63.4	63.3	61.6	61.9	66.2	81.6
		選択	348	31.8	31.8	31.9	35.6	36.1	32.7	18.4
無回答		53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0	
在学中から行っていたアルバイトを継続した	非選択	743	67.9	69.0	66.2	72.6	63.9	69.3	91.8	
	選択	299	27.3	26.2	29.0	24.7	34.0	29.7	8.2	
	無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0	
特に何もしなかった	非選択	949	86.7	86.2	87.5	92.5	91.8	89.3	85.7	
	選択	93	8.5	9.1	7.7	4.8	6.2	9.6	14.3	
	無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0	
その他	非選択	950	86.8	87.2	86.1	91.1	89.7	89.8	87.8	
	選択	92	8.4	8.0	9.1	6.2	8.2	9.1	12.2	
	無回答	53	4.8	4.8	4.8	2.7	2.1	1.1	0.0	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)			全体		性別		学校種別			
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院
			1095		672	417	146	97	758	49
					%		%			
問16-A 中退したときに知りたかった情報 (複数回答)	他の学校への入学に向けた情報	非選択	912	83.3	84.5	81.5	85.6	85.6	86.1	98.0
		選択	126	11.5	10.9	12.5	11.6	13.4	12.4	0.0
		無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0
	資格取得のための情報	非選択	812	74.2	76.6	70.5	80.1	75.3	76.0	87.8
		選択	226	20.6	18.8	23.5	17.1	23.7	22.6	10.2
		無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0
	職業訓練の情報	非選択	788	72.0	72.9	70.7	74.7	74.2	74.7	77.6
		選択	250	22.8	22.5	23.3	22.6	24.7	23.9	20.4
		無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0
	仕事探しの相談をするための支援機関等の情報	非選択	517	47.2	47.2	47.5	46.6	58.8	48.9	40.8
選択		521	47.6	48.2	46.5	50.7	40.2	49.6	57.1	
無回答		57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0	
心の悩みを相談するための支援機関等の情報	非選択	784	71.6	74.3	68.1	72.6	77.3	75.2	61.2	
	選択	254	23.2	21.1	25.9	24.7	21.6	23.4	36.7	
	無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0	
その他	非選択	1019	93.1	93.3	92.8	97.3	97.9	96.3	95.9	
	選択	19	1.7	2.1	1.2	0.0	1.0	2.2	2.0	
	無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0	
特に知りたい情報はなかった	非選択	775	70.8	70.4	71.2	74.0	67.0	73.9	75.5	
	選択	263	24.0	25.0	22.8	23.3	32.0	24.7	22.4	
	無回答	57	5.2	4.6	6.0	2.7	1.0	1.5	2.0	
問16-B 中退したときに受けた支援 (複数回答)	他の学校への入学に向けた情報収集支援	非選択	902	82.4	83.3	81.1	86.3	82.5	85.4	93.9
		選択	116	10.6	10.1	11.3	10.3	15.5	11.1	2.0
		無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1
	資格取得のための情報収集支援	非選択	792	72.3	74.1	69.5	78.8	75.3	73.7	85.7
		選択	226	20.6	19.3	22.8	17.8	22.7	22.7	10.2
		無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1
	職業訓練を受けるための相談支援	非選択	778	71.1	72.3	69.5	78.1	72.2	72.6	83.7
		選択	240	21.9	21.1	22.8	18.5	25.8	23.9	12.2
		無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1
	仕事探しの相談支援	非選択	487	44.5	43.6	46.0	39.0	54.6	46.4	51.0
選択		531	48.5	49.9	46.3	57.5	43.3	50.0	44.9	
無回答		77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1	
心の悩みに係る相談支援	非選択	772	70.5	72.3	68.3	67.1	76.3	75.2	57.1	
	選択	246	22.5	21.1	24.0	29.5	21.6	21.2	38.8	
	無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1	
その他	非選択	1010	92.2	92.4	92.1	96.6	97.9	95.5	93.9	
	選択	8	0.7	1.0	0.2	0.0	0.0	0.9	2.0	
	無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1	
特に受けた支援はなかった	非選択	764	69.8	69.8	69.5	78.1	67.0	72.2	69.4	
	選択	254	23.2	23.7	22.8	18.5	30.9	24.3	26.5	
	無回答	77	7.0	6.5	7.7	3.4	2.1	3.6	4.1	
問17 中退したときに、悩んだことや困ったことはありましたか。(自由記述)			省略							
問18-A 中退してから今までの間に、どのようなことをしてきましたか。 (複数回答)	正社員として就職するための求職活動	非選択	216	19.7	17.0	24.5	14.4	25.8	21.2	14.3
		選択	784	71.6	75.1	65.9	79.5	68.0	74.0	77.6
		無回答	95	8.7	7.9	9.6	6.2	6.2	4.7	8.2
	正社員以外として働くための求職活動(学生時代からのアルバイトを除く)	非選択	345	31.5	34.2	27.3	36.3	24.7	32.2	46.9
		選択	655	59.8	57.9	63.1	57.5	69.1	63.1	44.9
		無回答	95	8.7	7.9	9.6	6.2	6.2	4.7	8.2
他の学校へ入学するための勉強・準備	非選択	798	72.9	74.3	71.2	74.7	71.1	75.7	87.8	
	選択	202	18.4	17.9	19.2	19.2	22.7	19.5	4.1	
	無回答	95	8.7	7.9	9.6	6.2	6.2	4.7	8.2	
資格取得の勉強・準備	非選択	596	54.4	57.3	50.4	62.3	51.5	56.5	55.1	
	選択	404	36.9	34.8	40.0	31.5	42.3	38.8	36.7	
	無回答	95	8.7	7.9	9.6	6.2	6.2	4.7	8.2	
問18-B 中退してから今までの間に、してきた結果について。 (問18-Aで「選択」の人のみ)	N		784		505	275	116	66	561	38
	正社員として就職するための求職活動	正社員になった	314	40.1	38.6	42.2	36.2	39.4	40.8	42.1
		正社員になっていない	435	55.5	56.8	53.5	58.6	56.1	54.7	55.3
		無回答	35	4.5	4.6	4.4	5.2	4.5	4.5	2.6
	N		655		389	263	84	67	478	22
	正社員以外として働くための求職活動(学生時代からのアルバイトを除く)	仕事を得た	463	70.7	66.8	76.4	54.8	76.1	73.0	63.6
		仕事を得ていない	112	17.1	19.3	13.7	26.2	13.4	15.7	27.3
		無回答	80	12.2	13.9	9.9	19.0	10.4	11.3	9.1
	N		202		120	80	28	22	148	2
	他の学校へ入学するための勉強・準備	入学した	49	24.3	25.0	23.8	17.9	13.6	27.7	0.0
入学していない		145	71.8	70.8	72.5	78.6	81.8	68.2	100.0	
無回答		8	4.0	4.2	3.8	3.6	4.5	4.1	0.0	
N		404		234	167	46	41	294	18	
資格取得の勉強・準備	資格を取得した	197	48.8	44.0	55.7	45.7	58.5	48.6	38.9	
	資格を取得していない	182	45.0	48.7	39.5	50.0	39.0	44.6	50.0	
	無回答	25	6.2	7.3	4.8	4.3	2.4	6.8	11.1	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)			全体		性別		学校種別				
			人数	%	男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院	
			1095		672	417	146	97	758	49	
問19 あなたの高校について教えてください。	高校に通ったかどうか	国内	1040	95.0	94.8	95.4	98.6	96.9	99.1	98.0	
		海外	1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	
		大検	4	0.4	0.6	0.0	0.7	0.0	0.4	0.0	
		その他	1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	
		無回答	49	4.5	4.5	4.3	0.7	3.1	0.3	2.0	
	N			1040		637	398	144	94	751	48
	所在地 (国内のみ)	北海道・東北地方	149	14.3	14.6	14.1	11.8	18.1	14.1	16.7	
		関東地方	252	24.2	25.3	22.9	20.1	19.1	25.4	29.2	
		中部地方	176	16.9	18.7	14.3	19.4	9.6	17.2	20.8	
		近畿地方	187	18.0	17.6	18.6	14.6	18.1	19.0	10.4	
中国・四国地方		148	14.2	13.0	16.1	14.6	16.0	13.8	14.6		
九州・沖縄地方		126	12.1	10.7	14.1	19.4	19.1	10.1	8.3		
N			1091		668	417	145	97	755	49	
学科 (大検除く)	普通科	805	73.8	75.7	71.0	60.0	57.7	81.7	85.7		
	専門学科 (商業・工業・農業など)	153	14.0	14.2	13.7	29.0	22.7	11.3	6.1		
	総合学科	52	4.8	3.7	6.5	9.0	9.3	3.7	2.0		
	その他	34	3.1	1.6	5.3	2.1	7.2	2.8	6.1		
	無回答	47	4.3	4.6	3.6	0.0	3.1	0.5	0.0		
課程 (大検除く)	全日制	955	87.5	86.8	88.7	88.3	89.7	91.0	98.0		
	定時制 (おもに夜間の場合)	7	0.6	0.9	0.2	0.7	0.0	0.8	0.0		
	定時制 (おもに昼間の場合)	10	0.9	0.9	1.0	0.7	1.0	1.1	0.0		
	通信制	26	2.4	2.4	2.4	5.5	3.1	2.0	0.0		
	無回答	93	8.5	9.0	7.7	4.8	6.2	5.2	2.0		
N			1095		672	417	146	97	758	49	
問20 進学する学校を選択する際に、次のことがどれくらいあてはまりましたか。	大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した	よくあてはまる	286	26.1	21.0	34.5	42.5	46.4	21.0	36.7	
		まああてはまる	287	26.2	25.0	27.8	33.6	23.7	27.3	12.2	
		あまりあてはまらない	269	24.6	26.0	22.5	17.1	17.5	28.0	26.5	
		まったくあてはまらない	207	18.9	23.4	11.8	5.5	11.3	23.2	24.5	
		無回答	46	4.2	4.6	3.4	1.4	1.0	0.5	0.0	
	大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った	よくあてはまる	341	31.1	31.0	31.4	28.1	28.9	33.4	34.7	
		まああてはまる	430	39.3	40.0	38.4	37.7	37.1	42.0	36.7	
		あまりあてはまらない	159	14.5	14.7	14.4	15.1	17.5	14.8	14.3	
		まったくあてはまらない	115	10.5	9.2	12.2	15.1	15.5	9.4	14.3	
		無回答	50	4.6	5.1	3.6	4.1	1.0	0.5	0.0	
	目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った	よくあてはまる	303	27.7	31.3	21.6	14.4	16.5	33.5	24.5	
		まああてはまる	337	30.8	33.2	27.3	32.2	28.9	32.5	30.6	
あまりあてはまらない		224	20.5	18.3	24.2	26.7	20.6	19.7	22.4		
まったくあてはまらない		180	16.4	12.4	22.8	24.0	32.0	13.6	22.4		
無回答		51	4.7	4.9	4.1	2.7	2.1	0.8	0.0		
問21 高校時代の生活はどうか。	出席状況	とてもよかった	564	51.5	53.1	48.9	50.7	43.3	52.0	65.3	
		まあよかった	347	31.7	28.9	36.5	34.2	37.1	30.6	28.6	
		あまりよくなかった	134	12.2	12.9	11.3	12.3	12.4	12.5	6.1	
		まったくよくなかった	45	4.1	4.8	3.1	2.1	5.2	4.7	0.0	
		無回答	5	0.5	0.3	0.2	0.7	2.1	0.1	0.0	
	学校の成績	とてもよかった	181	16.5	15.8	17.5	15.8	16.5	16.9	22.4	
		まあよかった	511	46.7	43.2	52.8	48.6	40.2	46.4	55.1	
		あまりよくなかった	306	27.9	31.0	23.3	30.8	30.9	27.7	14.3	
		まったくよくなかった	90	8.2	9.5	6.2	4.1	10.3	8.6	8.2	
		無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	2.1	0.4	0.0	
	部活動への取り組み	とてもよかった	308	28.1	27.7	28.8	27.4	19.6	30.2	20.4	
		まあよかった	291	26.6	24.7	30.0	29.5	25.8	25.7	30.6	
あまりよくなかった		160	14.6	15.5	13.2	17.8	13.4	13.5	26.5		
まったくよくなかった		316	28.9	30.7	26.1	23.3	38.1	29.2	22.4		
無回答		20	1.8	1.5	1.9	2.1	3.1	1.5	0.0		

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

		全体		性別		学校種別				
				男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院	
有効回答数 (N)		1095		672	417	146	97	758	49	
		人数	%	%		%				
問22 あなたの性別	男性	672	61.4			44.5	20.6	68.9	75.5	
	女性	417	38.1			54.1	79.4	30.7	24.5	
	無回答	6	0.5			1.4	0.0	0.4	0.0	
問22 あなたの年齢	10代	83	7.6	6.0	10.1	21.2	16.5	4.7	0.0	
	20代前半	480	43.8	41.8	47.5	57.5	37.1	43.5	12.2	
	20代後半	310	28.3	30.8	24.7	12.3	26.8	29.6	61.2	
	30代前半	129	11.8	11.9	11.8	4.1	9.3	12.8	22.4	
	30代後半	63	5.8	6.8	4.1	2.7	8.2	6.5	4.1	
	無回答	30	2.7	2.7	1.9	2.1	2.1	2.9	0.0	
問23 現在、あなたは、誰と一緒に住んでいますか。(複数回答)	両親・兄弟姉妹	選択	289	26.4	24.6	29.3	20.5	23.7	27.6	32.7
		非選択	799	73.0	74.9	70.5	78.8	75.3	71.9	67.3
		無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	1.0	0.5	0.0
	あなたの結婚相手	選択	998	91.1	91.7	90.6	95.2	90.7	90.4	95.9
		非選択	90	8.2	7.7	9.1	4.1	8.2	9.1	4.1
		無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	1.0	0.5	0.0
	あなたの子ども	選択	1024	93.5	95.4	90.9	97.3	88.7	93.1	100.0
		非選択	64	5.8	4.0	8.9	2.1	10.3	6.3	0.0
		無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	1.0	0.5	0.0
	その他	選択	1019	93.1	93.8	92.3	89.7	90.7	93.7	93.9
		非選択	69	6.3	5.7	7.4	9.6	8.2	5.8	6.1
		無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	1.0	0.5	0.0
ひとり	選択	934	85.3	85.0	86.6	87.7	91.8	84.7	73.5	
	非選択	154	14.1	14.4	13.2	11.6	7.2	14.8	26.5	
	無回答	7	0.6	0.6	0.2	0.7	1.0	0.5	0.0	
問24 現在、あなたは、結婚していますか。	結婚の有無	結婚している	96	8.8	8.0	10.1	4.8	9.3	9.6	4.1
		結婚していない	995	90.9	91.7	89.9	93.8	90.7	90.2	95.9
		無回答	4	0.4	0.3	0.0	1.4	0.0	0.1	0.0
	N		96		54	42	7	9	73	2
	結婚した時期 (結婚している人のみ)	～2000年	2	2.1	1.9	2.4	0.0	11.1	1.4	0.0
		2001～2005年	2	2.1	1.9	2.4	0.0	11.1	1.4	0.0
		2006～2010年	19	19.8	11.1	31.0	14.3	22.2	21.9	0.0
		2011～2014年	41	42.7	46.3	38.1	42.9	44.4	39.7	50.0
		無回答	32	33.3	38.9	26.2	42.9	11.1	35.6	50.0
	結婚時の年齢 (結婚している人のみ)	～20代前半	26	27.1	27.8	26.2	28.6	44.4	24.7	0.0
20代後半		28	29.2	25.9	33.3	28.6	22.2	28.8	50.0	
30代前半		10	10.4	7.4	14.3	0.0	22.2	11.0	0.0	
無回答		32	33.3	38.9	26.2	42.9	11.1	35.6	50.0	
N		1095		672	417	146	97	758	49	
問25 現在、おもに誰の収入によって生活していますか。	あなた自身	369	33.7	35.1	31.9	19.9	29.9	37.9	26.5	
	あなた以外の家族	714	65.2	63.8	67.4	78.8	68.0	61.2	73.5	
	無回答	12	1.1	1.0	0.7	1.4	2.1	0.9	0.0	

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査(基礎集計表)

有効回答数 (N)		全体		性別		学校種別				
		1095		男性	女性	専門学校	短大・高専	大学	大学院	
		人数	%	672	417	146	97	758	49	
問26 人生や仕事についての様々な状況で、あなたにどの程度あてはまりますか。	これまでの進路選択は順調であった	かなりあてはまる	72	6.6	5.7	7.9	8.2	5.2	6.1	14.3
		ある程度あてはまる	334	30.5	28.6	34.1	29.5	27.8	30.2	42.9
		あまりあてはまらない	479	43.7	44.0	43.4	46.6	45.4	43.9	26.5
		ほとんどあてはまらない	207	18.9	21.6	14.6	15.1	21.6	19.7	16.3
		無回答	3	0.3	0.1	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0
	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	かなりあてはまる	39	3.6	2.2	5.5	2.7	6.2	3.4	6.1
		ある程度あてはまる	268	24.5	19.0	33.6	28.8	32.0	22.7	20.4
		あまりあてはまらない	466	42.6	44.5	39.3	40.4	32.0	44.2	42.9
		ほとんどあてはまらない	316	28.9	34.1	20.9	27.4	29.9	29.3	30.6
		無回答	6	0.5	0.1	0.7	0.7	0.0	0.4	0.0
将来の見通しは明るい	かなりあてはまる	41	3.7	3.3	4.6	0.7	3.1	4.2	10.2	
	ある程度あてはまる	186	17.0	12.8	23.7	18.5	16.5	16.0	24.5	
	あまりあてはまらない	503	45.9	46.0	45.8	48.6	45.4	46.3	36.7	
	ほとんどあてはまらない	360	32.9	37.5	25.9	31.5	35.1	33.1	28.6	
	無回答	5	0.5	0.4	0.0	0.7	0.0	0.4	0.0	
経済的に自立している	かなりあてはまる	51	4.7	5.1	4.1	1.4	5.2	5.0	8.2	
	ある程度あてはまる	198	18.1	17.4	18.9	13.7	18.6	19.1	16.3	
	あまりあてはまらない	331	30.2	28.3	33.3	34.9	35.1	30.1	16.3	
	ほとんどあてはまらない	508	46.4	49.1	42.7	48.6	41.2	45.4	59.2	
	無回答	7	0.6	0.1	1.0	1.4	0.0	0.4	0.0	
努力次第で将来は切り開けると思う	かなりあてはまる	264	24.1	24.0	24.2	21.9	26.8	24.3	26.5	
	ある程度あてはまる	509	46.5	43.6	51.3	56.8	47.4	43.7	49.0	
	あまりあてはまらない	237	21.6	23.2	19.4	15.8	17.5	24.1	16.3	
	ほとんどあてはまらない	82	7.5	9.1	5.0	4.8	8.2	7.8	8.2	
	無回答	3	0.3	0.1	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0	
仕事以外に生きがいがある	かなりあてはまる	280	25.6	25.0	26.6	26.0	27.8	25.5	24.5	
	ある程度あてはまる	456	41.6	40.9	43.2	43.2	40.2	41.0	46.9	
	あまりあてはまらない	252	23.0	24.0	21.3	21.9	24.7	24.0	18.4	
	ほとんどあてはまらない	99	9.0	9.4	8.6	8.2	7.2	8.8	10.2	
	無回答	8	0.7	0.7	0.2	0.7	0.0	0.7	0.0	
現在の生活に満足している	かなりあてはまる	56	5.1	4.0	6.7	3.4	5.2	5.5	4.1	
	ある程度あてはまる	218	19.9	16.4	25.7	21.9	34.0	18.3	16.3	
	あまりあてはまらない	439	40.1	40.0	40.3	42.5	28.9	40.6	42.9	
	ほとんどあてはまらない	379	34.6	39.4	27.3	31.5	32.0	35.5	36.7	
	無回答	3	0.3	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	
問27 これまで、ハローワークのほかに、次のような行政サービスや公的な支援を活用したことがありますか。(複数回答)	奨学金	非選択	649	59.3	60.3	57.8	56.8	68.0	60.0	51.0
		選択	420	38.4	37.9	39.3	39.0	28.9	38.1	46.9
		無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0
	授業料免除・減免	非選択	1015	92.7	93.6	91.6	92.5	92.8	93.3	87.8
		選択	54	4.9	4.6	5.5	3.4	4.1	4.9	10.2
		無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0
	失業手当	非選択	850	77.6	79.5	74.8	84.2	70.1	76.8	83.7
		選択	219	20.0	18.8	22.3	11.6	26.8	21.4	14.3
		無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0
	地域若者サポートステーション	非選択	1001	91.4	89.4	95.0	91.1	91.8	92.0	89.8
		選択	68	6.2	8.8	2.2	4.8	5.2	6.2	8.2
		無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0
	ジョブカフェ	非選択	982	89.7	90.2	89.2	86.3	91.8	90.5	83.7
		選択	87	7.9	8.0	7.9	9.6	5.2	7.7	14.3
		無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0
	国または自治体の職業訓練	非選択	968	88.4	90.0	86.3	91.1	85.6	88.0	87.8
選択		101	9.2	8.2	10.8	4.8	11.3	10.2	10.2	
無回答		26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0	
生活保護	非選択	1052	96.1	97.3	94.5	91.1	96.9	97.1	95.9	
	選択	17	1.6	0.9	2.6	4.8	0.0	1.1	2.0	
	無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0	
その他	非選択	1060	96.8	97.8	95.7	95.2	96.9	97.2	95.9	
	選択	9	0.8	0.4	1.4	0.7	0.0	0.9	2.0	
	無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0	
どれも活用したことはない	非選択	695	63.5	63.7	63.5	54.8	60.8	64.8	73.5	
	選択	374	34.2	34.5	33.6	41.1	36.1	33.4	24.5	
	無回答	26	2.4	1.8	2.9	4.1	3.1	1.8	2.0	
問28 中退時や中退後の就職支援に対する要望について、自由にご記入下さい。	省略									

自由回答分類

以下、付属資料として、ハローワーク調査における自由回答でのおもな記述を掲載している。1) 中退時に抱いた悩みや困難さ、2) 中退後の就職活動での困難さや不利益の経験、3) 中退時や中退後の就職支援に対する要望等についてである。

1) 中退時に抱いた悩みや困難さ（「問 17 中退したときに、悩んだことや困ったことはありましたか。具体的にご記入ください」）

有効回答数：621 名（全対象者の 56.7%）

（1）「中退決定・進学／中退したこと」（41 件）

せっかく 4 年生まで進んだのに辞めたことに対して自分への怒りと、病気のため勉学に励むことができなかった悲しみ。（女性／28 歳／大学）

高校時代の苦労が水の泡になったことと、卒業出来なかった後悔で、しばらくは精神的に落ちこんだ。（男性／23 歳／大学）

本当に学校を辞めて良かったのか、友達と一緒に居たかったと後悔しました。（女性／20 歳／大学）

当初は中退したくなくて、何か手段がないか悩みました。（女性／22 歳／大学）

（2）「求職活動・仕事」（224 件）

このままではろくに就職もできない。フリーターの肩書きが恥ずかしい。安定した立場になるまで知り合いに会いたくない。（女性／22 歳／大学）

この先、中退した自分が安定した職業、または正社員として雇われていくことは、可能かと不安に感じた。（男性／21 歳／専門学校）

思い切って中退したものの正社員として職に就けるのか不安でした。勉強はしてきたものの働く際に必要なスキル等は何もなかったので、ちゃんと働けるのか不安でした。（女性／25 歳／大学院）

正社員になるのはもう無理かなと思った。学力的には専門や短大卒の人より良かったことも

あったので理不尽だと思って、学歴採用のところに応募しようとは思わなかった。少しずさんだ。無気力に悩んだ。(女性/34歳/大学)

正直すごく焦りました。学生ではなくなってしまうし、年齢的なものもあって、早く正社員にならないと！と空回りしてしまったので、不安をやわらげるようなセミナーを受けたかった。(女性/21歳/大学)

学生時代に就職活動をほとんどしなかったもので、最初の一步をふみ出すのに勇気が要った。(男性/24歳/大学)

大学における就活などの流れから完全にはみだしたので不安が大きかった。当時は安定した職に就きたいという思いしかなく、今思うと職や今後のキャリアの重ね方など、様々な方法を知っておくべきだったと思います。(男性/25歳/大学)

(3)「将来展望・人生設計・社会復帰」(175件)

どうしてよいのかわからなかったもので、中退後どういう道があるのか知りたかった。(女性/21歳/専門学校)

もう普通に働いて、暮らしていくことは2度とできないと思っていた。(女性/24歳/大学)

今後の進路について、自分がこれからどうしていけばいいのか考えがつかなかった。単位不足の為中退後の目的もなしに中退してしまった為、本当は大学も続けて卒業したかった。明日に恐怖を感じるようになり、中退した後悔をなかなか受け止められなかった。(男性/22歳/大学)

自分の将来について悩みました。中退は本来なら望んではいみせんでしたが、しかし中退せざるを得なくなり、非常に苦しみました。大学の補助金・奨学金の充実を求めます。(男性/20歳/大学)

進路の道標は全く無く、何をすれば何をしたいのかが分からない。無駄な日々を変えるきっかけが欲しかった。(男性/22歳/短大・高専)

中退があまりにも急だったので、その後の進路について何も考えておらず、情報収集に時間がかかりました。(女性/22歳/専門学校)

中退したときは、自分はこれからどうなるんだろうという思いでとても不安になりました。精神的に不安定な状態だったので、メンタルのケアを受ければ良かったのかなと今までは思っています。(男性/23歳/大学)

中退した後、進むべき道が分からなくしばらく迷っていた時期がありました。中退したあとの人がどういう道を進んでいるのか、例などがあればもっと知りたかったです。(女性/20歳/大学)

(4)「再入学・復学・資格」(15件)

中退したあとのことについて悩んだ。仕事をみつけながら、資格取得(別の学校に行ったりもしたかったが)したいが、まず働かなければならなかったから困った。(女性/29歳/短大・高専)

突然やめてしまったから、自分でも悲しくて今後の将来が真っ暗に感じた。人間関係で挫折したため、次の新しい学校へ行きたいけども、仲良くグループワークができる自信がなかった。仕事に対しても同じで勇気がなかった。(女性/23歳/専門学校)

他の学校を受験したいと考え学校も決めていたのに、親に反対された為どうすべきか悩んだ。また、アルバイトをするにしてもどのような仕事がしたいのかわからず悩んだ。(女性/28歳/大学)

他の学校への入学のための資金。入学先の学校で自分が必要な事を学べるか。(男性/27歳/短大・高専)

(5)「人間関係・家族関係」(72件)

友人との人間関係や、親との人間関係にとっても悩んでいた。これで良かったのかと何度も思った。(女性/25歳/短大・高専)

中退した事を地元の高校時代までの友人や大学の知り合いに言えない。これから何をしたらいいのかわからなかった。(女性/22歳/大学)

周囲からの目が厳しくなったこと。「中退=悪いこと」という目で見られるため、友人の接し方も少し変わった気がする。(女性/22歳/大学)

推薦で入学させてもらったにも関わらず、入学後すぐに退学してしまったので、母校への罪

悪感と、親不幸の罪悪感がつらかった。(女性/33歳/大学)

家に帰りたくなかった。人に会いたくないので、考え事をしていても誰に聞いてもらえばいいかわからなかった。誰も信用できなくなる。(女性/30歳/大学)

家族や親族の理解を得られず孤立、精神的に追い詰められた。順調な友人に会うのが恐ろしくなり引きこもりがちになった。周囲の目を過度に気にするようになった。(男性/32歳/大学)

親は私を責めるばかりで、家に金を入れろとプレッシャーをかけ続け、しかし私には負い目があるので何も言えなかった。友達もいないので誰にも相談できず、悩みを抱え続けている。
(男性/26歳/大学)

(6)「周囲（特に家族）への申し訳なさ」(34件)

学費を出してもらった親への申し訳ない気持ち。入学する前にしっかり考えて入学すべきと思った。(男性/28歳/大学)

親に迷惑をかけたくない、という気持ちが強く経済的にも負担になりたくないと思っていた。
(男性/30歳/大学)

先が見えず不安だったがアルバイトでせいっぱいであった。なおかつ親に学費を出してもらい奨学金まで借りたのにそれをすべて投げ捨ててしまい、もうしわけないと思った。(男性/25歳/大学)

悩み、苦労は自己責任でしようがないと割り切った。ただ、中退後は実家での生活になり、両親・家族に申し訳なく苦しい部分であった。(男性/24歳/大学)

家庭が経済的に困窮していたので、にも関わらず入学させてくれた親に対して申し訳なく思った。(男性/28歳/大学)

(7)「相談相手」(26件)

教員や学生によるいじめやからかいの標的になってしまい、人と接することが難しかった。精神的に追いつめられた。大学の中で信用できる人がおらず、相談できなかった。(女性/29歳/大学)

学校へ入学し直したり、資格を取ったり再スタートを図りたかったが、相談出来る相手が少なく実際にどう動いたらいいか分からず、無駄に時間を費やしてしまった。(男性/23歳/大学)

相談相手が居なかった事。身近な知り合いでなくカウンセラーの方などに相談していたら良かったと思います。(女性/30歳/大学)

中退する前から心の不安や相談したい事は山ほどあったが、中退した事によりスクールカウンセラーへの相談もできなくなり、日々やるべき事が無くなって何も出来ない日々が続いた。(男性/24歳/大学)

これから具体的にどうすればいいのか、全く分からなかったので相談したかった。親には全く相談出来るような状況でなかった。(女性/38歳/大学)

やりたいことが見つからず、どこにも籍を置いていない状況で進路の悩みを聞いてくれる機関等があれば良かったです。(女性/22歳/大学)

自分に何が出来るのかわからなかった。何もできないと思ってアルバイトを続けた。誰に相談していいのかわからなかった。誰にも理解されなかった。お金を稼ぐにはどうしたらいいのかわからなかった。(女性/33歳/大学)

就職の情報収集する為に相談できる機関やサービスをあまり知らなかった。(男性/36歳/短大・高専)

(8)「金銭面・奨学金返済」(54件)

これからどうやって親にお金を返していくか、どうすればお金を稼げるか。(女性/18歳/大学)

奨学金で生活していたので、生活が苦しくなること。(男性/24歳/大学院)

奨学金返済で困ってた。(男性/22歳/大学)

生活費、出産費、養育費(女性/28歳/大学)

(9)「精神面・病気」(29件)

うつ状態で何もやる気がおきず、適切な判断能力がなかったため、中退のデメリットなどを考えていなかった。相談する相手が親しかおらず、その親もどうしたらいいのかとまどったまま、中退後のフォローなど具体性がないまま決めてしまった。その場しのぎの決断となっていた。そのため長く自宅にひきこもっていたので社会復帰に時間がかかった。(女性/26歳/大学)

経歴に傷がついたと周囲から言われたりした。精神的な負担が大きかった。(女性/26歳/短大・高専)

現状の辛さ(合わない勉強を続けていくこと)から、一先ず抜け出したいという思いで安易に中退という道を選んだが、その後どうすればいいのか自身でも分かっていなかったし、周囲も具体的にアドバイスをしてくれるような人間がおらず、『働け』とだけ言われ続けて、精神的に追いつめられていたのが本当にきつかった。(女性/32歳/大学)

今後どうしたいか全く分からなかった。心療内科に通いうつと診断されたが、親にもあまり理解されていないと感じ、どこに相談したら良いか分からなかった。中退が原因で、今後の就職にも影響があると親に言われ、肩身が狭く感じた。(女性/29歳/短大・高専)

(10)「自分自身」(17件)

自己嫌悪(男性/22歳/専門学校)

自分が欠陥品で、社会の一員となることが出来ないのではないかと悩んでいました。(男性/29歳/大学院)

自分は人間のクズだと悩んだ。どういった仕事につけるのか不安になった。(女性/26歳/大学)

(11)「学歴」(23件)

学歴にキズがつくこと。しかし、後悔は覚悟の上でした。(男性/24歳/大学)

高卒という肩書きでやっていけるか不安。やりたいことがツブれた時に補てんがきくか。(男性/22歳/大学)

大学受験に向け一生懸命勉強をし、高校でもトップクラスの成績を残したが、結果中退した

事で学歴は高卒、年齢だけ増えてしまった。新卒でもなく、努力した事がむくわれないと実感。奨学金の返済も大変です。(男性/22歳/大学)

中退して学歴も無くどうやって生きていこう…。(男性/25歳/大学)

(12)「世間体・イメージの悪さ」(32件)

「中退」という言葉の、世間における印象の悪さ。(男性/28歳/大学)

「中退」という言葉の重み。私は自分、他人にかかわらず気にしないが、周りは気にするようだった。(ように思ってしまった)(男性/39歳/大学)

身から出た錆とは言え、大学を卒業して新卒で就職するというレールから外れた人間に、日本の社会は冷たいということを実感した。(男性/26歳/大学)

生きる事に無気力になってしまった自分と、そうなってしまった自分に対する周囲の目にずっと悩んでいた。(男性/31歳/大学)

中退というのは悪いイメージがあるので、その状態で働くことができるのか、受け入れてくれるところが本当にあるのかということ。(女性/23歳/大学)

(13)「その他」(23件)

一人暮らしだったので、そのままの土地に住むか、地元に戻るか。(男性/30歳/大学)

社会と接することが激減した。(女性/34歳/大学)

頭が真っ白で、何も考えていませんでした。(女性/24歳/短大・高専)

様々ありすぎる為、書ききれません。(男性/29歳/大学)

(14)「特になし」(29件)

中退して気分がスッキリしました。(女性/20歳/短大・高専)

家庭の事情による中退だったので、特に悩まずに決めた。後に大卒は取りたかったと後悔したこともあった。(女性/27歳/大学)

自分で決めた事なので悩みも、困った事も特にはありません。(男性/20歳/大学)

正社員で働くことが決まっていた為、特になしです。(男性/27歳/大学)

他にやりたいことをしていたので特に問題はなかったのですが、中退してから三、四年ほどして金銭的に、社会地位的に悩むことが多くなりました。(男性/25歳/大学)

2) 中退後の就職活動での困難さや不利益の経験(「問8 中退後の就職活動中に、何か困ったことや不利益を感じたことはありましたか。ある方は具体的にご記入ください。」)

有効回答数：468名(全対象者の42.7%)

(1)「就職活動(履歴書の書き方など)」(33件)

後ろ盾がないのでどのように始め、どのように探せばいいのか分からなかった。(男性/25歳/その他・無回答)

新卒の就職活動の仕方は、調べなくても自然と耳に入ってくるが、中退したら何をすればいいのか何も分からなかった。(男性/20歳/大学)

根本的にまず何をしたらよいか分からない。何が必要で、どんな職業があるのか、ハローワークに「就職したい」と突然行って大丈夫なのか、無からのスタートなので申し訳ないと思ったが、まず相談・話しが出来るところが欲しいと思った。(男性/26歳/大学)

就職活動の仕方が分からなかった。相談出来る相手がいなかった。知識不足。自信が持てず、面接を受ける勇気が出なかった。(女性/21歳/大学)

大学のようなきめ細やかな就職支援サービスがあればスムーズに応募先を決定したり、不安をとりのぞくことが出来るのになあと感じていました。(男性/25歳/大学)

(2)「就職活動(手段・資源)」(27件)

マイナスにとられる。周囲はまだ大学生モードの中で一人で就職活動してくのも情報を集めるのも苦勞。自動車免許がなければ、仕事先がほぼ皆無だった。中退後は免許取得までのお金がなく生活・就職活動両面でとても苦勞した。(男性/25歳/大学)

生活費を稼ぐ必要性から、希望する仕事への就職活動や必要な勉強をする時間を確保し辛い。

(男性／27歳／大学)

なかなか正社員で働きたいと思えなかった事。アルバイトだけだと、なかなか就活する時間もお金もない事で、アルバイト生活から抜け出せない事。それにともない、正社員で働く事が少しずつ遠のいていくと感じた。なかなか、中退した理由を説明しづらく、理解されにくかった。(男性／31歳／大学)

収入がない。親からの援助もない状態であった為、応募先の面接地へ出向く際の交通費や応募書類の郵送代を捻出するのに苦労した。(男性／23歳／大学)

正社員として雇用してくれる所を探す事が大変でしたので、派遣やアルバイトでつないでいました。フルタイムで働いていたので、その中での就活は時間的に難しかったです。(女性／36歳／大学)

学校を中退したという事実から、企業側から仕事をして長く続かないのではと思われた。または言われた。就職支援を受けようにも制限が多かったように感じた。(男性／36歳／専門学校)

仕方ない事ではあるが、大卒以上や短大卒以上を求めてくる企業や職種が多い。ハローワークや関係各所から支援等があまり無いように感じられる。(男性／23歳／大学)

(3)「応募(学歴条件、選択肢限定)」(198件)

経験や能力があっても大卒ではない為、応募出来ない事があった。経緯を説明しても、中退を理由に不採用とされた。資格取得時に条件が不利で選択の幅が狭まる。書類審査を通過出来ない事が多い。(男性／32歳／大学)

専門職は、学歴や経験不問が少ない事。工学部に入ったからと、一般事務より専門職を勧められるが、上記の事態になる事。(男性／27歳／大学)

ある程度仕事の経験を積み、特定分野については自信を持っており、充分対応可能だと思っている職が大卒以上という学歴制限で応募出来なかった事。(女性／39歳／大学)

新卒入社しないとこんなにも会社に入りづらいものなんだと思った。大学卒業してないと、応募要件にもならない企業が多くて残念だった。(女性／24歳／大学)

大学中退だと高卒扱いで年令的に負けてしまうところがあるが、大学入学の実績も企業側には考慮してもらいたい。(男性/24歳/大学)

応募資格で、四大卒以上・大卒以上等記載されている事が多く、受ける事が出来ない。自分の学歴が会社によって異なる為、扱いがわからない。(男性/24歳/大学)

就職活動中、企業の応募資格に大卒以上と見かける事があった。やはり学歴はあった方が得なんだと、その場の考えで中退してしまった自分に後悔した。(男性/25歳/大学)

やはり大卒以上の募集の求人が多数あり、興味を持った求人に応募出来ない事が多々ある。(男性/24歳/大学)

最近では学歴にこだわりのない企業が多くなったが、一部の企業では大卒以上の学歴にこだわっていて、応募できなかったこと。(女性/29歳/大学)

書類選考は、ほとんどの確率ではじかれる。なので、面接しかないところを探してしまう。分かっていた事だけど、会って人柄や思いを知って欲しい!と思ってました。(女性/21歳/その他・無回答)

学歴が大卒以上の求人には応募出来ない点に不利益を感じる。結果として就職のチャンスも少なくなる。(男性/33歳/大学)

学歴が下がり求人が見つけにくい。半分程度が転職あつかいや、実務経験があるところが多い。(男性/21歳/大学)

(4)「面接(中退理由説明)」(112件)

①雇用条件に「大卒・短大卒」という学歴が必要な職だと、「働いてみたい」と思った職業でも応募出来ない事。(自分で中退する事を選んだので、自業自得だなと思うのですが…) ②面接の時に必ず「中退した理由」を聞かれる事。精神的な事が理由で中退したので、どうにも答えづらいのです。(女性/27歳/大学)

自分の中では前向きに中退したつもりだが、企業側から見た時にはマイナスでしかなく、理由等をしつこく聞かれる事が多かった。(男性/27歳/大学)

中退した理由を聞かれ、相手側から不信に思われるため、今までは中退したことを履歴書に

書かないようにしていた。(女性/30歳/大学院)

空白期間が長過ぎて、面接の際には絶対に聞かれるし、うつ病のために本当に何の活動もしていない期間だったため、自身も引け目を感じて、それが自信のなさに表れてしまうし、面接官に全く相手にされていないのを感じる。(女性/32歳/大学)

私は大学院中退です。中退の理由をしつこく聞かれます。理由を説明しても、納得してくれない企業がほとんどです。ただでさえ、就活は精神的に負担がかかるので、それにプラスアルファで中退理由を聞かれ、納得してもらえずきつい言葉を言われるのはつらい。いろいろ悩んで中退したのに、落ちこぼれというレッテルを付けられている気がします。(男性/25歳/大学院)

社会全体的に「中退」は否定的に捉えている。面接等でどんなに仕事に対してのやる気を伝えても評価されない。紙に書かれた学歴が重視されてしまう。残念ながら。(男性/29歳/専門学校)

面接で、「なぜ大学を辞めたのか」から話が始まる。(中退後すぐの頃。社会経験がないからか)中退=仕事もろくに続けられないのではという先方の思いが見てとれるような企業もあり、大学中退より高卒の方が就職に有利なのだと思います。中退の理由は経済的理由など人それぞれなのに、人の痛い所について、話を掘り下げる面接官もいるのが現状。(女性/28歳/大学)

中退をしているので長続きしないと思われたり、卒業証書がないと一人前でないと見られたり、いくら資格を持っていても経験がないと言われたりと、面接によっては厳しいご指摘をいただきました。(男性/38歳/大学)

たくさんの理不尽を感じた。中退理由をしつこく聞かれた。慣れるまで5年以上かかった。なぜ卒業まで我慢しなかったのか強く聞かれた。卒業することが一般常識である人が人事にいたので、理由に納得してもらおうのが苦痛。(男性/32歳/大学)

中退したことで、面接に行った時にも「なぜ辞めたの？」といつも言われること。学校を辞めてから感じたのは、学校に行っている間は守られていたんだと強く感じた。(男性/21歳/大学)

面接時に必ず中退の理由を聞かれ「もったいない」と言われることが多く、その事が大きく

就職活動に影響があるのでは、と不安を感じている。(女性/25歳/専門学校)

(5)「雇用条件(給与など)」(11件)

やはり学歴が無いので選べる仕事や給料が低い。(男性/22歳/大学)

公務員試験における大卒の条件。初任給が高卒程度になってしまう。(大卒と比較してマイナス3~4万円)(男性/25歳/大学)

学歴の差による給料の差。(男性/23歳/専門学校)

(6)「資格・職歴」(60件)

職務経歴：勤続年数が短いので書ける程の内容が無い。年齢・学歴：経験不問と募集に書いてあってもほとんど電話をした時点で門前払いされる。(男性/38歳/大学)

資格を取得する必要がある場合、卒業していないために取得できなかつたり、学位をもっている人より、お金や時間がかかる。(女性/29歳/大学)

長い間働いていないので、強みもないと中々採用してもらえないのではないかと。(女性/21歳/短大・高専)

経歴や資格がない事から諦めた仕事がある。(男性/27歳/大学)

看護師と保健師の資格がとれる学校を中退してしまったので、卒業して資格を取れていれば好待遇で働いていたのかなと後悔してしまうことがありました。(女性/20歳/専門学校)

大金を支払って専門学校に行ったので、国家資格を取得して卒業すれば良かったと思う時がある。学校の選び方をもっとしっかり検討して決めれば良かったと思う。そうすれば、お金の無駄にもならなかったし、もっと自分自身の夢に対して遠回りしなかったと後悔している。(女性/20歳/専門学校)

新卒であれば未経験で当たり前だが、中途採用しかないのでは、経験有無の壁が大きい。(男性/21歳/大学)

職歴がない為、実務経験優先の中途採用では不利になってしまう事。(女性/23歳/大学)

専門学校を卒業していたら就職活動をスムーズに行えていましたが、中退をして資格もないままの状態、何の仕事が向いてるか分からなくなり、日々を無駄にすごしてしまい将来が不安で困っています。(男性/21歳/専門学校)

(7)「精神的ダメージ・不安・心配・意欲減退」(42件)

不利益はないが、自身で引け目を感じてしまい、積極的に正社員での求職をできなかった。(なんとなく、という気持ちで辞めてしまったので、明確な理由を聞かれると困ってしまう事があった)(女性/28歳/大学)

自宅ですごしていた時間が長く、生活サイクルも乱れていたため、規則正しい仕事につくことへの不安が大きいのが困った。学歴不問のアルバイトばかり目につくようになる。(正社員(フルタイムの仕事)を最初からあきらめる)(女性/26歳/大学)

中退という形がやはり印象が悪いし、高卒になる為仕事選びの幅が狭くなる。一回レールから外れるとこれから就職活動する！勉強する！というモチベーションを維持しにくい。(男性/23歳/大学)

学籍がない「無職」の状態であるため気持ちが不安定になる。「中退」「退学」の経歴が予想以上に不利だった。(女性/31歳/大学院)

どんな状況でも途中で辞めてしまった事が精神的にネックになって、求人を見てきちんと勤められるのか自信がありません。また途中で辞めてしまわないかと不用意に考えてしまい、正直就活自体がおっくうになりがちになってしまう。(女性/23歳/短大・高専)

挫折者に厳しい社会だと感じています。私の場合、病気で中退せざるをえなかった事もあり、将来への不安、現実を受け入れる事に時間を要しました。(男性/27歳/大学)

家庭の事情とはいえ、後ろめたさや就活への自信がなくなる。(男性/25歳/大学)

(8)「印象・イメージ・不利な扱い」(55件)

「大学を中退した」という世間でのイメージの悪さが想像以上に大きい。途中で投げ出したというイメージがあるようです。高校卒業後就職した方々より、学費をはじめ勉学等、より多く力を費したが、就職活動では高卒より下に見られる実感があります。(男性/22歳/大学)

1度入った学校を中退するという、世間の方々から見ると中途半端なことをしている自覚があるので、その点が面接で不利になるのではないかと不安で、一步ふみ出せない時期が長く続いてしまいました。(女性/24歳/短大・高専)

中退イコールマイナスイメージを持たれてしまう事。次へのステップとして中退を選んでいるのに、理解されない事も多々ありました。(女性/29歳/大学)

大学中退という肩書に対する、世間の目の厳しさ。(女性/24歳/大学)

どんなに理由があっても中退したとしても、継続する力がないと見られる。(女性/26歳/大学)

(9)「その他」(31件)

大学を中退したことによって、勉強を中途半端に終えてしまって、無学だと感じる。(男性/22歳/大学)

中退後、大学とはまったく別の職種をしていましたが、また大学の頃していた勉強の仕事に就きたくなったので、中退せずしっかり大学を出て就職すれば良いと思いました。(男性/28歳/大学)

何がやりたいかが分からなくて、なかなか仕事を選べなかった。(男性/25歳/大学)

自分に合った仕事が見つけれられるか。働ける場所があるのか。(男性/18歳/専門学校)

アルバイトでは収入が少なく、正社員を目指したいと思った。(男性/22歳/大学)

3) 中退時や中退後の就職支援に対する要望等(「問28 中退時や中退後の就職支援に対する要望について、自由にご記入下さい」)

有効回答数：360名(全対象者*の32.5%) *40代以上含む

(1)「相談・サポート体制の充実」(98件)

まず最初にすべきことが何なのかがわかる仕組みがほしい。(20歳・男性)

中退という立場で何が出来るのか(職に就くまでに何をしたらよいのか)を教えて欲しい。

(21歳・男性)

中退時専用の学生支援コーナーが設けられているのは、経験不足を補う、学歴不問の職業先を見つけてくれる、手助けをしてくれることはとても助かりました。また、職務経歴書の作成方法や添削も、今後の就職活動に向けてとても参考になりました。(21歳・男性)

中退する人の大半は自分が何をしたいのか、何ができるのか、どうしたいのか、先が見えないのだと思います。不安であるけど心のどこかで「どうにかなる」だろうと考えている人もいるでしょう。なので先の事、今後の事をはっきりさせる事が大事だと思います。それが出来るマンツーマンでの相談を増やした方が良いのかもしれない。

(25歳・男性)

わかものハローワークの支援プログラムのおかげで、正社員雇用にたどりつけました。やはりマンツーマンでの親身な相談は個人的には非常にありがたかったです。(29歳・男性)

ハローワークは少しハードルが高かった。親にすすめられていたが、入るのに中々勇気が必要だった。(19歳・女性)

中退しても進める道があるのだと、資格取得や別の進学、正規・非正規に定まらない就職支援など、多面的なサポートをしていただけたら助かったと思います。(25歳・女性)

当方の場合、ハローワークは知らなかったし、知っても職を探すことにながつかないようなイメージで、あまりハローワークに行きたくないと思っていた。昔の「職安」っていう言葉を知っているからかもしれない。今は明るいイメージになったと思う。ただ、知り合いには会いたくないなと思いながらハローワークに行っている(24歳・女性)

(2)「支援機関や相談機関の周知や拡充」(31件)

中退時に就職支援に関する情報がほとんどなかったもので、どのような機関があり、どのような支援が受けられるのか周知してほしい。(36歳・男性)

自分は専門学校を中退してから、就活の知識がゼロのまま、とりあえずまずはハローワークに行こうと思い立って行きました。ハローワークに行くと初めて若年者サポートコーナーというものを知りました。就活についてすごく悩みましたが、若年者サポートコーナーの担当者の方が自分の話をちゃんと聞いてアドバイスして頂けたのですごく助かりました。なので学校を中退された方で、これから初めて就活をする人に向けて、ハローワークに

は若者向けにどのような事業があるのか、行政としてはどのような事業があるとか、もっと分かりやすくしてくれるといいなと思います。(23歳・女性)

もっともっと色んな場所で「就職支援」というものがあるというポスターでも何でも、人の目につくようにしたらいいと思う。いろいろな支援があるとは思いますが、その情報をなかなか知る機会は無かった。私は母親が色々教えてくれたので知ることも多かったです、そんな若者は多くないです。(25歳・女性)

(3)「職業訓練・インターン・トライアル雇用」(34件)

職業訓練の内容や、訓練をメリット、その後の就職までの流れの一例をわかりやすく説明してほしい。(27歳・男性)

大学と連携をとることで、中退をした人々へ様々な就活方法をまとめた資料(職業訓練のパンフレット等)が送られると良いと思います。その後の道がわからずに何も出来ないでいる人が少しは減るのではないのでしょうか。(28歳・男性)

もう少し職業訓練の職種を増やした方がいいと思う。(25歳・女性)

中退した時に職業訓練の情報を知りたかったです。中退から正社員就職をするのは難しいし、勇気がいります。2014年4月～9月まで職業訓練を受けて自分に少し自信がついたと思います。このタイミングで受講して良かったと思っていますが、もう少し早く知りたかったですね。(29歳・女性)

就労支援施設(若者向け?)に通って、生活リズムをつくって社会参加(復帰)したかった。仕事の体験など。集団生活になじめるプログラム。(寮?とか) (年齢・性別不明)

(4)「中退者に対する企業の評価への不満」(32件)

応募資格に学歴をもとめる場合は、理由を明記してほしい。仕事によっては、なぜ大卒以上でなければならないのか理解出来ないし、企業も明確な理由でない場合もあると思う。(24歳・男性)

何をもって中退を学歴としていないのかを明確にするべき。面接まで行けば事情や高校などを考慮してくれる会社もあるが、専門外でも専門卒を募集しているのに中退者は応募もできないのは何故か。専門学校などはピンキリなのに何故四大中退はダメなのか。きちんと明示するようにしてほしい。納得できない。(34才・女性)

(5) 「中退時点での情報提供」(27件)

中退する人間は大抵就職活動に手を付けておらず、アルバイトか職なしが多いのでは？手続き等あっさり終わった記憶があるので、各大学が中退時の就職支援組織への紹介ぐらいいはあってもよかったと思う。(30歳・男性)

中退が決まった時に学校からでもいいので、ハローワークの案内や就職支援の情報を知りたい。(20歳・女性)

中退した時何も誰も教えてくれなかった。届けを出した事務所でも仕事するならハローワーク行くとかの一言、大学中退しても行ける就職先あるとか、支援だったり何か一言でも欲しいです。(26歳・女性)

(6) 「心のケア」(26件)

私のように、心に深い傷を持ち自信を持ってない人々がいる。ハローワークを利用しているが、面談時にそういった心の悩みも考慮して対応して欲しい。時折、それをなまけと捉えられる事があり、支援する側・される側の間に隔たりを感じる。(22歳・男性)

中退者には繊細な人が多いと思うので、心のケアや社会復帰しやすい環境を作るべきだと思う。(ハローワークとサポートステーションを連携して支援) (27歳・男性)

心理的に落ち込んでいるので、心の相談窓口がもっとあるといいな。就職斡旋の他にも様々なサポートがあることも教えてほしい。e x. 就活クラブ等、中退者同士で集まって就職へ向けての勉強会みたいなものもあるといいな。(23歳・女性)

(7) 「資格取得支援」(19件)

中退後、他の学校への進学を目指さない場合、資格等を取得し中退の穴埋めをしていくしかないかと思っている。(25歳・男性)

中退したことで不利になる事が多くあるので、資格取得の支援や仕事の経験がないことを補えるような支援があれば、と思います。(20歳・女性)

(8) 「履歴書書き方等就職活動ノウハウの提供」(16件)

就活のしかたを具体的に教えてほしい。(22歳・男性)

中退後は履歴書の書き方・職務経歴書の作り方などを教えて頂けるとありがたいです。経歴

は人それぞれなのでその人にあった書き方を一緒に見てもらえるとよいです。また、担当される方によっていい方・やり方・アドバイスも違うので、学校中退して初めてハローワークにくる方は担当制にされたらよいのではないかと思います。私は転職する時いろんな人とあたり、良い人もいれば悪い事しかいわない人もいて、どのアドバイスを信じればよいかわからない時がありました。今は同じ人に担当して頂き、相談しやすいですし、理解して頂けるので担当制にしてよかったので。

(28歳・女性)

(9)「収入支援」(15件)

失業手当で以外の中退者向けの金銭的支援があるとうれしいと思った。働きながら就職活動をする、自分自身を考える時間があまり取れないのと、お金がないと行動が制限されてしまうことがあるから。(26歳・男性)

学校を退学してしまったのは自分なのですが、お金がかかる事が割とあるので、バイトが忙しくあまり就職活動が満足にできていない。(20歳・女性)

(10)「仕事が欲しい」(14件)

大学を中退した人でも積極的に採用して下さる企業が増えればよいなと思います。(25歳・男性)

中退でも採用してくれるところを紹介してほしい。(38歳・女性)

(11)「積極的な後押し」(8件)

中退時には、速やかにハローワーク等に紹介したり、何らかの支援をするべき。(22歳・男性)

積極的に案内をして欲しい。そもそも相談者は知らない事の方が多いと思うので(実際、私は中退当時、職業訓練という物がある事すら知らなかった)良いサポートがあるのであれば積極的に提示して頂けると助かる。(31歳・女性)

(12)「学業への復帰」(8件)

中退前に取得した単位を持ちこして、他大学への編入の資料の充実、求職中に仕事を探しながら働けるような場所の斡旋。(30歳・男性)

私は薬学部の4年生分の単位はあります。7年目の在籍で中退となりましたが、大学に短大

の設定がなく、大卒はもちろん短大卒の資格も得られず、高卒の学歴というのがなんとかならないのかなあとと思います。(25歳・女性)

(13)「中退者向けの合同説明会・セミナー」(7件)

中退者は積極的に何かをする事は少ないと思います。強制ぎみにでも説明会等の参加をよびかける事も重要だと思います。(29歳・男性)

卒業する人にはいろいろなセミナーが用意されているのに、中退者には何にもないので、中退者向けの就職説明会や進学セミナーなどのサービスが欲しい。(37歳・男性)

中退者向けの就職セミナー等があったら受けてみたかった。(33歳・女性)

(14)「その他」(49件)

自営や独立に向けて相談しやすい機関が増えると良いと思います。(22歳・男性)

自分はハローワークという物がどんな物か知らず、初めて行きましたが、とても親切に接してくれました。(22歳・男性)

中退者が集まってレクリエーション等、交流の場が欲しい。(22歳・男性)

中退する理由は人それぞれですが、前向きに次を見すえてやめる人と後ろ向きな理由の人がいると思います。私の場合は後者でしたが、両親の保護の下、主治医の先生に支えてもらって、社会復帰が叶いました。でも、何らかの理由でやむを得ず中退して、経済的にも精神的にも切迫した状況の人もあります。そういった人の心の状態に沿うような支援をして欲しいと思います。若い人の自殺者が増えているとよく聞きます。自分のことのように胸が締め付けられる思いです。もっと色々な生き方が認められる風潮が、育てばいいなと思います。とにかく自殺する人が少しずつでも減って行って欲しい。私もできることをしたいです。(いじめ、パワハラ、アカハラはなくなるだろうけど)

(29歳・女性)

(15)「特になし」(14件)

要望はないです。ハローワークは今後も使わせてもらいます。(27歳・男性)

特にないです。窓口で相談に乗ってもらえるので大変助かっています。(21歳・女性)

大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査

I あなたの就職活動についてお尋ねします。

問1 ハローワークを利用しようと思ったのは、いつ頃ですか。また、どのようなきっかけでそう思いましたか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

利用しようと思った時期	1. 中退する前 2. 中退したあと ⇒ 中退から約()か月後
きっかけ	1. ホームページ(どこのHPですか:) 2. 親 3. 友人 4. 学校 5. その他(具体的に:)
就職登録した時期	現時点から 1. 1か月以内 2. 2～3か月前 3. 4か月～半年前 4. 半年～1年前 5. 1年以上前

問2 ハローワークのほかに、どのような方法で仕事を探していますか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. 求人広告・雑誌を見る	2. 求人情報サイトを見る	3. 家族や友人・知人に紹介を頼む
4. 民間の職業紹介会社に登録する	5. 派遣会社に登録する	6. その他(具体的に:)

問3 これまで、何社ぐらいの企業で採用面接を受けましたか。⇒ ()社

問4 応募先を決める際に、どのような条件を重視していますか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. 企業の業種・仕事内容	2. 企業の知名度	3. 企業の将来性・安定性
4. 正社員かどうか	5. 勤務時間・休暇・福利厚生	6. 給料
7. 地域条件(勤務地・転勤の有無)	8. 自分の能力や適性と合っていること	
9. 学歴不問であること	10. 経験不問であること	
11. その他(具体的に:)	12. どのような条件でもかまわない	

問5 現在、就職活動のほかに、何かしていますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1. 就職活動のみをしている	2. 就職活動中だが、非正規雇用で働いている
3. 就職活動中だが、正規雇用で働いている	4. 就職活動中だが、進学や資格取得のために勉強している
5. その他(具体的に:)	

問6 学校を中退してからこれまでを振り返って、次のような働き方や無職を経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。なお、学生として正規の課程に在学していた時代の無職やパート・アルバイト経験は含みません。

1. 1ヶ月以上無職だったことがある(学生や主婦ではなく)	2. これまで働いたことはない		
3. パート・アルバイト	4. 契約社員・嘱託	5. 派遣社員	6. 正社員・公務員
7. 自営・家業	8. その他の働き方(具体的に:)		

問7 中退してから、最初に就職活動を始めるまで、どのくらいの期間がたっていましたか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1. 中退する前から	2. 3か月未満	3. 3か月～6か月未満
4. 6か月～1年未満	5. 1年～3年未満	6. 3年以上

問8 中退後の就職活動中に、何か困ったことや不利益を感じたことはありましたか。ある方は具体的にご記入下さい。

1. ない	2. ある:具体的に

Ⅱ あなたの学校時代についてお尋ねします。

問9 あなたが最後に在籍した（中退した）学校について教えてください。

学校所在地	() 都・道・府・県			
学校の種類 ○は1つ	1. 専門学校	2. 短大	3. 高専	
	4. 大学	5. 大学院	6. その他（具体的に：)	
学部・専攻	具体的に ()			
入学志望度 ○は1つ	1. とても志望していた	2. まあまあ志望していた		
	3. あまり志望していなかった	4. まったく志望していなかった		
入試方法 ○は1つ	1. 一般入試（センター入試含む）	2. A0入試	3. 指定校推薦	4. 公募推薦
	5. 附属・系列高校から進学	6. その他（具体的に：)		

問10 あなたは、その学校に通っていたとき、おもにどこにお住まいでしたか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1. 実家	2. アパートなど（一人暮らし）	3. 学生寮など	4. その他 ()
-------	------------------	----------	------------

問11 あなたは、その学校に通っていたとき、次のことをどのくらい熱心におこなっていましたか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	とても熱心だった	まあ熱心だった	それほど熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった
A 学校での授業	1	2	3	4
B クラブやサークルでの活動	1	2	3	4
C 友だちや恋人との付き合い	1	2	3	4
D アルバイト	1	2	3	4
E ダブルスクール・資格取得	1	2	3	4

問12 中退したのはいつですか。中退した時期と学年、また、中退を考え始めてから中退するまでの期間について教えてください。

A	中退した時期	西暦 () 年 / 平成 () 年 () 月
B	中退したときの学年	() 年生
C	中退を考え始めてから、実際に中退するまでの期間	1. 1か月未満 2. 1～3か月未満 3. 3か月～半年未満 4. 半年～1年未満 5. 1年以上

問13 あなたは、なぜ中退しようと思いましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. 勉強に興味・関心が持てなかったから	9. ほかにやりたいことがあったから
2. 遅刻や欠席が多かったから	10. 病気やケガがあったから
3. 単位が不足したから	11. 経済的に苦しかったから
4. 教員とうまく関われなかったから	12. しばらく休みたかったから
5. 友達とうまく関われなかったから	13. 妊娠・出産をしたから
6. 自分の生活リズムが学校と合わなかったから	14. 特に何もなかった
7. 通学するのが大変だったから	15. その他（具体的に：)
8. 仕事をしたいと思ったから	

問13-1 上記の1から15の中で、最も重要な理由の番号を () 内にご記入下さい。 ()

問14 中退を決めるまでの間に、誰に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. 親・保護者	2. 同じ学校の友人	3. 学校外の友人	4. 兄弟姉妹
5. 恋人・配偶者	6. 先輩	7. 学校の先生・職員・カウンセラー	
8. これまで卒業した学校（小・中・高校・予備校など）の先生など			
9. 公的な支援機関（具体的に：)			
10. その他（具体的に：)			
11. 誰にも相談しなかった			

問 15 中退した直後にしたいと思ったことは何ですか。また、実際には何をしていましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

A 中退した直後にしたいと思ったこと	B 中退した直後に実際にしていたこと
1. 他の学校へ入学したい	1. 他の学校へ入学するため勉強した
2. 資格を取得したい(資格名)	2. 資格取得のための勉強をした
3. 職業訓練を受けたい	3. 職業訓練を受けるための準備をした
4. 正社員として就職したい	4. 正社員として就職するための活動をした
5. アルバイトをしたい	5. アルバイトを探した
6. 在学中から行っていたアルバイトを継続したい	6. 在学中から行っていたアルバイトを継続した
7. 特に何も考えていなかった	7. 特に何もしなかった
8. その他(具体的に:)	8. その他(具体的に:)

問 16 中退したとき(中退の前後約1か月くらい)に、知りたかった情報や受けたかった支援は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

A 中退したときに知りたかった情報	B 中退したときに受けたかった支援
1. 他の学校への入学に向けた情報	1. 他の学校への入学に向けた情報収集支援
2. 資格取得のための情報	2. 資格取得のための情報収集支援
3. 職業訓練の情報	3. 職業訓練を受けるための相談支援
4. 仕事探しの相談をするための支援機関等の情報	4. 仕事探しの相談支援
5. 心の悩みを相談するための支援機関等の情報	5. 心の悩みに係る相談支援
6. その他(具体的に:)	6. その他(具体的に:)
7. 特に知りたい情報はなかった	7. 特に受けたい支援はなかった

問 17 中退したときに、悩んだことや困ったことはありましたか。具体的にご記入下さい。

問 18 中退してから今までの間に、どのようなことをしてきましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。また、その結果について、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

活動内容		結果
1 正社員として就職するための求職活動	⇒	1. 正社員になった 2. 正社員になっていない
2 正社員以外として働くための求職活動(学生時代からのアルバイトを除く)	⇒	1. 仕事を得的 2. 仕事を取得していない
3 他の学校へ入学するための勉強・準備	⇒	1. 入学した 2. 入学していない
4 資格取得の勉強・準備	⇒	1. 資格を取得した 2. 資格を取得していない

Ⅲ あなたの高校時代のことについてお尋ねします。

問 19 あなたの高校について教えて下さい。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

A 所在地	1. ()都・道・府・県	2. 海外	3. 大検	4. その他
B 学科	1. 普通科	2. 専門学科(商業・工業・農業など)	3. 総合学科	4. その他(具体的に:)
C 課程	1. 全日制	2. 定時制(おもに夜間の場合)	3. 定時制(おもに昼間の場合)	4. 通信制

問 20 進学する学校を選択する際に、次のことがどれくらいあてはまりましたか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。なお、大学には専門学校、短大、高専を含めます。

	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A 大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した	1	2	3	4
B 大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った	1	2	3	4
C 目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った	1	2	3	4

問 21 高校時代の生活はどうか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	とてもよかった	まあよかった	あまりよくなかった	まったくよくなかった
A 出席状況	1	2	3	4
B 学校の成績	1	2	3	4
C 部活動への取り組み	1	2	3	4

IV あなたご自身についてお尋ねします。

問 22 あなたの性別 1. 男性 2. 女性 あなたの年齢 歳

問 23 現在、あなたは、誰と一緒に住んでいますか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

- | | | |
|-------------------------------------|-------------|------------|
| 1. 両親・兄弟姉妹 | 2. あなたの結婚相手 | 3. あなたの子ども |
| 4. その他（具体的に： <input type="text"/> ） | 5. ひとりで | |

問 24 現在、あなたは、結婚していますか（事実婚も含みます）。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない ⇒ 1に○をつけた方：結婚した時期 西暦（ <input type="text"/> ）年 |
|-----------|--|

問 25 現在、おもに誰の収入によって生活していますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あなた自身 | 2. あなた以外の家族 |
|----------|-------------|

問 26 下の a～g には、人生や仕事についての様々な状況があげてあります。それぞれについて、あなたにどの程度あてはまるか、最も近い番号1つに○をつけて下さい。

	かなりあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	ほとんどあてはまらない
a これまでの進路選択は順調であった	1	2	3	4
b 自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	1	2	3	4
c 将来の見通しは明るい	1	2	3	4
d 経済的に自立している	1	2	3	4
e 努力次第で将来は切り開けると思う	1	2	3	4
f 仕事以外に生きがいがある	1	2	3	4
g 現在の生活に満足している	1	2	3	4

問 27 これまで、ハローワークのほかに、次のような行政サービスや公的な支援を活用したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

- | | | | |
|-------------------------------------|-----------------|---------|-------------------|
| 1. 奨学金 | 2. 授業料免除・減免 | 3. 失業手当 | 4. 地域若者サポートステーション |
| 5. ジョブカフェ | 6. 国または自治体の職業訓練 | 7. 生活保護 | |
| 8. その他（具体的に： <input type="text"/> ） | 9. どれも活用したことはない | | |

問 28 中退時や中退後の就職支援に対する要望について、自由にご記入下さい。

どうもありがとうございました。謝品をお送りしてもよい方は、住所シールに住所とお名前をご記入下さい。回答については、調査票（及び謝品をお送りしてもよい方は住所シールも）を返信用封筒に入れ、封をして、ポストにご投函ください。（調査票を入れて封をした返信用封筒を、調査票をお渡ししたハローワークにお渡しいただいても構いません）

JILPT 調査シリーズ No.138

大学等中退者の就労と意識に関する研究

発行年月日 2015年5月28日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2015 JILPT Printed in Japan

* 調査シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)